

# 令和元年度 中区区民意識調査

## 報告書

令和元年 12 月

横浜市中区役所

## － 目次 －

I	調査概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査の内容	1
3.	調査設計	1
4.	報告書の見方について	1
5.	回答者の属性	2
6.	地区区分	3
II	調査結果	4
1.	「中区居住理由・居住意向、中区の魅力」について	4
2.	「中区の行政サービス」について	14
3.	「多文化共生」について	16
4.	「地域福祉」について	49
5.	「自治会町内会」「ごみ・資源回収」について	102
6.	「防災」について	107
7.	「行政情報」について	138
8.	自由意見	144

# I 調査概要

# I. 調査概要

## 1. 調査の目的

区政に対する区民の評価やニーズを調査し、今後の区政運営や政策立案の基礎資料とすることを目的とする。

## 2. 調査の内容

- (1) 属性質問
- (2) 中区の居住理由・居留意向、中区の魅力について
- (3) 中区の行政サービスについて
- (4) 「多文化共生」について
- (5) 「地域福祉」について
- (6) 「自治会町内会」「ごみ・資源回収」について
- (7) 「防災」について
- (8) 「行政情報」について
- (9) 自由意見

## 3. 調査設計

- (1) 調査対象 中区内に居住する 18 歳以上の男女
- (2) 対象数 4,000 人（内訳／日本国籍 3,500 人、外国籍 500 人）
- (3) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (4) 調査方法 郵送配布・郵送回収
- (5) 調査期間 令和元年 7 月 18 日（木）～8 月 9 日（金）
- (6) 回収結果
  - ア 有効回収数 1,325 件（内訳／日本国籍 1,242 件 外国籍 83 件）
  - イ 有効回収率 33.1%

## 4. 報告書の見方について

- (1) 比率は全てパーセントで表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しているため、パーセントの合計が 100%にならないことがある。
- (2) 複数回答の設問の集計は、回答者数（票数）に対する回答率で表すため、各項目比率の合計が 100%を上回ることがある。
- (3) 基数となるべき実数（n）は、設問に対する回答者数である。

## 5. 回答者の属性

性別	男性	590件	44.5%	無回答	19件	1.4%
	女性	716件	54.0%			
年齢	18～19歳	18件	1.4%	50歳代	254件	19.2%
	20歳代	92件	6.9%	60歳代	248件	18.7%
	30歳代	128件	9.7%	70歳以上	347件	26.2%
	40歳代	229件	17.3%	無回答	9件	0.7%
同居家族 (複数回答)	祖父(義祖父)	9件	0.7%	子(15歳以上)	328件	24.8%
	祖母(義祖母)	18件	1.4%	孫(15歳未満)	17件	1.3%
	父(義父)	107件	8.1%	孫(15歳以上)	25件	1.9%
	母(義母)	162件	12.2%	いない(一人暮らし)	255件	19.2%
	配偶者	822件	62.0%	その他	36件	2.7%
	兄弟姉妹	81件	6.1%	無回答	15件	1.1%
	子(15歳未満)	207件	15.6%			
居住地区*	A地区	78件	5.9%	H地区	218件	16.5%
	B地区	106件	8.0%	I地区	109件	8.2%
	C地区	44件	3.3%	J地区	53件	4.0%
	D地区	84件	6.3%	K地区	194件	14.6%
	E地区	27件	2.0%	L地区	115件	8.7%
	F地区	39件	2.9%	M地区	81件	6.1%
	G地区	167件	12.6%	無回答	10件	0.8%
居住年数	1年未満	61件	4.6%	10～20年未満	315件	23.8%
	1～3年未満	70件	5.3%	20～30年未満	188件	14.2%
	3～5年未満	103件	7.8%	30年以上	432件	32.6%
	5～10年未満	143件	10.8%	無回答	13件	1.0%
居住形態	持ち家(一戸建て)	446件	33.7%	賃貸(マンション等共同住宅)	351件	26.5%
	持ち家(マンション等共同住宅)	437件	33.0%	その他	47件	3.5%
	賃貸(一戸建て)	35件	2.6%	無回答	9件	0.7%
中区に住むようになった理由 (複数回答)	親の代から住んでいて、同居しているから	295件	22.3%	住環境が良いと思ったから	421件	31.8%
	親や兄弟姉妹、親戚などが近所に住んでいたから	143件	10.8%	その他	279件	21.1%
	通勤や通学に便利だったから	373件	28.2%	無回答	15件	1.1%
就労・就学状況	就労している(常勤・フルタイム)	533件	40.2%	就労も就学もしていない	406件	30.6%
	就労している(非常勤・パート・アルバイト)	214件	16.2%	その他	109件	8.2%
	学生	35件	2.6%	無回答	28件	2.1%
通勤通学先	中区内	299件	22.6%	その他	27件	2.0%
	横浜市内の他の区	182件	13.7%	通勤・通学はしていない	388件	29.3%
	神奈川県横浜市以外の市町村	70件	5.3%	無回答	138件	10.4%
	東京都内	221件	16.7%			
職場・学校までの所要時間	15分未満	157件	19.6%	1時間～1時間30分未満	185件	23.2%
	15～30分未満	183件	22.9%	1時間30分～2時間未満	40件	5.0%
	30～45分未満	84件	10.5%	2時間以上	7件	0.9%
	45分～1時間未満	119件	14.9%	無回答	24件	3.0%
一日のうちの余暇時間	1時間未満	82件	6.2%	5時間以上	435件	32.8%
	1～3時間未満	415件	31.3%	無回答	52件	3.9%
	3～5時間未満	341件	25.7%			

\* 居住地区別の地区割りの詳細は、3ページをご覧ください。

## 6. 地区区分

地区名	町名
A地区 (第1北部地区)	赤門町、内田町、黄金町、桜木町、野毛町、初音町、花咲町、英町、日ノ出町、宮川町
B地区 (第1地区中部のうち、長者町を除く)	曙町、伊勢佐木町、末広町、末吉町、羽衣町、福富町仲通、福富町西通、福富町東通、蓬莱町、弥生町、吉田町、若葉町
C地区 (関内地区)	相生町、太田町、尾上町、海岸通、北仲通、新港、住吉町、常盤町、日本大通、弁天通、本町、真砂町、港町、南仲通、元浜町、横浜公園
D地区 (埋地地区のうち、寿町・松影町・三吉町を除く)	扇町、翁町、千歳町、長者町、万代町、富士見町、不老町、山田町、山吹町、吉浜町
E地区 (寿地区のうち、扇町・長者町を除く)	寿町、松影町、三吉町
F地区 (石川打越地区)	石川町、打越
G地区 (第2地区)	新山下、元町、山下町
H地区 (第3地区のうち、滝之上を除く)	上野町、柏葉、鷺山、竹之丸、立野、仲尾台、西之谷町、本牧緑ヶ丘、豆口台、妙香寺台、麦田町、山手町、大和町
I地区 (第4地区南部のうち、本牧荒井を除く)	本郷町、本牧町、本牧満坂
J地区 (第4地区北部のうち、山手町を除く)	北方町、小港町、諏訪町、千代崎町、本牧十二天
K地区 (本牧・根岸地区のうち、本牧原を除く)	池袋、かもめ町、千鳥町、豊浦町、錦町、根岸加曾台、根岸町、本牧荒井、本牧大里町、本牧三之谷、本牧ふ頭、本牧間門、本牧元町、南本牧、矢口台
L地区 (第6地区のうち、山手町を除く)	大芝台、大平町、滝之上、塚越、寺久保、西竹之丸、根岸旭台、根岸台、簗沢、山元町
M地区 (新本牧地区)	本牧原、本牧宮原、本牧和田、和田山

※ 地区名欄の括弧書き中の地区名は、「中区地域福祉保健計画」における地区名を指しています。

## II 調査結果

## II. 調査結果

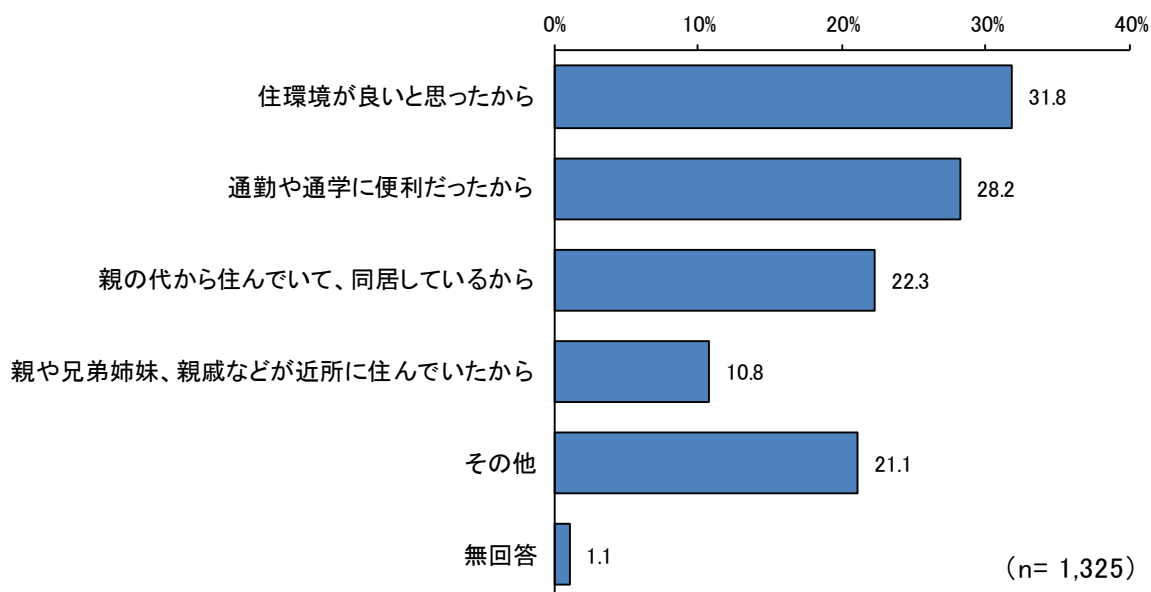
### 1. 「中区居住理由・居住意向、中区の魅力」について

「問7 中区に住むようになった理由」(複数回答) - 1

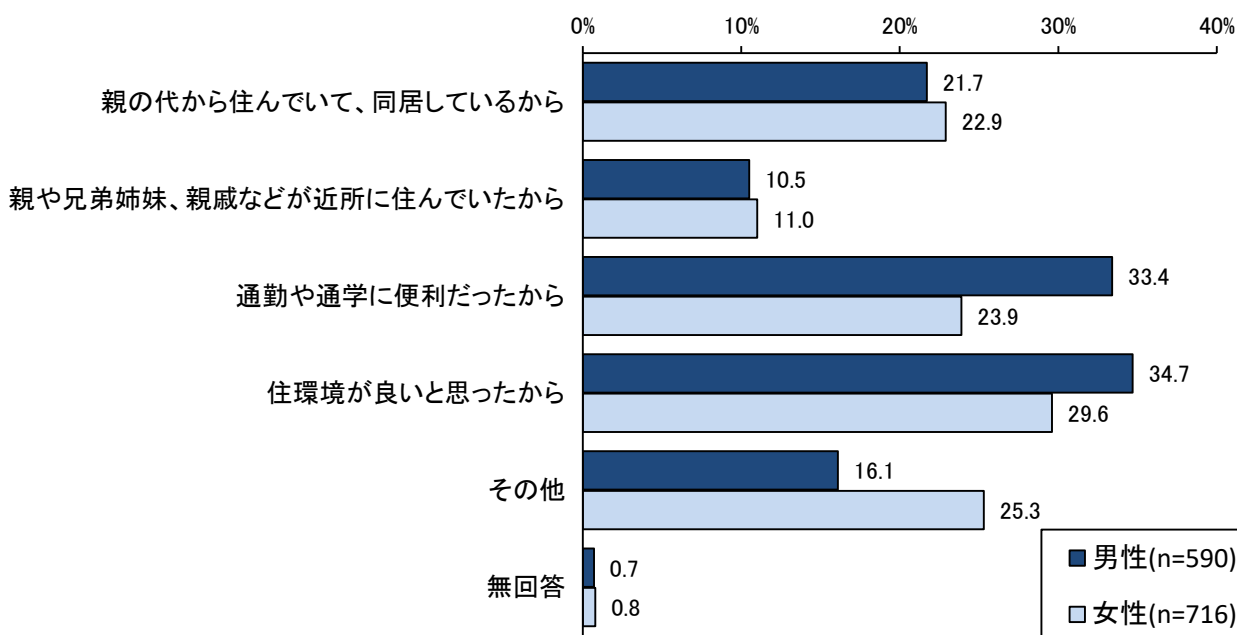
中区に住むようになった理由については、「住環境が良いと思ったから」が最も高く、次いで「通勤や通学に便利だったから」「親の代から住んでいて、同居しているから」の順となっている。

「その他」の内容としては、“結婚を機に”“仕事の関係で”“横浜らしさを感じられるから”などの回答がみられた。

性別にみると、「住環境が良いと思ったから」「通勤や通学に便利だったから」は男性の方が女性より高くなっている。



#### 【問7\_性別】

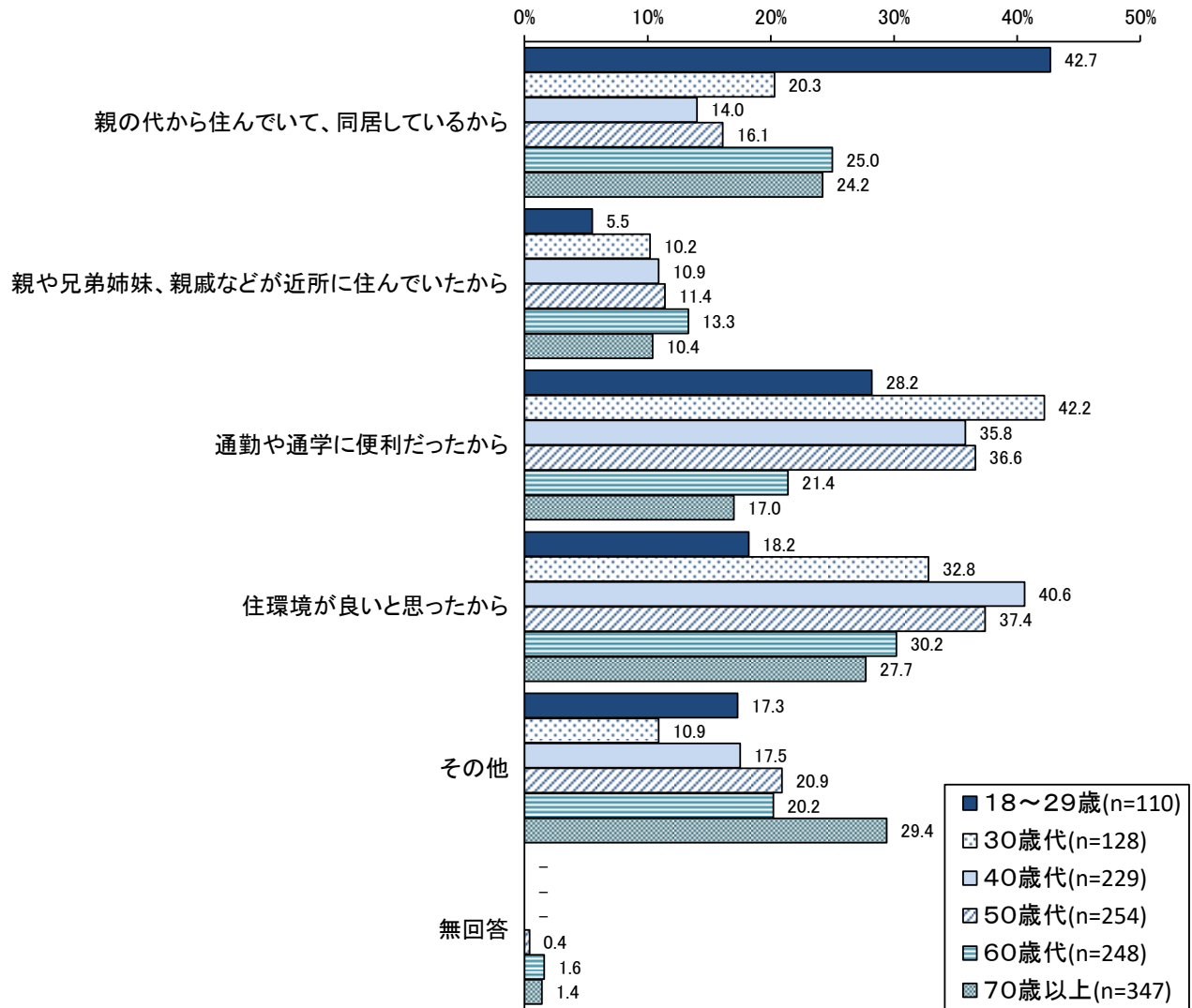




「問7 中区に住むようになった理由」(複数回答) - 2

年代別にみると、18~29歳では「親の代から住んでいて、同居しているから」、30歳代では「通勤や通学に便利だったから」、40歳代では「住環境が良いと思ったから」が最も高くなっている。

【問7\_年代別】



「問7 中区に住むようになった理由」(複数回答) - 3

地区別にみると、B地区で「通勤や通学に便利だったから」が5割近くと特に高くなっている。L地区・G地区では「住環境が良いと思ったから」が4割を超え高くなっている。

【問7\_地区別】

		(%)					
	n=	て親、の同代居かして住んでから	かど親らがや近所姉妹、で親戚たな	た通勤や通学に便利だった	か住環境が良いと思った	その他	無回答
全体	1,325	22.3	10.8	28.2	★31.8	21.1	1.1
A地区(第1北部地区)	78	26.9	12.8	★35.9	14.1	21.8	-
B地区(第1地区中部のうち、長者町を除く)	106	17.0	9.4	★49.1	16.0	19.8	0.9
C地区(関内地区)	44	-	6.8	34.1	★38.6	29.5	2.3
D地区(埋地地区のうち、寿町・松影町・三吉町を除く)	84	6.0	6.0	34.5	★36.9	27.4	1.2
E地区(寿地区のうち、扇町・長者町を除く)	27	11.1	7.4	18.5	18.5	★40.7	11.1
F地区(石川打越地区)	39	25.6	17.9	30.8	★38.5	17.9	-
G地区(第2地区)	167	17.4	10.8	32.3	★40.7	19.2	0.6
H地区(第3地区のうち、滝之上を除く)	218	30.3	10.1	25.7	★39.0	15.6	-
I地区(第4地区南部のうち、本牧荒井を除く)	109	★29.4	17.4	17.4	27.5	20.2	-
J地区(第4地区北部のうち、山手町を除く)	53	32.1	5.7	11.3	18.9	★35.8	3.8
K地区(本牧・根岸地区のうち、本牧原を除く)	194	★27.8	10.8	26.8	27.3	21.6	0.5
L地区(第6地区のうち、山手町を除く)	115	23.5	13.0	23.5	★45.2	12.2	-
M地区(新本牧地区)	81	13.6	8.6	21.0	★33.3	28.4	-

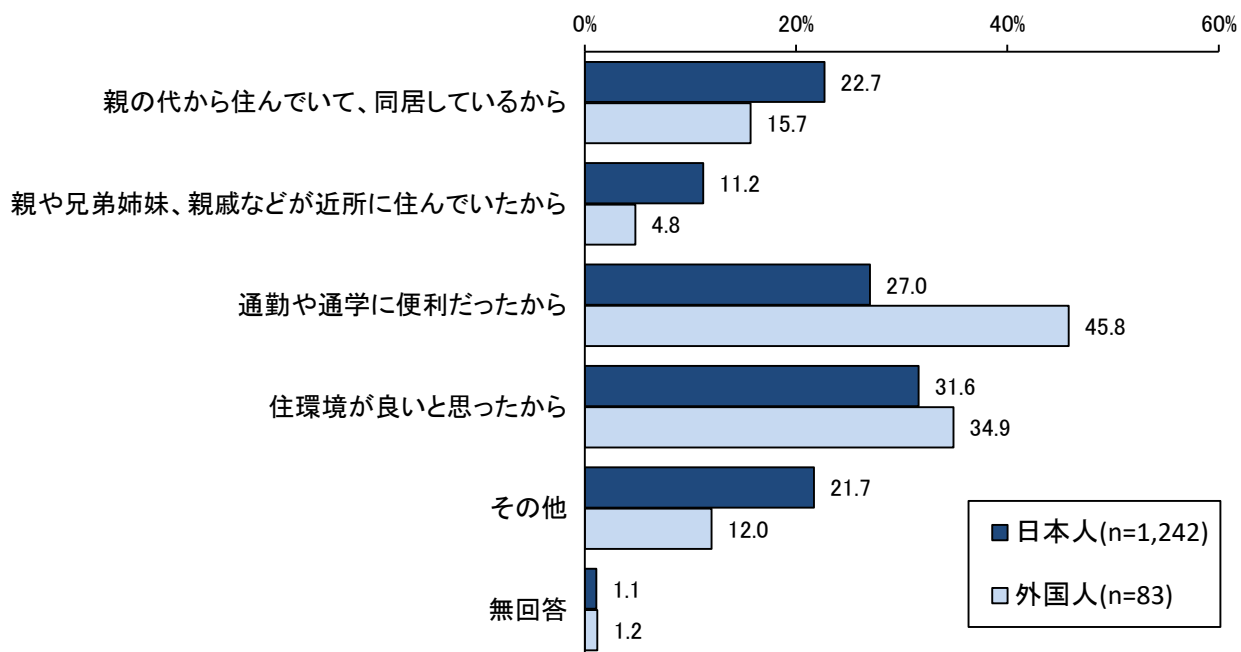
<注釈> (以降の地区別数表も同様です。)

- ・居住地区別の地区割りの詳細は、3ページをご覧ください。
- ・★は、全体および地区毎で最も高い割合の項目を示しています。
- ・網掛け箇所は、項目別の上位3地区を示しています。

「問7 中区に住むようになった理由」(複数回答) - 4

日本人/外国人別にみると、外国人では「通勤や通学に便利だったから」が4割半ばと日本人に比べて特に高くなっている。

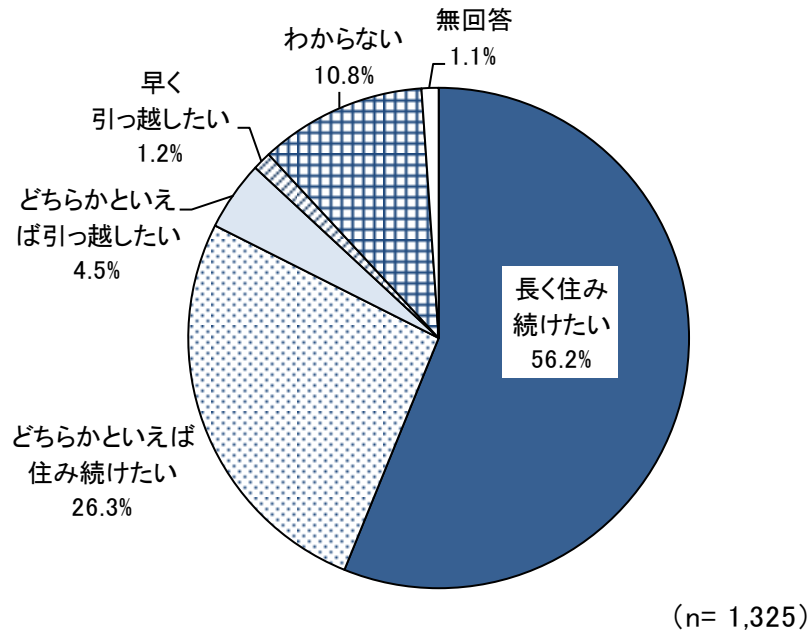
【問7\_日本人/外国人別】



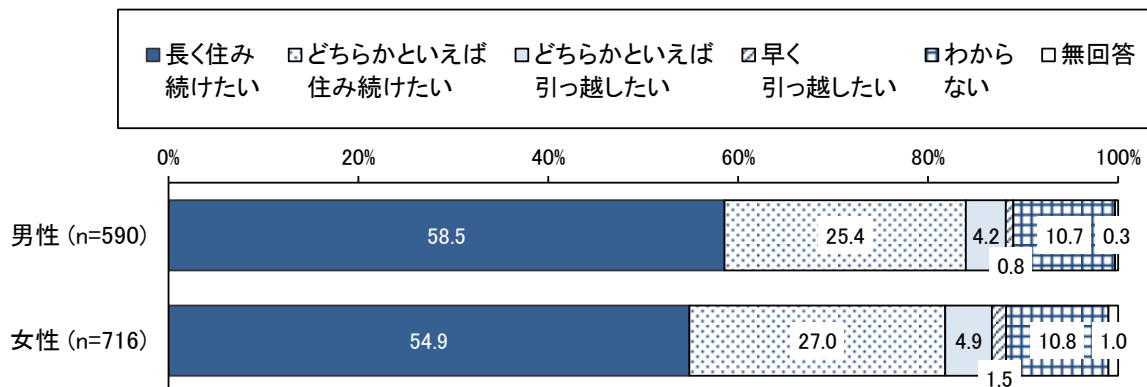
「問 8 中区居住意向」 - 1

中区に住み続けたいと思うか尋ねたところ、「長く住み続けたい」が5割半ばと半数を超えている。「どちらかといえば住み続けたい」は2割半ばで、これらを合わせると**8割以上**の人が中区に住み続けたいという意向を持っている。

性別にみると、「長く住み続けたい」は男性のほうが女性より**やや**高くなっている。



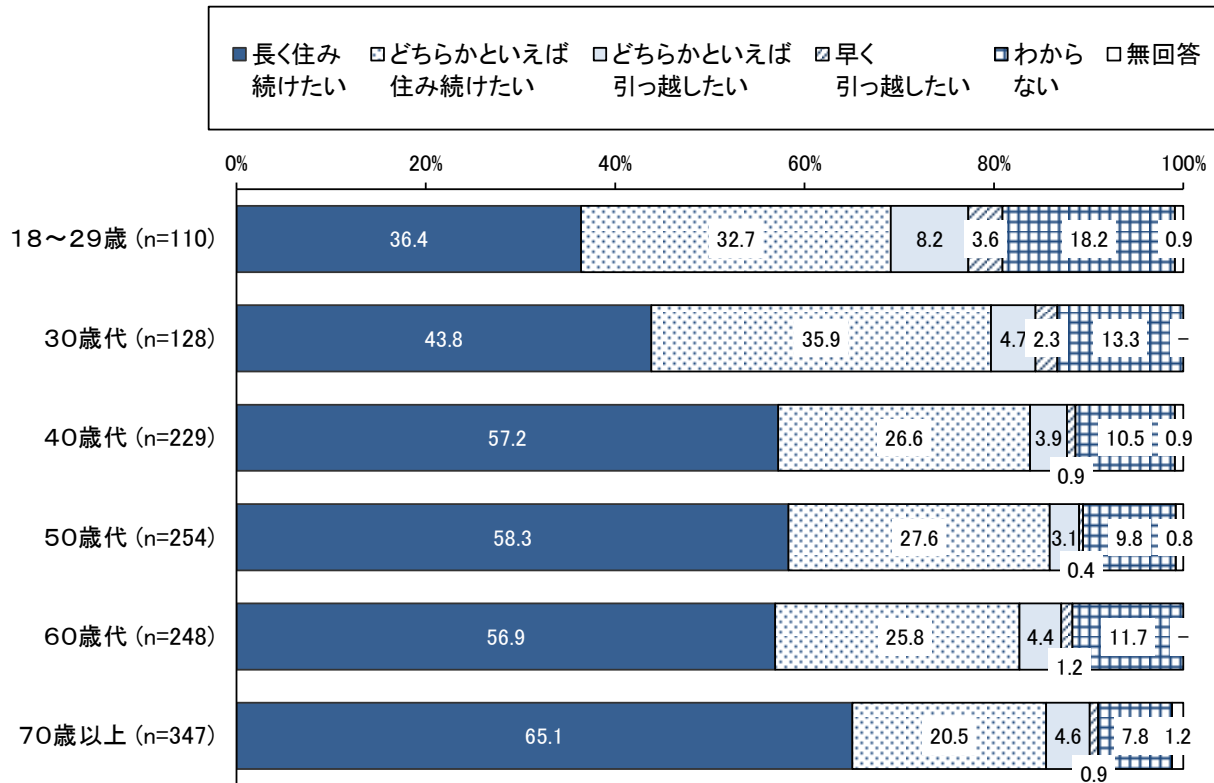
【問 8\_性別】



「問 8 中区居住意向」 - 2

年代別にみると、「長く住み続けたい」は40～60歳代で5割台後半、70歳以上では6割半ばと高くなっている。一方、18～29歳では3割半ばで他の年代に比べ低いものの、「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた割合は7割近くにのぼっている。

【問 8\_年代別】



「問 8 中区居住意向」－ 3

地区別にみると、「長く住み続けたい」はC地区が7割近くで最も高く、次いで、J地区、G地区の順となっている。「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた割合は、大半の地区で8割を超えている。

【問 8\_地区別】

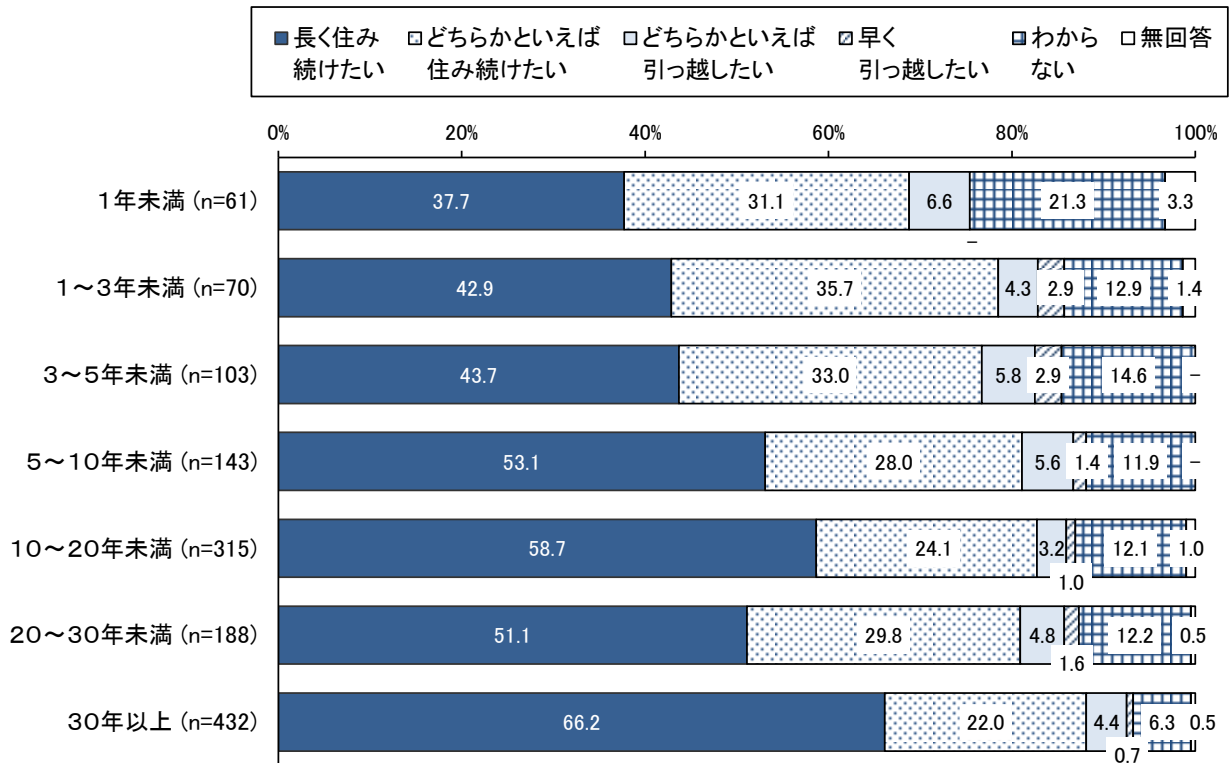
		(%)					
	n=	長く住み続けたい	住み続けたい	どちらかといえば	早く引越したい	わからない	無回答
全体	1,325	★56.2	26.3	4.5	1.2	10.8	1.1
A地区（第1北部地区）	78	★48.7	24.4	10.3	1.3	15.4	-
B地区（第1地区中部のうち、長者町を除く）	106	★52.8	25.5	6.6	-	15.1	-
C地区（関内地区）	44	★68.2	20.5	2.3	4.5	4.5	-
D地区（埋地地区のうち、寿町・松影町・三吉町を除く）	84	★57.1	22.6	8.3	2.4	8.3	1.2
E地区（寿地区のうち、扇町・長者町を除く）	27	★37.0	11.1	22.2	3.7	22.2	3.7
F地区（石川打越地区）	39	★53.8	35.9	-	-	10.3	-
G地区（第2地区）	167	★63.5	22.8	0.6	-	12.0	1.2
H地区（第3地区のうち、滝之上を除く）	218	★58.7	28.4	3.2	1.4	7.8	0.5
I地区（第4地区南部のうち、本牧荒井を除く）	109	★56.0	29.4	3.7	1.8	9.2	-
J地区（第4地区北部のうち、山手町を除く）	53	★64.2	20.8	1.9	1.9	11.3	-
K地区（本牧・根岸地区のうち、本牧原を除く）	194	★55.7	26.3	4.1	1.0	11.3	1.5
L地区（第6地区のうち、山手町を除く）	115	★57.4	25.2	7.0	-	9.6	0.9
M地区（新本牧地区）	81	★45.7	37.0	2.5	2.5	12.3	-

「問 8 中区居住意向」 - 4

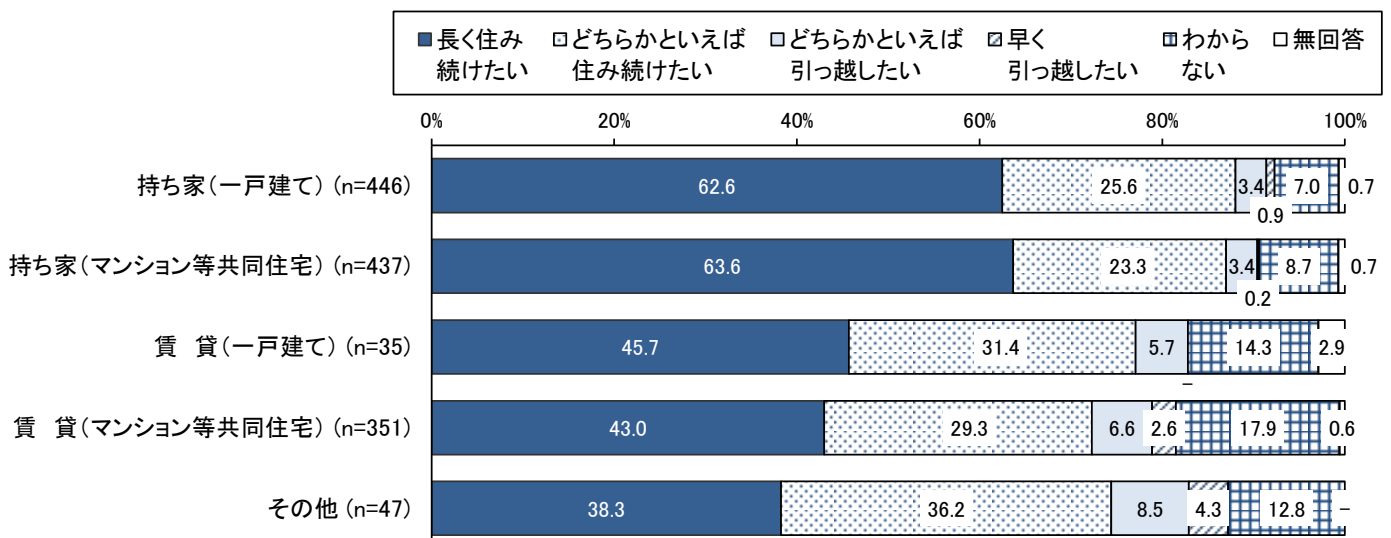
居住年数別にみると、「長く住み続けたい」は**おおむね**居住している年数の長い人の方が割合が高くなっている。

居住形態別にみると、「長く住み続けたい」は持ち家居住者で6割強、「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた割合は8割台後半と高くなっている。賃貸居住者でも、「長く住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた割合は7割を超えている。

【問 8\_居住年数別】



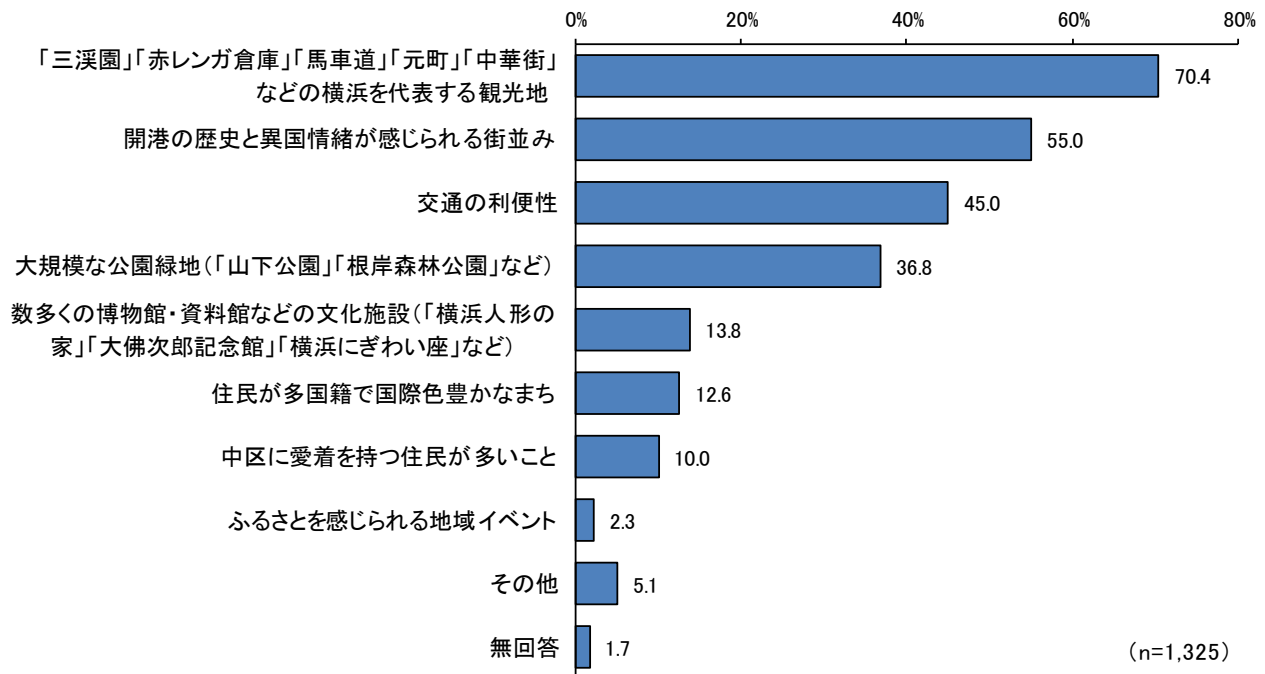
【問 8\_居住形態別】



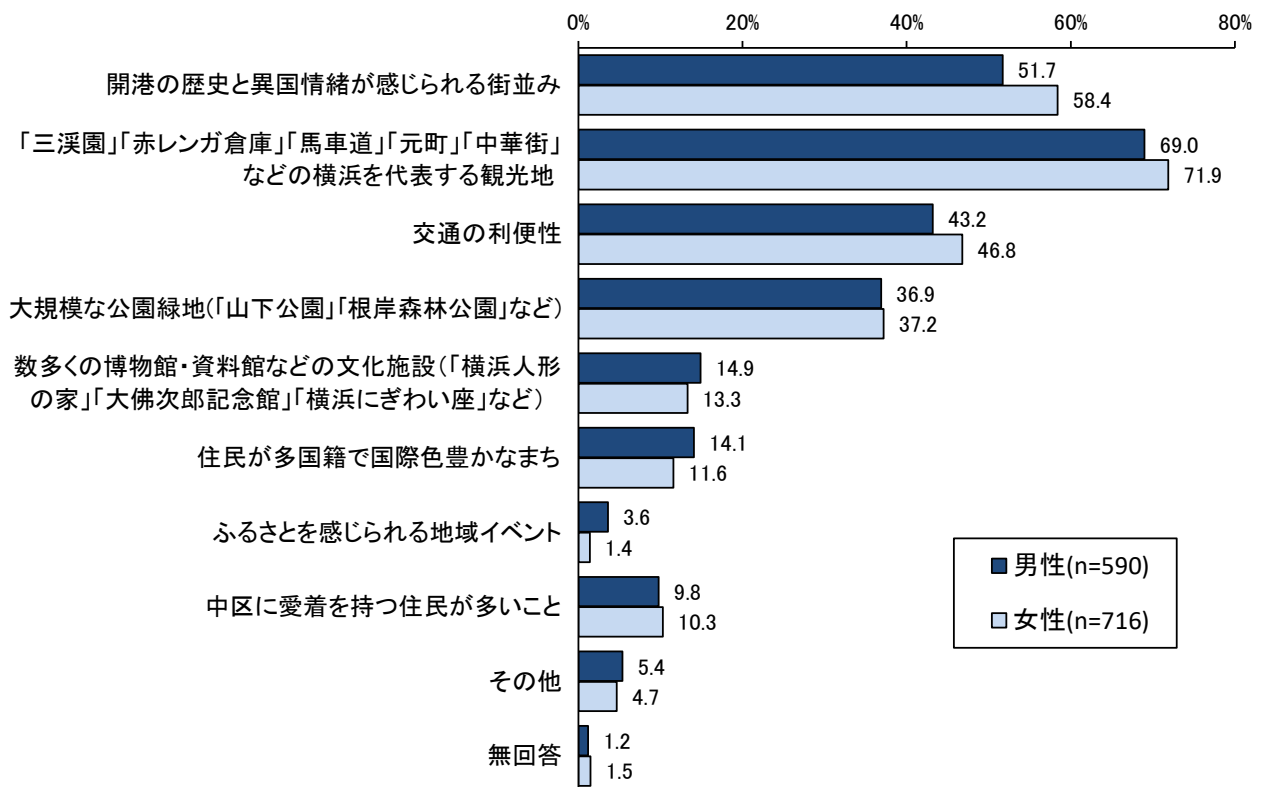
「問 13 知人・友人に誇れる中区の魅力」（3つまで回答）－ 1

知人・友人に誇れる中区の魅力を尋ねたところ、「三溪園」「赤レンガ倉庫」「馬車道」「元町」「中華街」などの横浜を代表する観光地が約7割で最も高くなっている。次いで、「開港の歴史と異国情緒が感じられる街並み」が5割半ば、「交通の利便性」が4割半ばで続いている。

性別にみると、前述の上位3項目はそれぞれ女性の方がやや高くなっている。



【問 13\_性別】

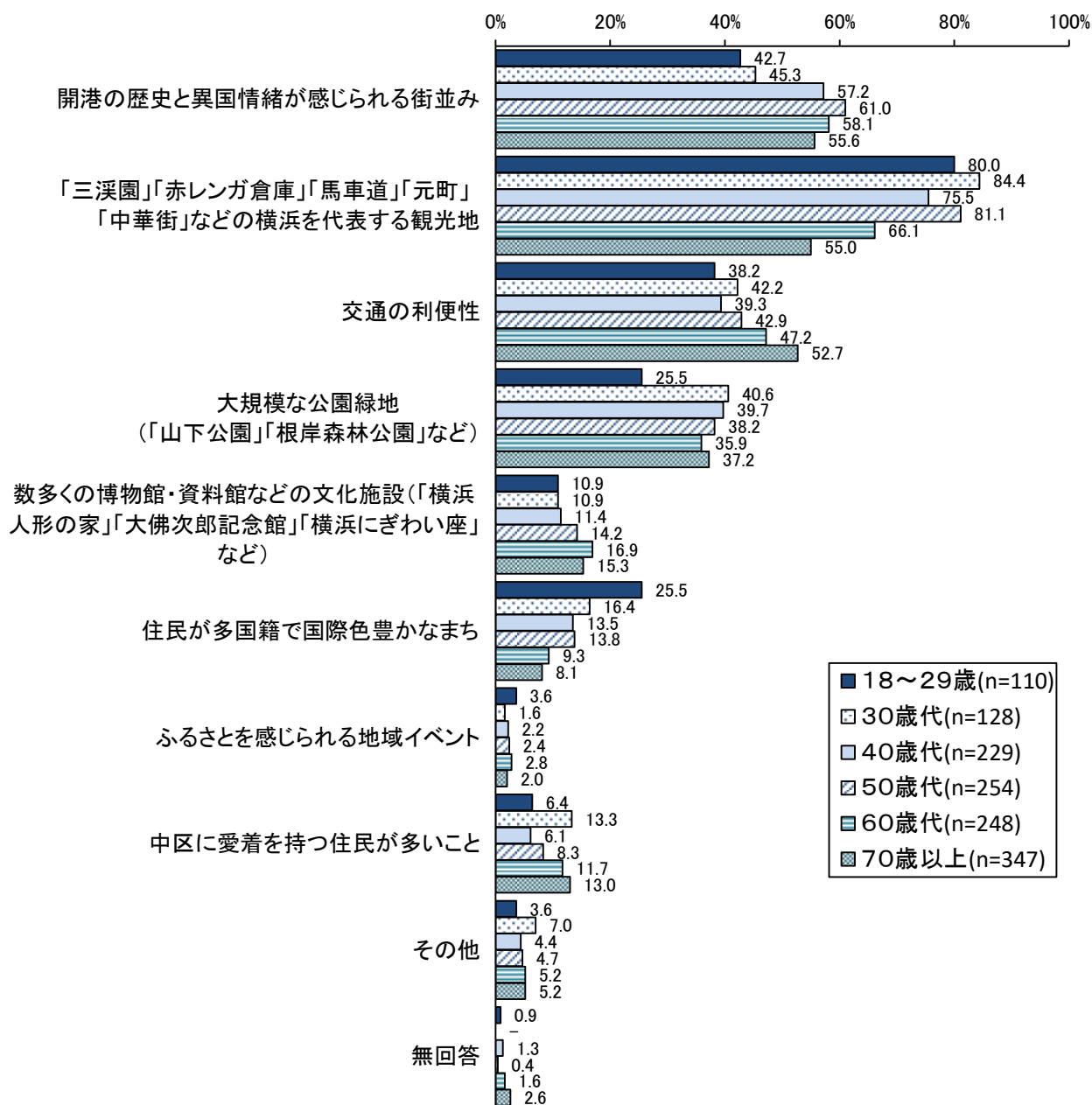




「問 13 知人・友人に誇れる中区の魅力」（3つまで回答）－ 2

年代別にみると、「三溪園」「赤レンガ倉庫」「馬車道」「元町」「中華街」などの横浜を代表する観光地は50歳代以下の年代では7～8割台と高くなっているが、60歳代・70歳以上ではそれぞれ6割台、5割台とやや低くなっている。「交通の利便性」については、70歳以上が5割を超え最も高くなっている。「住民が多国籍で国際色豊かなまち」は18～29歳が2割半ばで最も高くなっている。

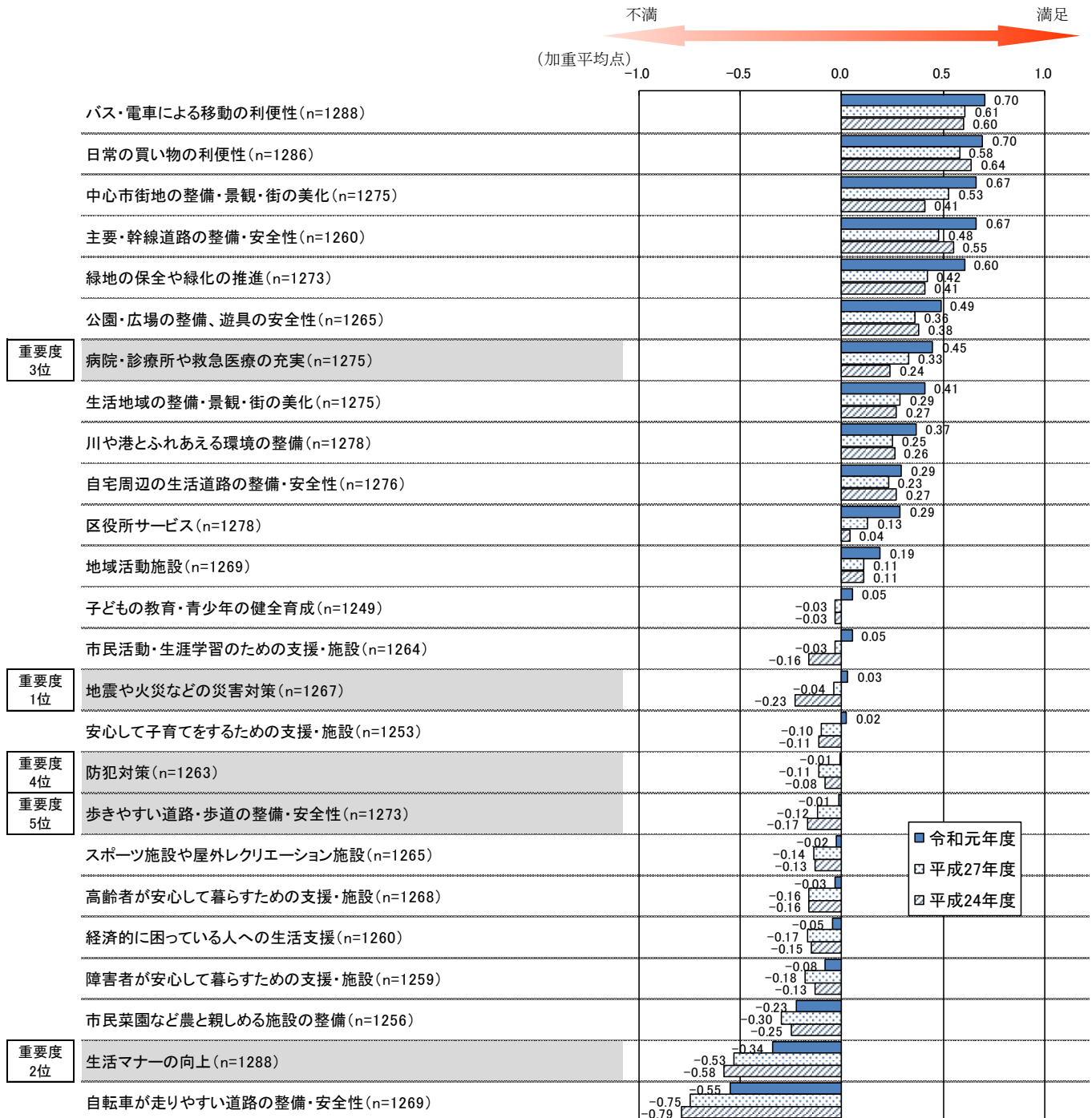
【問 13\_年代別】



## 2. 「中区の行政サービス」について

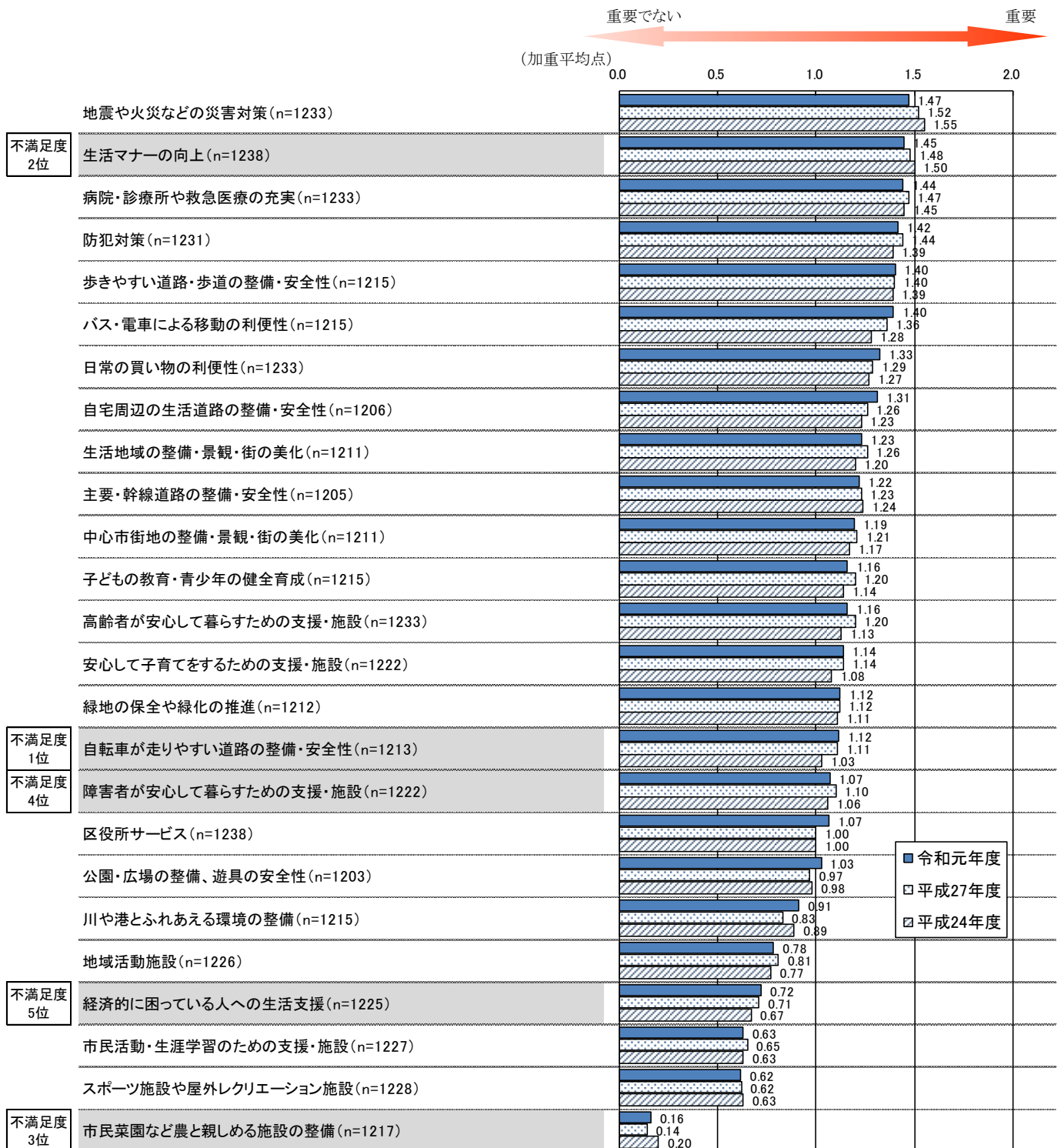
「問 14 行政サービスの現在の満足度」(平成 24 年度・平成 27 年度との比較)

現在の満足度を指標化したところ、平成 27 年度と同様に、「バス・電車による移動の利便性」「日常の買い物の利便性」が上位 2 項目となった。また、すべての項目で平成 24 年度・平成 27 年度から満足度が上昇している。なお、将来の重要度で上位に挙げられた項目は、おおむね満足度が低くなっている。



「問 14 行政サービスの将来の重要度」(平成 24 年度・平成 27 年度との比較)

将来の重要度をみると、平成 27 年度と同様に「地震や火災などの災害対策」が最も高くなっている。平成 27 年度は重要度 4 位であった「生活マナーの向上」は今回 2 位に挙げられた。この「生活マナーの向上」は不満足度が 2 位となっており、将来に向け重要だと考えている人が多いことがわかる。



加重平均点 = {満足 × 2 + やや満足 × 1 + やや不満 × (-1) + 不満 × (-2)} ÷ (全体 - 無回答)

※ 調査結果をわかりやすく表記するため、満足度と重要度について全体の回答の平均をとり、指標化して表記しています。

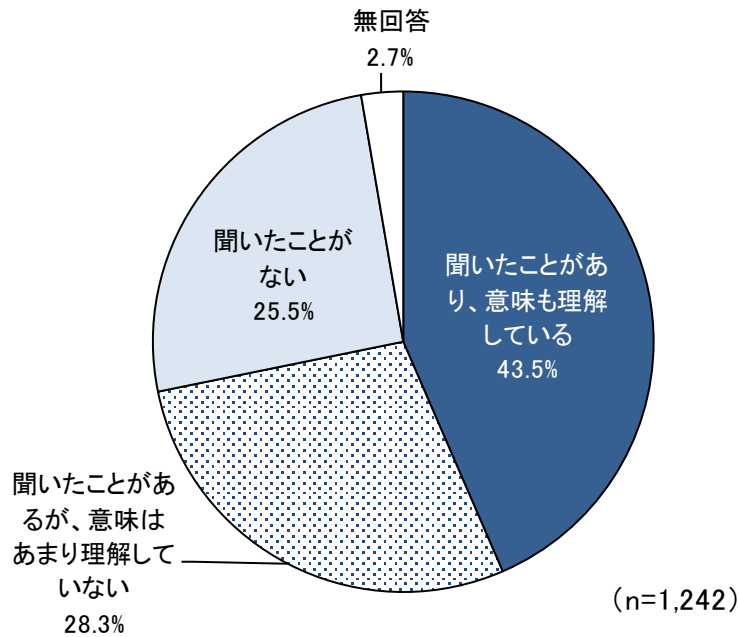
仮にすべての方が「満足」もしくは「重要」と回答すると 2 点、一方すべての方が「不満」もしくは「重要でない」と回答すると -2 点、また「満足」と「不満」の半々だとすると、平均点は 0 点になります。

### 3. 「多文化共生」について

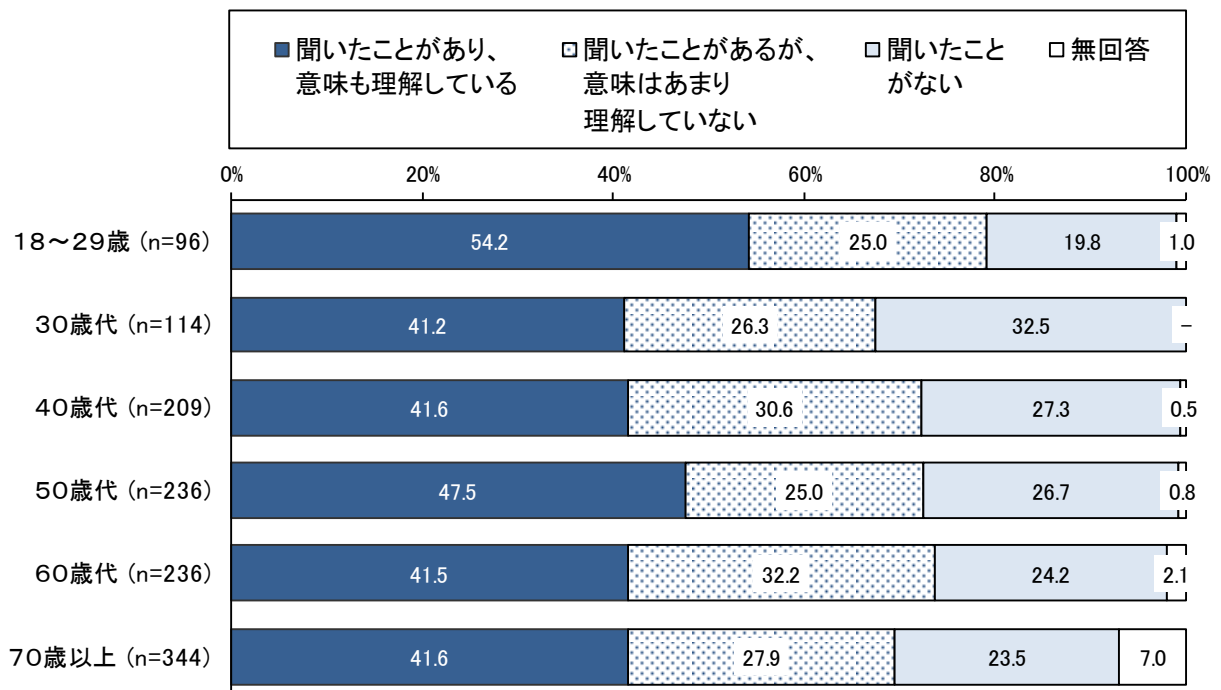
#### 「問 15 「多文化共生」の認知度《日本人版調査票》」－ 1

「多文化共生」の認知について日本人に尋ねたところ、「聞いたことがあり、意味も理解している」が4割強、「聞いたことがあるが、意味はあまり理解していない」が3割弱、「聞いたことがない」が2割半ばとなっている。

年代別にみると、「聞いたことがあり、意味も理解している」は18～29歳で唯一5割を超え全年代で最も高くなっている。



【問 15\_年代別】



「問 15 「多文化共生」の認知度《日本人版調査票》」－ 2

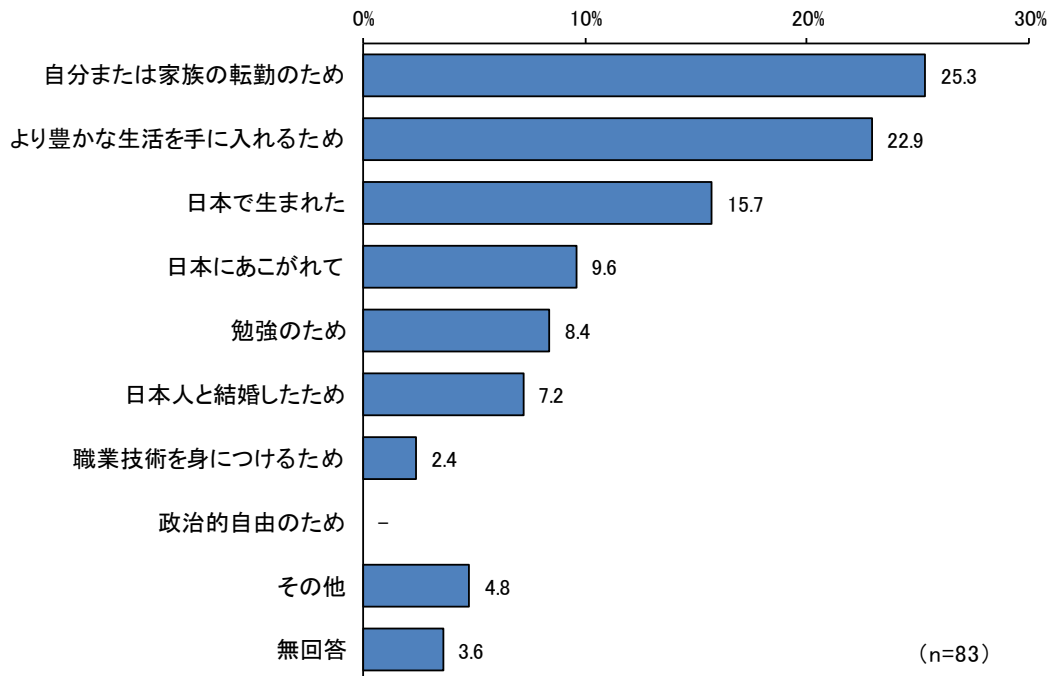
地区別にみると、E地区で「聞いたことがあり、意味も理解している」の割合が1割半ばと、他地区に比べ特に低くなっている。一方、M地区、L地区では5割近くの人が多文化共生の意味を理解している。

【問 15\_地区別】

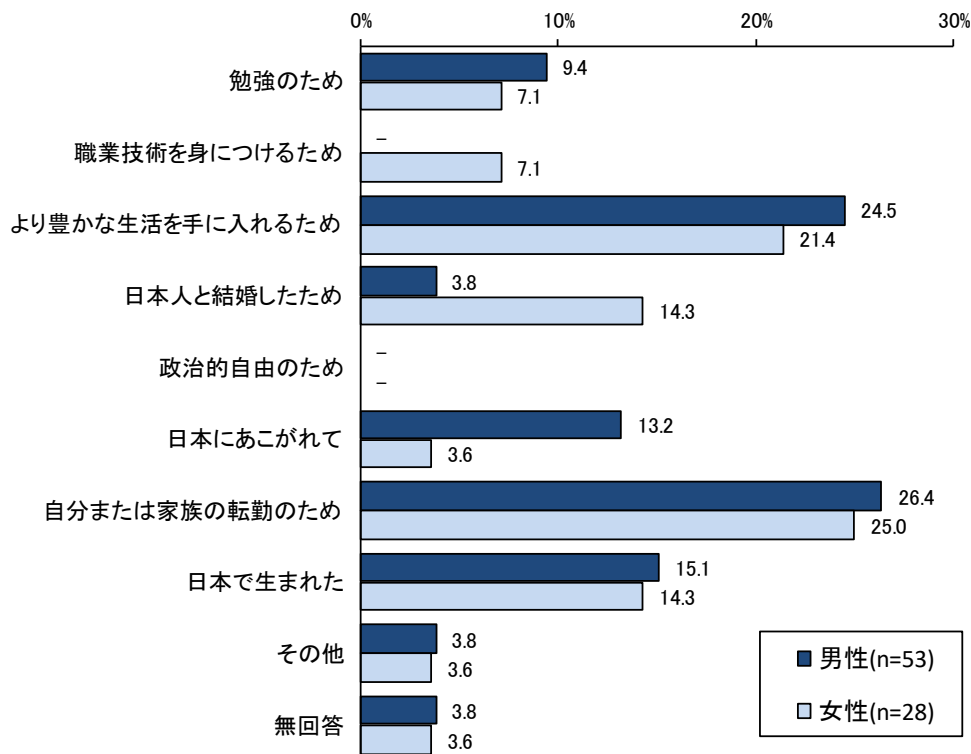
		(%)			
	n=	てり聞 い、い る意た 味こ もと 理が 解あ し	理が聞 解、い し意た て味こ いはと なあが いまあ りる	聞 いた こと が ない	無 回 答
全体	1,242	★43.5	28.3	25.5	2.7
A地区（第1北部地区）	73	★43.8	31.5	24.7	-
B地区（第1地区中部のうち、長者町を除く）	86	★43.0	24.4	31.4	1.2
C地区（関内地区）	44	★38.6	29.5	27.3	4.5
D地区（埋地地区のうち、寿町・松影町・三吉町を除く）	77	★40.3	24.7	32.5	2.6
E地区（寿地区のうち、扇町・長者町を除く）	26	15.4	★50.0	23.1	11.5
F地区（石川打越地区）	38	★36.8	28.9	31.6	2.6
G地区（第2地区）	152	★44.7	31.6	21.7	2.0
H地区（第3地区のうち、滝之上を除く）	206	★43.2	25.7	27.2	3.9
I地区（第4地区南部のうち、本牧荒井を除く）	109	★45.0	29.4	20.2	5.5
J地区（第4地区北部のうち、山手町を除く）	48	★41.7	39.6	18.8	-
K地区（本牧・根岸地区のうち、本牧原を除く）	188	★45.7	27.1	25.0	2.1
L地区（第6地区のうち、山手町を除く）	112	★47.3	25.0	25.9	1.8
M地区（新本牧地区）	74	★48.6	21.6	27.0	2.7

「問 15 来日目的《外国人版調査票》」

外国人版調査票で尋ねた来日目的については、「自分または家族の転勤のため」が最も高く、次いで「より豊かな生活を手に入れるため」となっている。  
性別にみると、「日本人と結婚したため」は女性で高く、「日本にあこがれて」は男性で高くなっている。

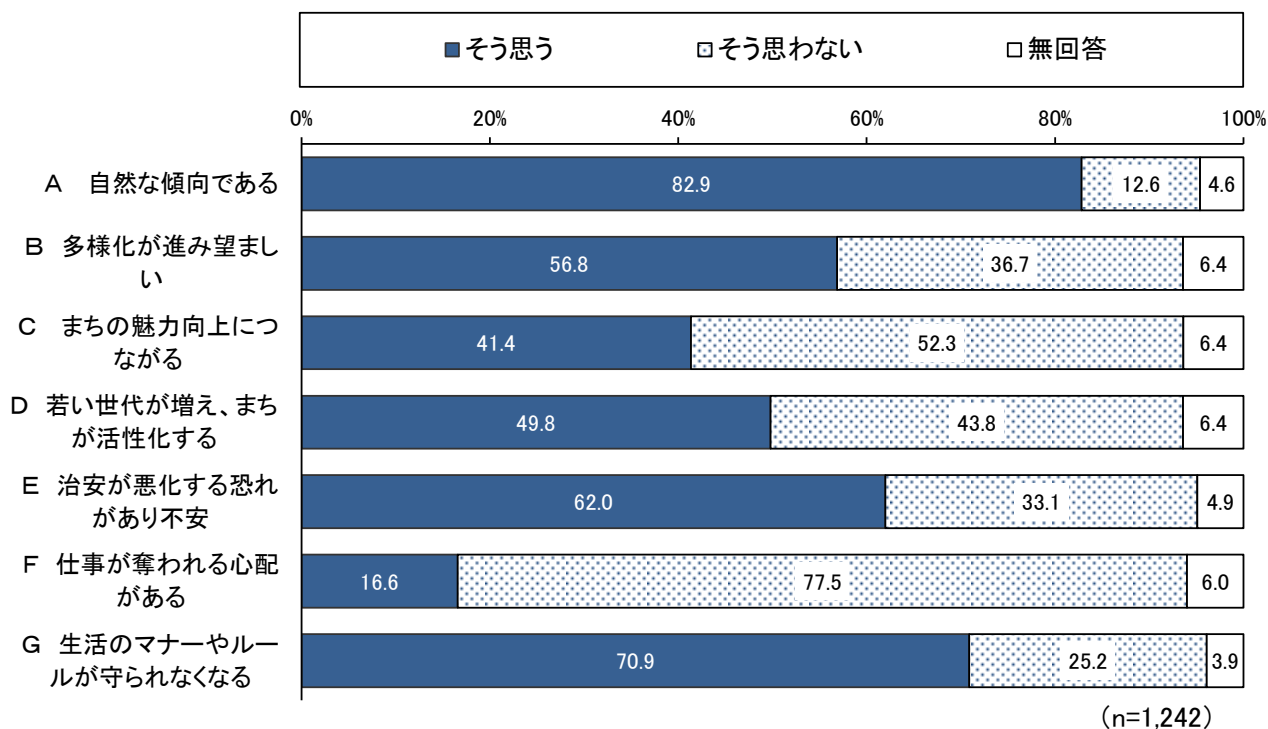


【問 15 外国人版\_性別】



「問 16 外国人増加に関する意見《日本人版調査票》」－ 1

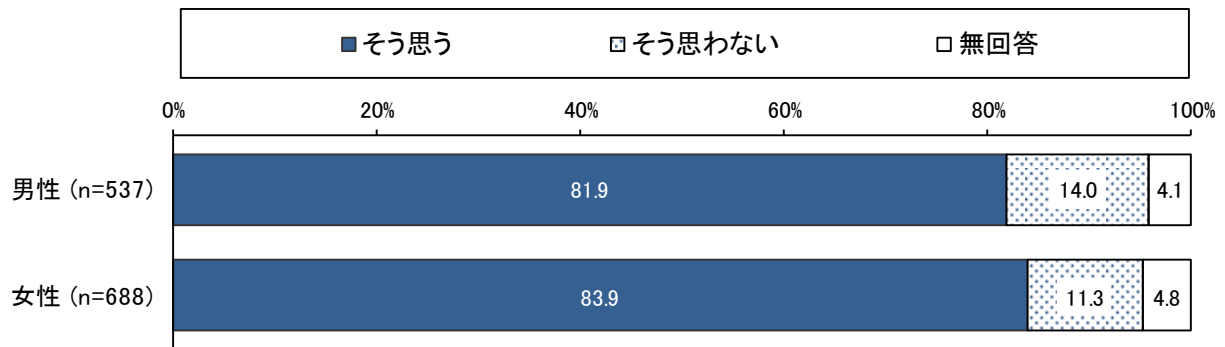
外国人増加に関する意見について日本人に尋ねたところ、[自然な傾向である] とする人は8割を超えている。また、「多様化が進み望ましい」は5割台後半、「若い世代が増え、まちが活性化する」は約5割、「まちの魅力向上につながる」は約4割の人が「そう思う」と好意的にとらえている。一方、約7割の人が「生活のマナーやルールが守られなくなる」、6割強の人が「治安が悪化する恐れがあり不安」と感じている。なお、「仕事が奪われる心配がある」と感じている人は1割半ばにとどまっている。



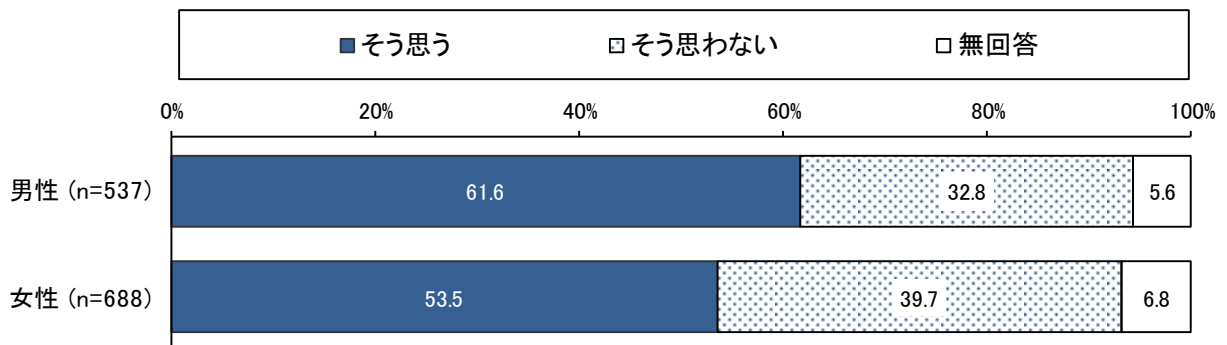
「問 16 外国人増加に関する意見《日本人版調査票》」 - 2

性別にみると、男女の差が比較的大きい項目は「多様化が進み望ましい」「若い世代が増え、まちが活性化する」で、それぞれ「そう思う」とする割合は男性の方が高くなっている。一方、「治安が悪化する恐れがあり不安」「生活のマナーやルールが守られなくなる」は、女性の方がやや高くなっている。

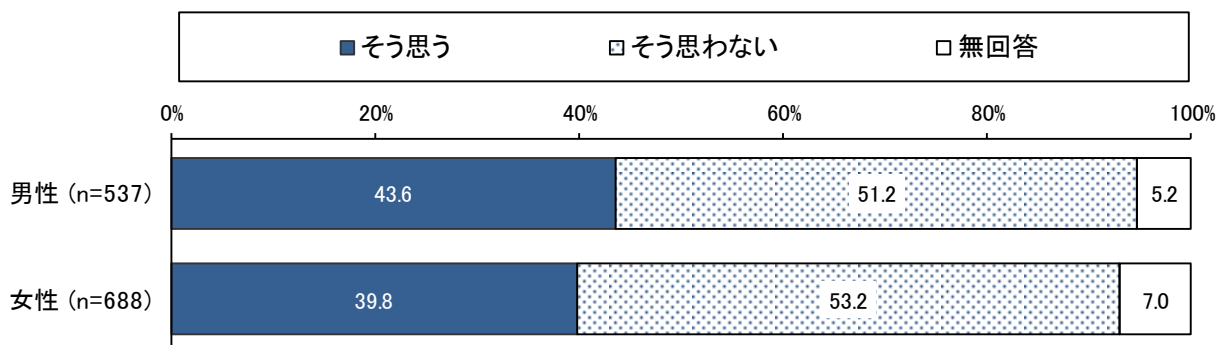
【問 16 A 自然な傾向である\_性別】



【問 16 B 多様化が進み望ましい\_性別】

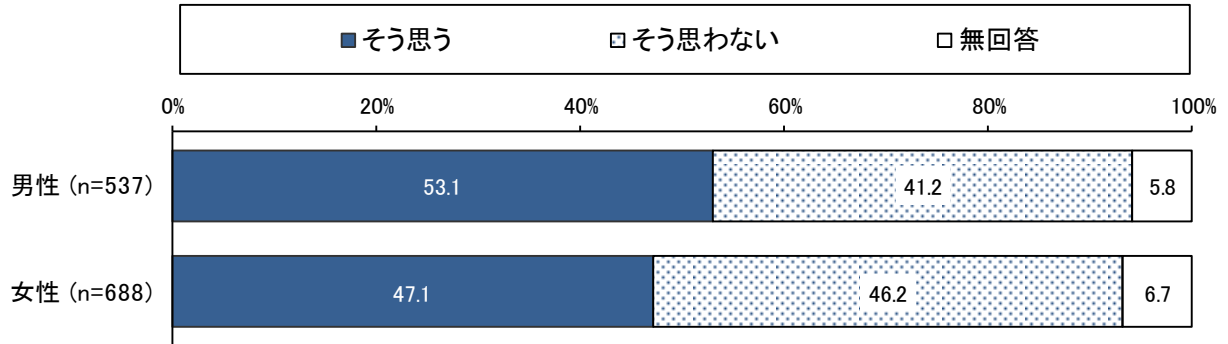


【問 16 C まちの魅力向上につながる\_性別】

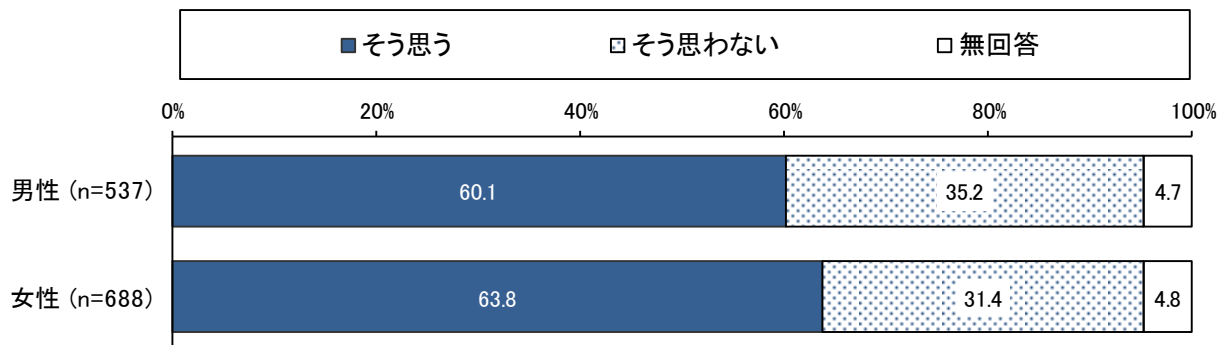




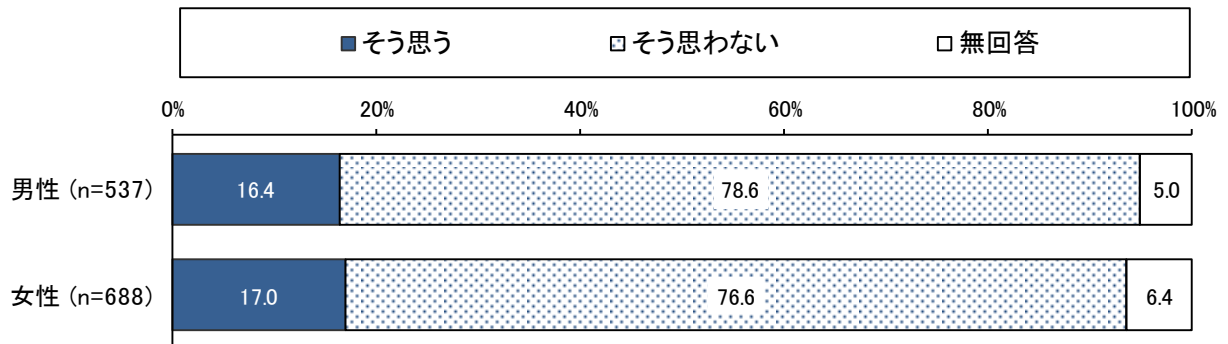
【問 16 D 若い世代が増え、まちが活性化する\_性別】



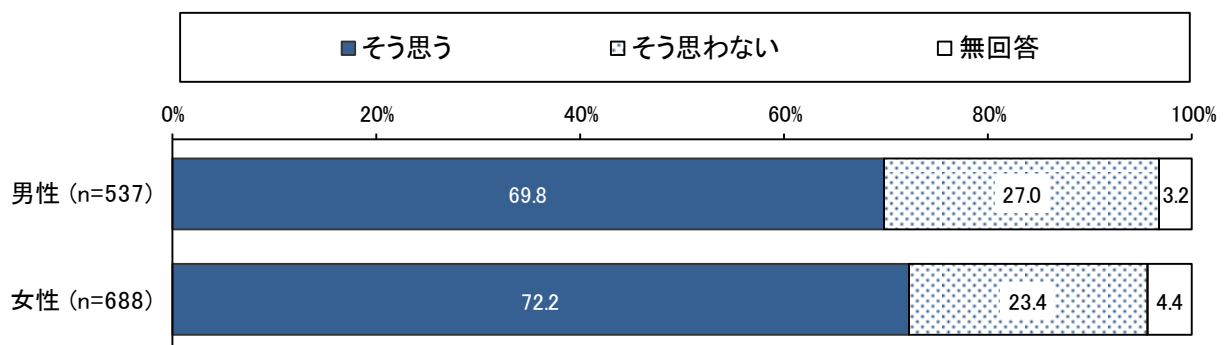
【問 16 E 治安が悪化する恐れがあり不安\_性別】



【問 16 F 仕事が奪われる心配がある\_性別】



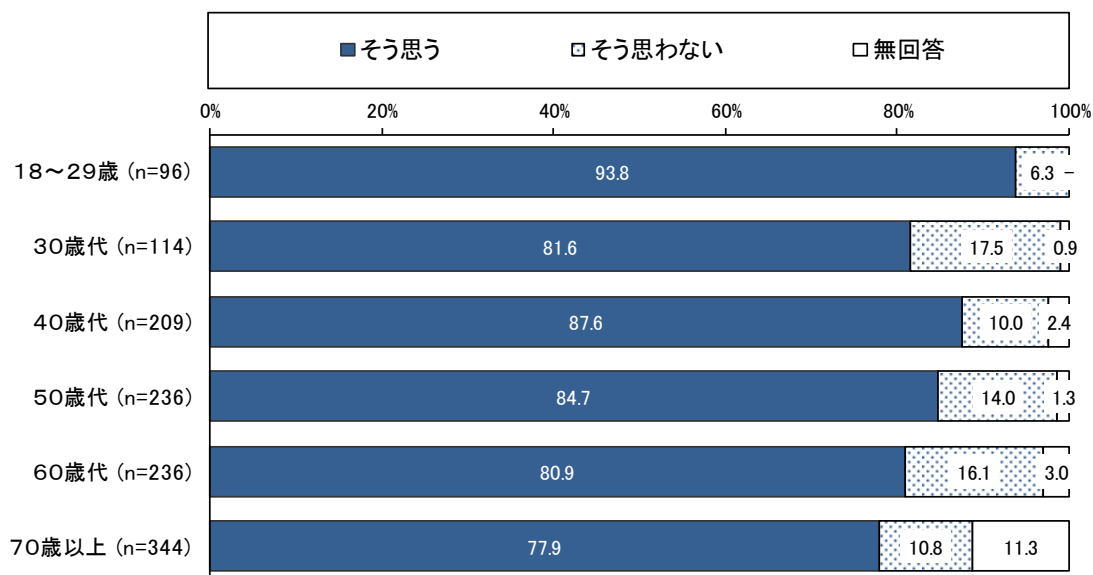
【問 16 G 生活のマナーやルールが守られなくなる\_性別】



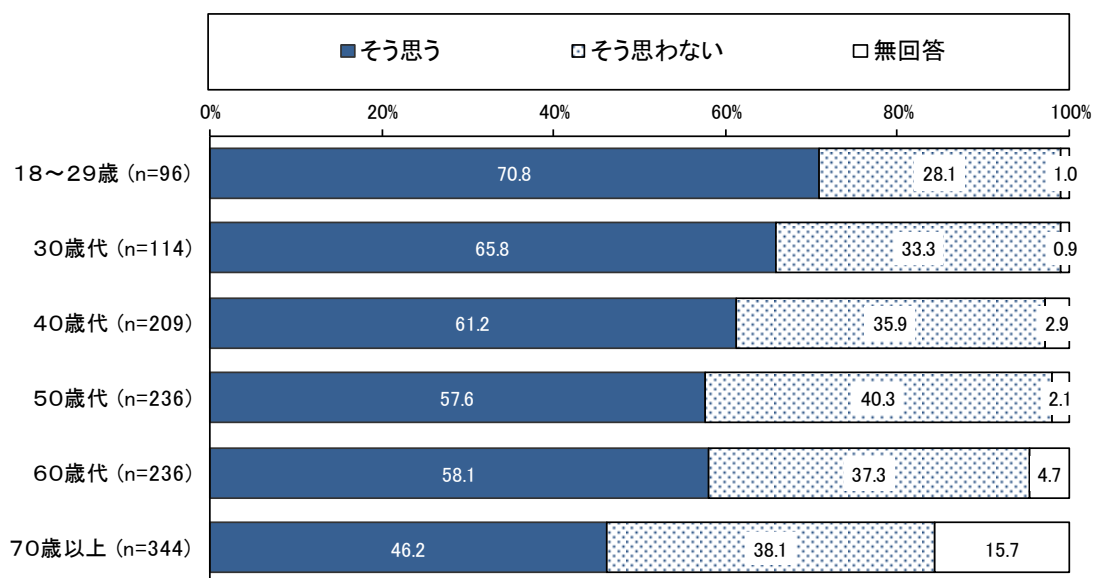
「問 16 外国人増加に関する意見《日本人版調査票》」－ 3

年代別にみると、[自然な傾向にある] [多様化が進み望ましい] [まちの魅力向上につながる] [若い世代が増え、まちが活性化する] は、**おおむね**若い年代の方が「そう思う」とする割合が高い傾向となっている。

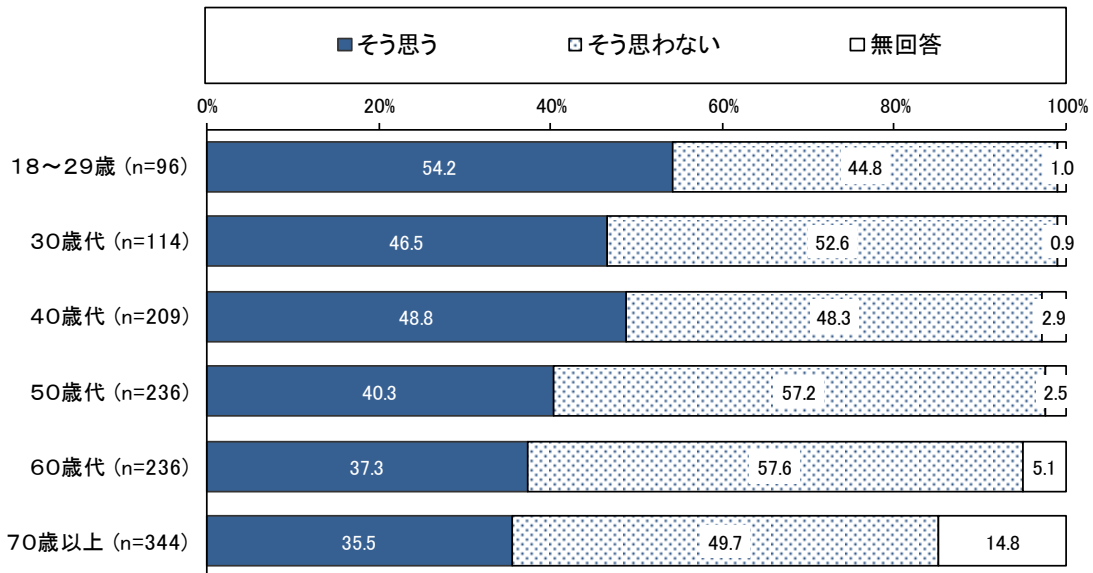
【問 16 A 自然な傾向である\_年代別】



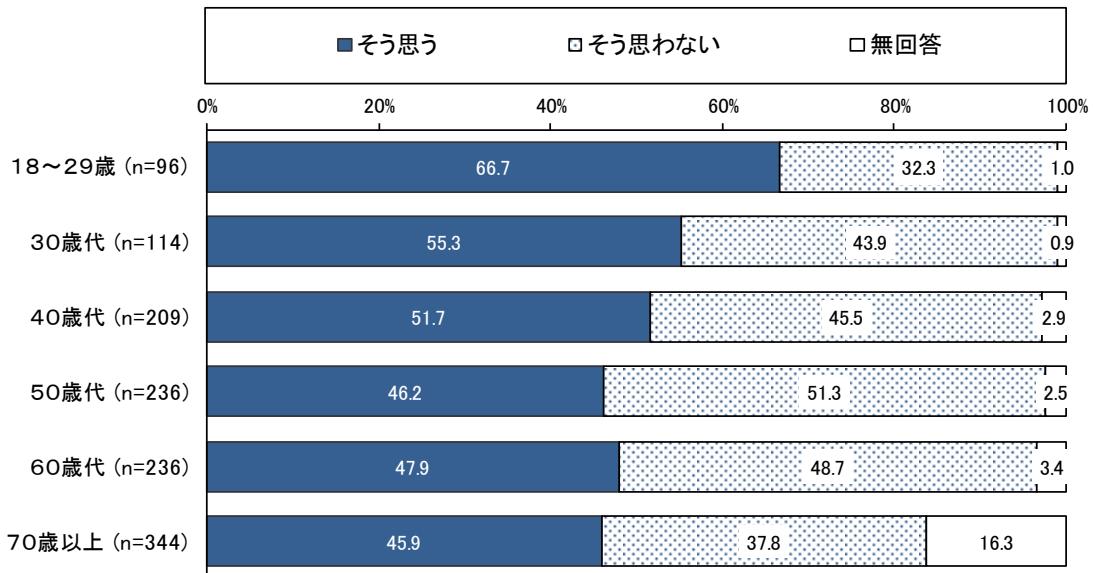
【問 16 B 多様化が進み望ましい\_年代別】



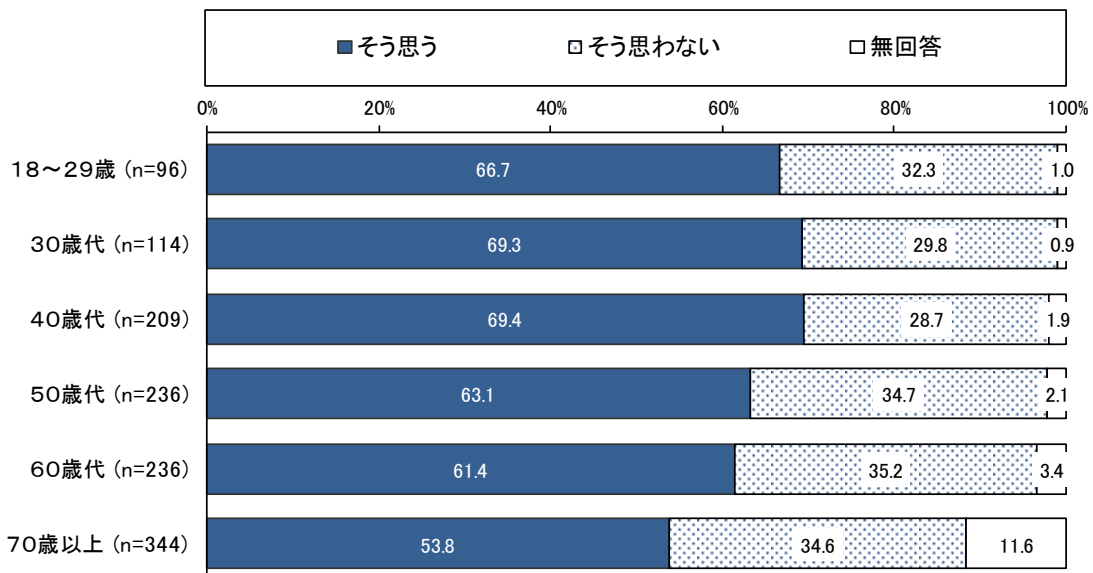
【問 16 C まちの魅力向上につながる\_年代別】



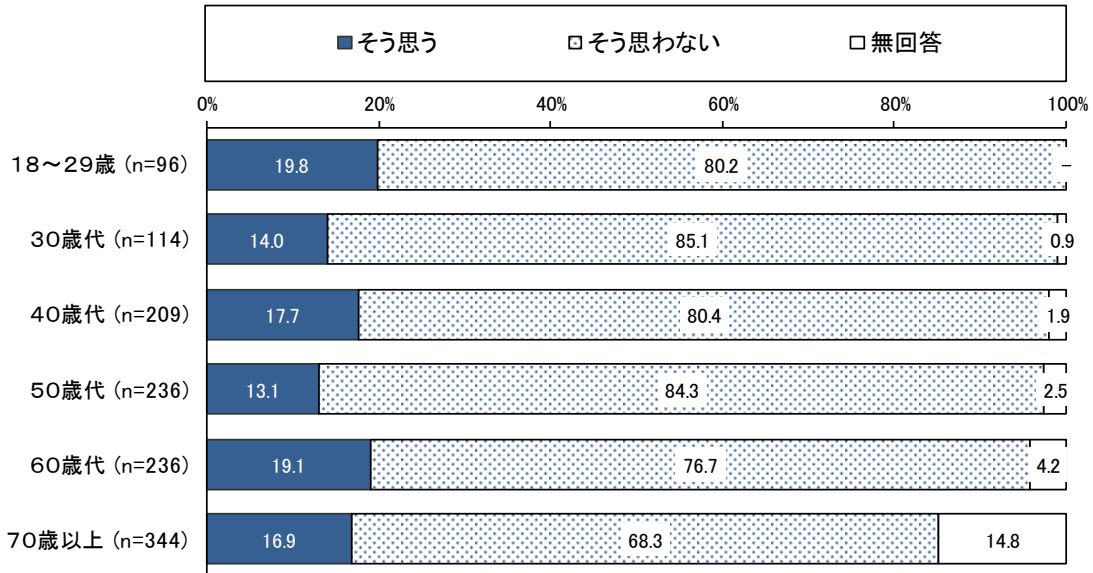
【問 16 D 若い世代が増え、まちが活性化する\_年代別】



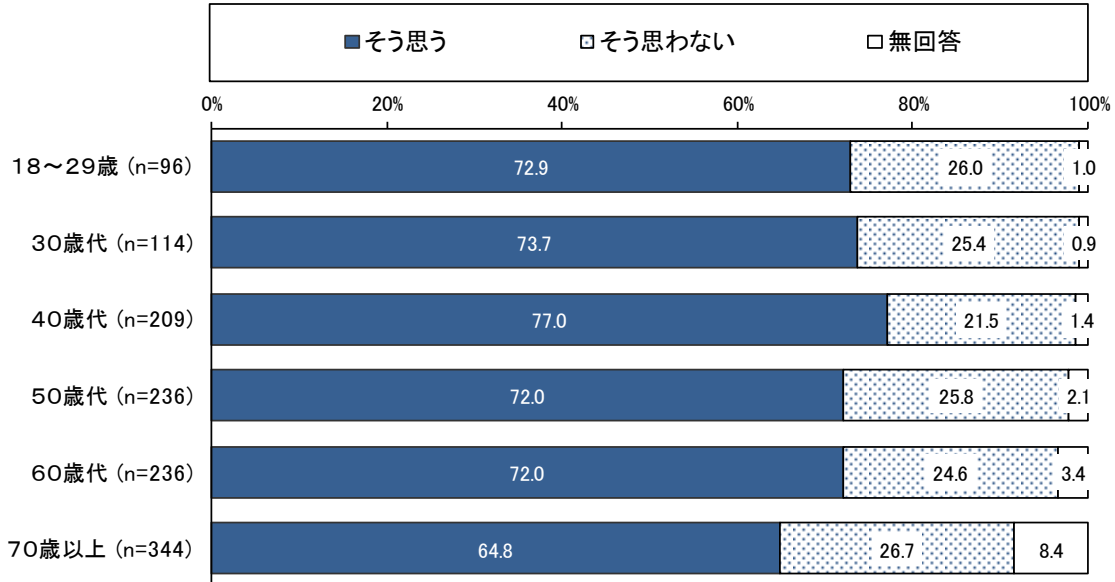
【問 16 E 治安が悪化する恐れがあり不安\_年代別】



【問 16 F 仕事が奪われる心配がある\_年代別】



【問 16 G 生活のマナーやルールが守られなくなる\_年代別】

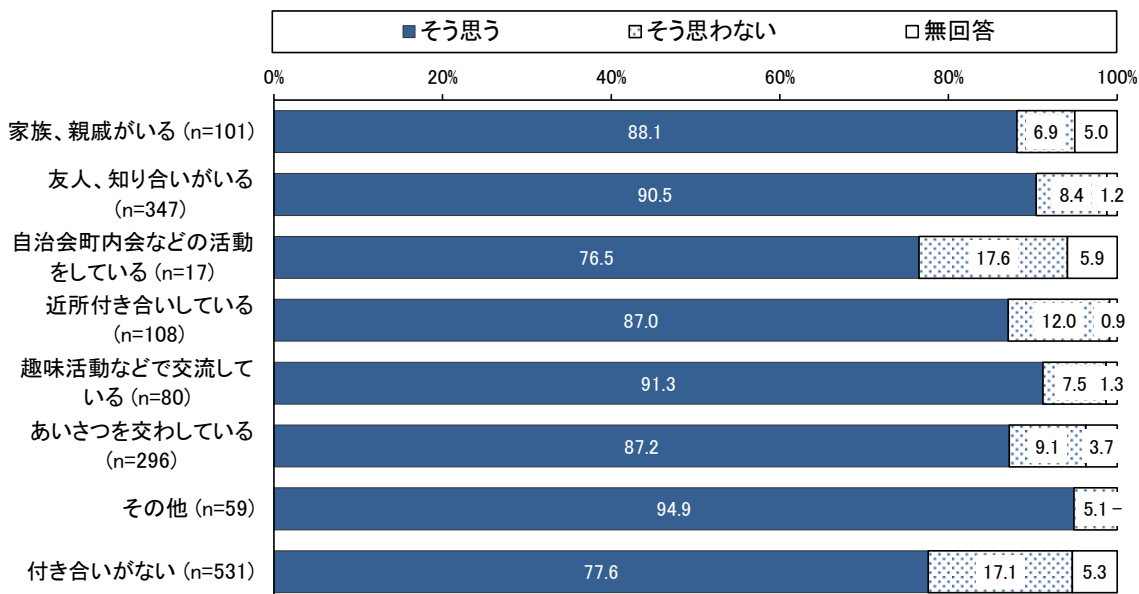


「問 16 外国人増加に関する意見《日本人版調査票》」－ 4

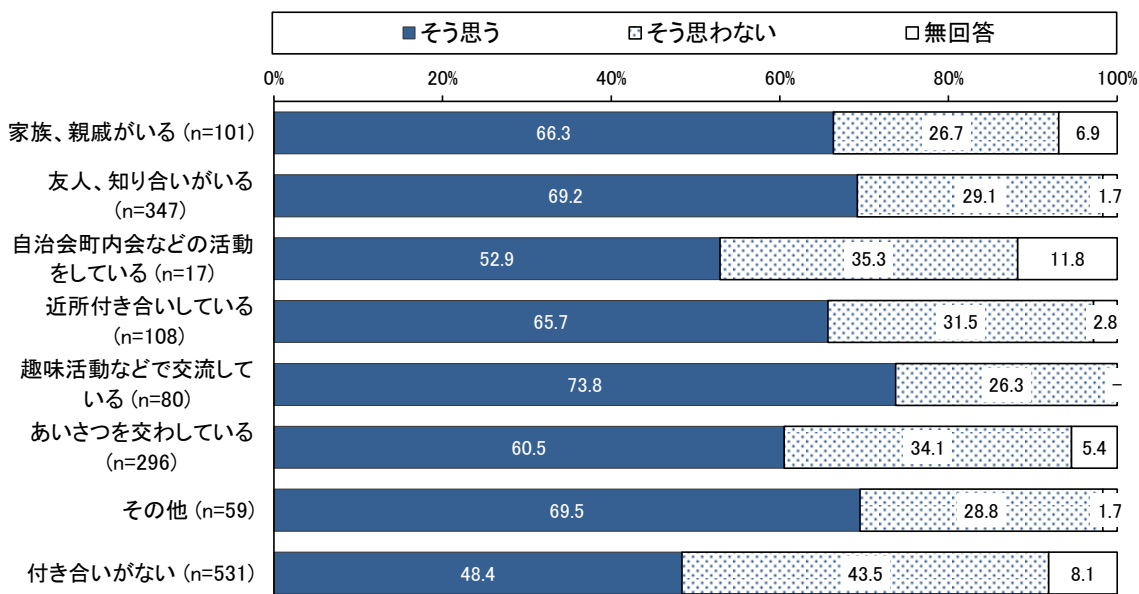
外国人との交流状況別にみると、[多様化が進み望ましい] [まちの魅力向上につながる] [若い世代が増え、まちが活性化する] などの好意的意見は、『趣味活動などで交流している』『友人、知り合いがいる』『近所付き合いしている』『その他\*』の人で高い傾向がみえる。一方、[治安が悪化する恐れがあり不安] は『付き合いがない』という人で6割半ばと高くなっている。

\*『その他』: 主な内容は“仕事上で関わりがある”“職場にいる”など

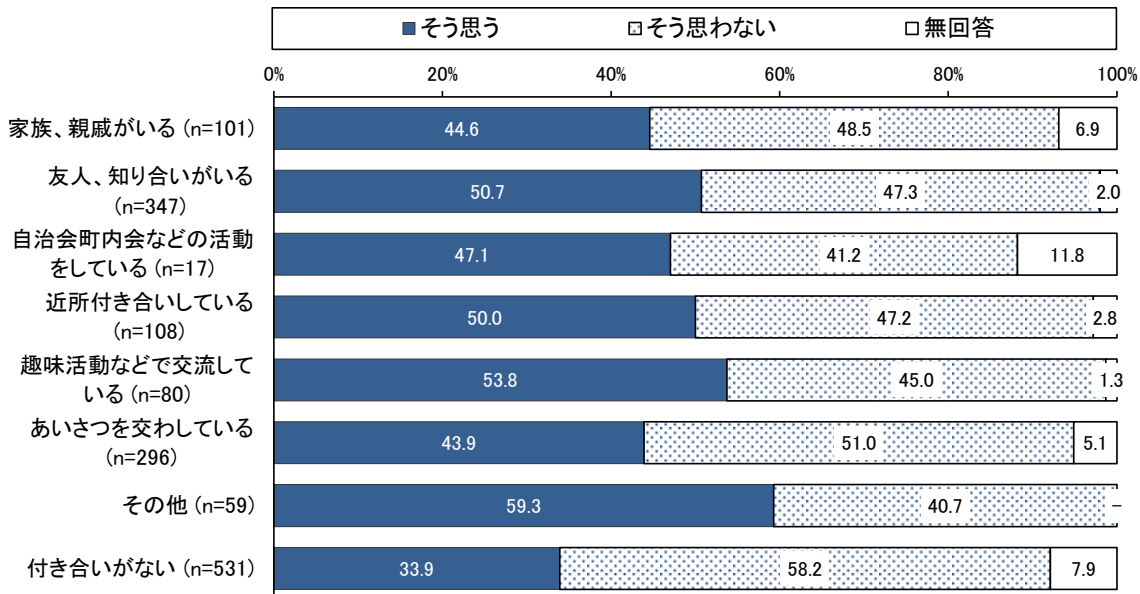
【問 16 A 自然な傾向である\_外国人との交流状況別】



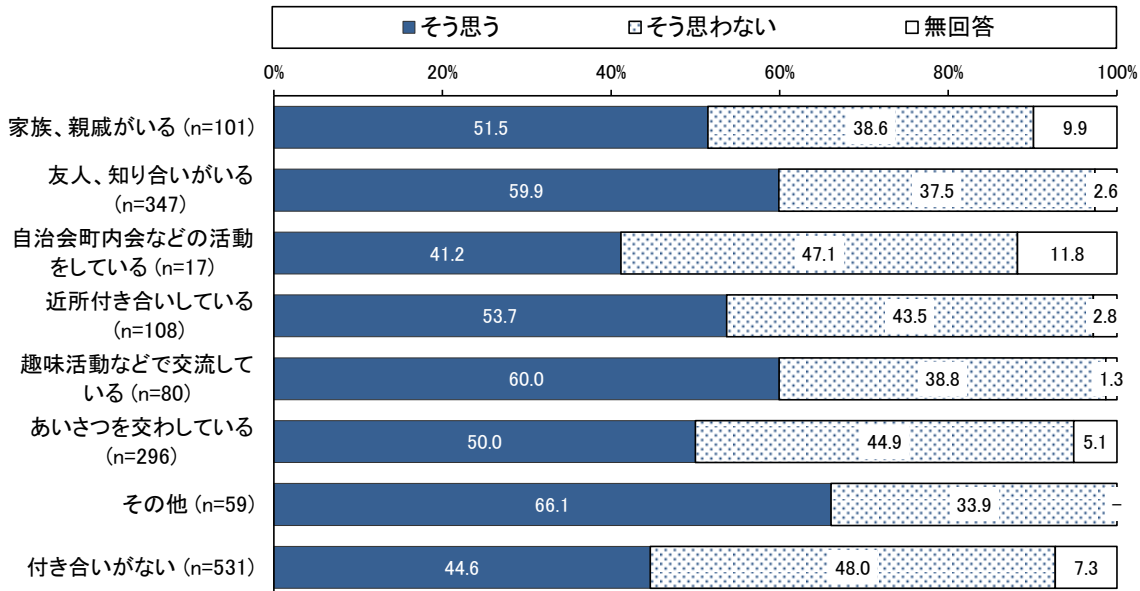
【問 16 B 多様化が進み望ましい\_外国人との交流状況別】



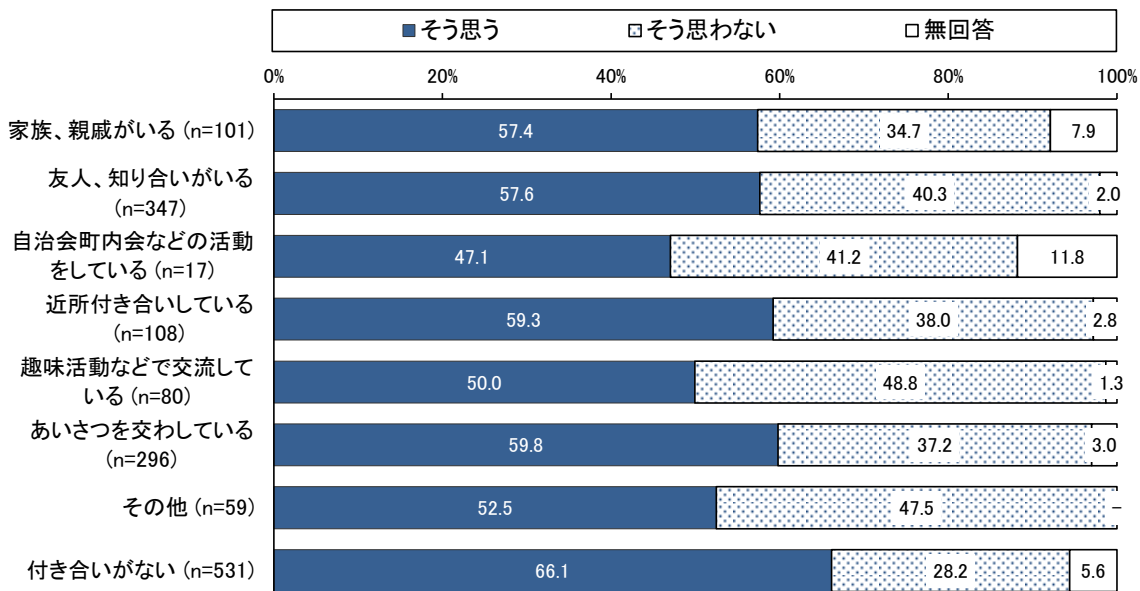
【問 16 C まちの魅力向上につながる\_外国人との交流状況別】



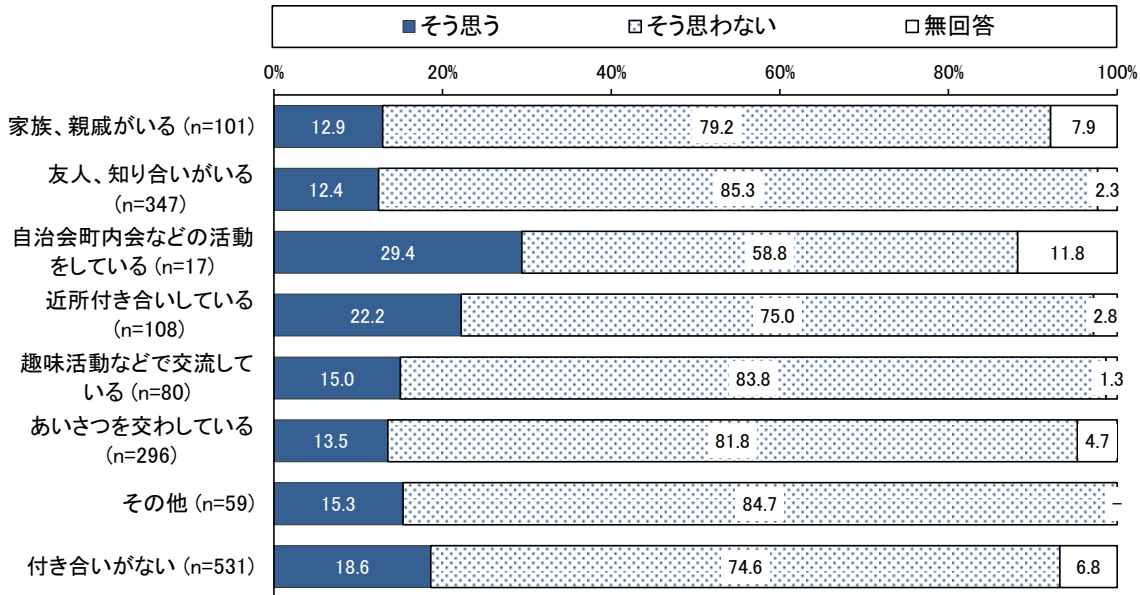
【問 16 D 若い世代が増え、まちが活性化する\_外国人との交流状況別】



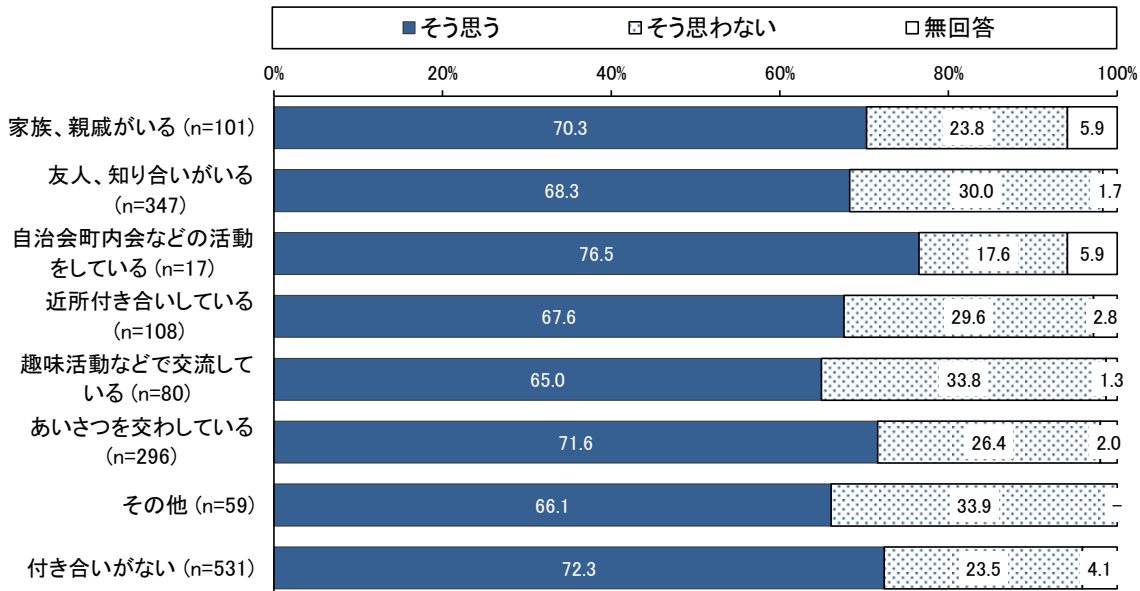
【問 16 E 治安が悪化する恐れがあり不安\_外国人との交流状況別】



【問 16 F 仕事が奪われる心配がある\_外国人との交流状況別】



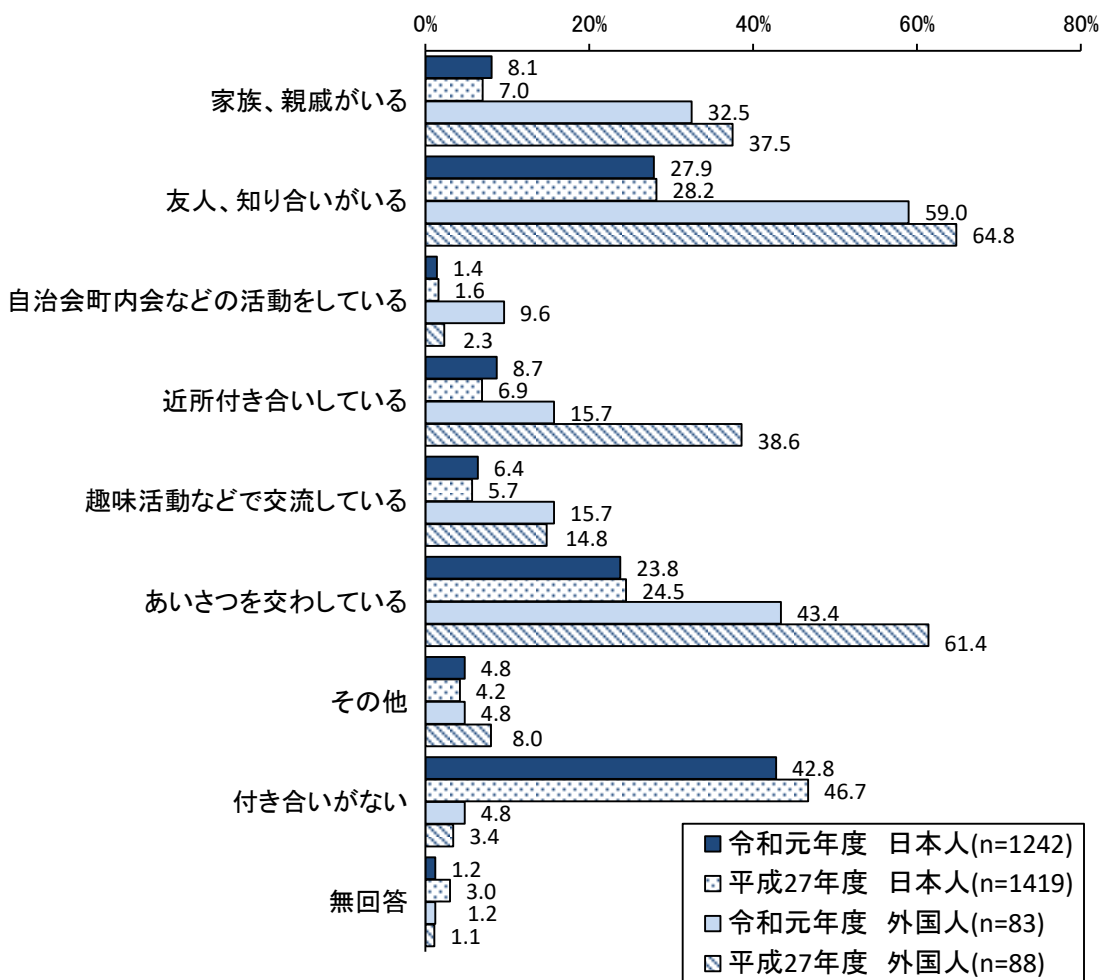
【問 16 G 生活のマナーやルールが守られなくなる\_外国人との交流状況別】



「問 17 外国人／日本人の方とどのような交流があるか」（複数回答）－ 1

日本人は外国人と、外国人は日本人と、それぞれどのような交流があるか尋ねた。日本人の調査結果では、「付き合いがない」の割合が最も高く、次いで「友人、知り合いがいる」「あいさつを交わしている」の順となった。平成 27 年度に比べ「付き合いがない」の割合がやや低くなっている。外国人の調査結果では、「友人、知り合いがいる」の割合が最も高く、次いで「あいさつを交わしている」「家族、親戚がいる」の順となっている。平成 27 年度に比べ、「あいさつを交わしている」「近所付き合いしている」の割合が大きく下がっている。

【問 17\_日本人／外国人別\_経年比較】

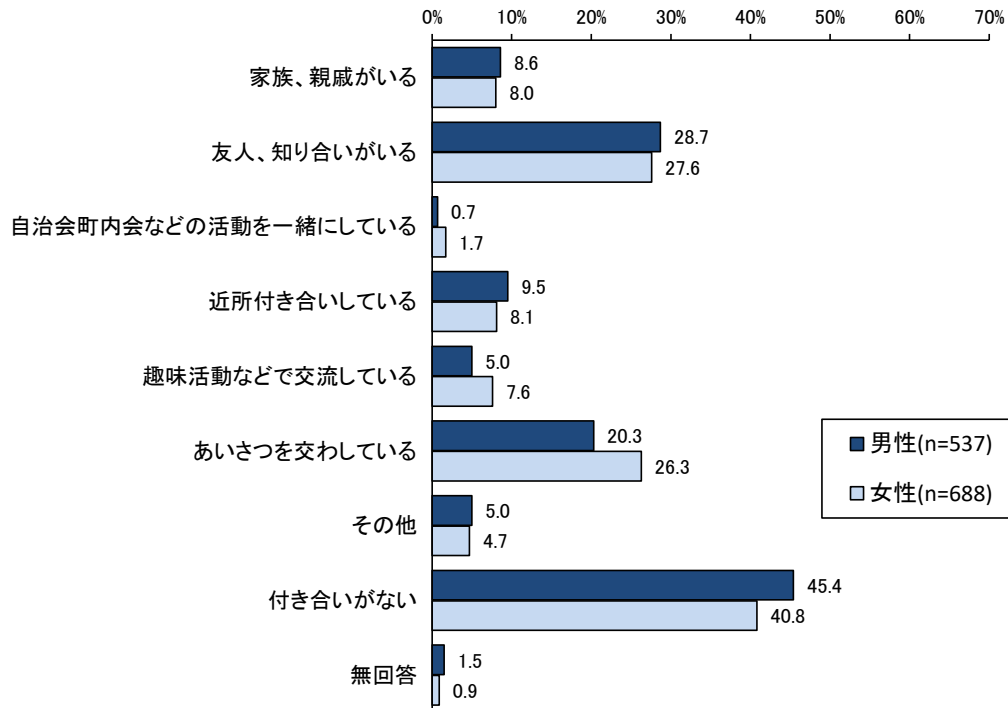




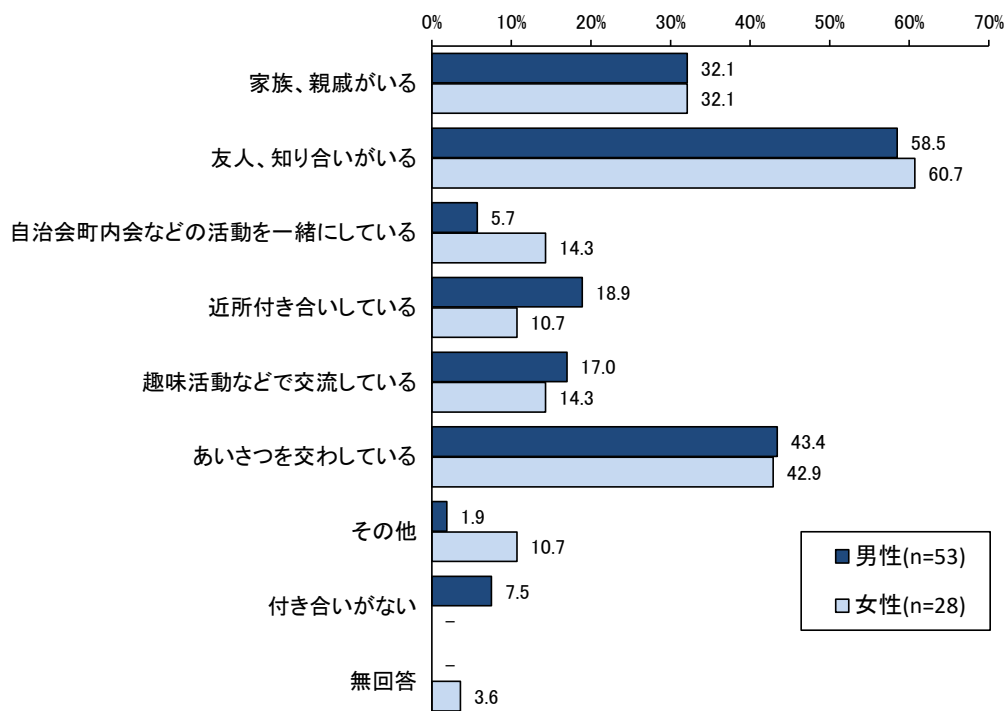
「問 17 外国人／日本人の方とどのような交流があるか」（複数回答）－ 2

性別にみると、日本人・外国人ともに、男性の方が女性よりも「付き合いがない」の割合が高くなっている。外国人の女性では「付き合いがない」とする人はいなかった。

【問 17\_性別（日本人）】



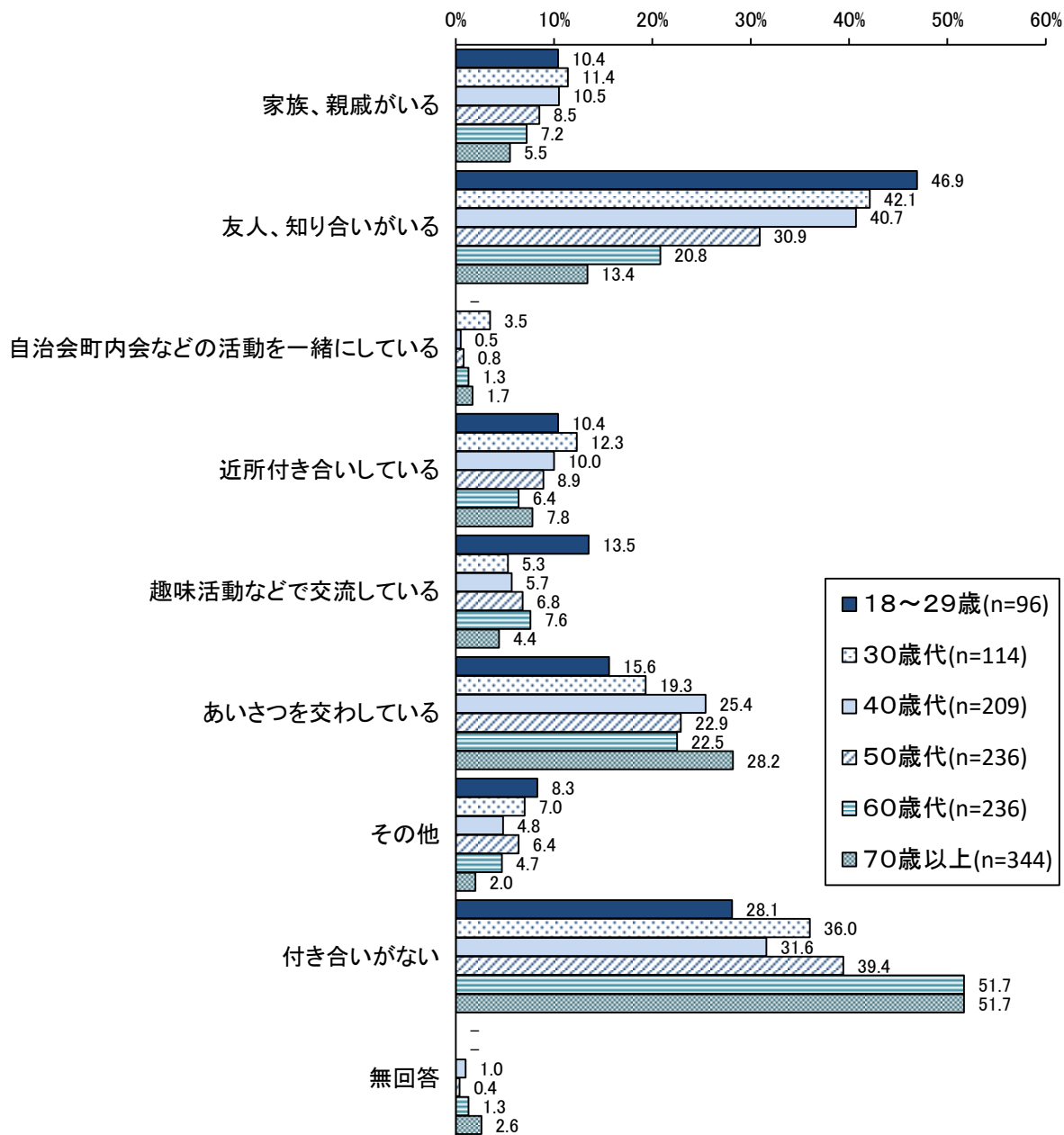
【問 17\_性別（外国人）】



「問 17 外国人／日本人の方とどのような交流があるか」（複数回答）－ 3

日本人の調査結果を年代別にみると、「友人、知り合いがいる」は、18～29歳で4割台後半と最も高く、年代が上がるにつれ割合は低くなる傾向となっている。一方、「付き合いがない」は60歳代・70歳以上で半数を超え高くなっている。

【問 17\_年代別（日本人）】



「問 17 外国人／日本人の方とどのような交流があるか」（複数回答）－ 4

日本人の調査結果を地区別にみると、「友人、知り合いがいる」はL地区が3割半ばで最も高く、「近所付き合いしている」はM地区・I地区が1割半ばで高くなっている。「付き合いがない」はB地区、E地区、C地区、A地区の順で高く、この4地区は5割を超えている。

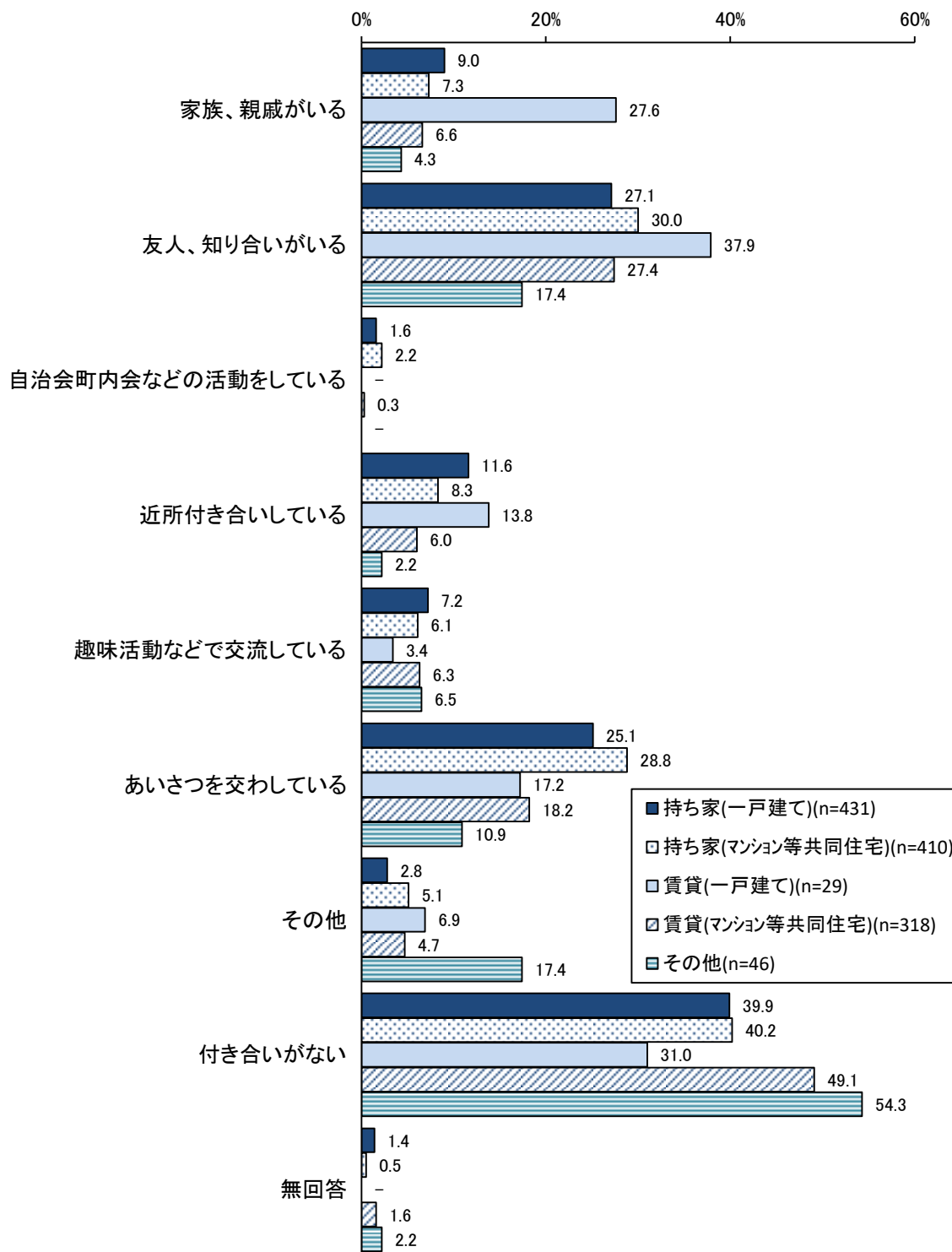
【問 17\_地区別（日本人）】

		(%)								
	n=	家族、 親戚が いる	友人、 知り合 いがある	自治会 町内会 などの 活 動を して いる	近所 付 き 合 い し て い る	趣 味 活 動 な ど で 交 流 し て い る	あ い さ つ を 交 わ し て い る	そ の 他	付 き 合 い が な い	無 回 答
全体	1,242	8.1	27.9	1.4	8.7	6.4	23.8	4.8	★42.8	1.2
A地区（第1北部地区）	73	11.0	27.4	-	6.8	1.4	17.8	4.1	★50.7	-
B地区（第1地区中部のうち、長者町を除く）	86	7.0	18.6	1.2	7.0	5.8	26.7	10.5	★54.7	-
C地区（関内地区）	44	-	27.3	-	2.3	-	15.9	9.1	★52.3	2.3
D地区（埋地地区のうち、寿町・松影町・三吉町を除く）	77	7.8	22.1	3.9	5.2	6.5	22.1	3.9	★45.5	1.3
E地区（寿地区のうち、扇町・長者町を除く）	26	7.7	26.9	-	11.5	-	15.4	7.7	★53.8	7.7
F地区（石川打越地区）	38	10.5	23.7	-	7.9	13.2	15.8	2.6	★44.7	-
G地区（第2地区）	152	9.9	28.3	1.3	10.5	6.6	30.3	3.9	★39.5	0.7
H地区（第3地区のうち、滝之上を除く）	206	8.7	31.1	1.5	7.8	7.8	23.8	3.9	★39.8	0.5
I地区（第4地区南部のうち、本牧荒井を除く）	109	12.8	31.2	0.9	14.7	7.3	22.0	4.6	★33.9	3.7
J地区（第4地区北部のうち、山手町を除く）	48	6.3	20.8	-	2.1	4.2	31.3	4.2	★39.6	-
K地区（本牧・根岸地区のうち、本牧原を除く）	188	6.4	28.2	2.1	8.0	9.0	25.0	4.8	★41.5	0.5
L地区（第6地区のうち、山手町を除く）	112	6.3	34.8	1.8	8.9	3.6	20.5	4.5	★43.8	2.7
M地区（新本牧地区）	74	8.1	29.7	1.4	14.9	9.5	28.4	2.7	★37.8	-

「問 17 外国人／日本人の方とどのような交流があるか」（複数回答）－ 5

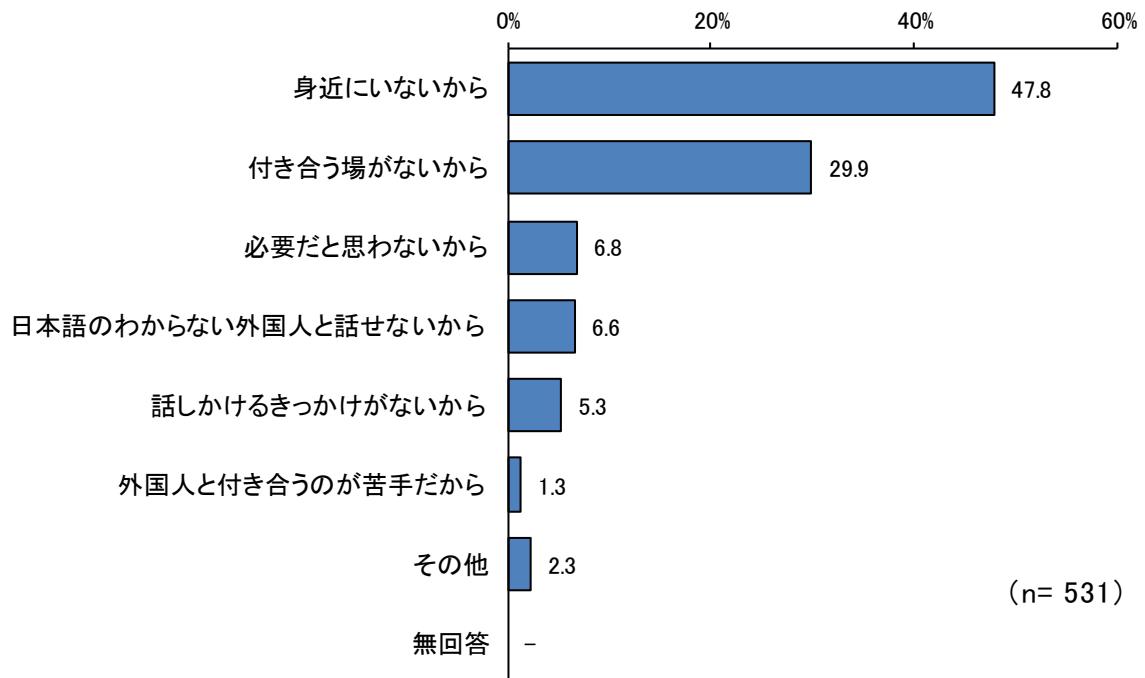
日本人の調査結果を居住形態別にみると、「友人、知り合いがいる」「家族、親戚がいる」「近所付き合いしている」は賃貸（一戸建て）居住者が最も高く、「あいさつを交わしている」は持ち家（マンション等共同住宅）居住者が最も高くなっている。

【問 17\_居住形態別（日本人）】



### 「問 18 外国人との交流がない理由 《日本人版調査票》」

外国人との交流がない理由について日本人に尋ねたところ、「身近にいないから」が4割台後半で最も高く、次いで「付き合う場がないから」が約3割となっている。「必要だと思わないから」「日本語のわからない外国人と話せないから」「話しかけるきっかけがないから」「外国人と付き合うのが苦手だから」は、それぞれ1割未満となっている。



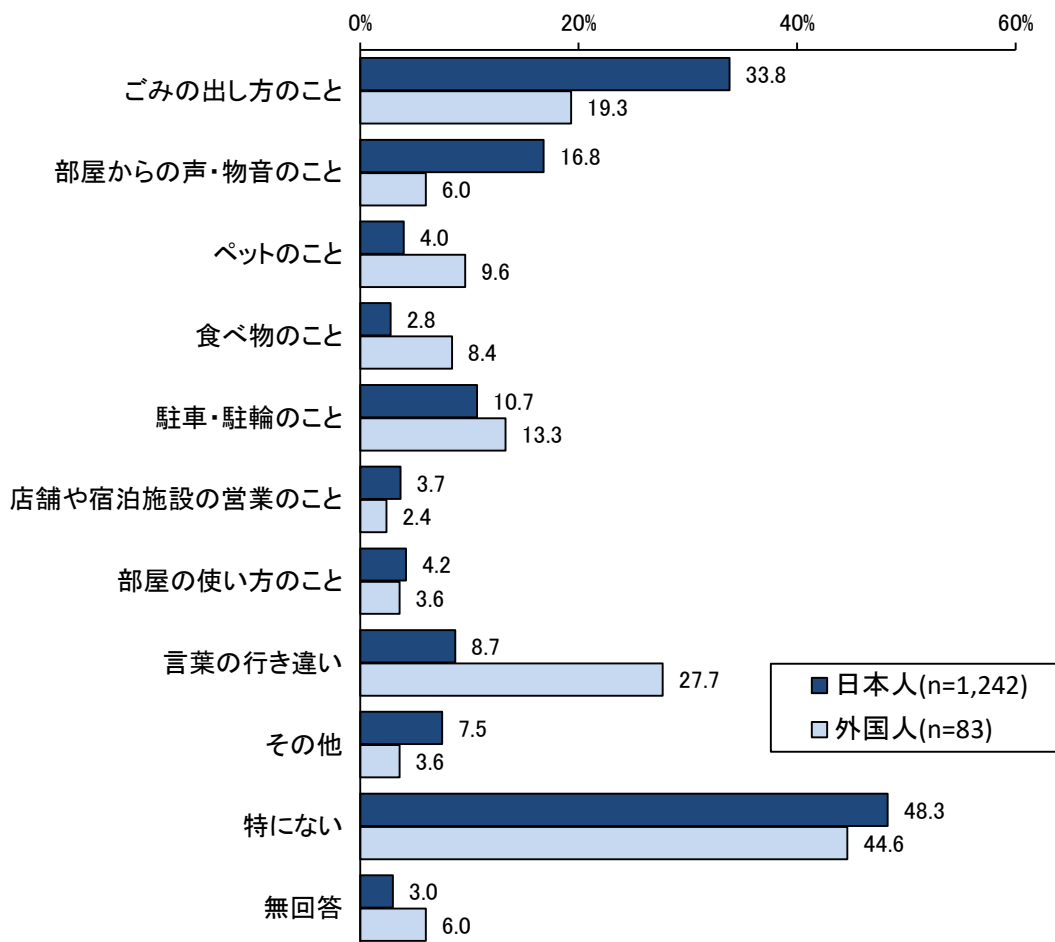
「問 19 外国人／日本人との生活で戸惑った経験」(複数回答) - 1

外国人／日本人との生活で戸惑った経験について日本人／外国人に尋ねたところ、日本人・外国人ともに、「特にない」の割合が最も高くなっている。

戸惑った経験の内容としては、**日本人の回答**では「ごみの出し方のこと」が3割強、「部屋からの声・物音のこと」が1割台後半、「駐車・駐輪のこと」が約1割などとなっている。「その他」の内容としては、“マナーがよくない”などのマナーに関する内容が多くみられた。

**外国人の回答**では、「言葉の行き違い」が2割台後半、「ごみの出し方のこと」が2割弱、「駐車・駐輪のこと」が1割台前半などとなっている。

【問 19\_日本人／外国人別】



「問 19 外国人／日本人との生活で戸感った経験」(複数回答) - 2

日本人の調査結果を地区別にみると、「ごみの出し方のこと」はF地区、B地区で5割を超え高くなっている。「特にない」は、M地区、L地区、K地区で約6割と高くなっている。

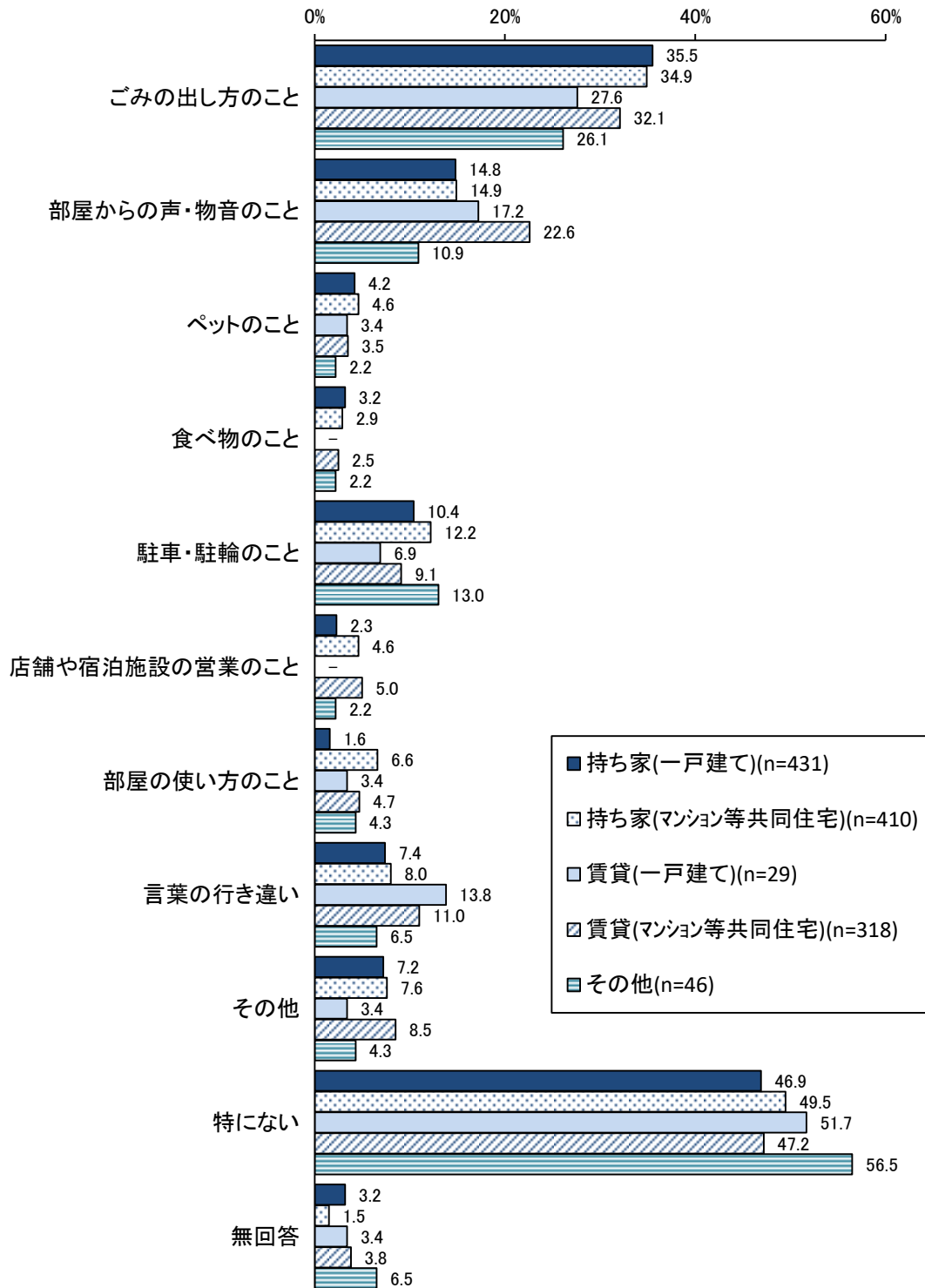
【問 19\_地区別 (日本人)】

													(%)
	n=	ごみの出し方のこと	部屋からの声・物音のこと	ペットのこと	食べ物のこと	駐車・駐輪のこと	店舗や宿泊施設の営業のこと	部屋の使い方のこと	言葉の行き違い	その他	特にない	無回答	
全体	1,242	33.8	16.8	4.0	2.8	10.7	3.7	4.2	8.7	7.5	★48.3	3.0	
A地区 (第1北部地区)	73	★46.6	28.8	5.5	1.4	15.1	8.2	5.5	11.0	11.0	37.0	-	
B地区 (第1地区中部のうち、長者町を除く)	86	★51.2	26.7	9.3	7.0	17.4	10.5	11.6	10.5	9.3	30.2	1.2	
C地区 (関内地区)	44	25.0	25.0	2.3	6.8	6.8	4.5	6.8	-	4.5	★50.0	9.1	
D地区 (埋地地区のうち、寿町・松影町・三吉町を除く)	77	★44.2	26.0	10.4	6.5	19.5	3.9	13.0	11.7	14.3	33.8	5.2	
E地区 (寿地区のうち、扇町・長者町を除く)	26	★38.5	19.2	-	3.8	34.6	3.8	7.7	19.2	3.8	30.8	15.4	
F地区 (石川打越地区)	38	★52.6	18.4	-	5.3	15.8	-	-	13.2	13.2	26.3	5.3	
G地区 (第2地区)	152	★42.8	17.1	5.3	3.3	9.9	6.6	4.6	11.2	7.2	42.1	2.0	
H地区 (第3地区のうち、滝之上を除く)	206	34.0	13.1	2.4	1.9	10.7	2.4	2.4	5.3	6.8	★52.9	1.9	
I地区 (第4地区南部のうち、本牧荒井を除く)	109	28.4	11.9	1.8	-	7.3	2.8	1.8	6.4	6.4	★52.3	4.6	
J地区 (第4地区北部のうち、山手町を除く)	48	39.6	27.1	2.1	2.1	12.5	2.1	-	8.3	2.1	★43.8	2.1	
K地区 (本牧・根岸地区のうち、本牧原を除く)	188	21.8	10.6	3.2	2.7	5.3	2.7	3.2	8.0	7.4	★59.0	2.1	
L地区 (第6地区のうち、山手町を除く)	112	18.8	8.9	3.6	-	6.3	0.9	2.7	13.4	6.3	★59.8	2.7	
M地区 (新本牧地区)	74	23.0	13.5	2.7	1.4	5.4	-	-	2.7	5.4	★63.5	2.7	

「問 19 外国人／日本人との生活で戸惑った経験」(複数回答) - 3

日本人の調査結果を居住形態別にみると、「ごみの出し方のこと」は、持ち家居住者と賃貸(マンション等共同住宅)居住者で高くなっている。「部屋からの声・物音のこと」は、賃貸(マンション等共同住宅)居住者で唯一2割を超えている。

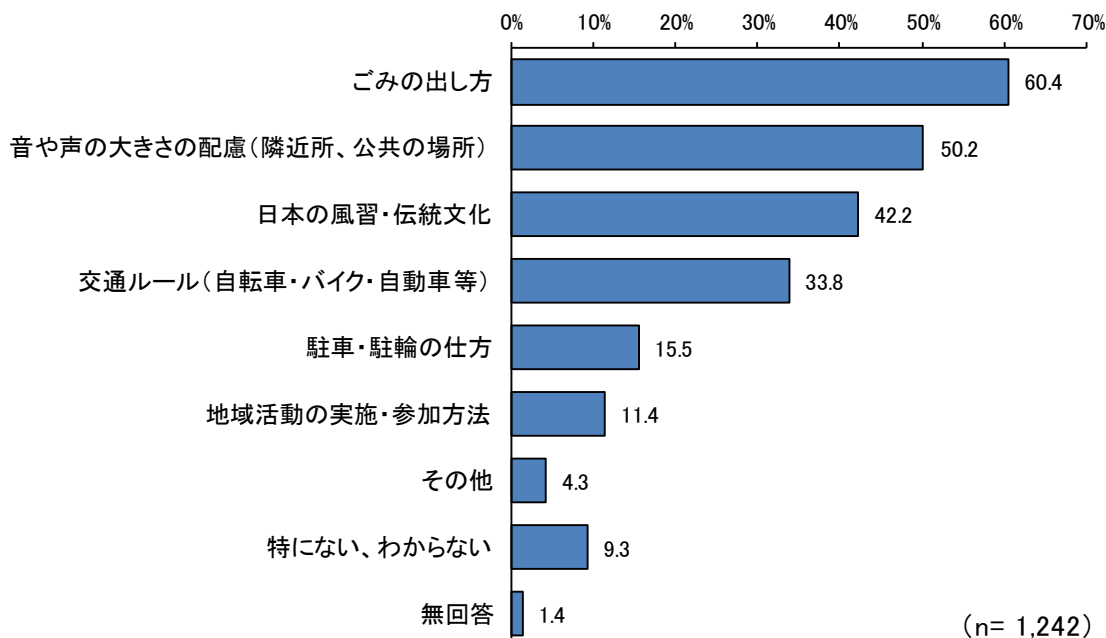
【問 19\_居住形態別(日本人)】





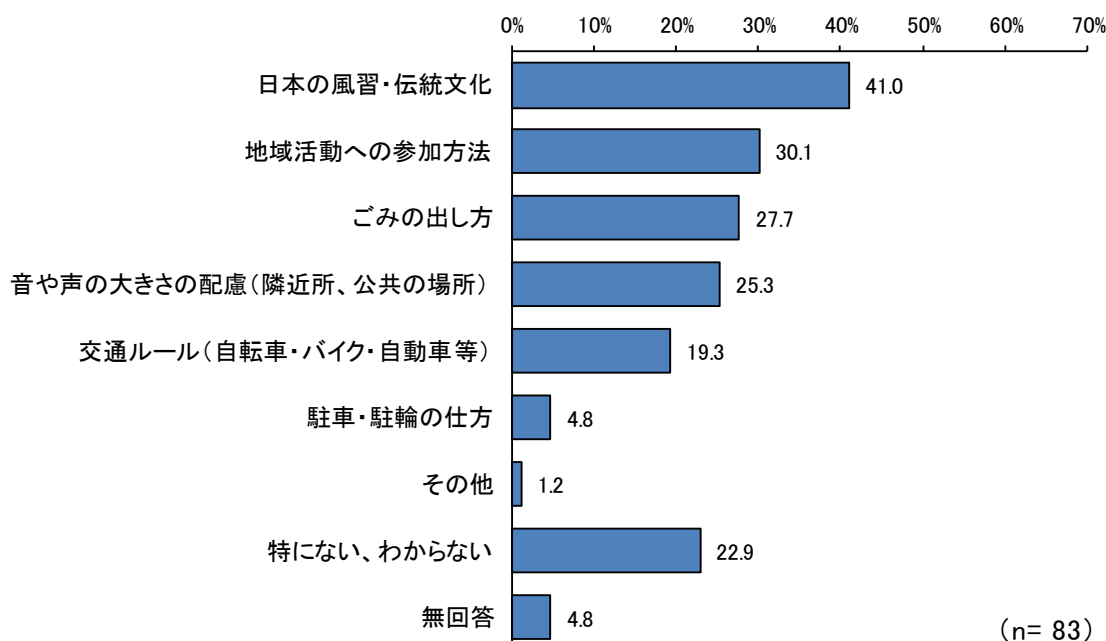
「問 20 外国人に知ってほしいこと《日本人版調査票》」（3つまで回答）

外国人に知ってほしいことを日本人に尋ねたところ、「ごみの出し方のこと」が約6割で最も高く、次いで「音や声の大きさの配慮（隣近所、公共の場所）」が約5割となっている。以下、「日本の風習・伝統文化」「交通ルール（自転車・バイク・自動車等）」と続いている。



「問 20 日本のルール・習慣で知りたいこと《外国人版調査票》」（3つまで回答）

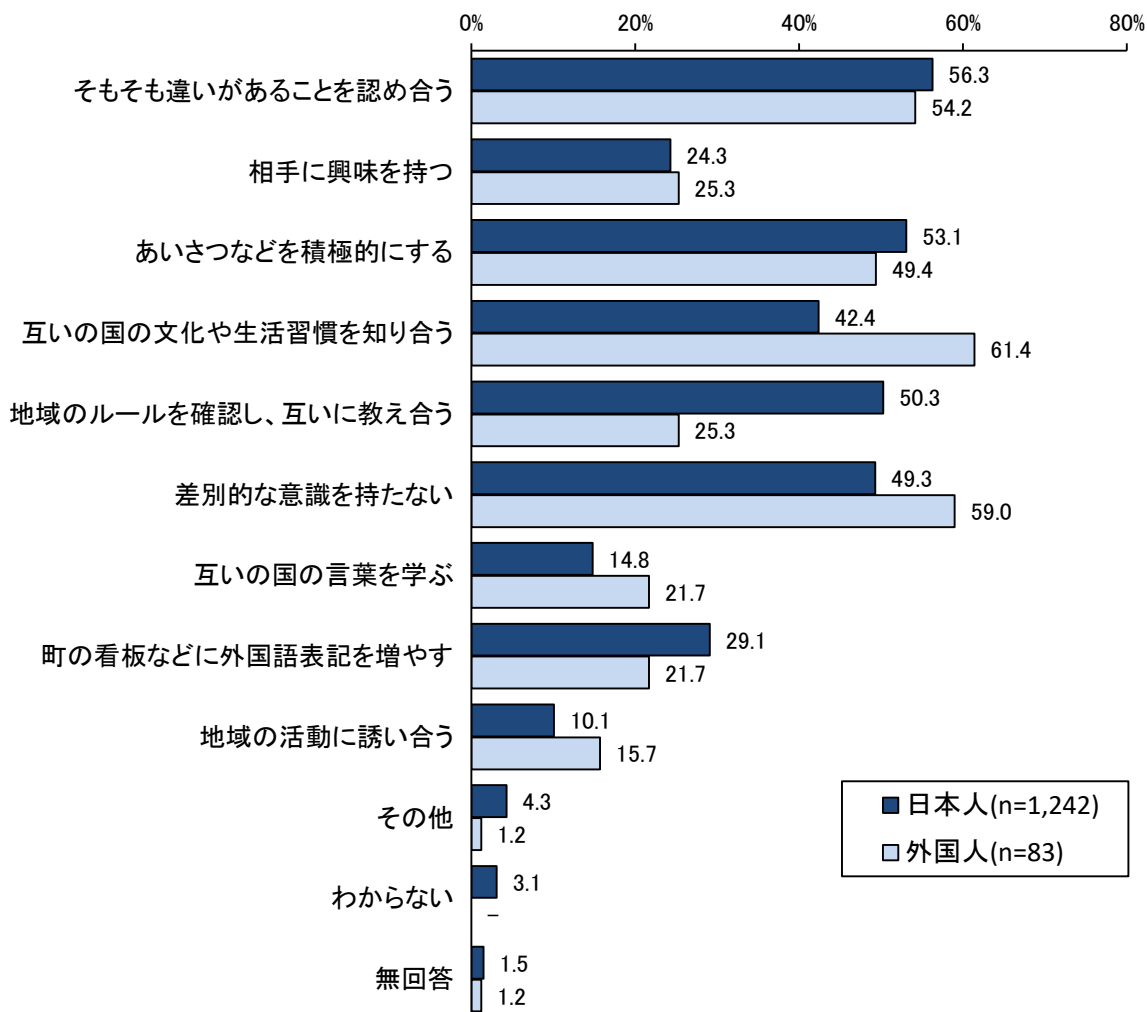
日本のルール・習慣で知りたいことを外国人に尋ねたところ、「日本の風習・伝統文化」が約4割で最も高く、次いで「地域活動への参加方法」が約3割となっている。以下、「ごみの出し方」「音や声の大きさの配慮（隣近所、公共の場所）」などの順で続いている。



「問 21 日本人と外国人がともにより良く暮らすために必要だと思うこと」（複数回答）

日本人と外国人がともにより良く暮らすために必要だと思うことを日本人・外国人それぞれに尋ねた。日本人の調査結果では、「そもそも違いがあることを認め合う」が5割半ばで最も高く、次いで「あいさつなどを積極的にする」「地域のルールを確認し、互いに教え合う」「差別的な意識を持たない」の順となっている。一方、外国人の調査結果では、「互いの国の文化や生活習慣を知り合う」が6割を超え最も高く、次いで「差別的な意識を持たない」「そもそも違いがあることを認め合う」「あいさつなどを積極的にする」の順となっている。

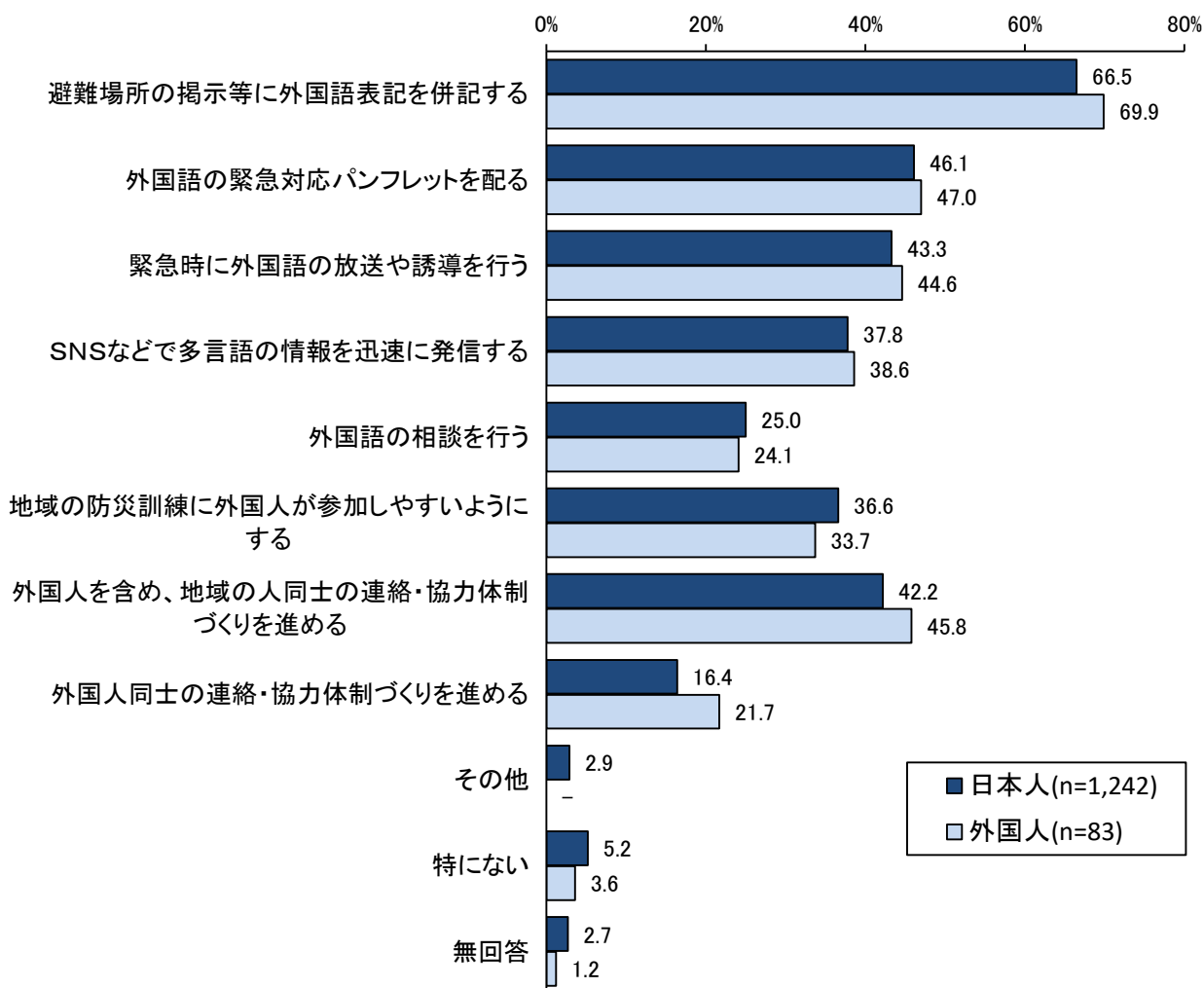
【問 21\_日本人／外国人別】



「問 22 災害時、区役所に望む対策」（複数回答）

地震等の災害時、日本人・外国人を含む全ての住民が協力し合うことが求められる中、**区役所にどのような対策を望むか**を日本人・外国人それぞれに尋ねた。日本人・外国人ともに、「避難場所の掲示等に外国語表記を併記する」が最も高く、次いで「外国語の緊急対応パンフレットを配る」という結果となった。以下、「緊急時に外国語の放送や誘導を行う」「外国人を含め、地域の人同士の連絡・協力体制づくりを進める」「SNSなどで多言語の情報を迅速に発信する」までが日本人・外国人とも上位5項目を占めており、一部順位が異なるものの、**おおむね**傾向は似ている。日本人と外国人の差が比較的大きなものとしては、「外国人同士の連絡・協力体制づくりを進める」で外国人の方が高い割合を示している。

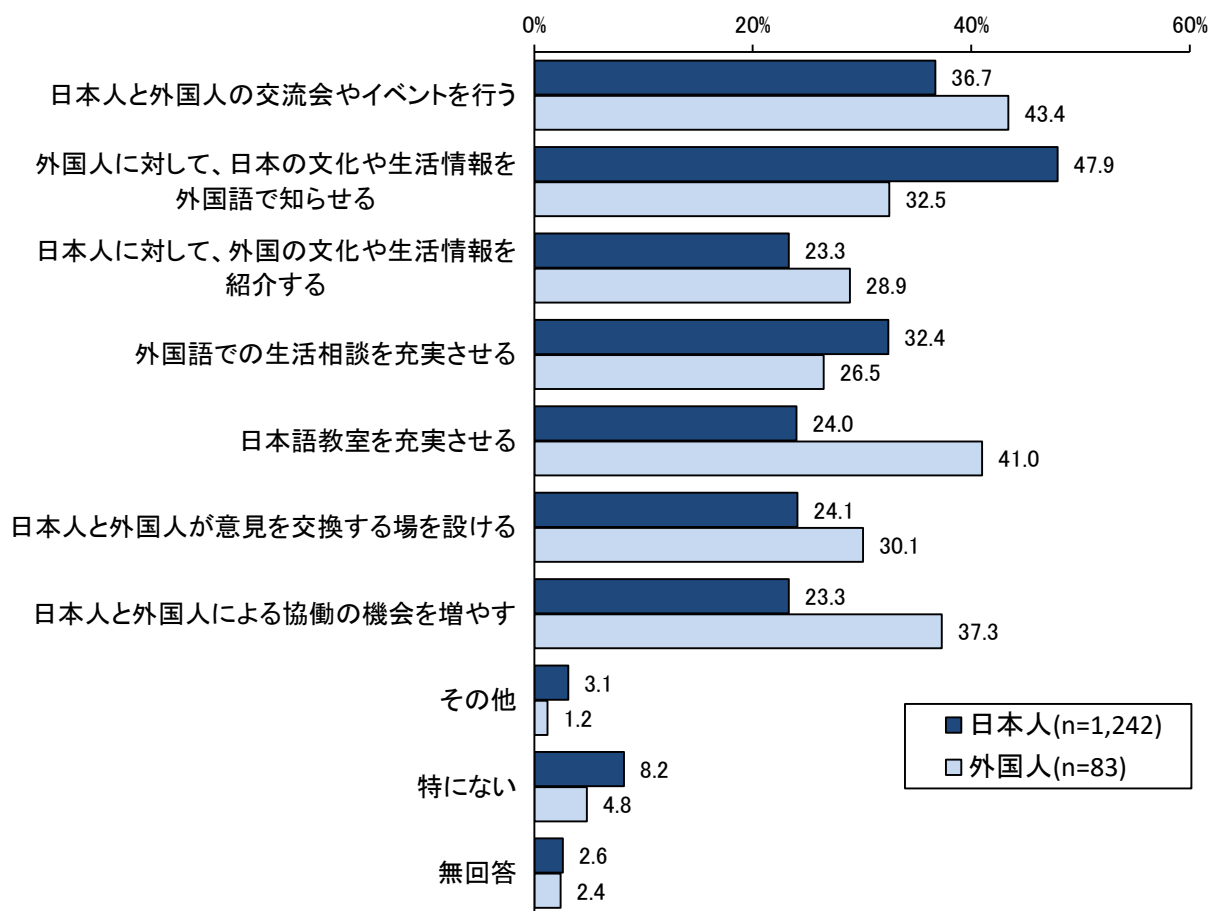
【問 22\_日本人／外国人別】



「問 23 「多文化共生のまちづくり」の推進のため区が力を入れるべきだと思うこと」（3つまで回答） - 1

「多文化共生のまちづくり」の推進のため区がどのようなことに力を入れるべきかを日本人・外国人それぞれに尋ねた。日本人の調査結果では、「外国人に対して、日本の文化や生活情報を外国語で知らせる」が5割近くで最も高く、次いで「日本人と外国人の交流会やイベントを行う」「外国語での生活相談を充実させる」が3割台で続いている。外国人の調査結果では、「日本人と外国人の交流会やイベントを行う」が最も高く、次いで「日本語教室を充実させる」「日本人と外国人による協働の機会を増やす」の順となっている。

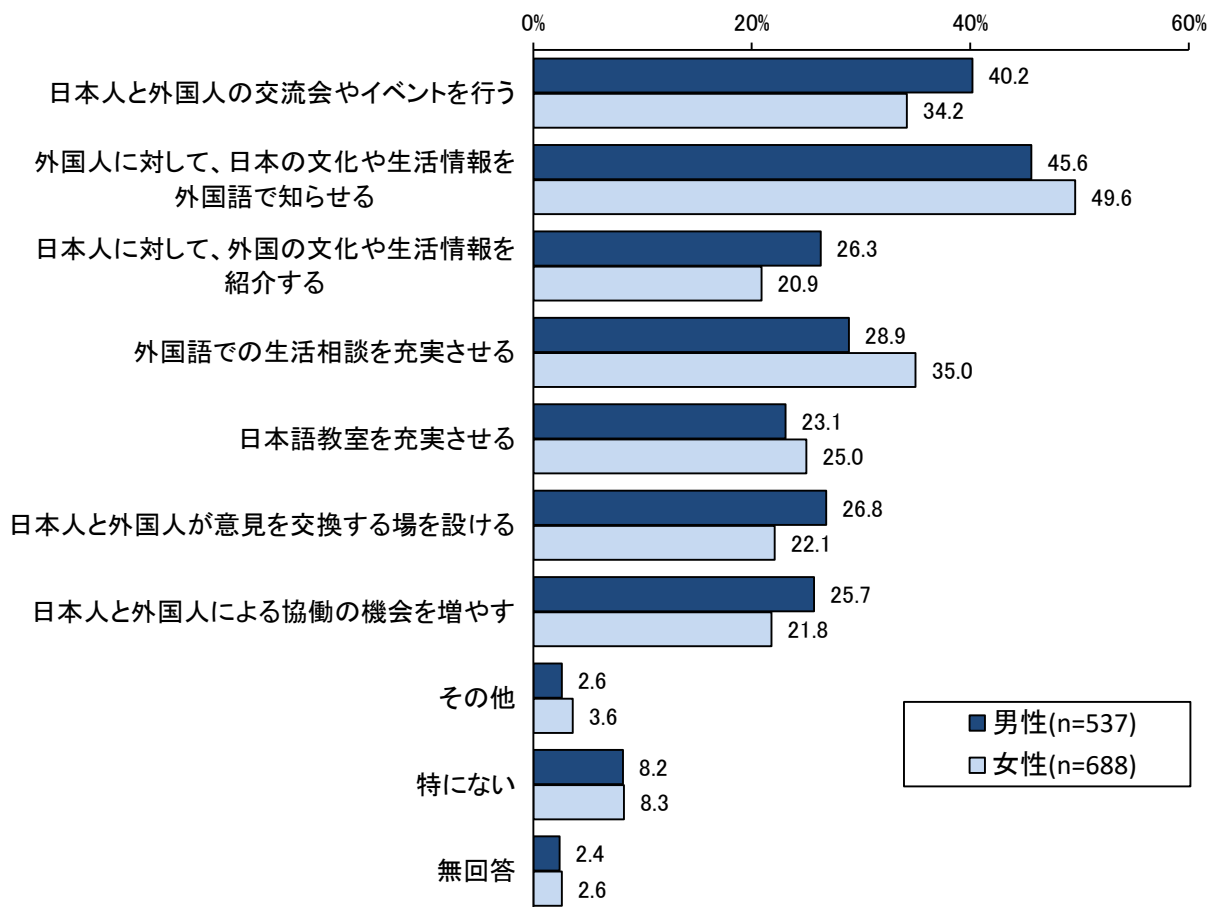
【問 23\_日本人／外国人別】



「問 23 「多文化共生のまちづくり」の推進のため区が力を入れるべきだと思うこと」（3つまで回答）－ 2

日本人の調査結果を性別で見ると、「日本人と外国人の交流会やイベントを行う」「日本人に対して、外国の文化や生活情報を紹介する」「日本人と外国人が意見を交換する場を設ける」「日本人と外国人による協働の機会を増やす」は男性で高く、「外国人に対して、日本の文化や生活情報を外国語で知らせる」「外国語での生活相談を充実させる」は女性で高くなっている。

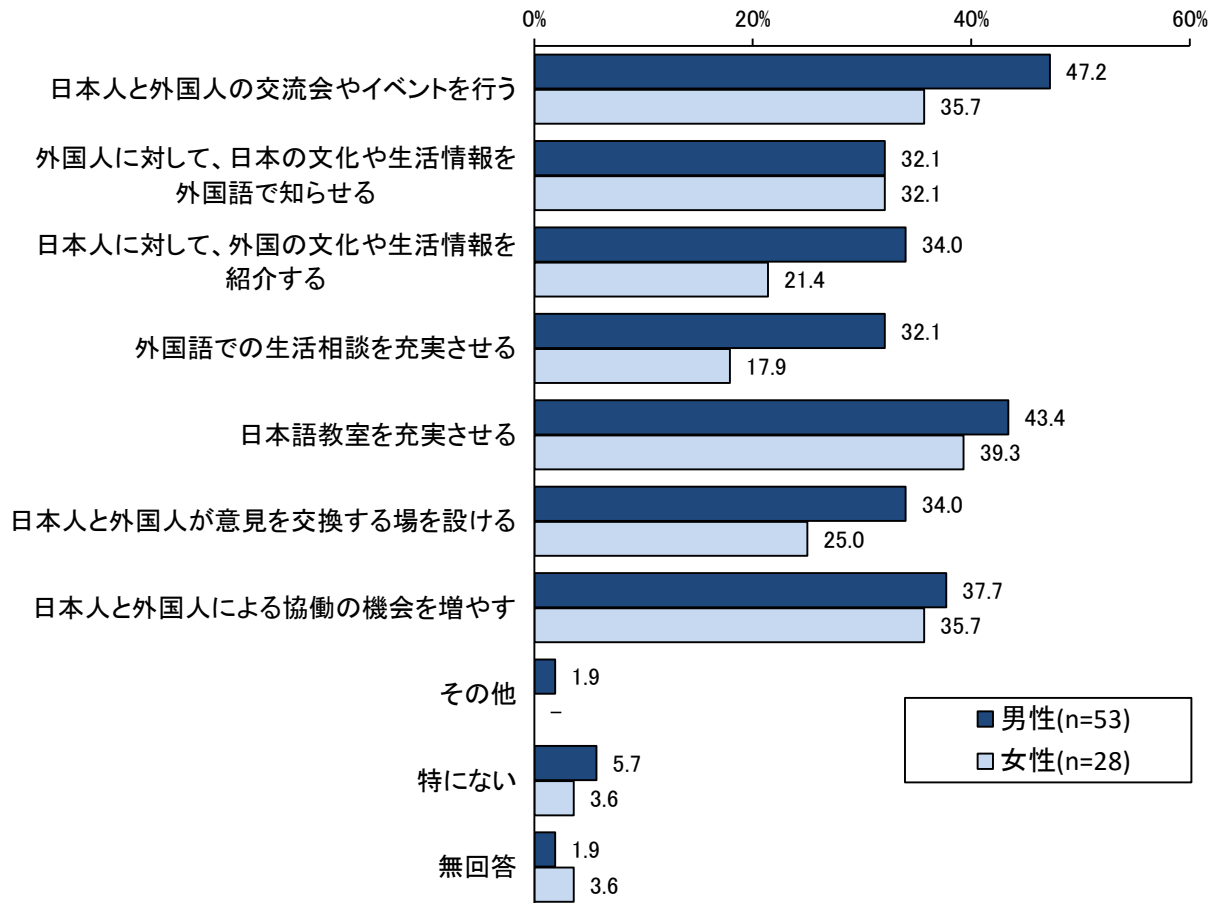
【問 23\_性別（日本人）】



「問 23 「多文化共生のまちづくり」の推進のため区が力を入れるべきだと思うこと」（3つまで回答）－ 3

外国人の調査結果を性別で見ると、「日本人と外国人の交流会やイベントを行う」「日本語教室を充実させる」「日本人に対して、外国の文化や生活情報を紹介する」「日本人と外国人が意見を交換する場を設ける」「外国語での生活相談を充実させる」など、男性の方が女性より割合の高い項目が多くなっている。

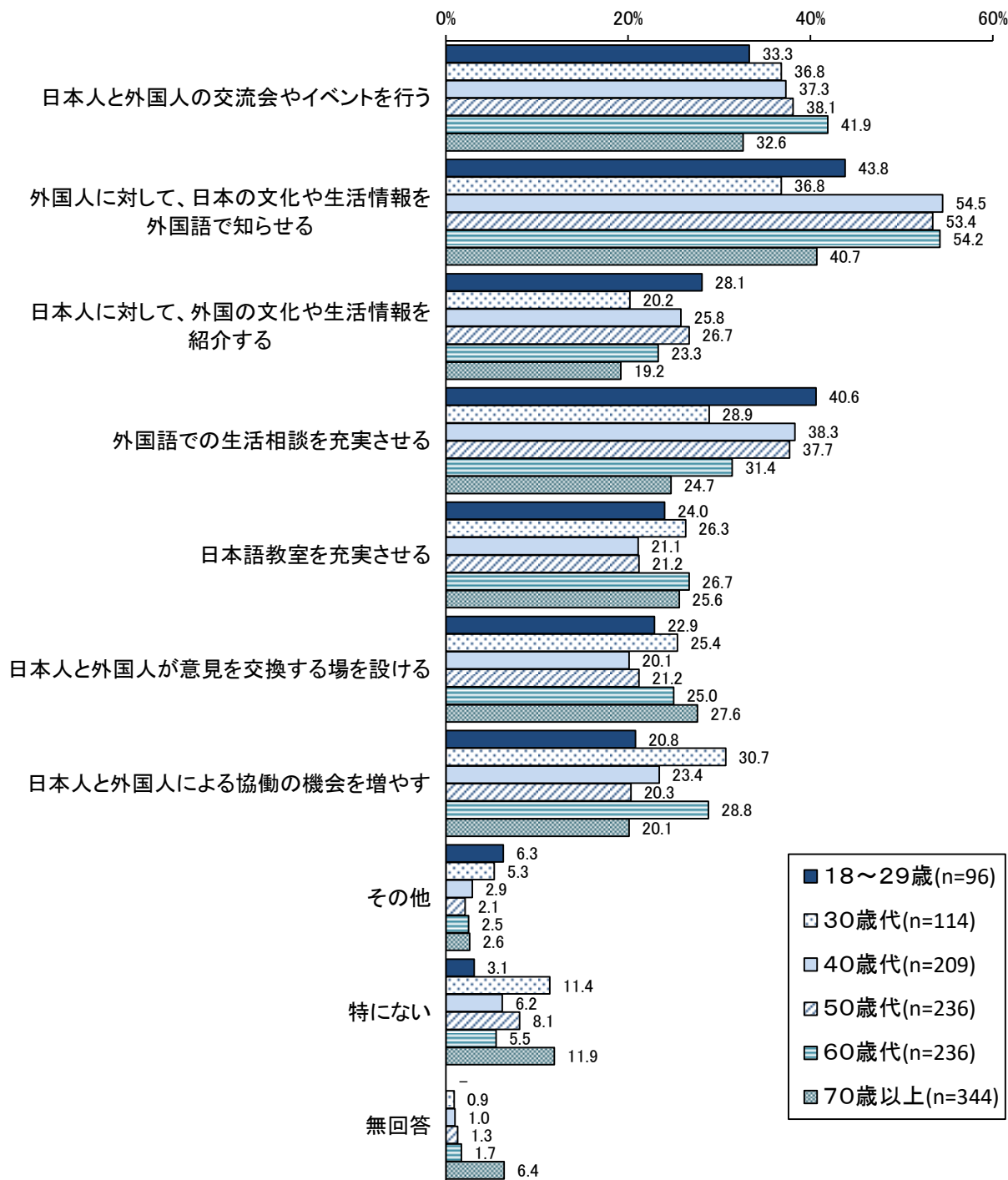
【問 23\_性別（外国人）】



「問 23 「多文化共生のまちづくり」の推進のため区が力を入れるべきだと思うこと」（3つまで回答）－ 4

日本人の調査結果を年代別で見ると、「外国人に対して、日本の文化や生活情報を外国語で知らせる」は40～60歳代で5割を超え高くなっている。「日本人に対して、外国の文化や生活情報を紹介する」「外国語での生活相談を充実させる」は、18～29歳が最も高くなっている。

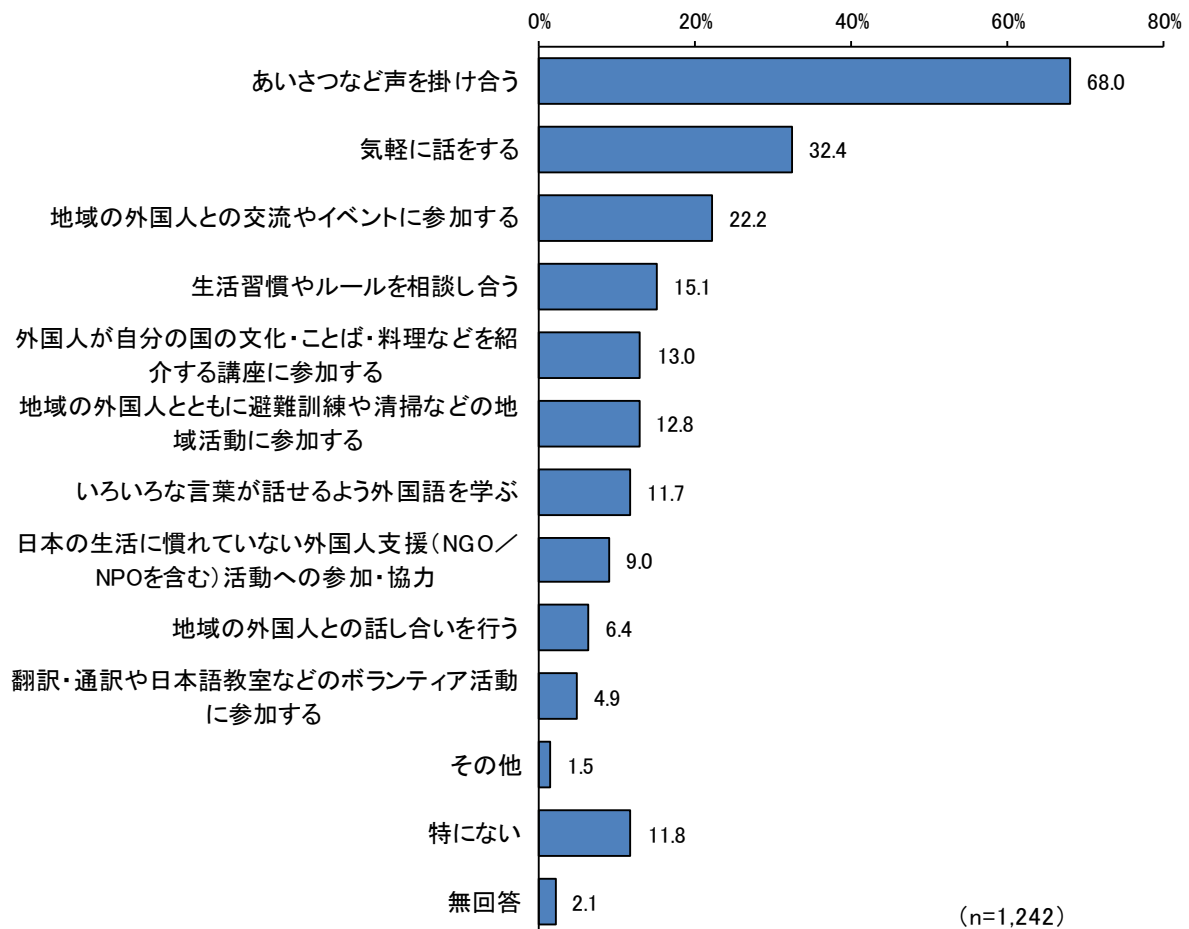
【問 23\_年代別（日本人）】



「問 24 「多文化共生のまちづくり」の推進のため協力できること《日本人版調査票》」（3つまで回答）－1

「多文化共生のまちづくり」推進のため協力できることを尋ねたところ、日本人の調査結果では、「あいさつなど声を掛け合う」が7割近くと突出して高くなっている。次いで、「気軽に話をする」が3割強、「地域の外国人との交流やイベントに参加する」が2割強で続いている。

【問 24 日本人版】

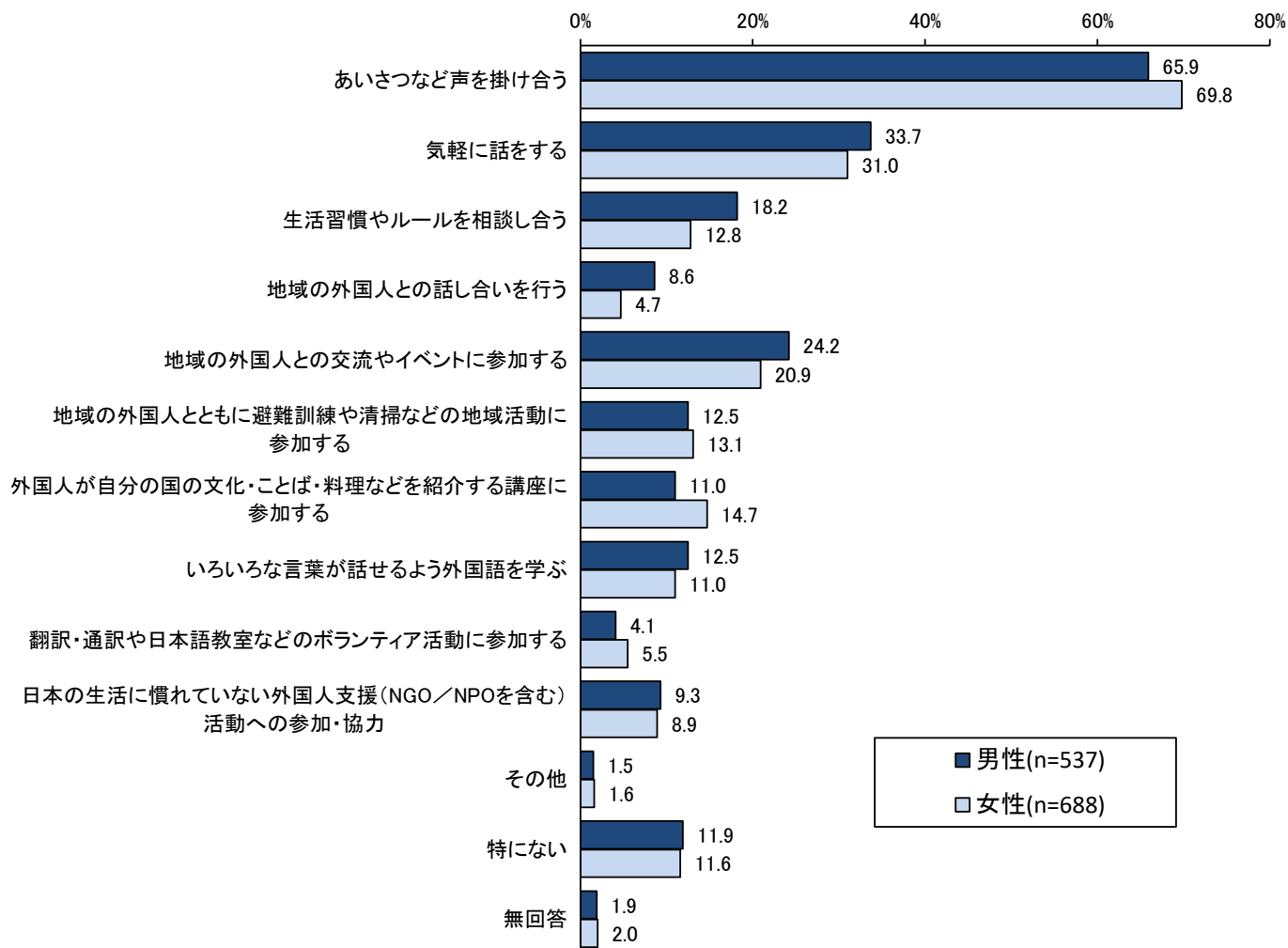




「問 24 「多文化共生のまちづくり」の推進のため協力できること《日本人版調査票》（3つまで回答）－2

性別にみると、「あいさつなど声を掛け合う」「外国人が自分の国の文化・ことば・料理などを紹介する講座に参加する」は女性でやや高く、「気軽に話をする」「地域の外国人との交流やイベントに参加する」「生活習慣やルールを相談し合う」「」は男性でやや高くなっている。

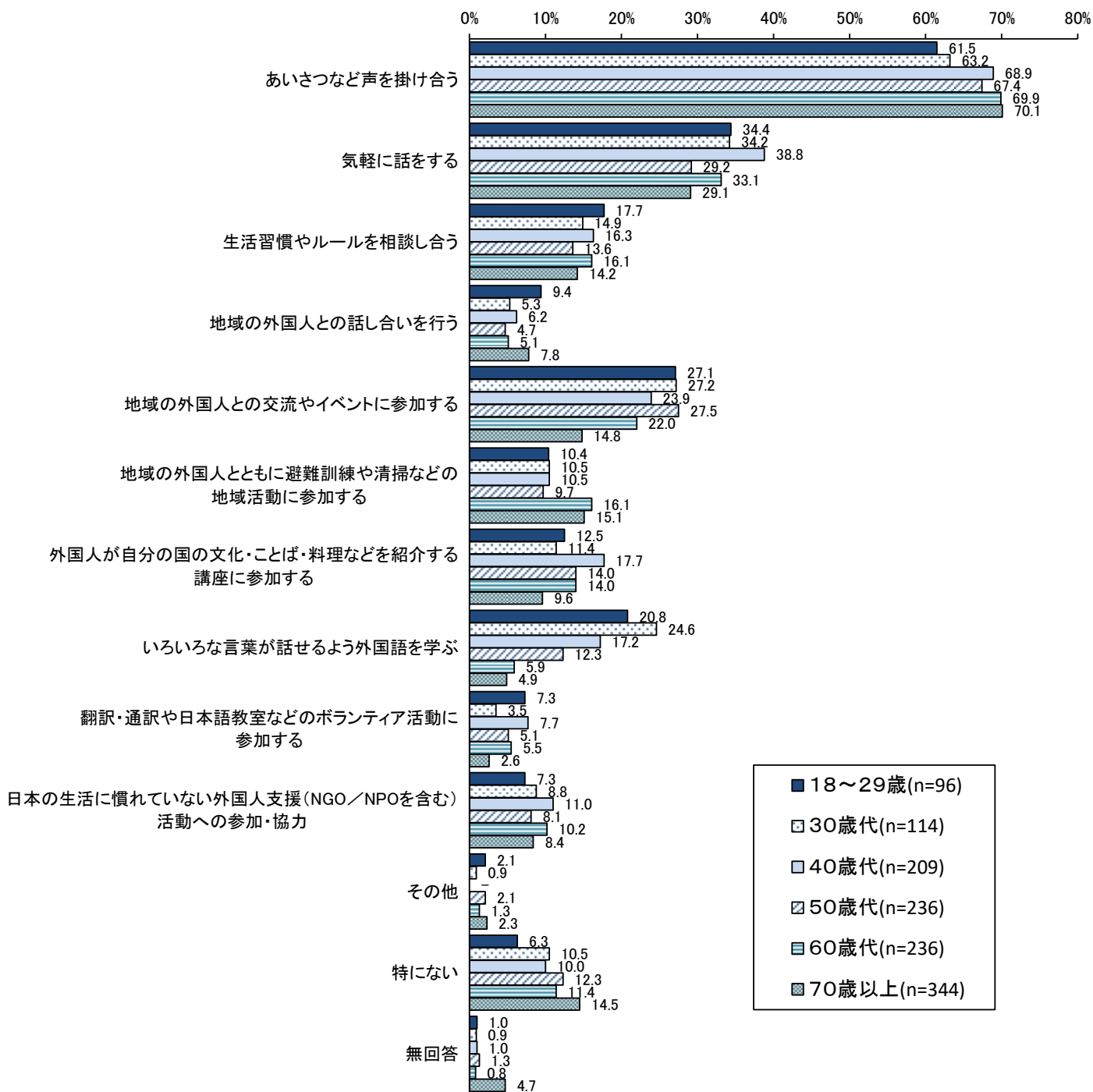
【問 24 日本人版\_性別】



「問 24 「多文化共生のまちづくり」の推進のため協力できること《日本人版調査票》」（3つまで回答）－ 3

年代別にみると、「あいさつなど声を掛け合う」は18～29歳・30歳代は40歳代以上に比べやや割合が低くなっている。「気軽に話をする」は40歳代が最も高く、「いろいろな言葉が話せるよう外国語を学ぶ」は30歳代が最も高くなっている。

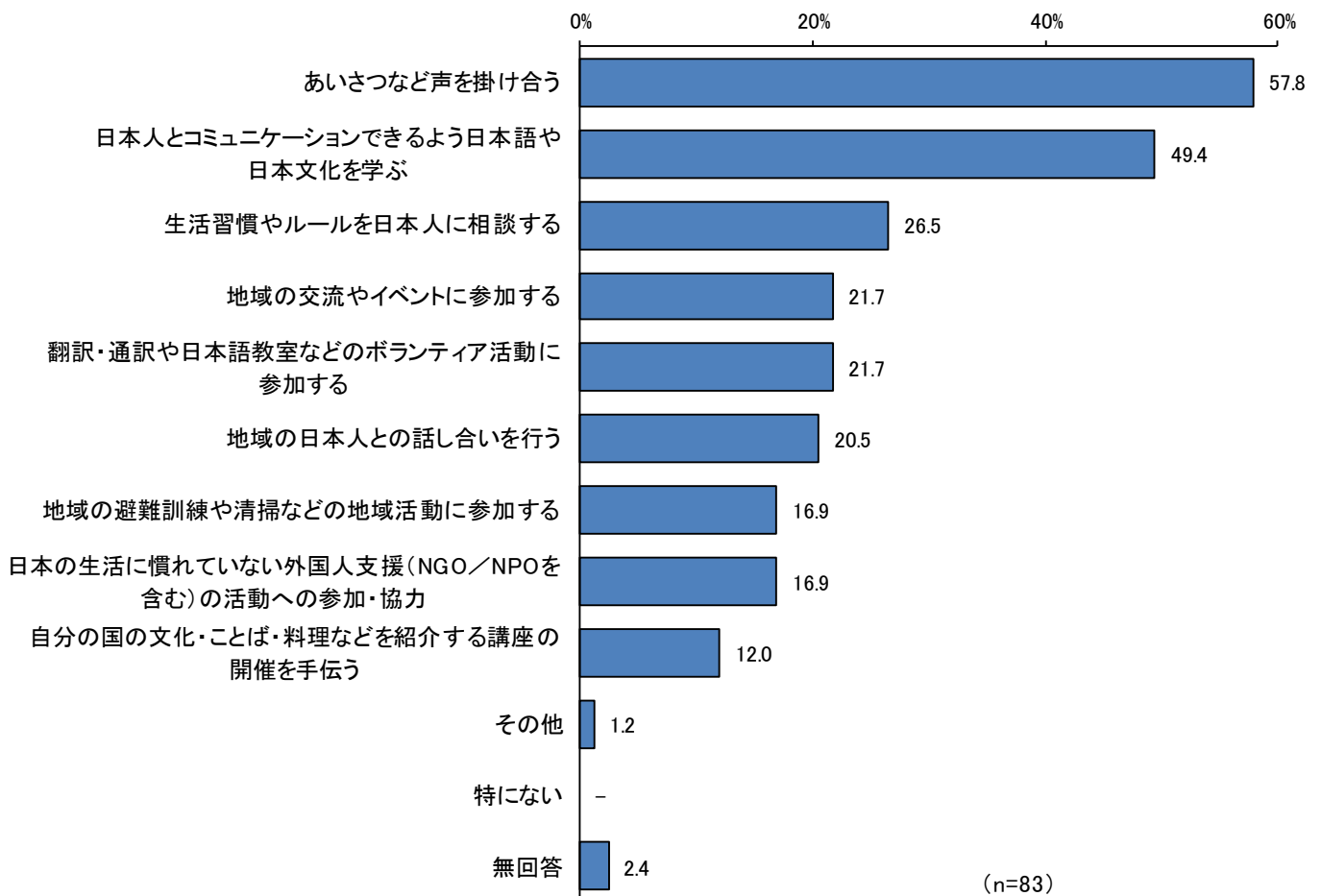
【問 24 日本人版\_年代別】



「問 24 「多文化共生のまちづくり」の推進のため協力できること《外国人版調査票》」（3つまで回答）－1

「多文化共生のまちづくり」推進のため協力できることを尋ねたところ、外国人の調査結果では、「あいさつなど声を掛け合う」が6割近くで最も高くなっている。次いで、「日本人とコミュニケーションできるよう日本語や日本文化を学ぶ」が5割弱、「生活習慣やルールを日本人に相談する」が2割半ばで続いている。

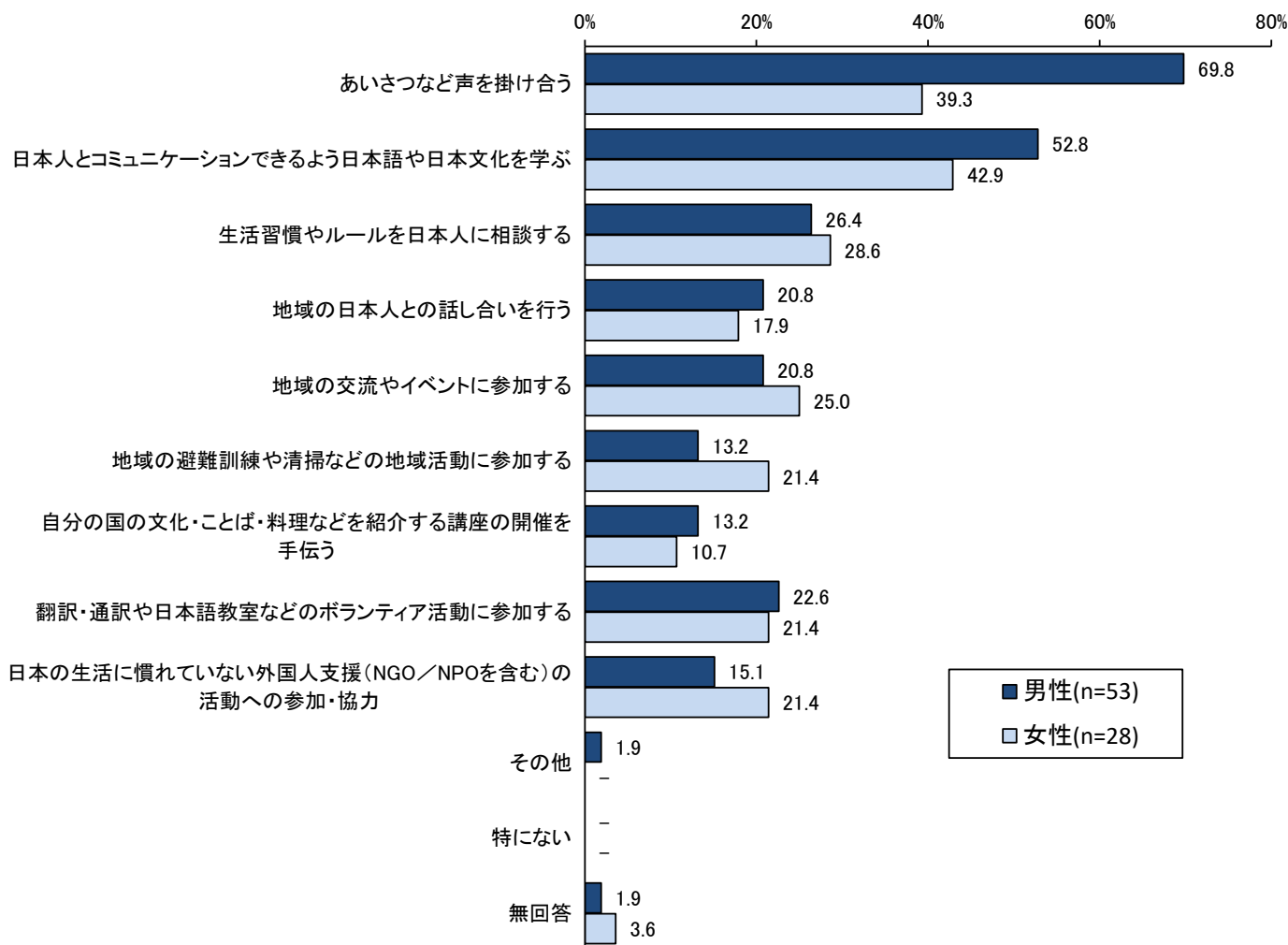
【問 24 外国人版】



「問 24 「多文化共生のまちづくり」の推進のため協力できること《外国人版調査票》（3つまで回答）－ 2

外国人の調査結果を性別にみると、「あいさつなど声を掛け合う」「日本人とコミュニケーションできるように日本語や日本文化を学ぶ」は男性で高く、「地域の交流やイベントに参加する」「地域の避難訓練や清掃などの地域活動に参加する」「日本の生活に慣れていない外国人支援（NGO/NPOを含む）の活動への参加・協力」は女性で高くなっている。

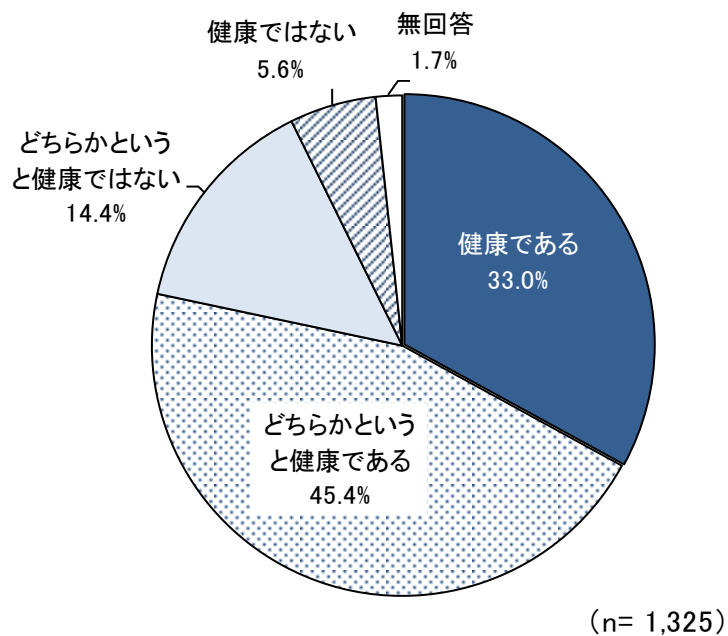
【問 24 外国人版\_性別】



#### 4. 「地域福祉」について

##### 「問 25 健康状態」－1

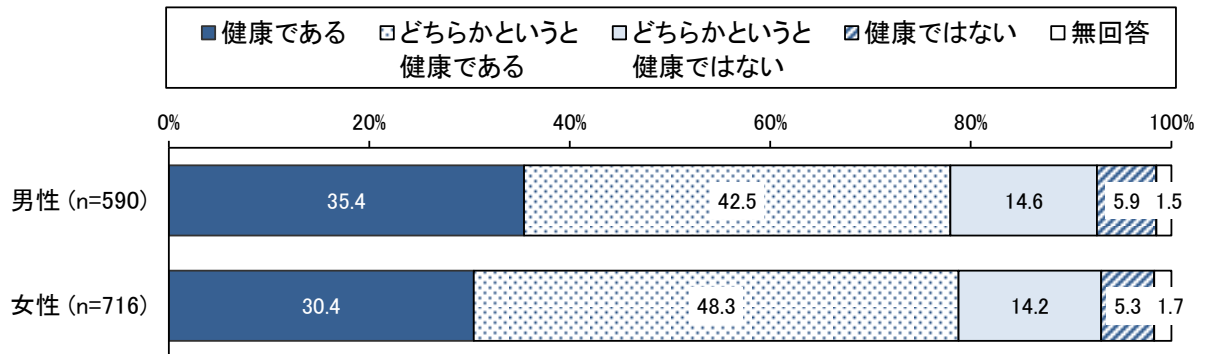
自身の健康状態をどう感じているか尋ねたところ、「健康である」が3割強、「どちらかという健康である」が4割半ばで、これらを合わせた8割近くの人が自身を健康と感じている。



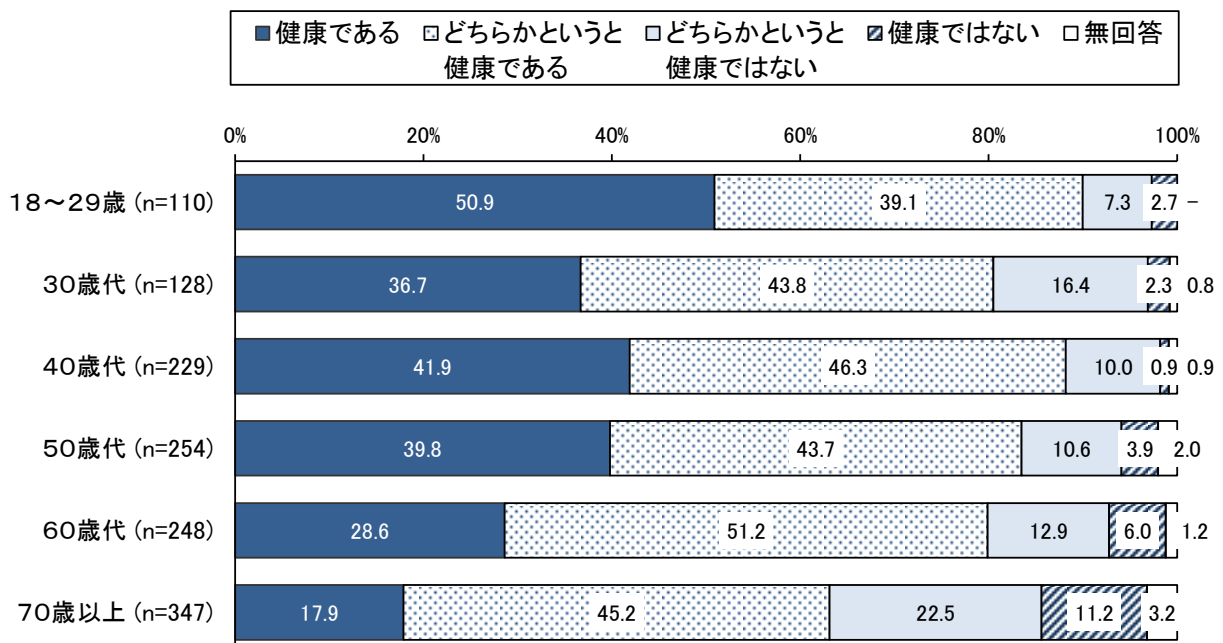
「問 25 健康状態」－ 2

性別にみると、「健康である」は男性の方が女性よりやや高くなっている。  
 年代別にみると、おおむね若い年代の方が「健康である」の割合が高い傾向となっている。

【問 25\_性別】



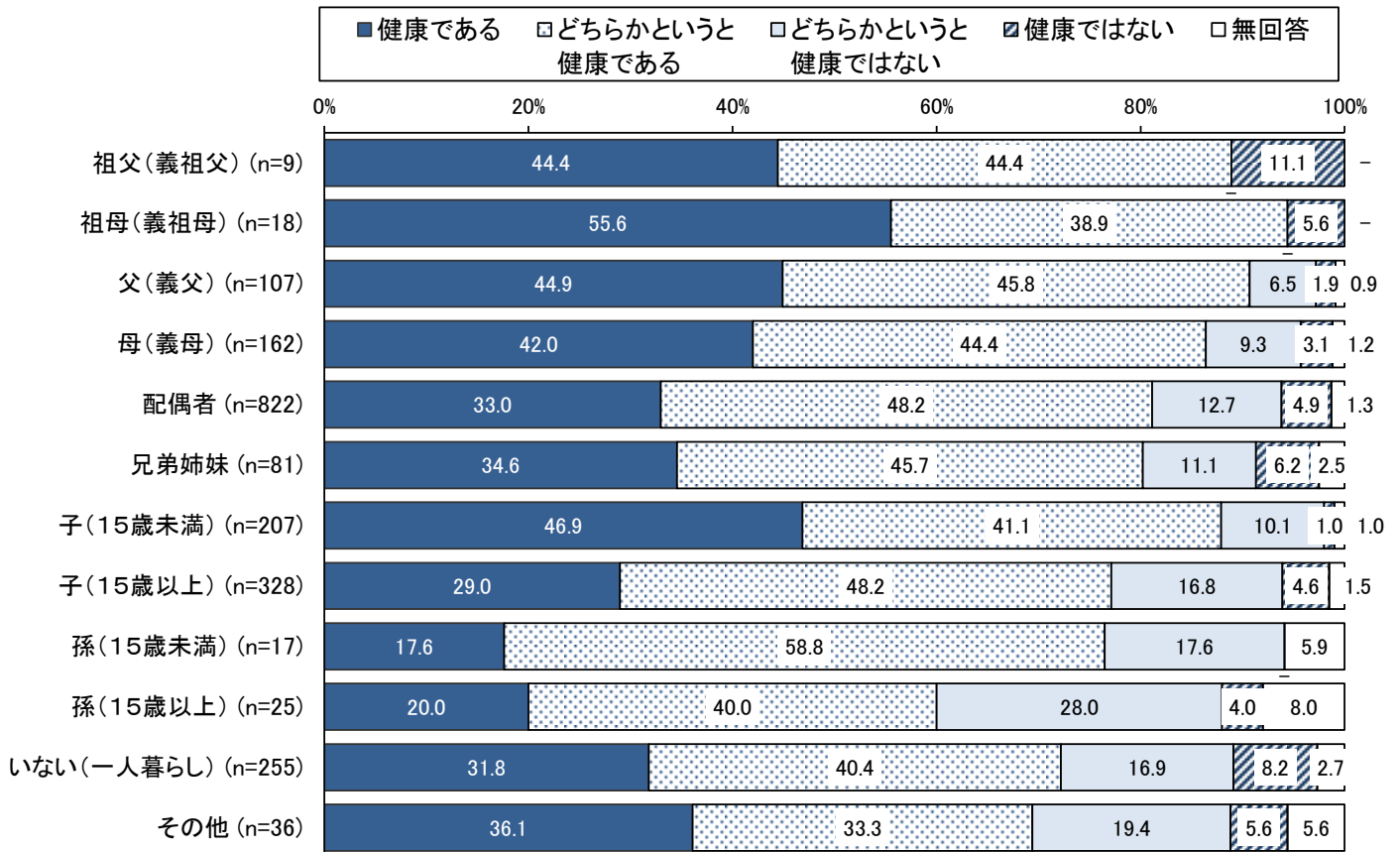
【問 25\_年代別】



「問 25 健康状態」－ 3

同居家族別にみると、15歳未満の子供と同居している人は「健康である」の割合が4割半ばと高くなっている一方、15歳以上の子供と同居している人は3割弱と低くなっている。一人暮らしの人は、全体に比べると自身を健康と感じている割合はやや低い。

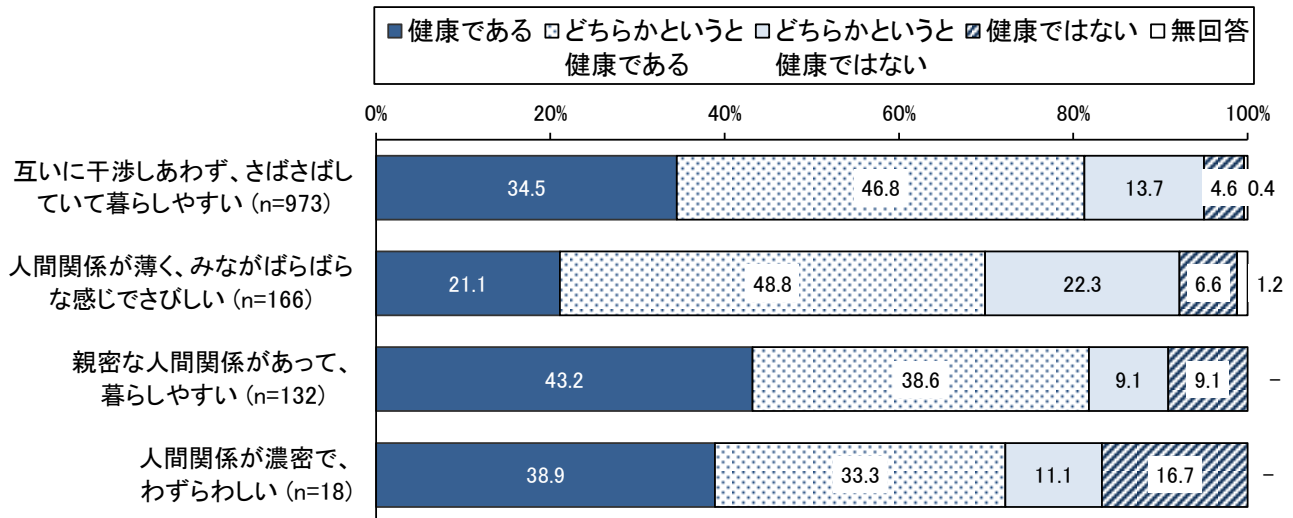
【問 25\_同居家族別】



「問 25 健康状態」 - 4

隣近所との付き合い方の感じ方別にみると、『親密な人間関係があって、暮らしやすい』という人で「健康である」が4割を超え最も高くなっている。

【問 25\_隣近所との付き合い方の感じ方別】

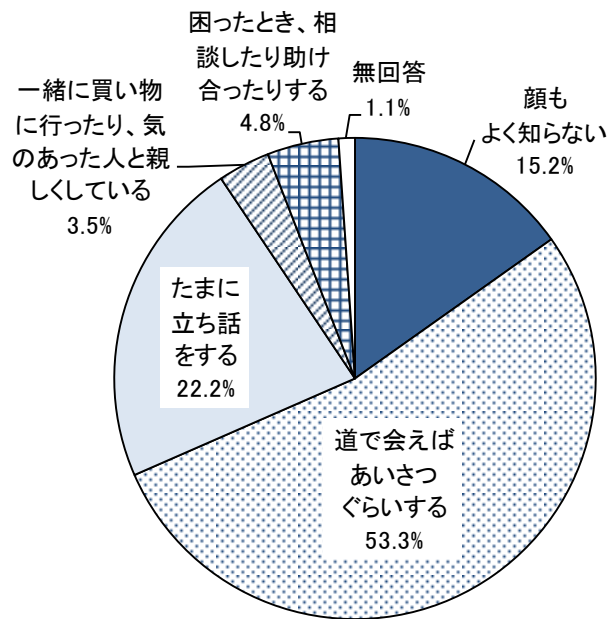




「問 26 隣近所との付き合い方」－ 1

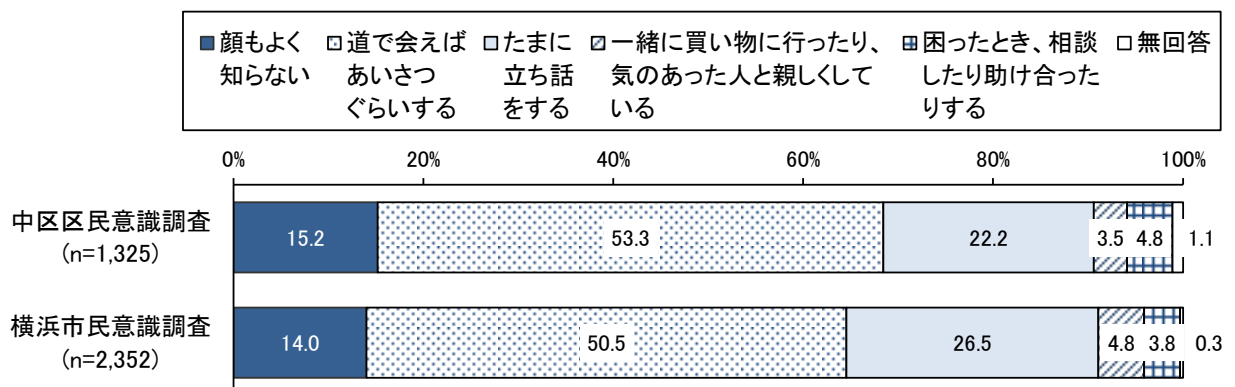
隣近所との付き合い方については、「道で会えばあいさつぐらいする」が5割を超え最も高くなって  
いる。次いで、「たまに立ち話をする」が2割強、「顔もよく知らない」が1割半ばの順となってい  
る。「困ったとき、相談したり助け合ったりする」「一緒に買い物に行ったり、気のあった人と親し  
くしている」はそれぞれ1割未満である。

横浜市民意識調査（平成 30 年度）と比較すると、「たまに立ち話をする」はやや低く、「道で会えば  
あいさつぐらいする」はやや高くなっている。



(n= 1,325)

【平成 30 年度横浜市民意識調査との比較】

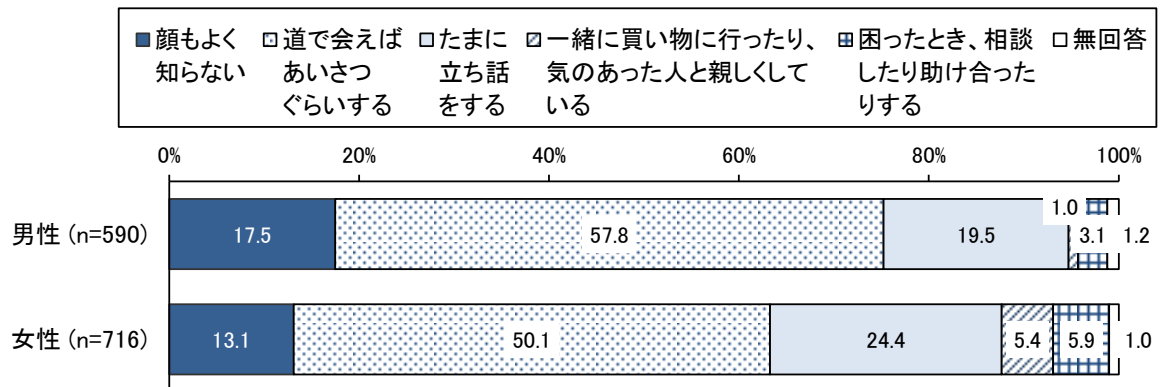


「問 26 隣近所との付き合い方」－ 2

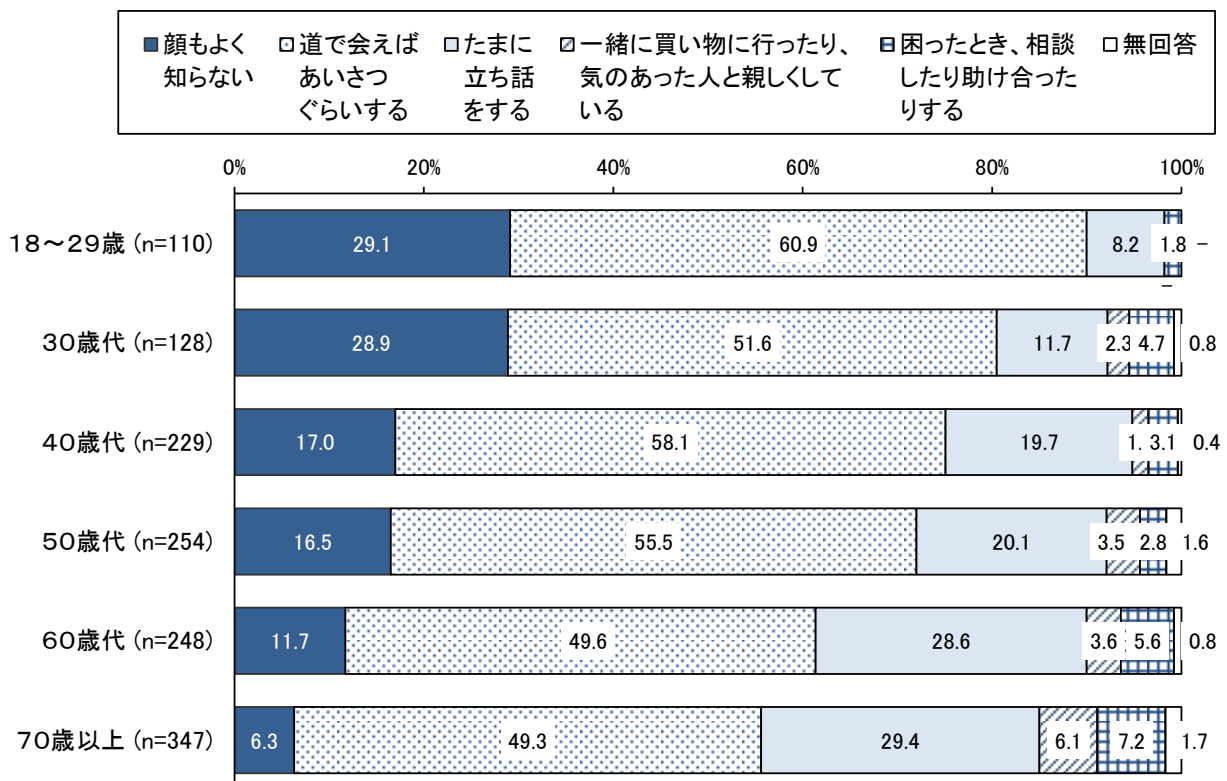
性別にみると、「困ったとき、相談したり助け合ったりする」「一緒に買い物に行ったり、気のあった人と親しくしている」「たまに立ち話をする」は女性の方が男性より高く、女性の方がより深い付き合い方をしていることがわかる。

年代別にみると、年代が上がるにつれ親しく近所付き合いをしている割合が高くなっている。一方、18～29歳・30歳代の若年層では、「顔もよく知らない」が3割近くにのぼっている。

【問 26\_性別】



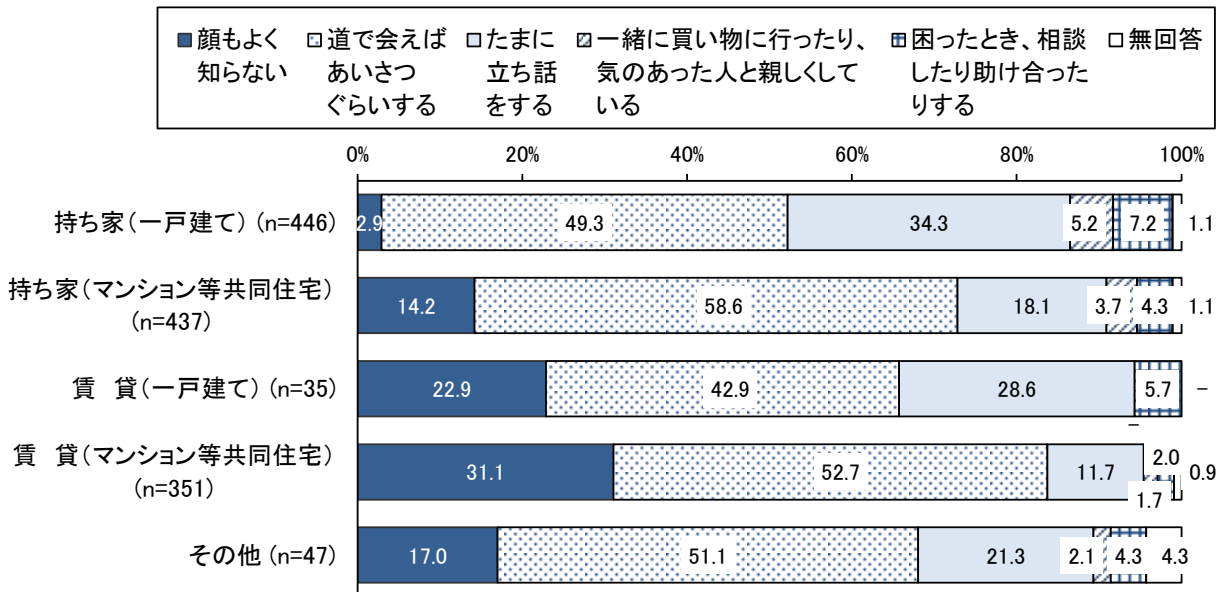
【問 26\_年代別】



「問 26 隣近所との付き合い方」－ 3

居住形態別にみると、「困ったとき、相談したり助け合ったりする」「一緒に買い物に行ったり、気のあった人と親しくしている」「たまに立ち話をする」は持ち家（一戸建て）居住者が最も高くなっている。賃貸（マンション等共同住宅）居住者では、「顔もよく知らない」が3割を超えている。

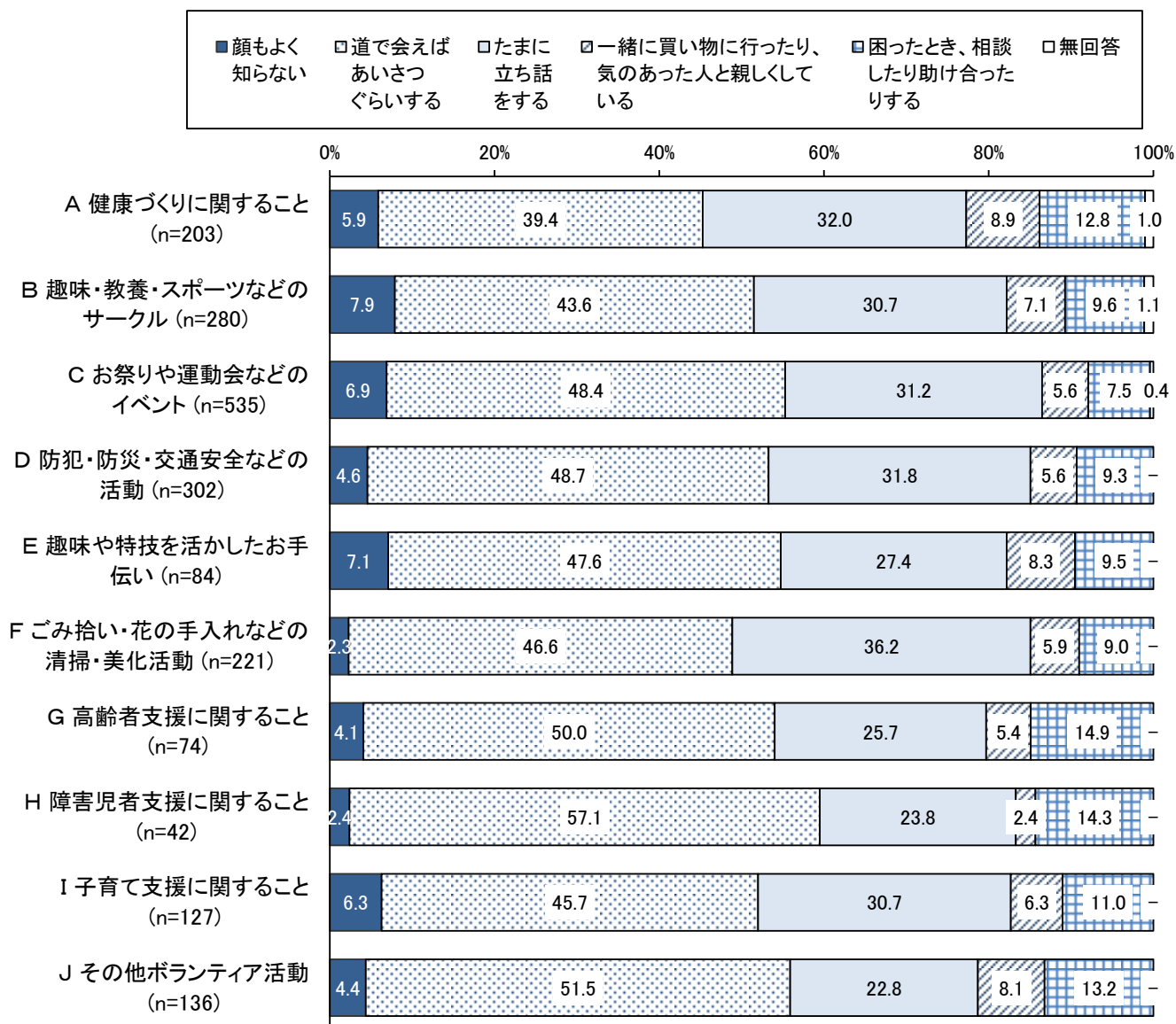
【問 26\_居住形態別】



「問 26 隣近所との付き合い方」－ 4

地域活動参加経験別にみると、「困ったとき、相談したり助け合ったりする」の割合が1割を超えるのは、『高齢者支援に関すること』『障害児者支援に関すること』『その他ボランティア活動』『健康づくりに関すること』『子育て支援に関すること』の参加経験者である。なお、どの活動についても参加経験者は「顔もよく知らない」が1割未満であり、隣近所との付き合い方が比較的深いことがうかがえる。

【問 26\_地域活動参加経験別】(A～J 参加経験者での集計結果)

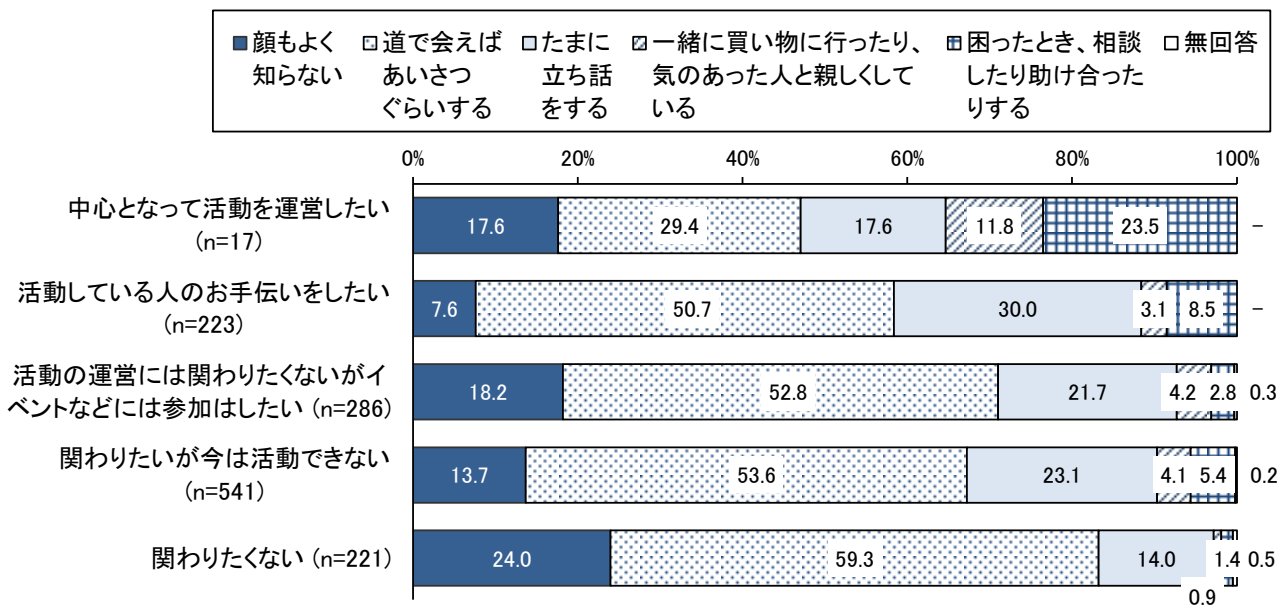


「問 26 隣近所との付き合い方」－ 5

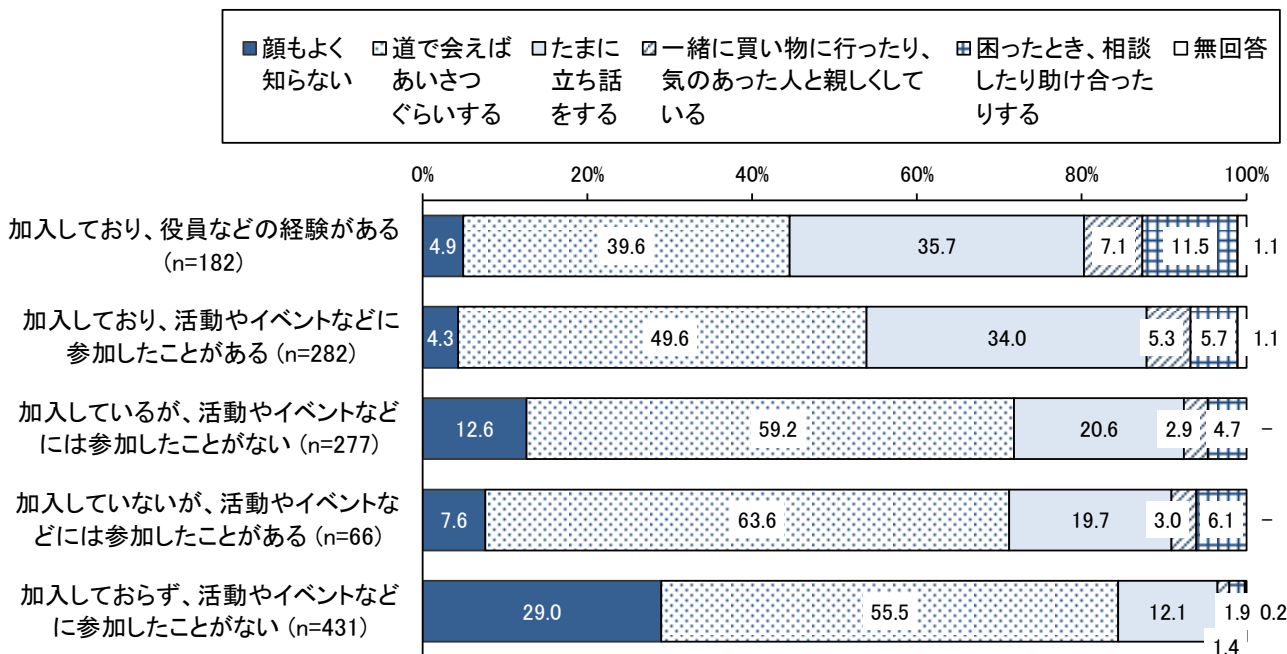
**地域活動に関する考え方別**にみると、標本数が少ないものの、『中心となって活動を運営したい』という人は「困ったとき、相談したり助け合ったりする」「一緒に買い物に行ったり、気のあった人と親しくしている」の割合が他属性に比べ高くなっている。『関わりたくない』という人は、「顔もよく知らない」の割合が最も高い。

**自治会町内会加入・活動等参加状況別**にみると、『加入しており、役員などの経験がある』という人は「困ったとき、相談したり助け合ったりする」「一緒に買い物に行ったり、気のあった人と親しくしている」「たまに立ち話をする」の割合が他属性に比べ高い。

【問 26\_地域活動に関する考え方別】



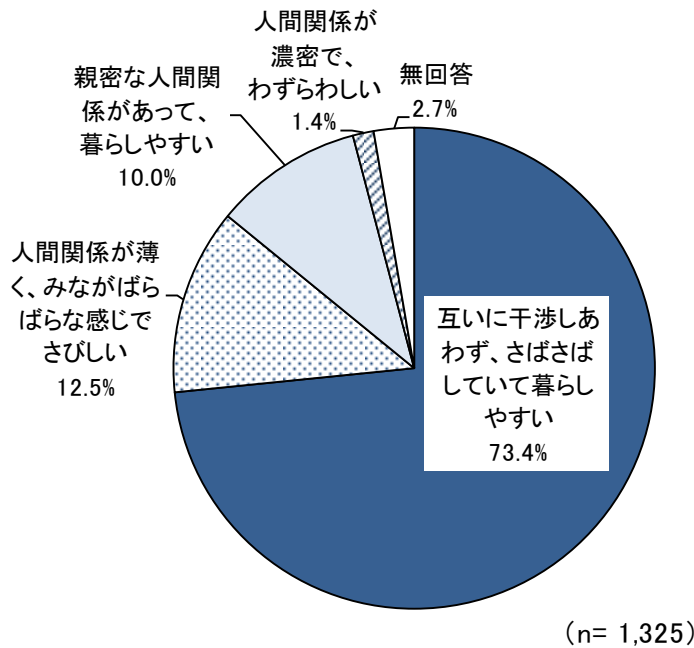
【問 26\_自治会町内会加入・活動等参加状況別】



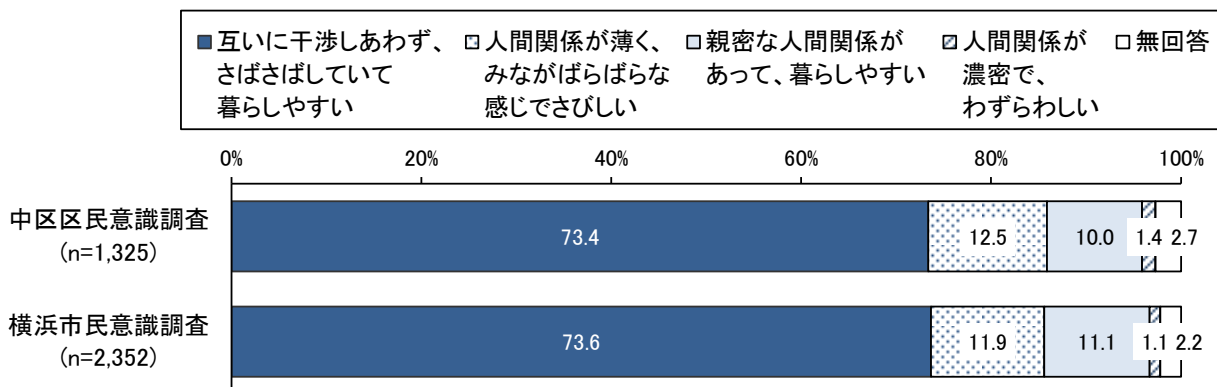
「問 27 隣近所との付き合いをどう感じているか」－ 1

隣近所との付き合い方をどう感じているかについては、「互いに干渉しあわず、さばさばして暮らしやすい」が7割を超え最も高くなっている。「人間関係が薄く、みながばらばらな感じでさびしい」は1割強、「親密な人間関係があって、暮らしやすい」は1割、「人間関係が濃密で、わずらわしい」はわずかとなっている。

横浜市民意識調査（平成 30 年度）との比較では、大きな差はみられなかった。



【平成 30 年度横浜市民意識調査との比較】

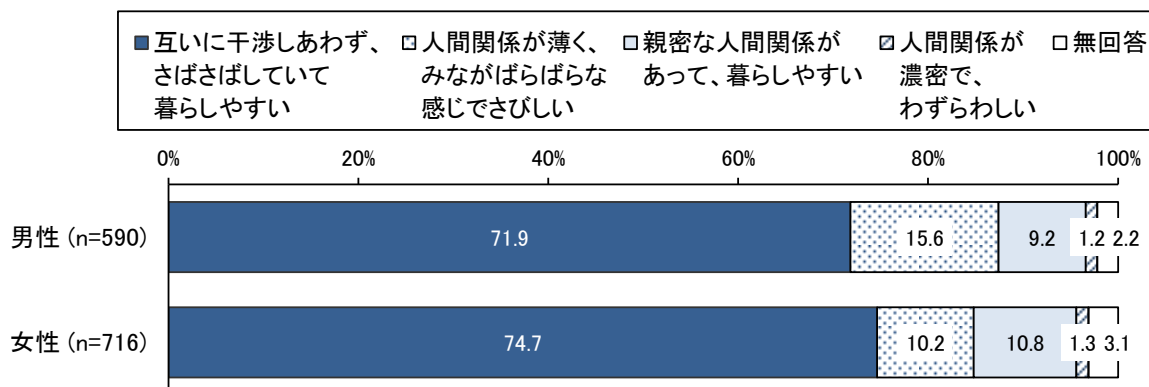


「問 27 隣近所との付き合いをどう感じているか」 - 2

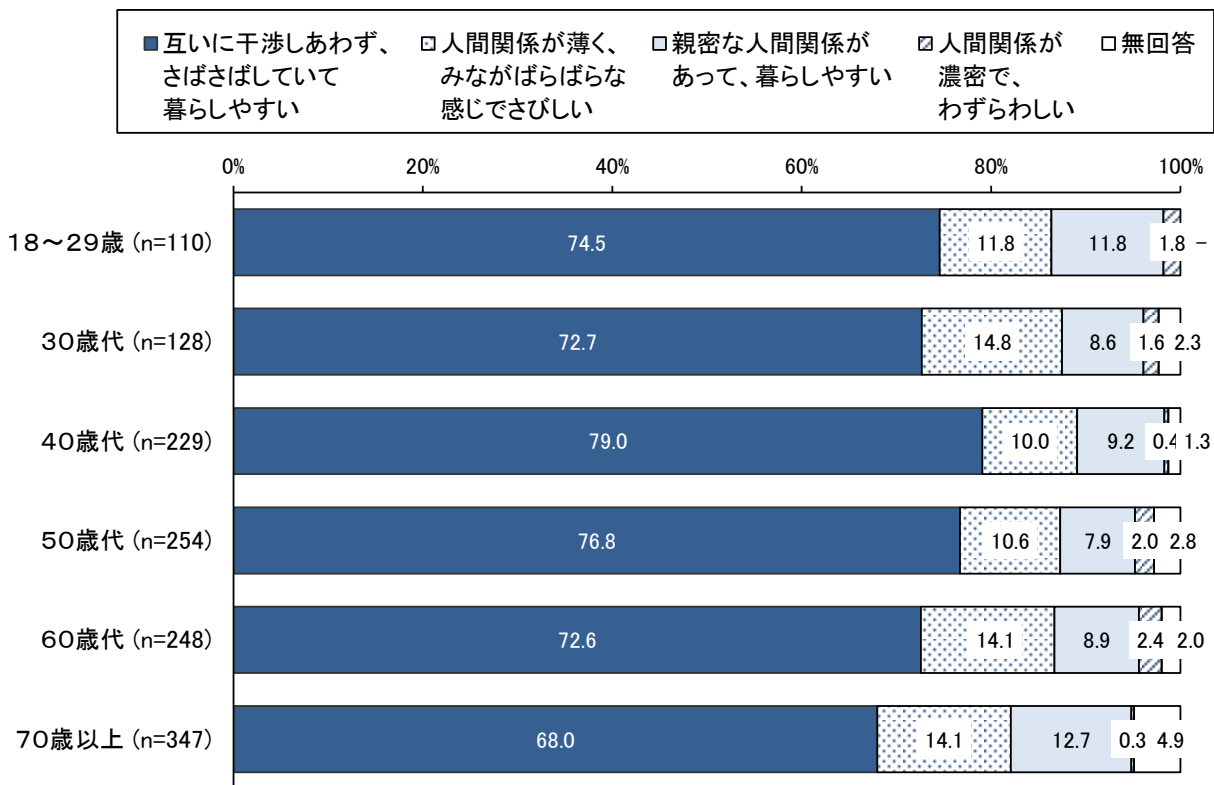
性別にみると、「互いに干渉しあわず、さばさばして暮らしやすい」は女性の方がやや高く、「人間関係が薄く、みながばらばらな感じでさびしい」は男性の方がやや高くなっている。

年代別にみると、「互いに干渉しあわず、さばさばして暮らしやすい」は60歳代以下の各年代では7割以上、特に40歳代では8割近くにのぼる。一方、70歳以上では7割を切っており、他の年代に比べやや低くなっている。「親密な人間関係があって、暮らしやすい」は、70歳以上が最も高く、次いで18～29歳となっており、この2つの年代のみ1割を超えている。

【問 27\_性別】



【問 27\_年代別】

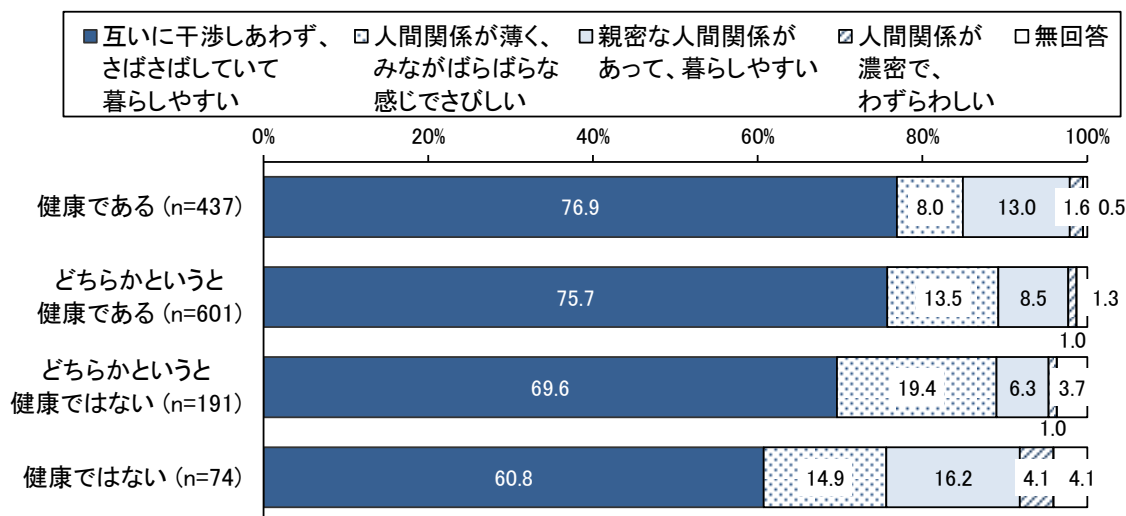


「問 27 隣近所との付き合いをどう感じているか」 - 3

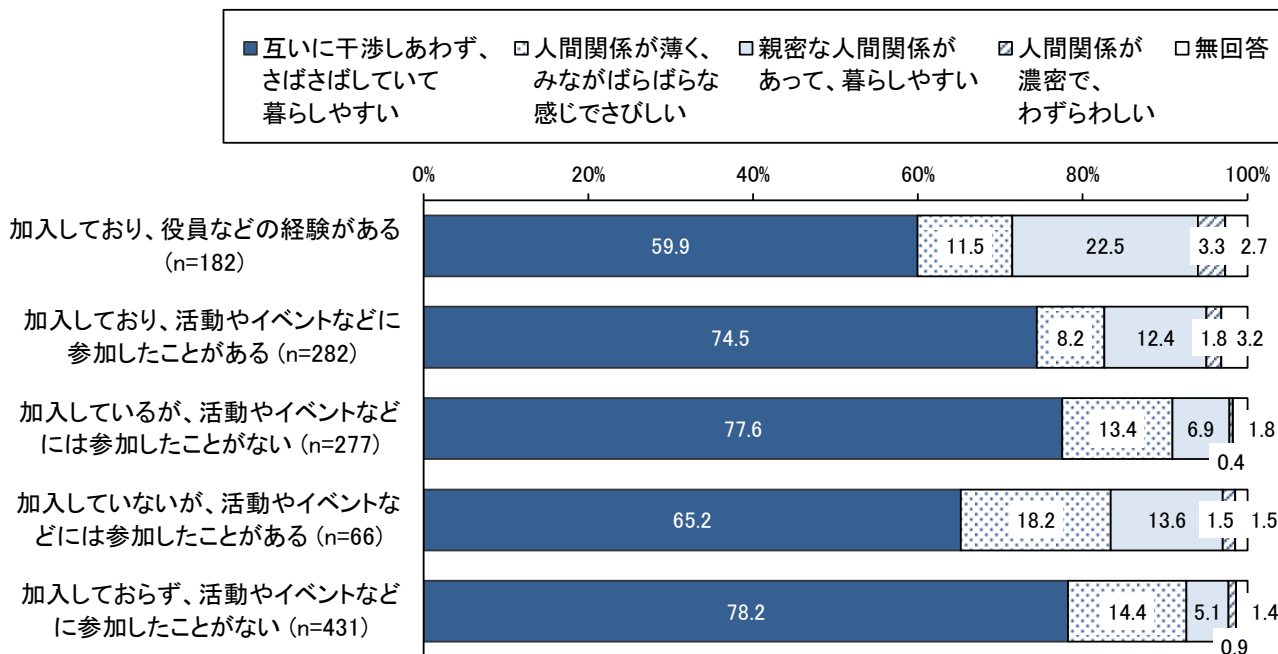
健康状態別にみると、「親密な人間関係があつて、暮らしやすい」は、『健康ではない』という人が最も高く、次いで『健康である』という人となっている。

自治会町内会加入・活動等参加状況別にみると、「親密な人間関係があつて、暮らしやすい」は『加入しており、役員などの経験がある』という人が2割を超え最も高くなっている。次いで、『加入していないが、活動やイベントなどには参加したことがある』『加入しており、活動やイベントなどに参加したことがある』がそれぞれ1割を超えている。自治会町内会加入者、または非加入者でも活動・イベント参加者の方が、隣近所と付き合いの深い人が多いことがうかがえる。

【問 27\_健康状態別】



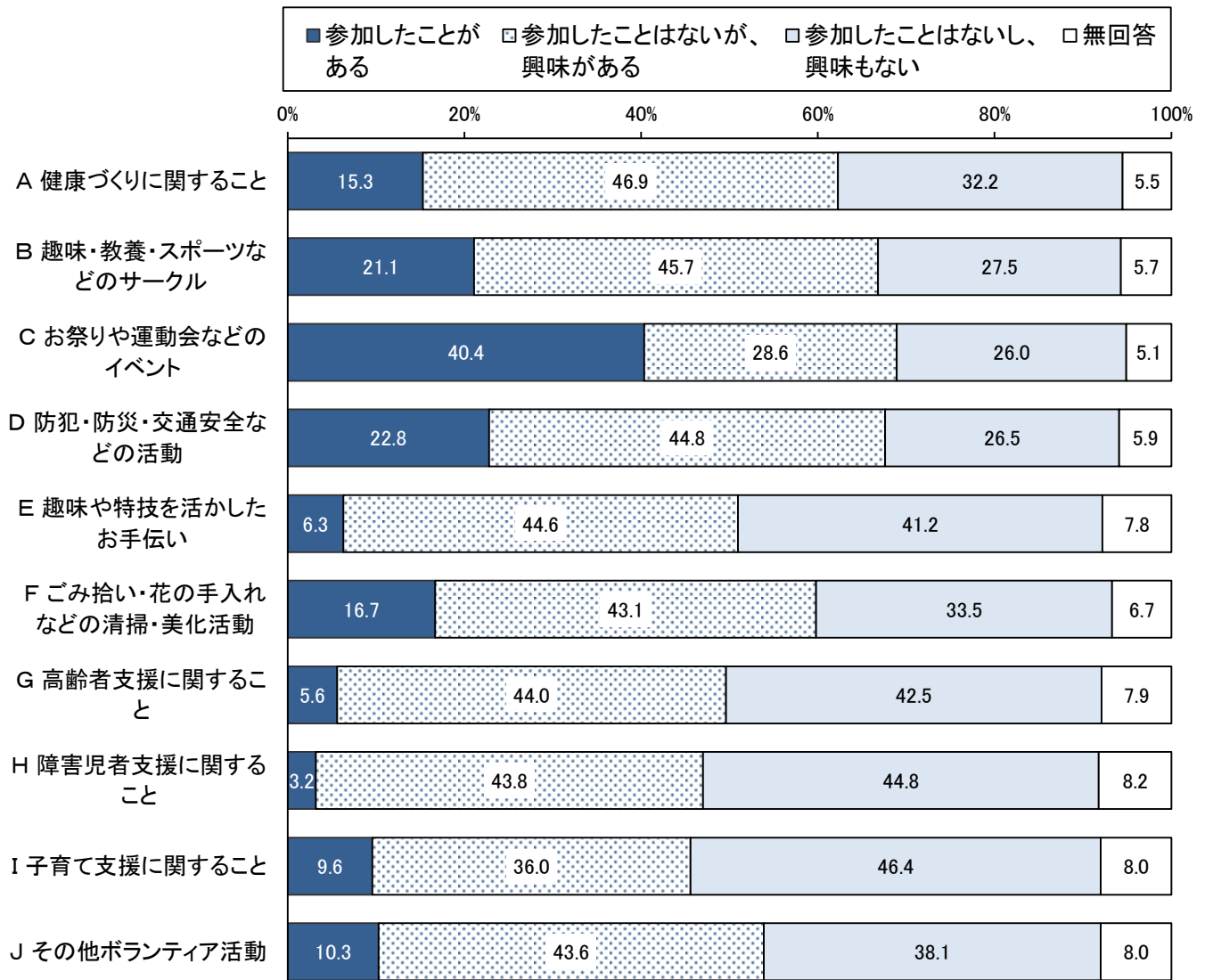
【問 27\_自治会町内会加入・活動等参加状況別】





「問 28 地域活動の参加状況」－ 1

地域活動の参加状況について、参加経験の割合が最も高いのは「お祭りや運動会などのイベント」で4割を超えている。次いで、「防犯・防災・交通安全などの活動」「趣味・教養・スポーツなどのサークル」が2割強、「ごみ拾い・花の手入れなどの清掃・美化活動」「健康づくりに関すること」が1割半ばなどとなっている。

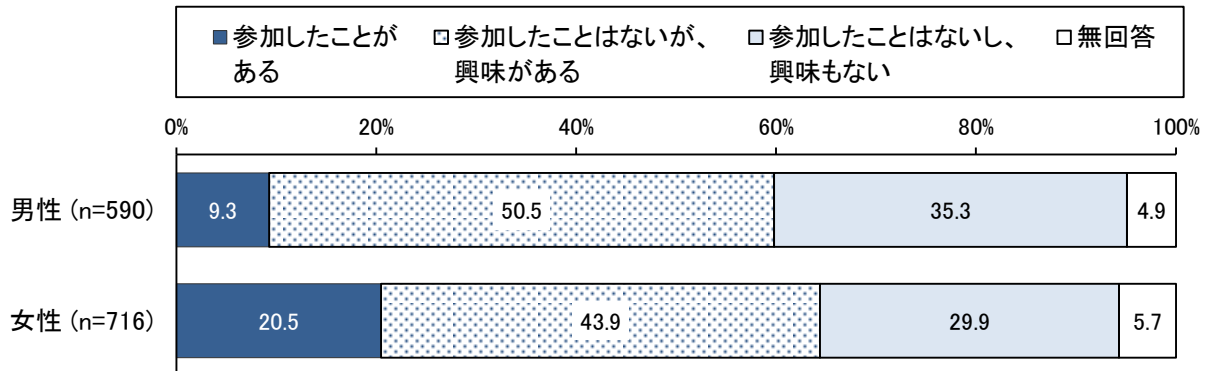


(n=1,325)

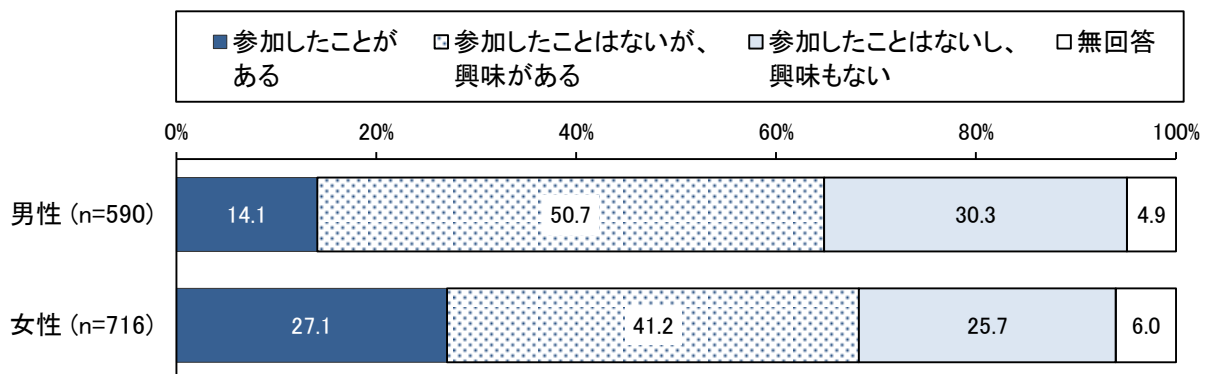
「問 28 地域活動の参加状況」－ 2

性別にみると、「お祭りや運動会などのイベント」「防犯・防災・交通安全などの活動」「趣味・教養・スポーツなどのサークル」をはじめ、ほとんどの活動で女性の方が男性より参加経験者の割合が高くなっている。

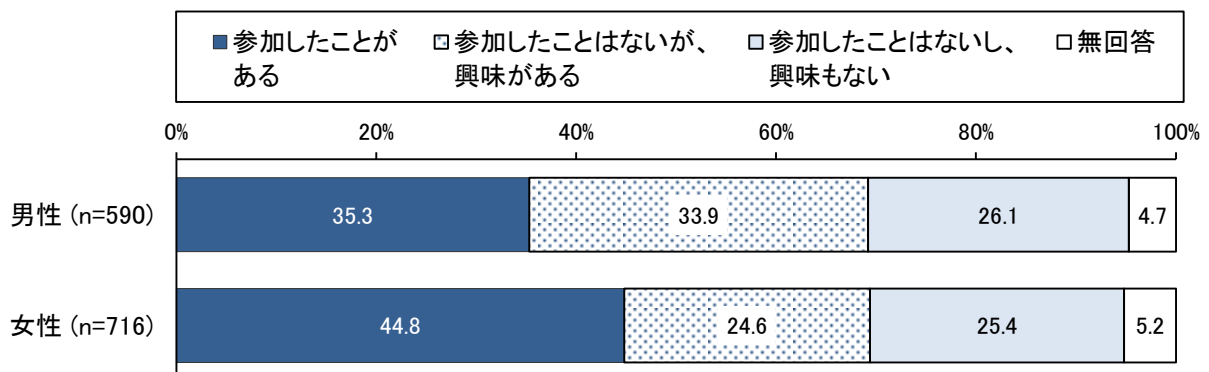
【問 28 A 健康づくりに関すること\_性別】



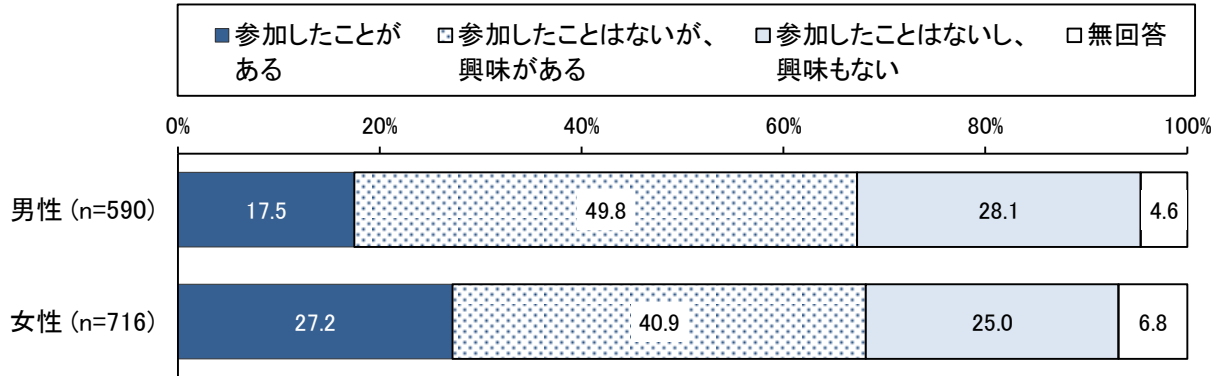
【問 28 B 趣味・教養・スポーツなどのサークル\_性別】



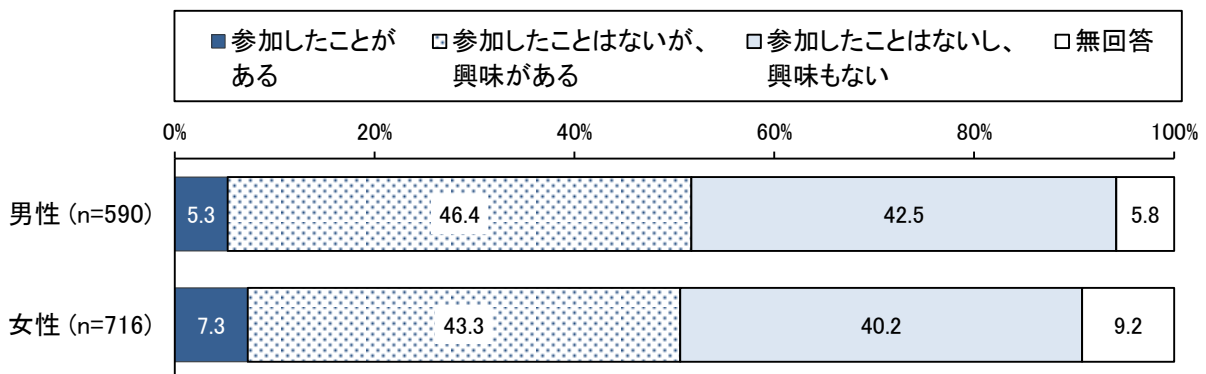
【問 28 C お祭りや運動会などのイベント\_性別】



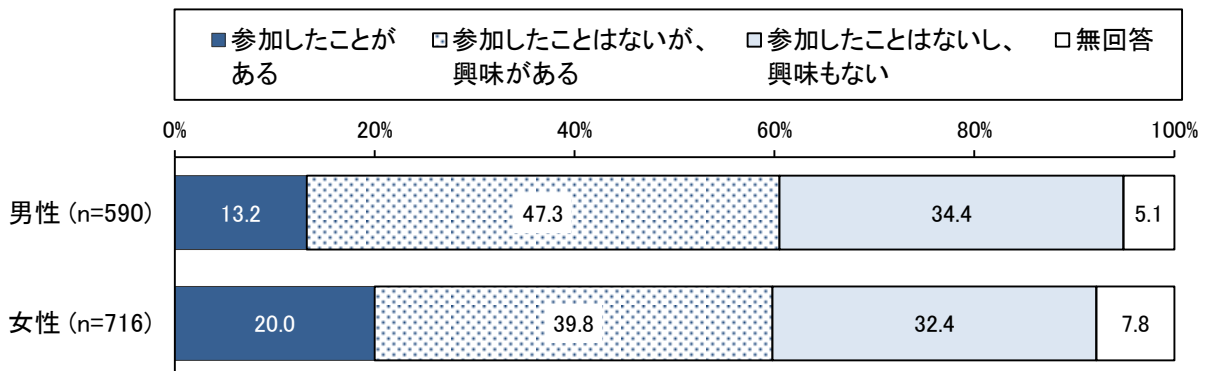
【問 28 D 防犯・防災・交通安全などの活動\_性別】



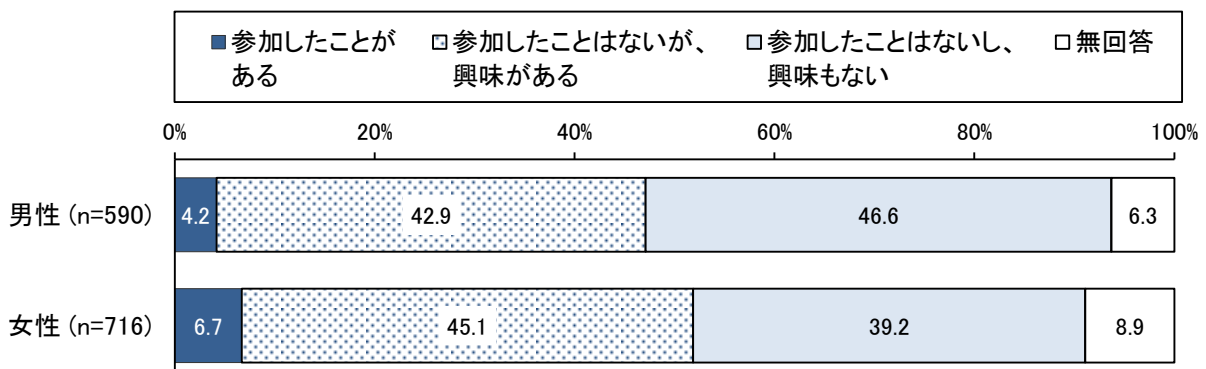
【問 28 E 趣味や特技を活かしたお手伝い\_性別】



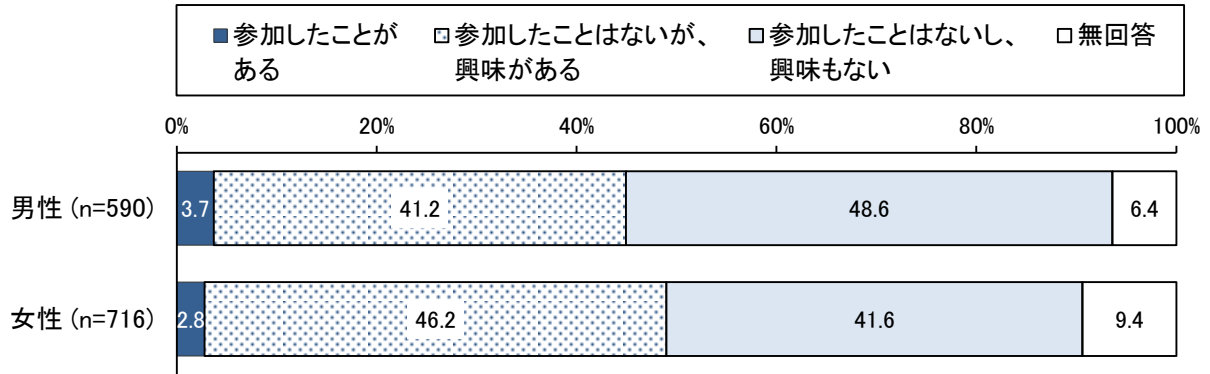
【問 28 F ごみ拾い・花の手入れなどの清掃・美化活動\_性別】



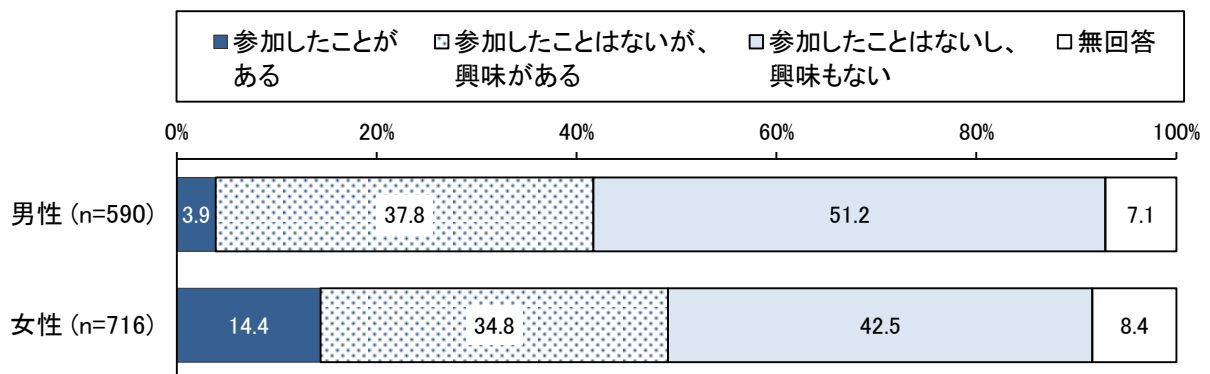
【問 28 G 高齢者支援に関すること\_性別】



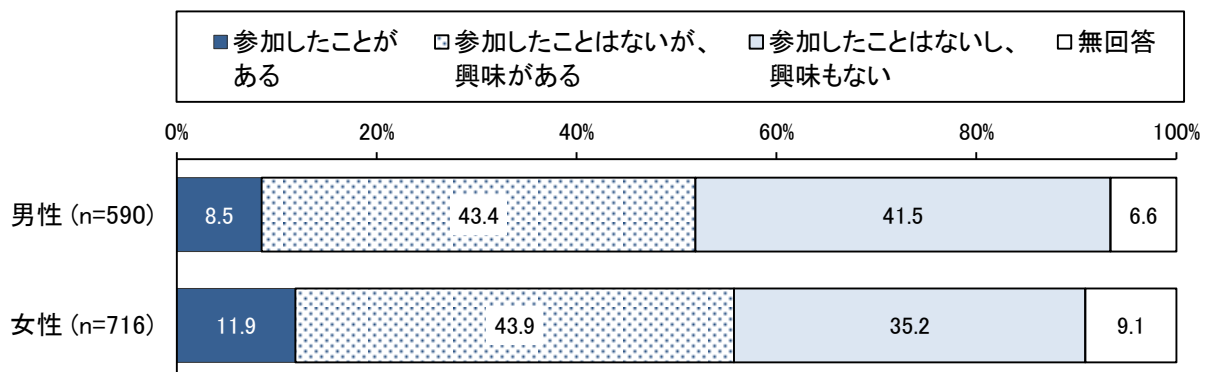
【問 28 H 障害児者支援に関すること\_性別】



【問 28 I 子育て支援に関すること\_性別】



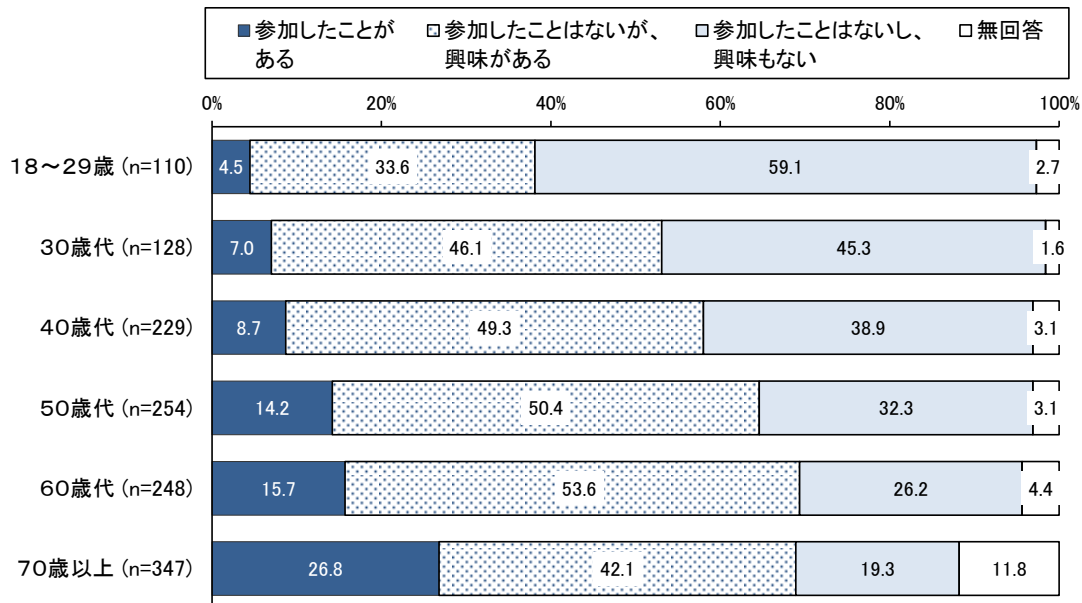
【問 28 J その他ボランティア活動\_性別】



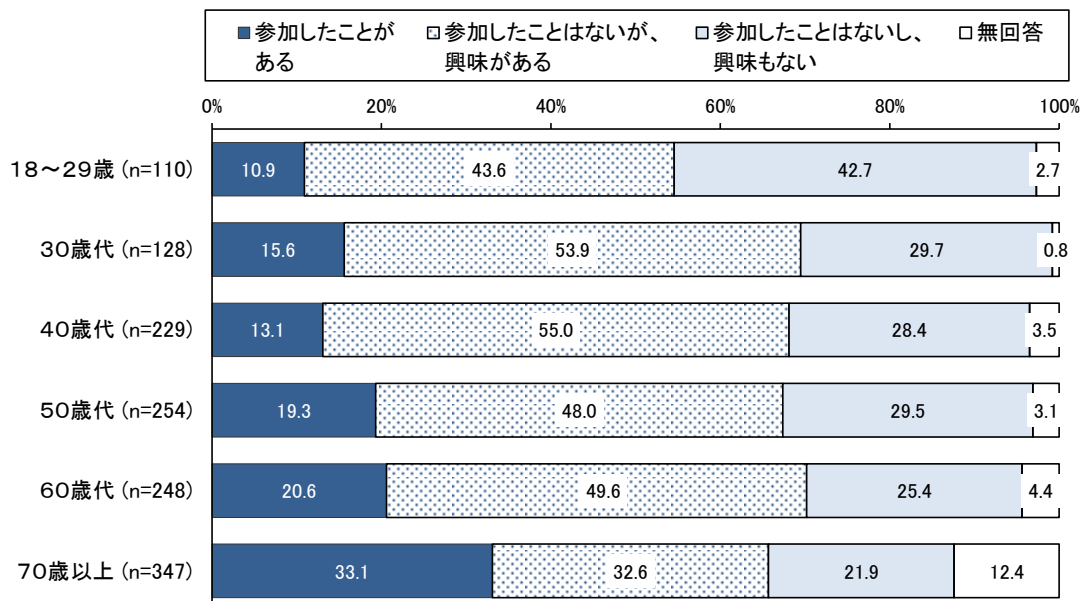
「問 28 地域活動の参加状況」 - 3

年代別にみると、「健康づくりに関すること」「趣味・教養・スポーツなどのサークル」はおおむね年代が上がるにつれ参加経験者の割合が高い傾向となっている。その他、比較的高齢層の方が参加経験者の割合が高いものが多い中、「障害児者支援に関すること」は唯一 18～29 歳が全年代で最も高くなっている。

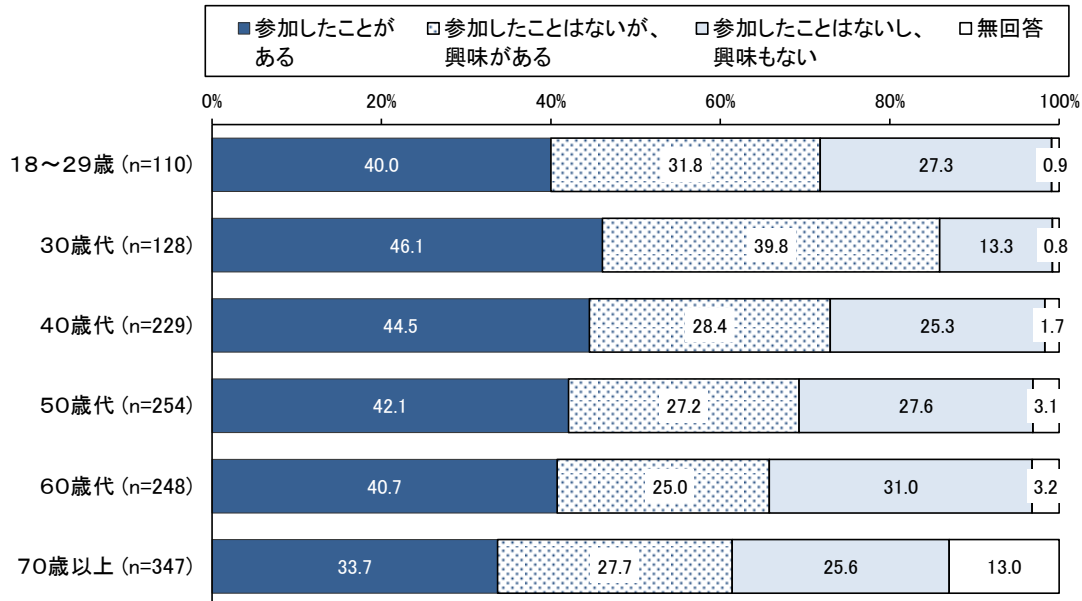
【問 28 A 健康づくりに関すること\_年代別】



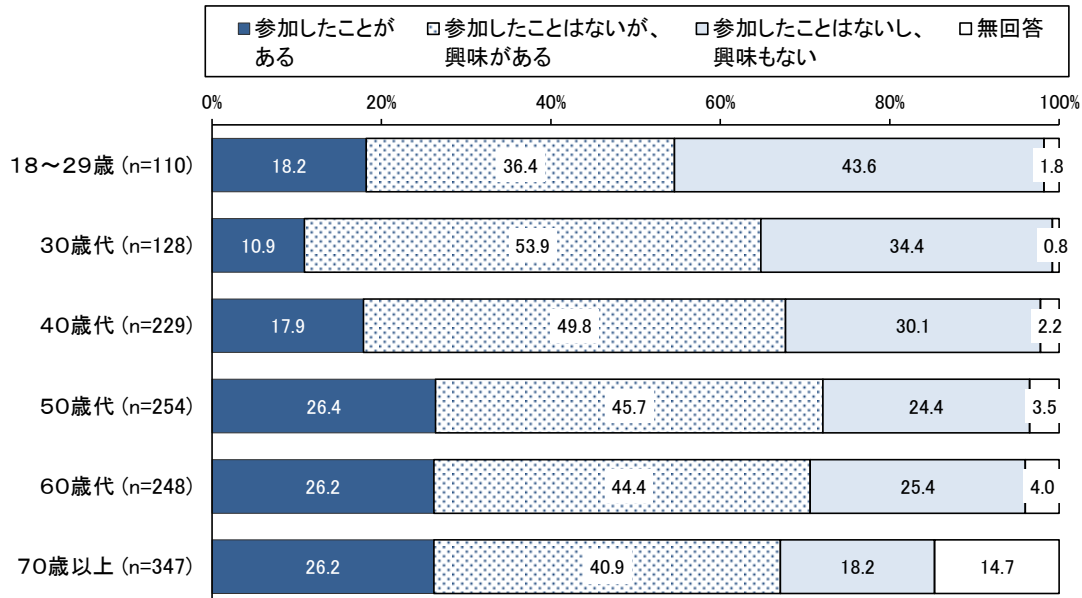
【問 28 B 趣味・教養・スポーツなどのサークル\_年代別】



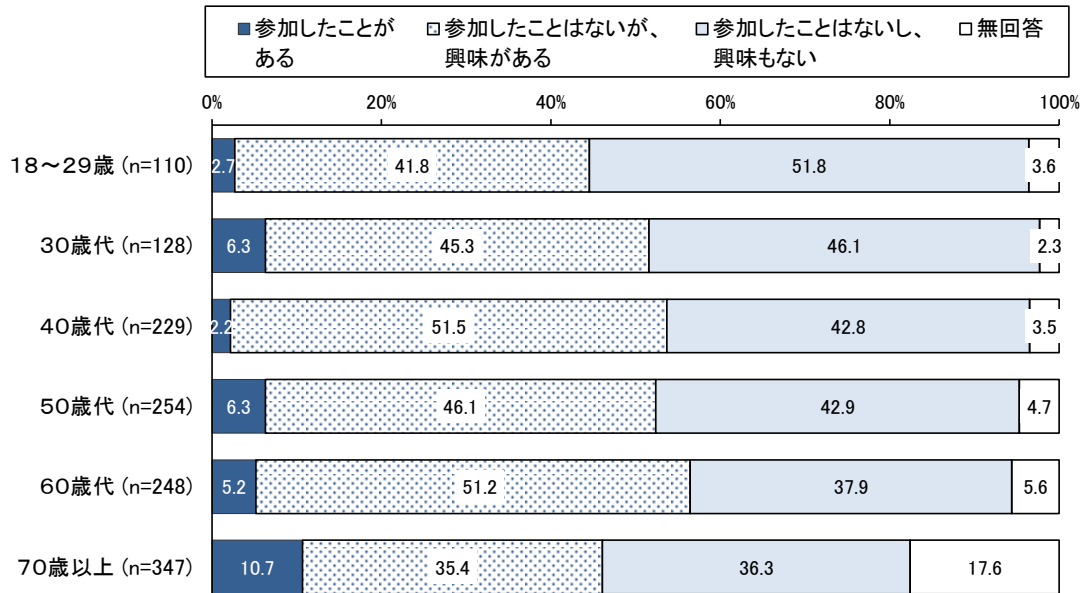
【問 28 C お祭りや運動会などのイベント\_年代別】



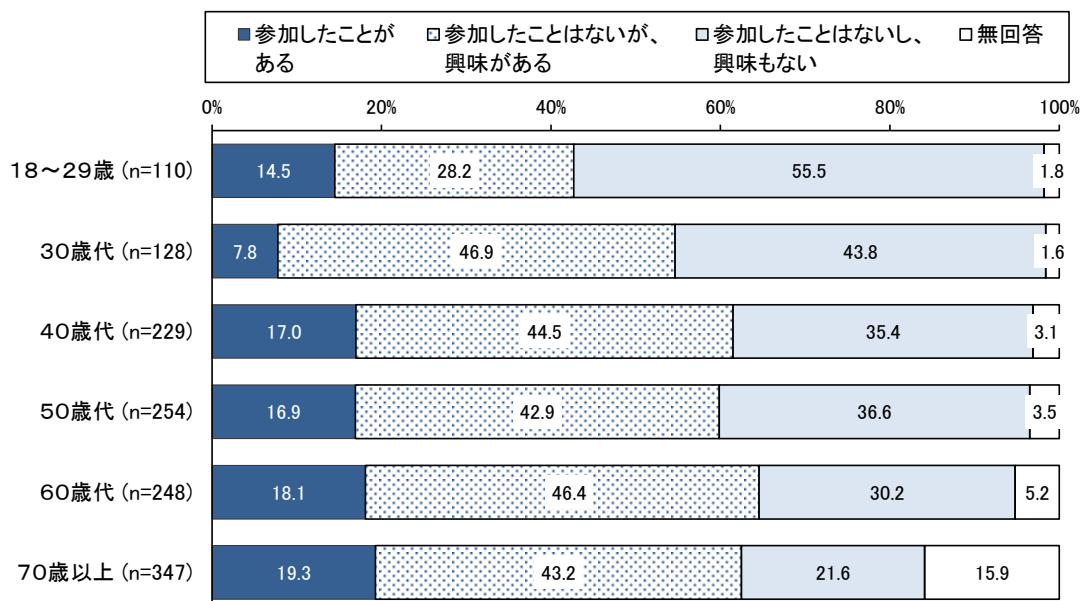
【問 28 D 防犯・防災・交通安全などの活動\_年代別】



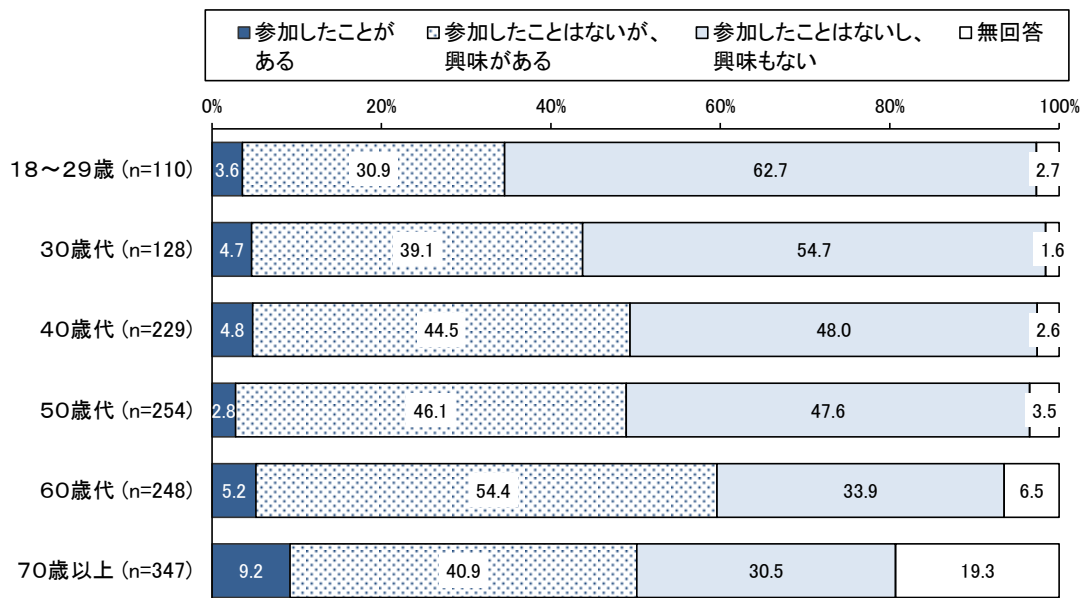
【問 28 E 趣味や特技を活かしたお手伝い\_年代別】



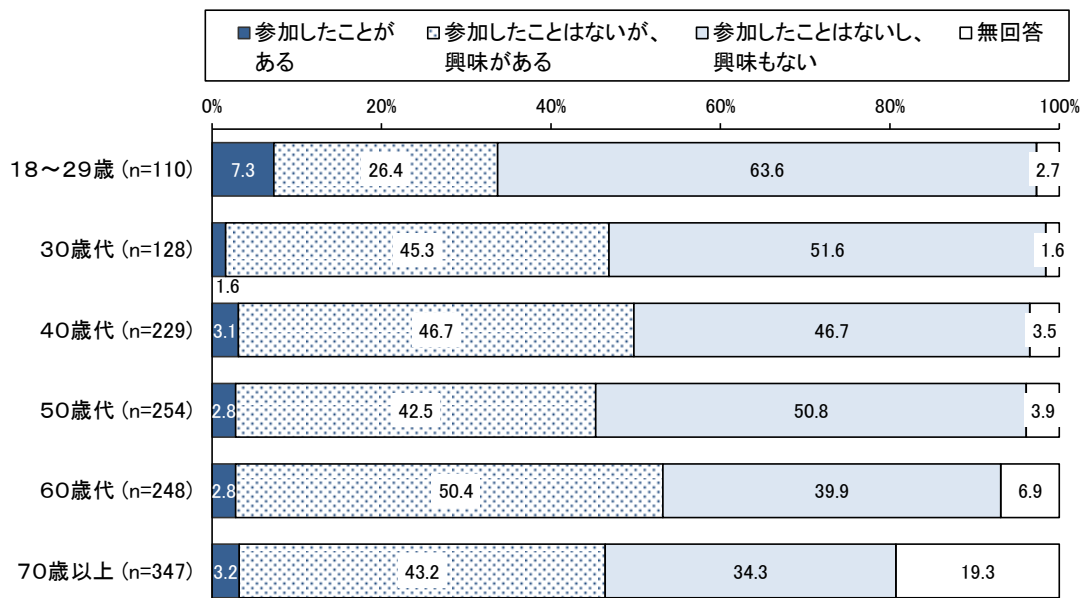
【問 28 F ごみ拾い・花の手入れなどの清掃・美化活動\_年代別】



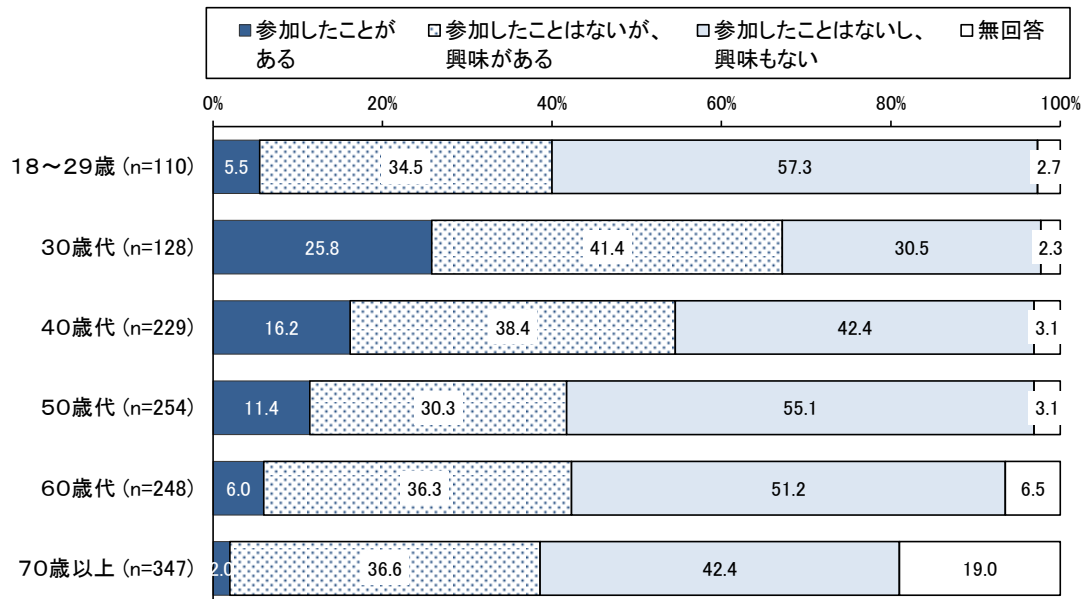
【問 28 G 高齢者支援に関すること\_年代別】



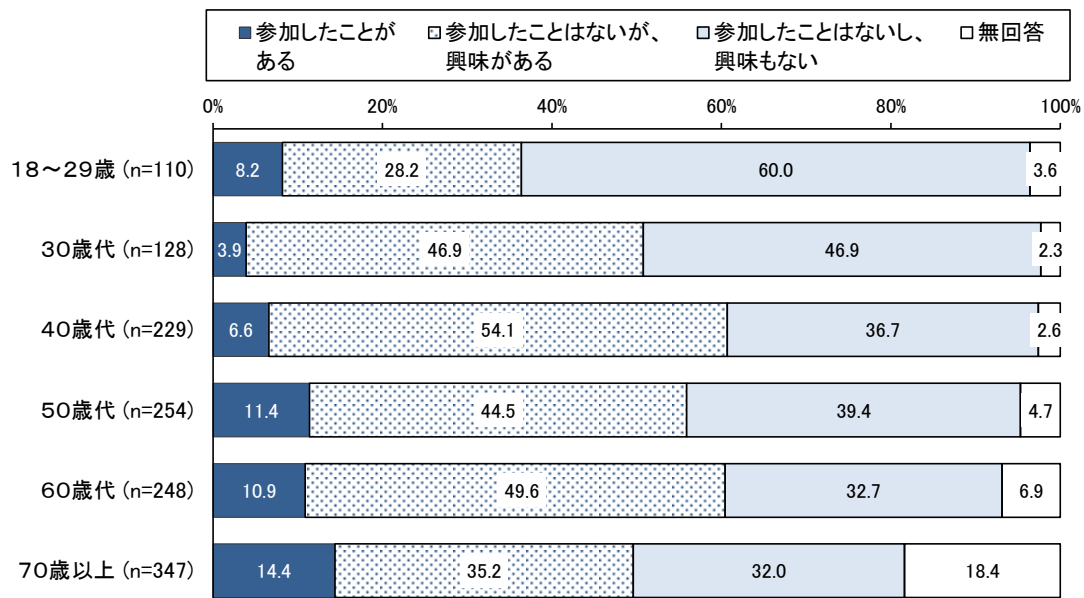
【問 28 H 障害児者支援に関すること\_年代別】



【問 28 I 子育て支援に関すること\_年代別】



【問 28 J その他ボランティア活動\_年代別】

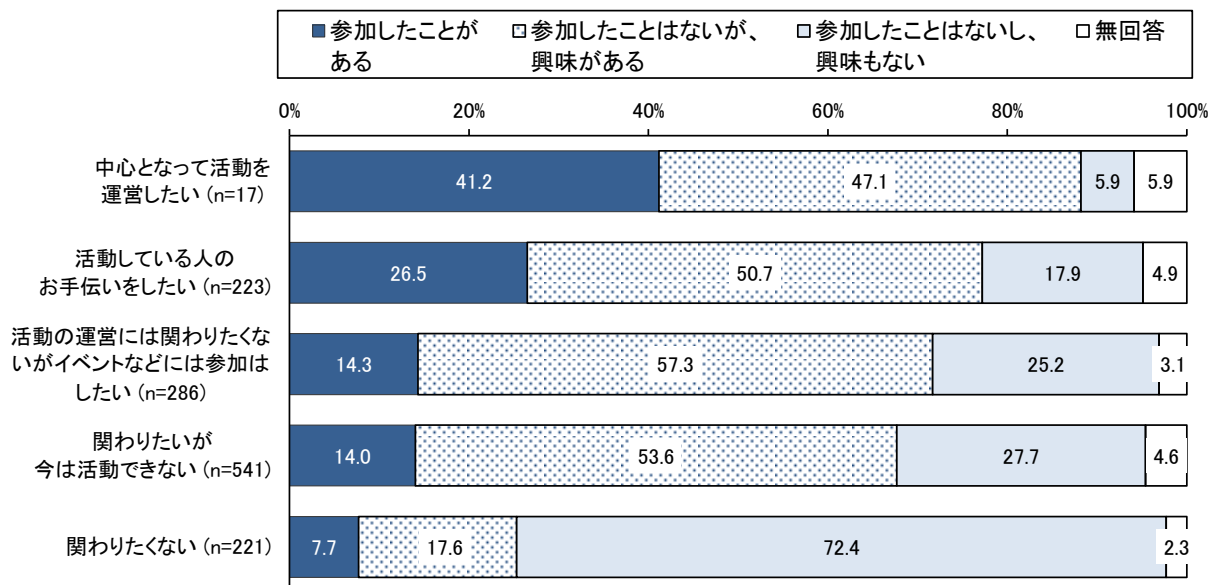




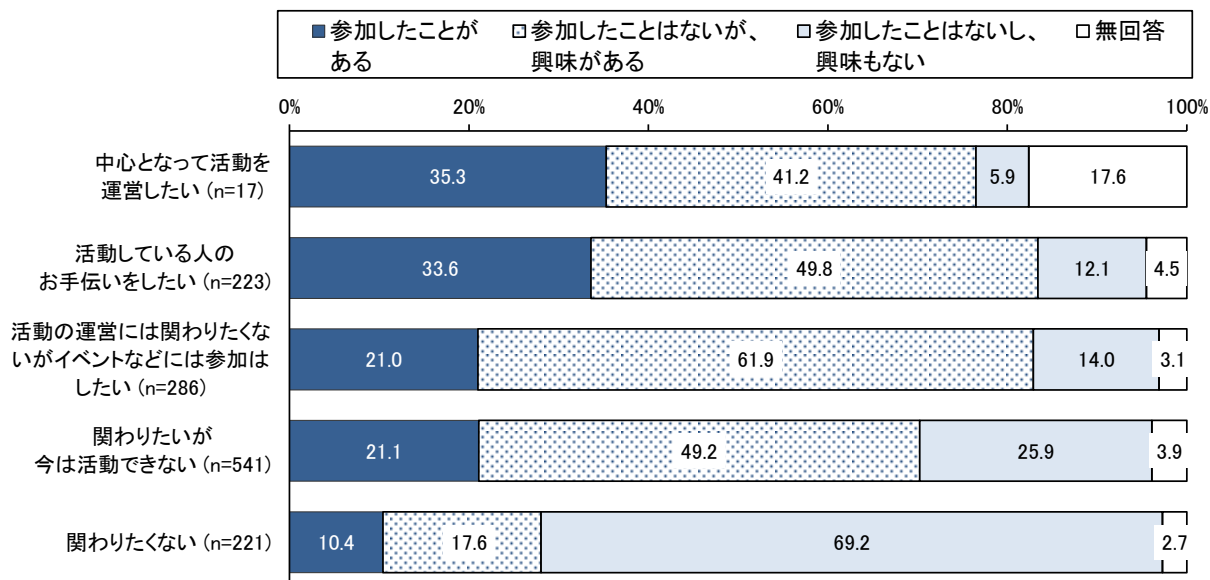
「問 28 地域活動の参加状況」－ 4

地域活動への考え方にみると、やはり多くの活動で『中心となって活動を運営したい』という人の参加率が高い。その中で、「お祭りや運動会などのイベント」「趣味や特技を活かしたお手伝い」「障害児者支援に関すること」は、『中心となって活動を運営したい』よりも『活動している人のお手伝いをしたい』という人の方が参加率が高くなっている。

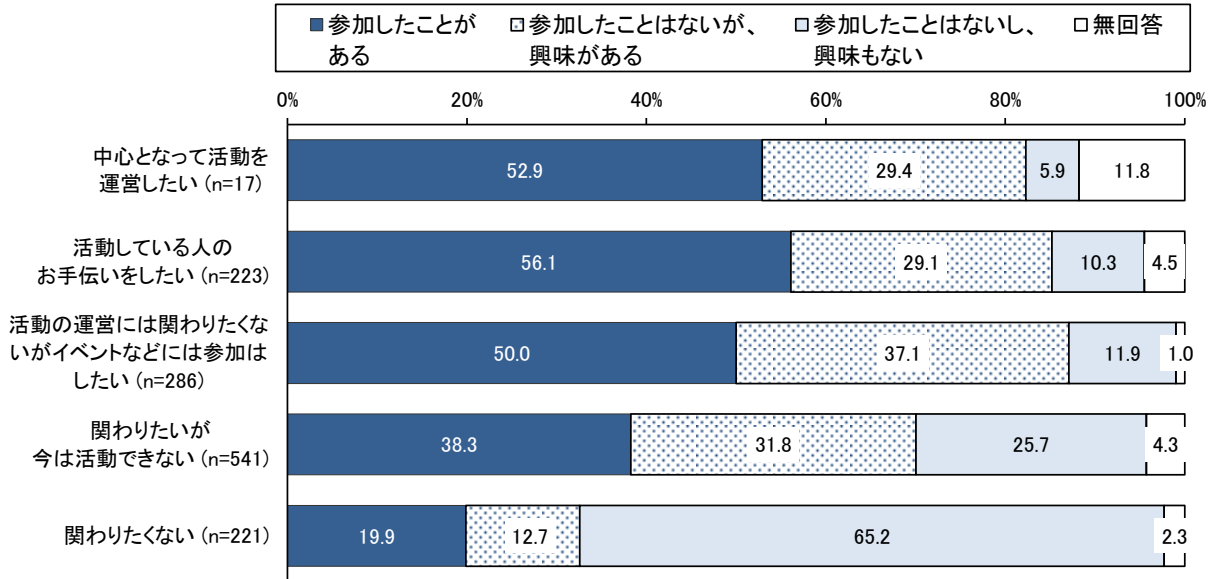
【問 28 A 健康づくりに関すること\_地域活動への考え方別】



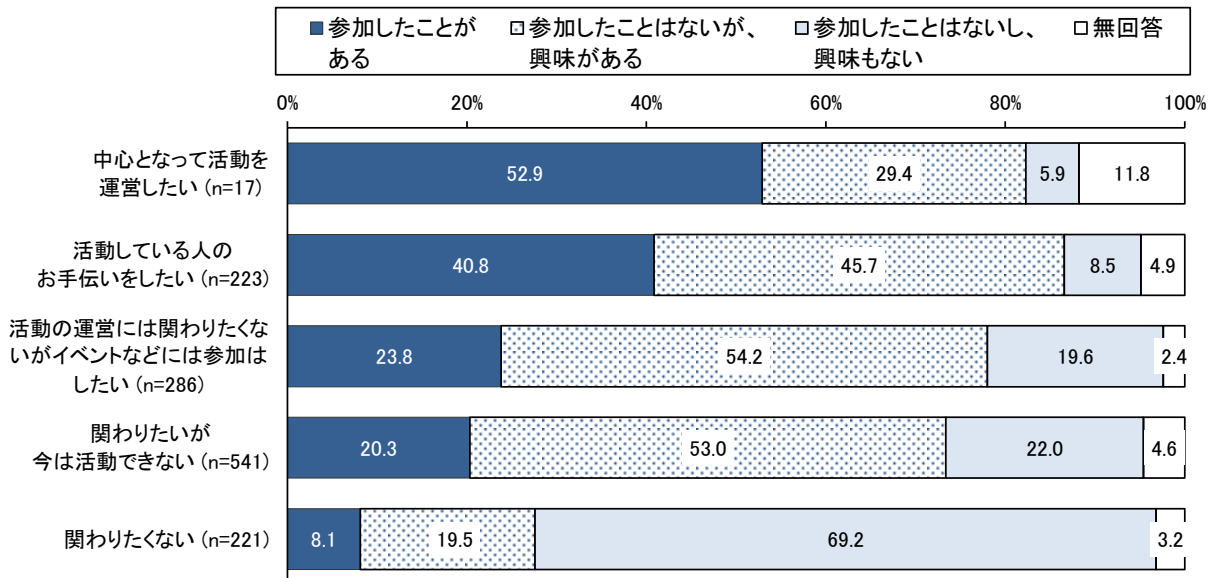
【問 28 B 趣味・教養・スポーツなどのサークル\_地域活動への考え方別】



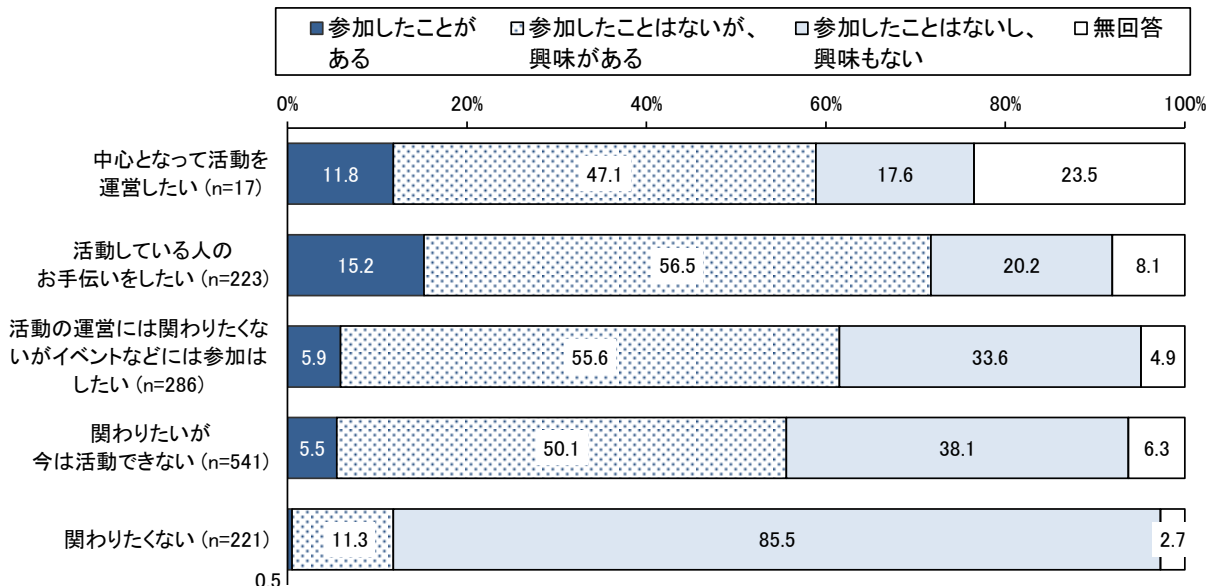
【問 28 C お祭りや運動会などのイベント\_地域活動への考え方別】



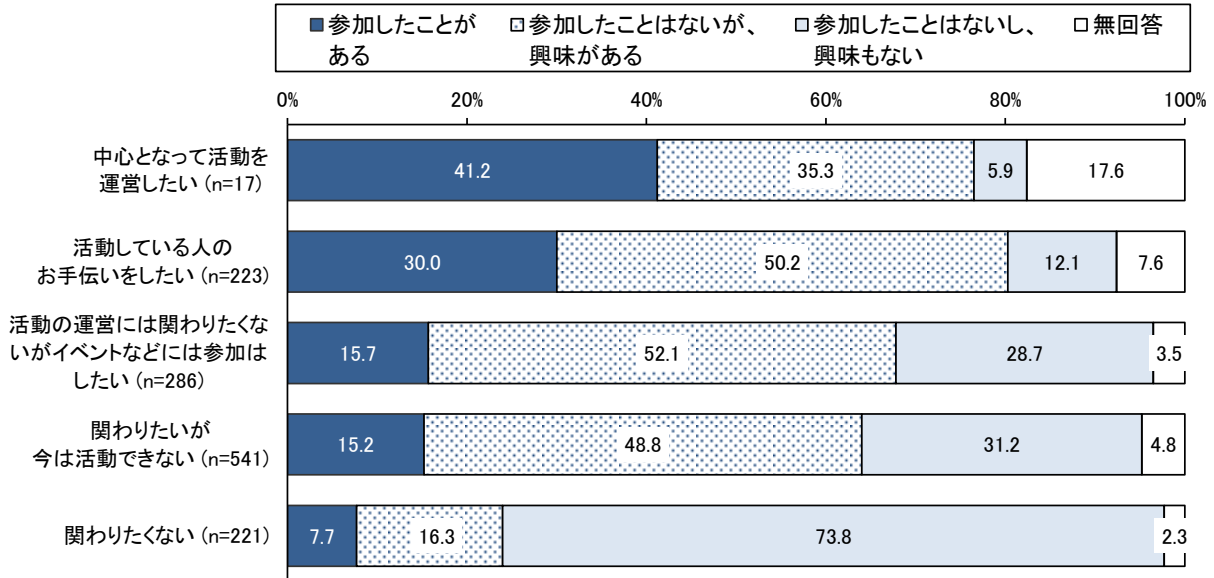
【問 28 D 防犯・防災・交通安全などの活動\_地域活動への考え方別】



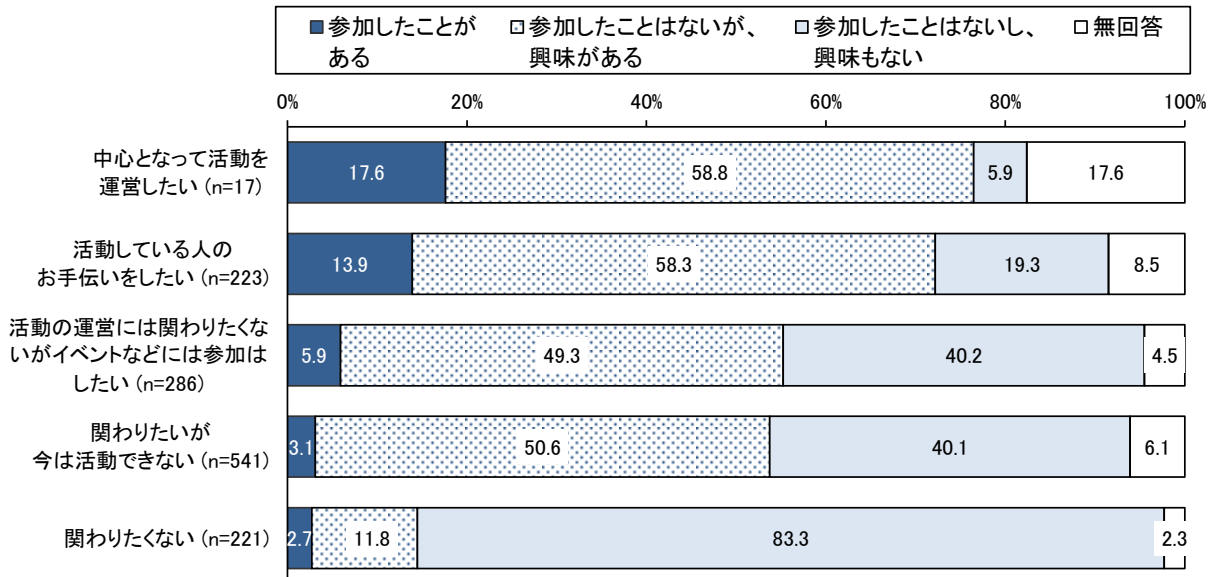
【問 28 E 趣味や特技を活かしたお手伝い\_地域活動への考え方別】



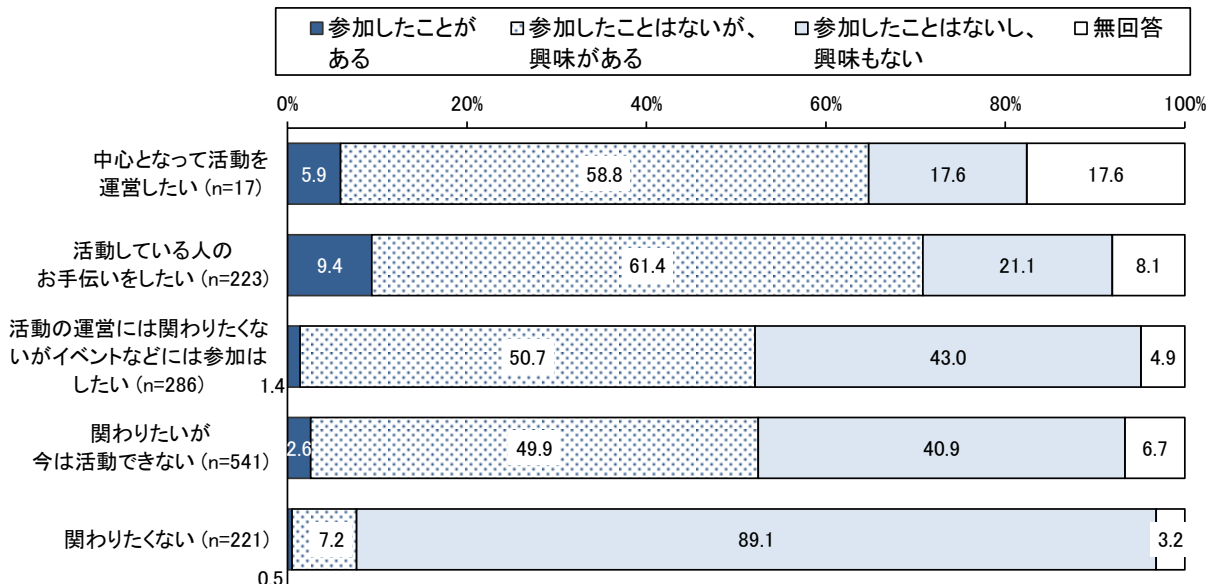
【問 28 F ごみ拾い・花の手入れなどの清掃・美化活動\_地域活動への考え方別】



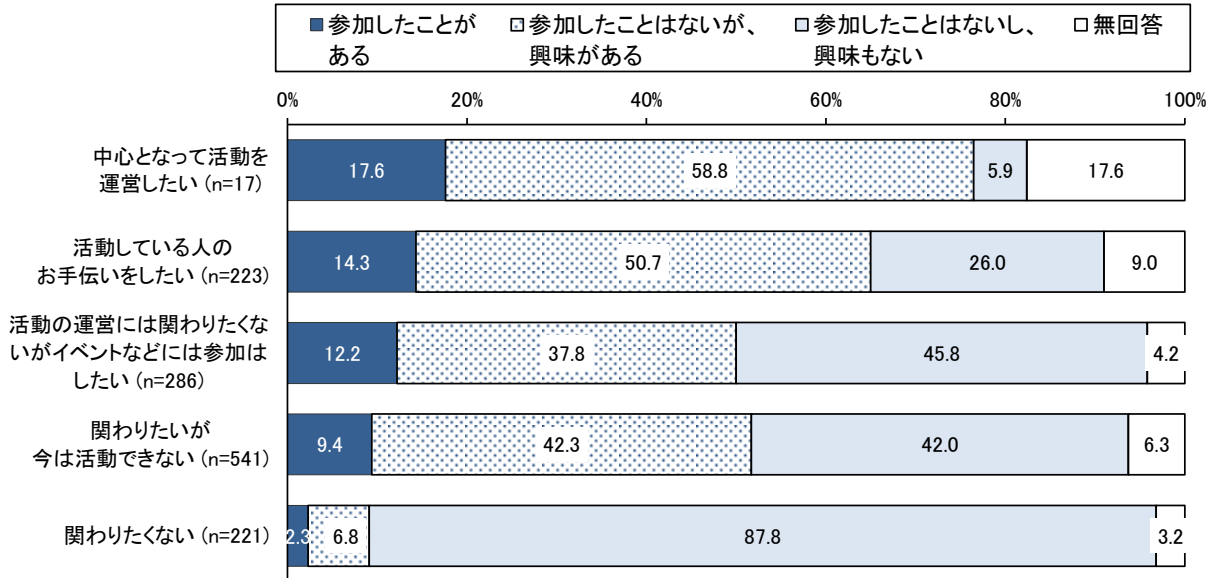
【問 28 G 高齢者支援に関すること\_地域活動への考え方別】



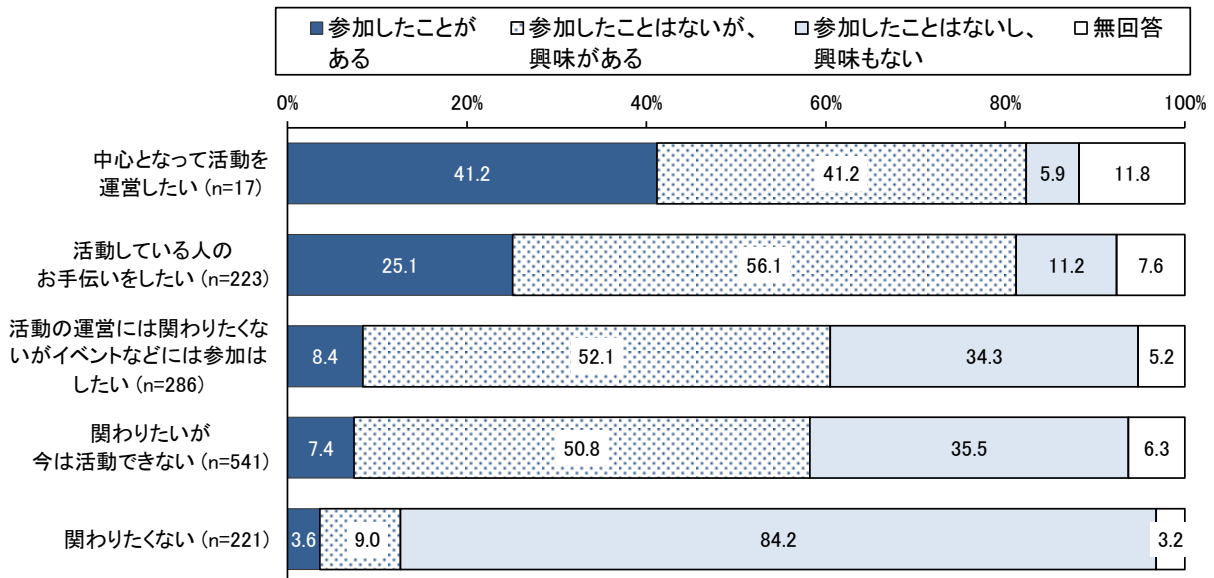
【問 28 H 障害児者支援に関すること\_地域活動への考え方別】



【問 28 I 子育て支援に関すること\_地域活動への考え方別】



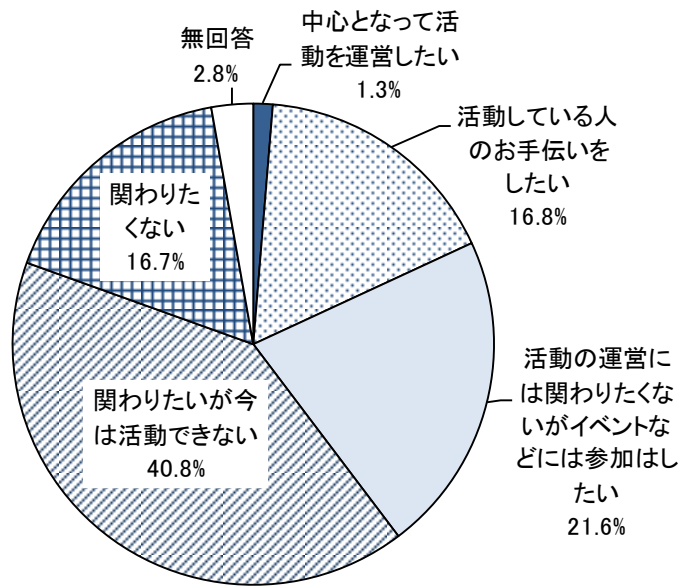
【問 28 J その他ボランティア活動\_地域活動への考え方別】



「問 29 地域活動に関する考え方」 - 1

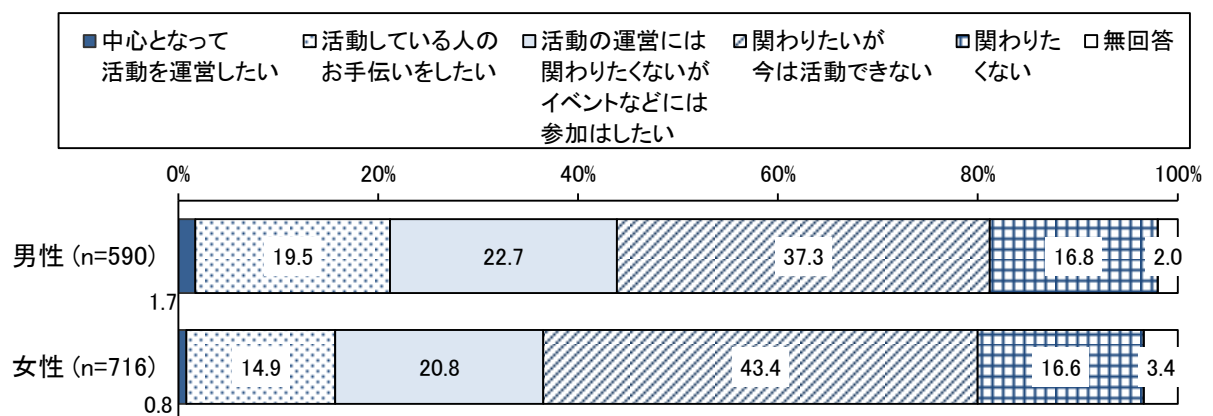
地域活動に関する考え方については、最も多いのが「関わりたいが今は活動できない」で全体の約4割を占めている。次いで、「活動の運営には関わりたいがイベントなどには参加はしたい」が2割強である。「中心となって活動を運営したい」は1.3%にとどまっているが、「活動している人のお手伝いをしたい」を合わせると、現在活動へ参加意向のある人は2割弱となっている。

性別にみると、女性の方が「関わりたいが今は活動できない」の割合が高く、男性の方が「活動している人のお手伝いをしたい」の割合が高くなっている。



(n= 1,325)

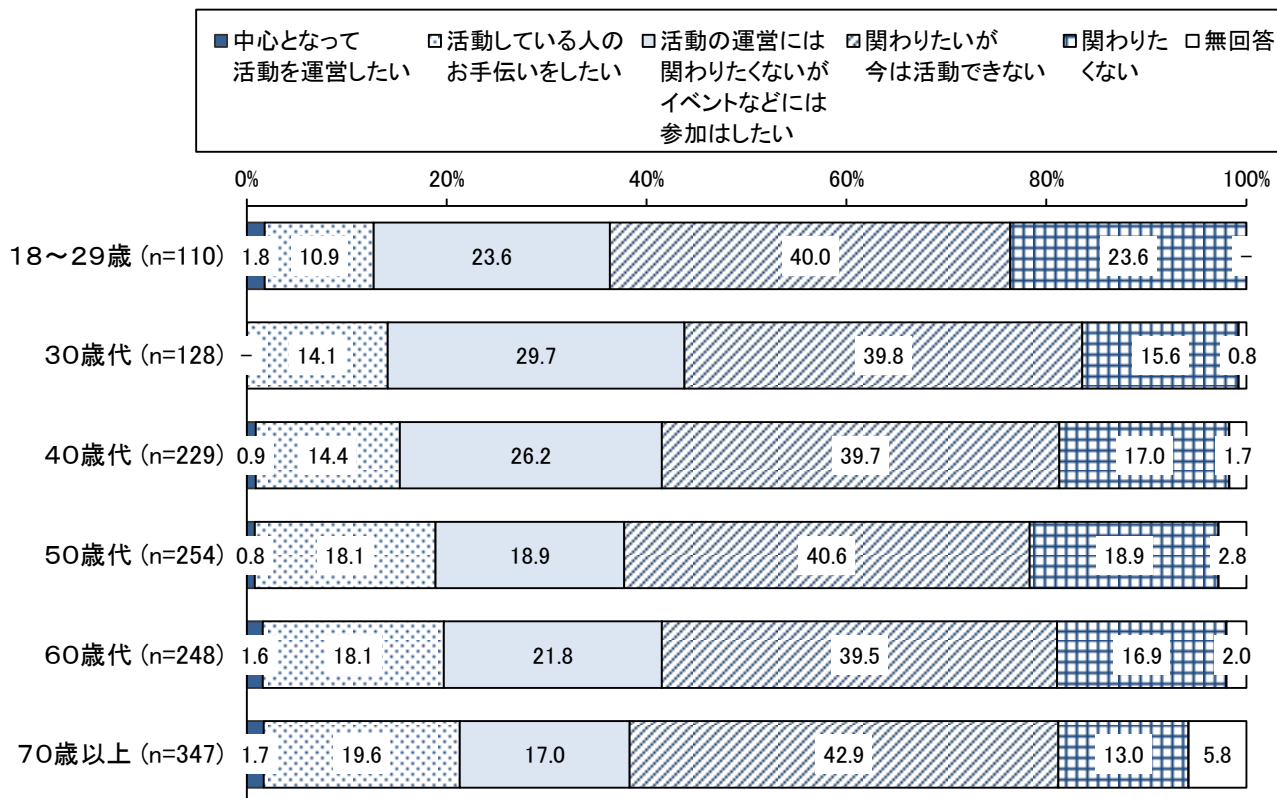
【問 29\_性別】



「問 29 地域活動に関する考え方」－ 2

年代別にみると、「中心となって活動を運営したい」と「活動している人のお手伝いをしたい」を合わせた活動参加意向のある人の割合は、年代が上がるほど高い傾向となっている。一方、「関わりたくない」という人は、18～29歳が唯一2割を超え最も高くなっている。

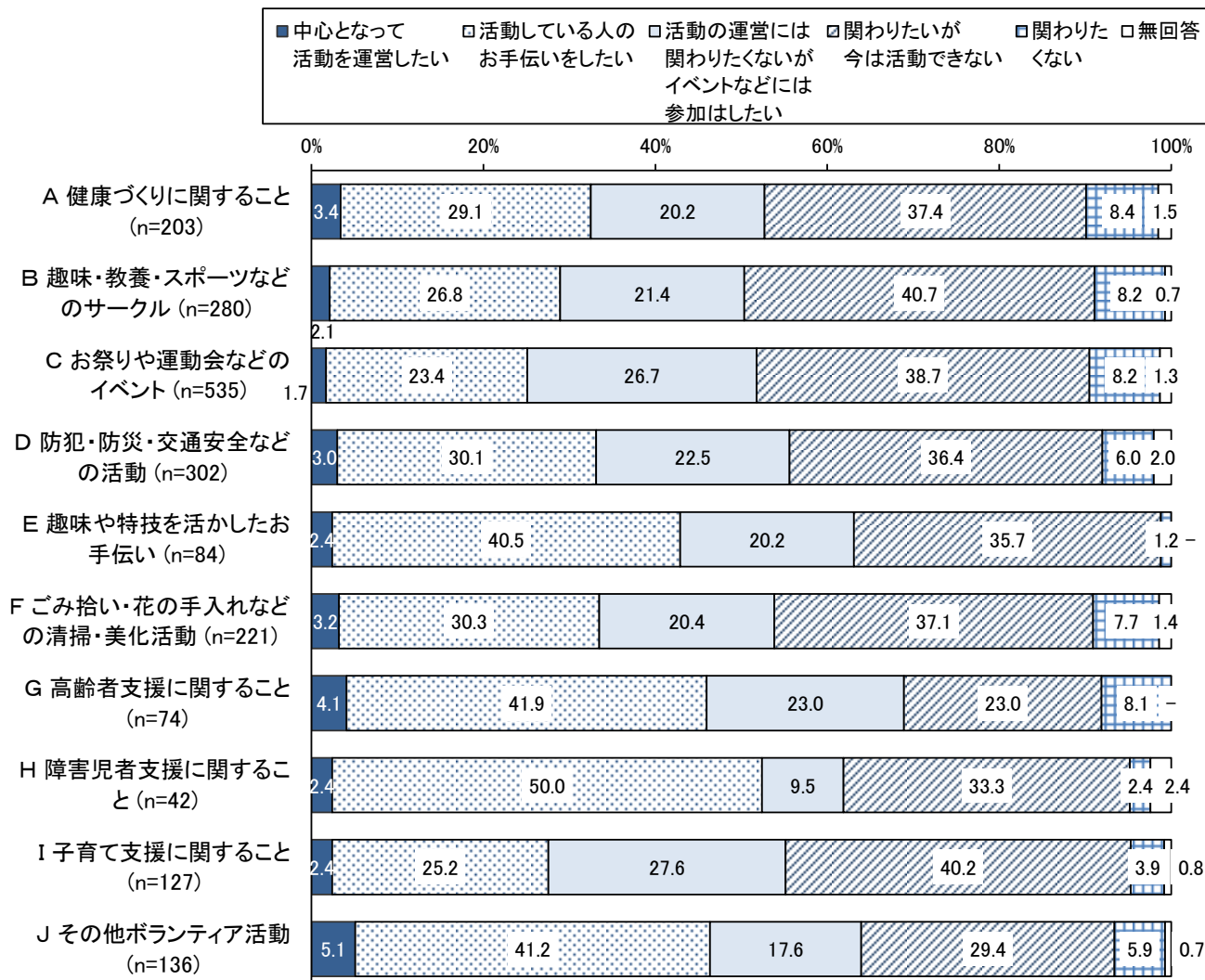
【問 29\_年代別】



「問 29 地域活動に関する考え方」－ 3

地域活動参加経験別にみると、「中心となって活動を運営したい」の割合は『その他ボランティア活動』の参加経験者が最も高く、次いで『高齢者支援に関すること』の参加経験者となっている。「活動している人のお手伝いをしたい」は、『障害児者支援に関すること』の参加経験者が最も高くなっている。

【問 29\_地域活動参加経験別】(A～J 参加経験者での集計結果)

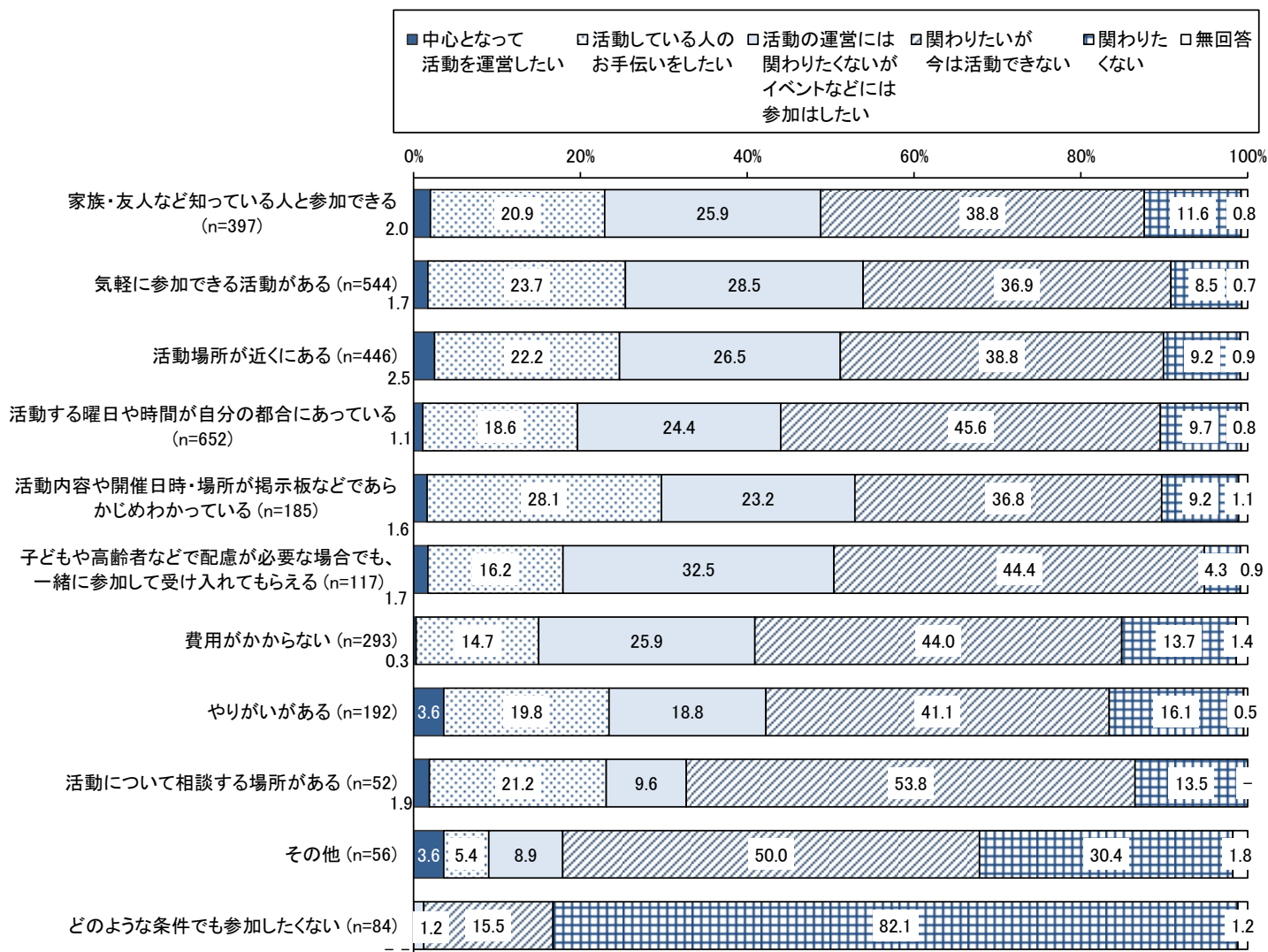


「問 29 地域活動に関する考え方」－ 4

地域活動参加条件別にみると、「中心となって活動を運営したい」の割合は『やりがいがある』『その他※』を参加条件としている人が他属性に比べやや高くなっている。「活動している人のお手伝いをしたい」は、『活動内容や開催日時・場所が掲示板などであらかじめわかっている』が3割近くで最も高く、『気軽に参加できる活動がある』『活動場所が近くにある』『活動について相談する場所がある』『家族・友人など知っている人と参加できる』も2割を超え比較的高くなっている。

※「その他」：“楽しい” “一人でも複数人でも浮かない、居心地の悪くない雰囲気” “他所者を受け入れる素地が必要” など

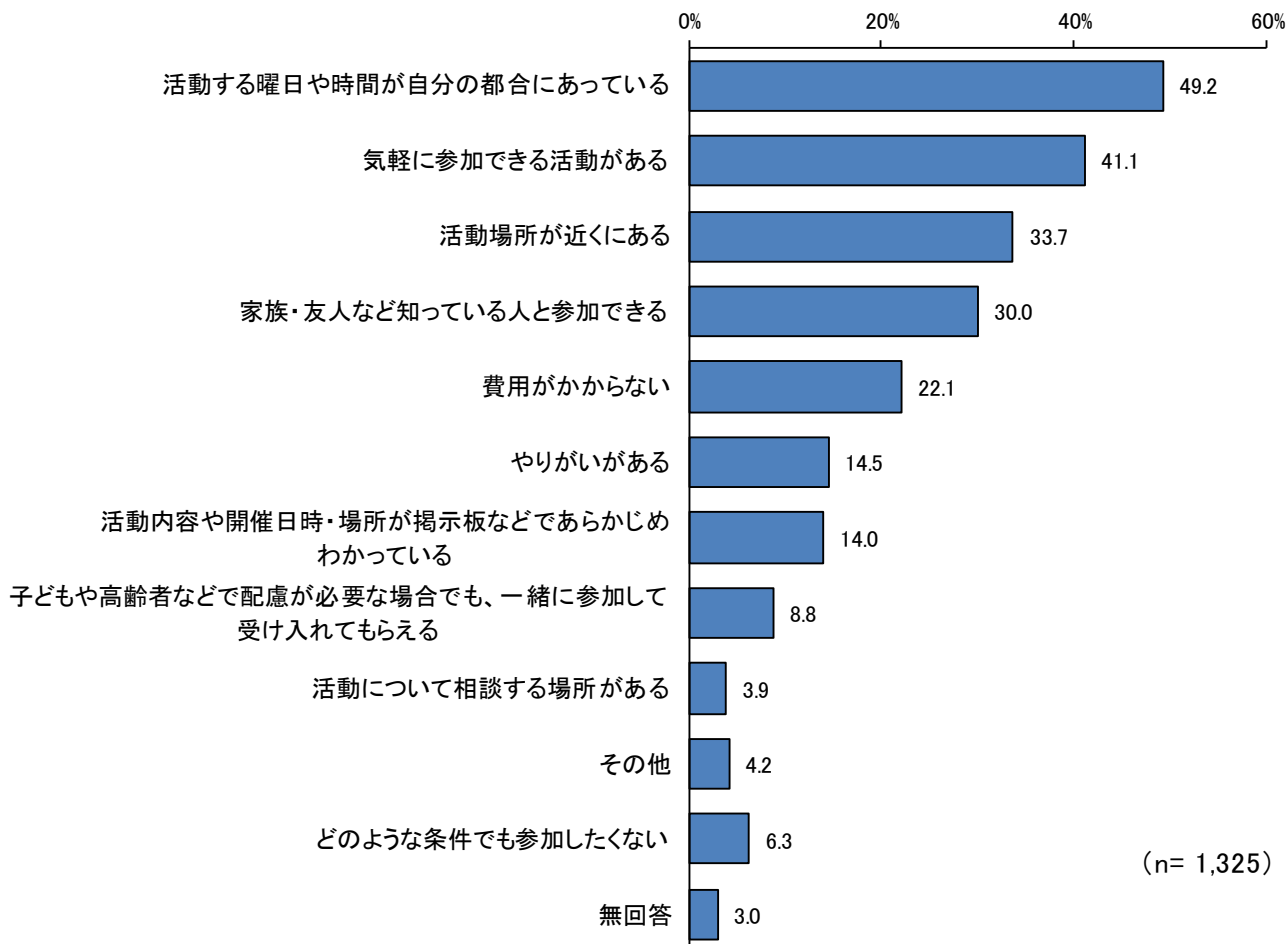
【問 29\_地域活動への参加条件別】





「問 30 地域活動に参加しやすいと思う条件」（3つまで回答）－ 1

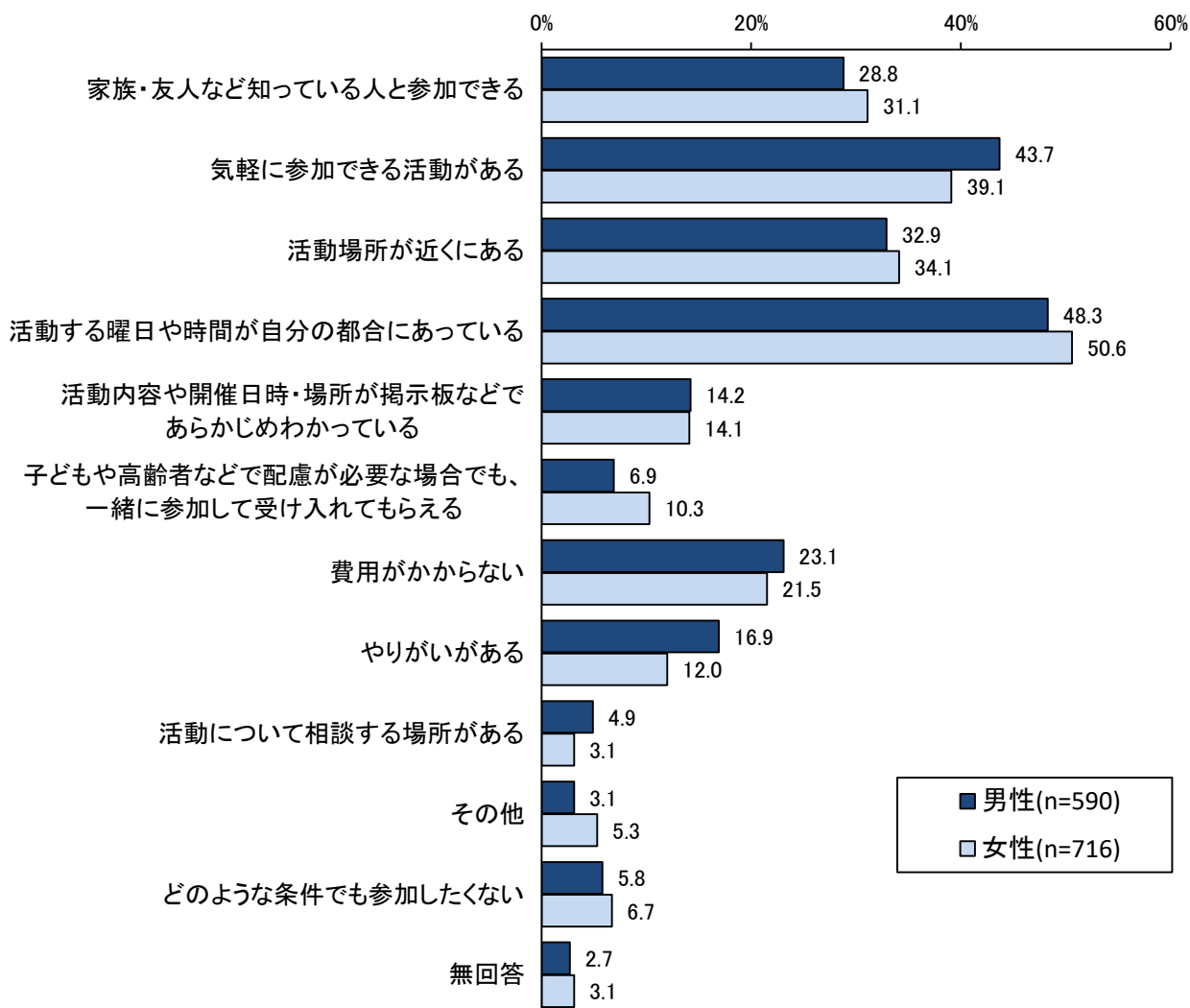
地域活動に参加しやすいと思う条件については、「活動する曜日や時間が自分の都合にあっている」が5割近くで最も高くなっている。次いで、「気軽に参加できる活動がある」が約4割、「活動場所が近くにある」「家族・友人など知っている人と参加できる」が約3割、「費用がかからない」が約2割で続いている。



「問 30 地域活動に参加しやすいと思う条件」（3つまで回答）－ 2

性別にみると、比較的男女間の差が大きいものとしては、「気軽に参加できる活動がある」「やりがいがある」は男性で高く、「子どもや高齢者などで配慮が必要な場合でも、一緒に参加して受け入れてもらえる」は女性で高くなっている。

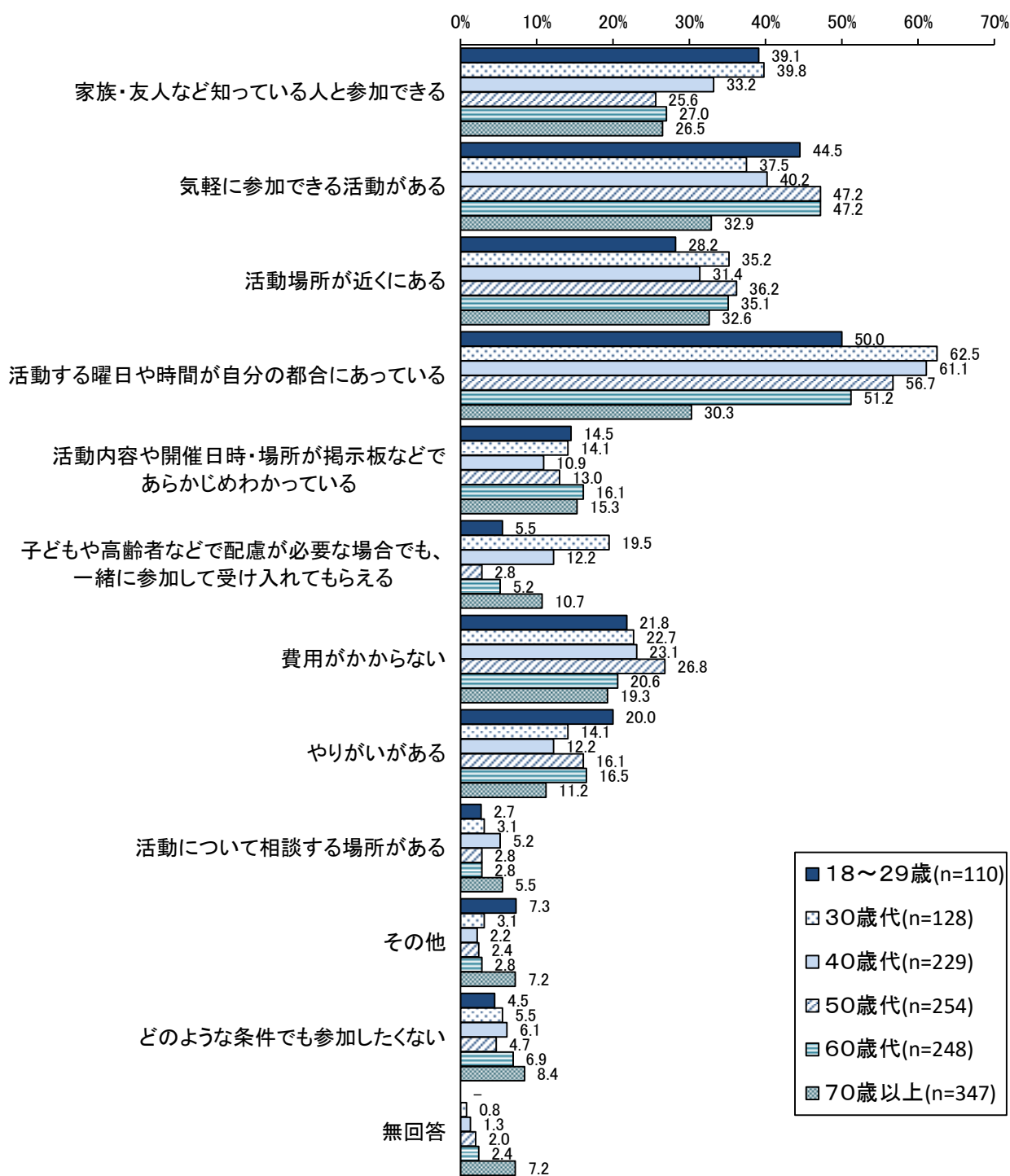
【問 30\_性別】



「問 30 地域活動に参加しやすいと思う条件」（3つまで回答）－ 3

年代別にみると、「活動する曜日や時間が自分の都合にあっている」は30歳代・40歳代で6割を超え高くなっている。「気軽に参加できる活動がある」は50歳代・60歳代で、「家族・友人など知っている人と参加できる」は18～29歳・30歳代でやや高くなっている。「やりがいがある」を条件とする人は18～29歳が最も高くなっている。

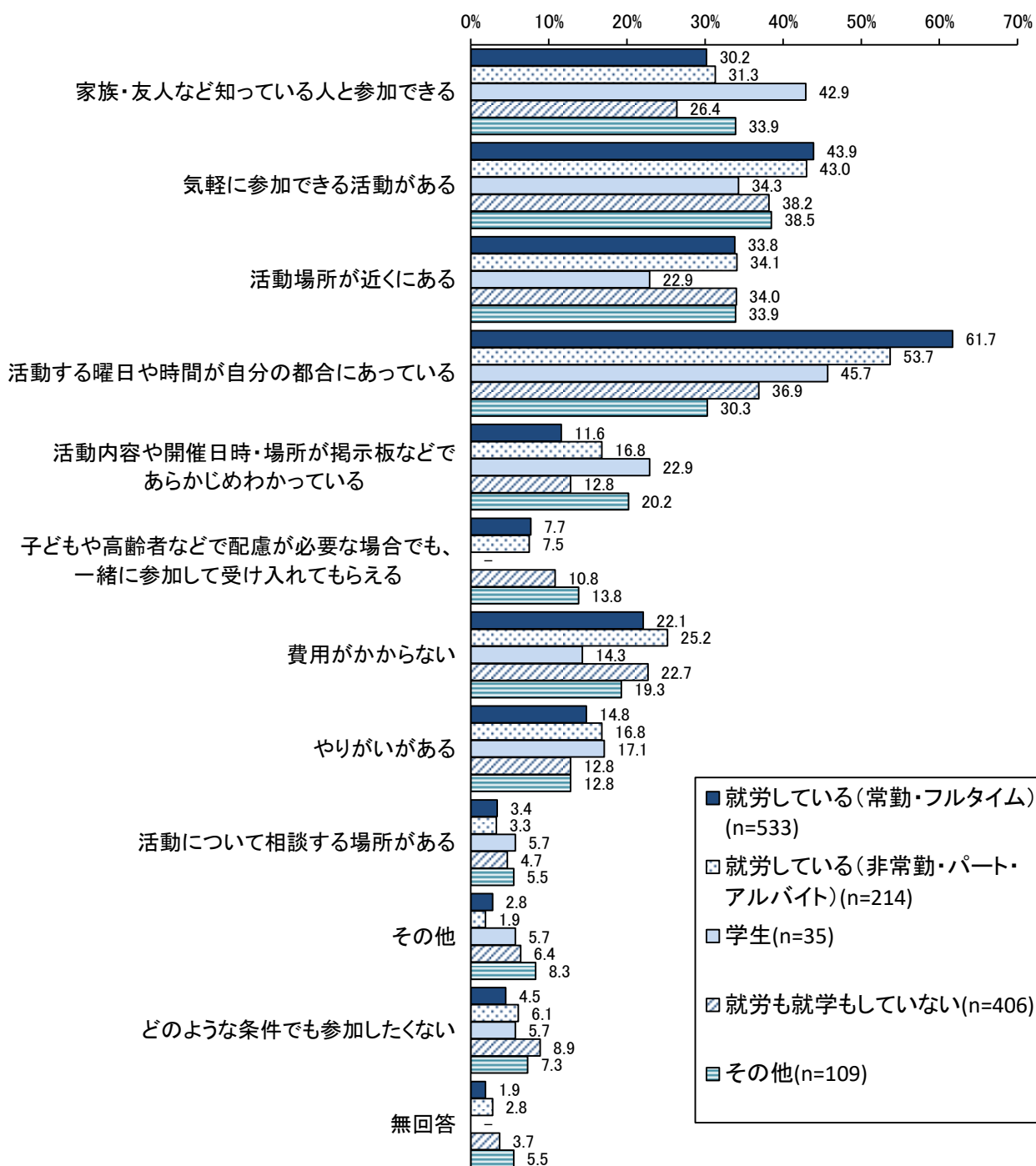
【問 30\_年代別】



「問 30 地域活動に参加しやすいと思う条件」（3つまで回答）－ 4

就労・就学状況別にみると、「活動する曜日や時間が自分の都合にあっている」は『就労している（常勤・フルタイム）』で6割を超え最も高くなっている。「気軽に参加できる活動がある」は、『就労している（常勤・フルタイム）』『就労している（非常勤・パート・アルバイト）』で高く、「家族・友人など知っている人と参加できる」は『学生』で最も高くなっている。

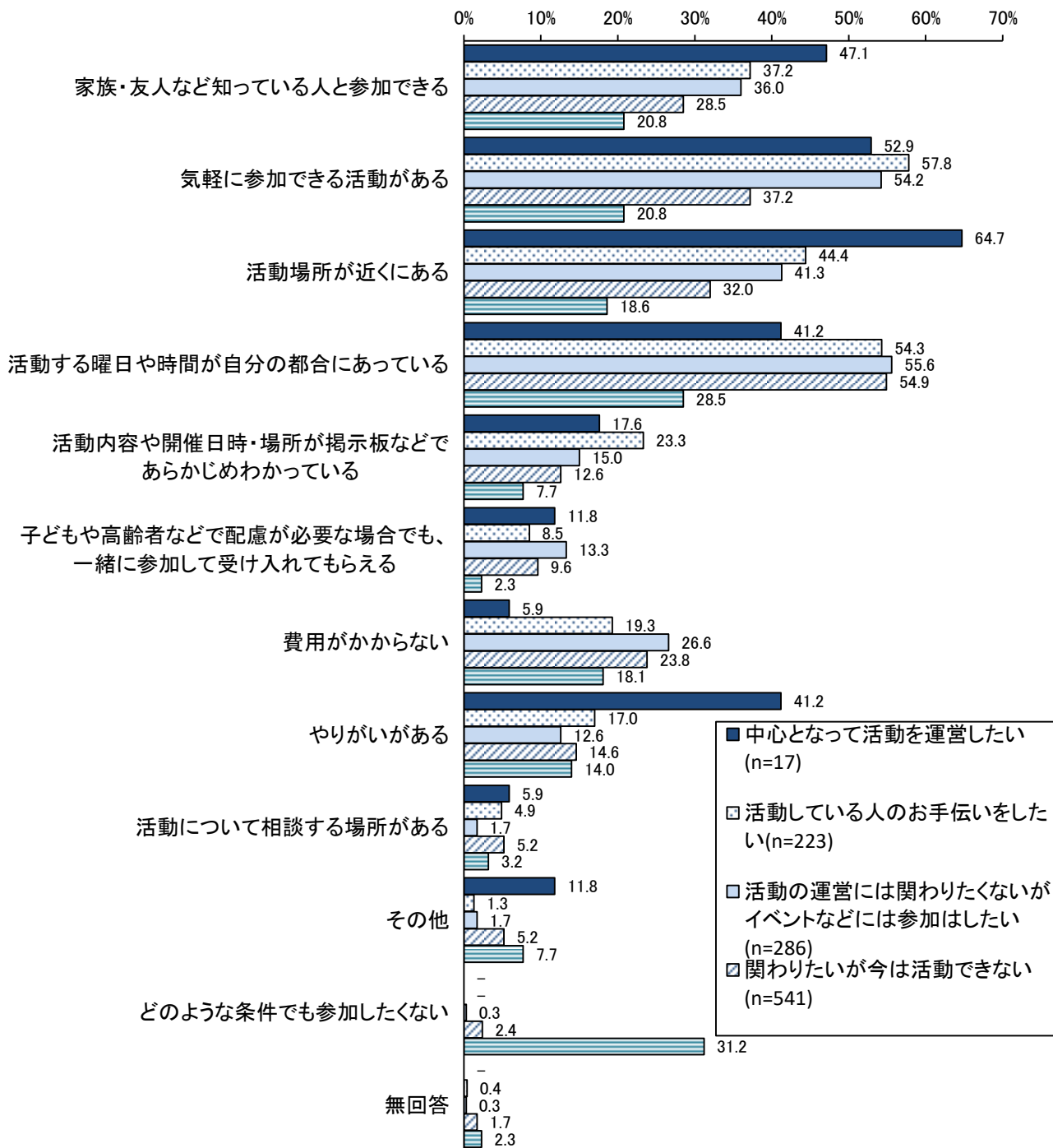
【問 30\_就労・就学状況別】



「問 30 地域活動に参加しやすいと思う条件」（3つまで回答）－ 5

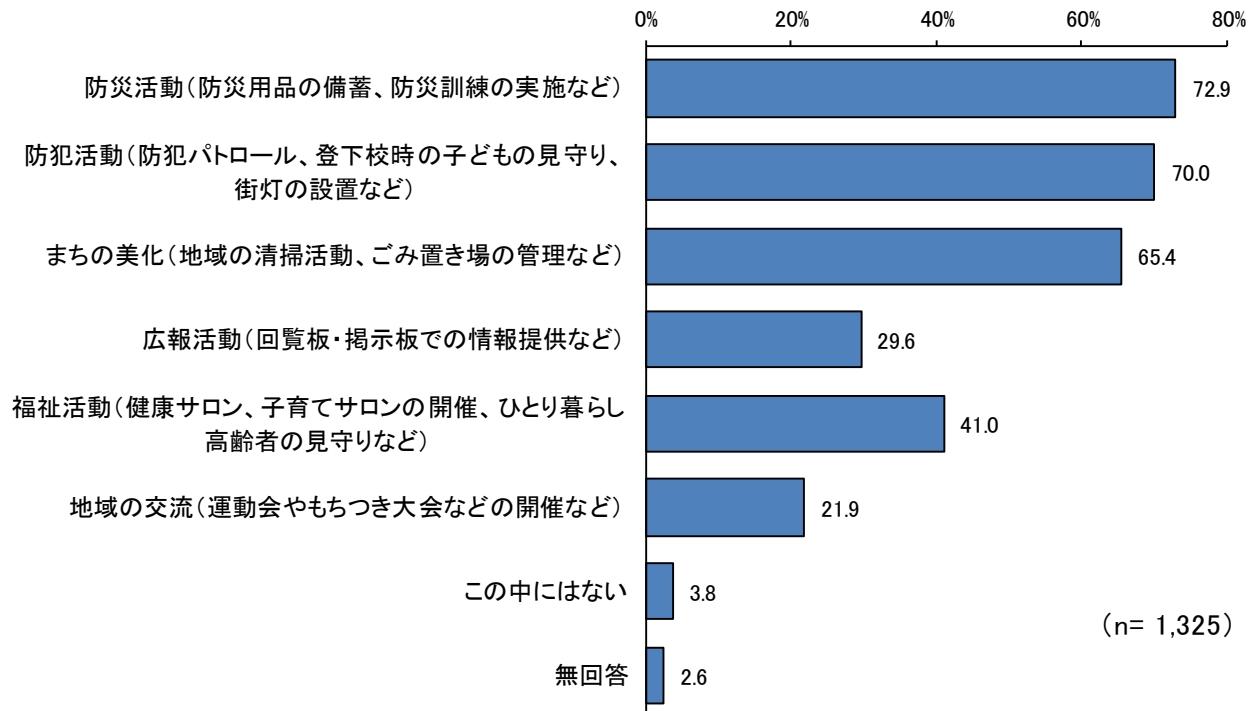
地域活動に関する考え方別にみると、『中心となって活動を運営したい』という人は、「やりがいがある」が特に他の属性に比べ突出して高くなっている。そのほか、「活動場所が近くにある」「家族・友人など知っている人と参加できる」も他の属性に比べ高い。

【問 30\_地域活動に関する考え方別】



「問 31 なくてはならないと思う地域活動」(複数回答) - 1

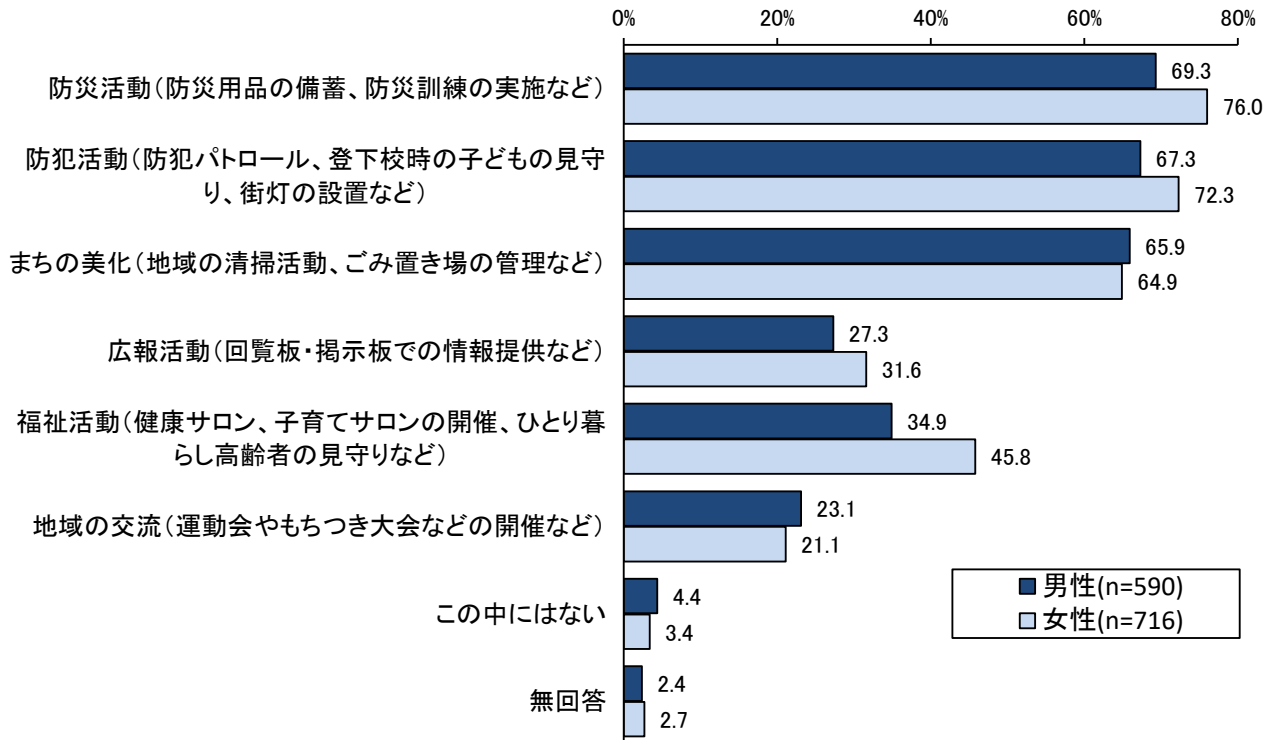
区民の生活になくてはならないと思う地域活動を尋ねたところ、「防災活動(防災用品の備蓄、防災訓練の実施など)」が7割強、「防犯活動(防犯パトロール、登下校時の子どもの見守り、街灯の設置など)」が7割、「まちの美化(地域の清掃活動、ごみ置き場の管理など)」が6割半ばと高くなっている。



「問 31 なくてはならないと思う地域活動」(複数回答) - 2

性別にみると、「福祉活動(健康サロン、子育てサロンの開催、ひとり暮らし高齢者の見守りなど)」で女性が高くなっているのが目立つ。そのほか、「防災活動(防災用品の備蓄、防災訓練の実施など)」「防犯活動(防犯パトロール、登下校時の子どもの見守り、街灯の設置など)」「広報活動(回覧板・掲示板での情報提供など)」も女性の方が男性より高くなっている。

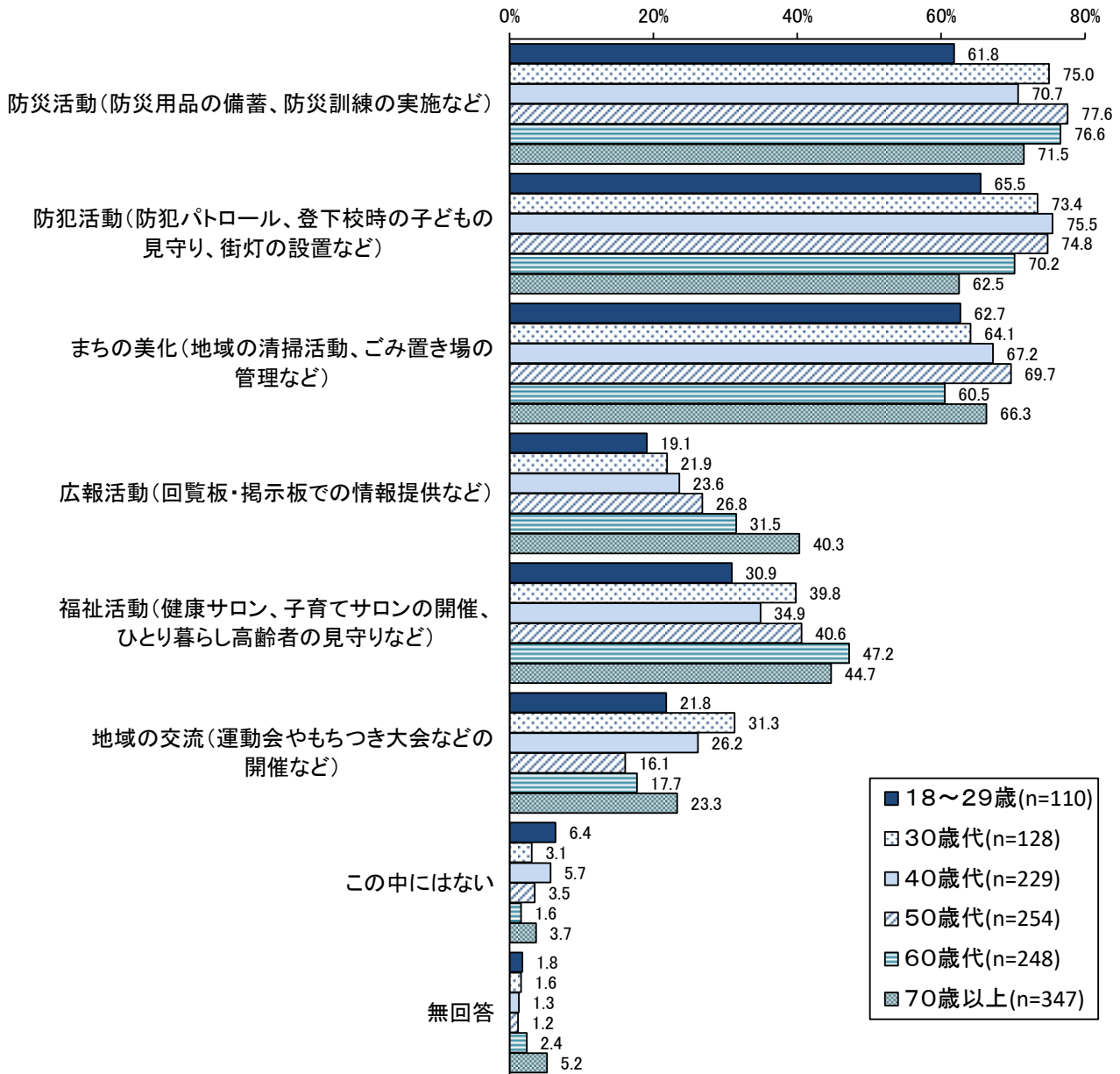
【問 31\_性別】



「問 31 なくてはならないと思う地域活動」(複数回答) - 3

年代別にみると、「広報活動(回覧板・掲示板での情報提供など)」は年代が上がるにつれ割合も高い傾向となっている。「地域の交流(運動会やもちつき大会などの開催など)」は、30歳代が唯一3割を超え最も高くなっている。

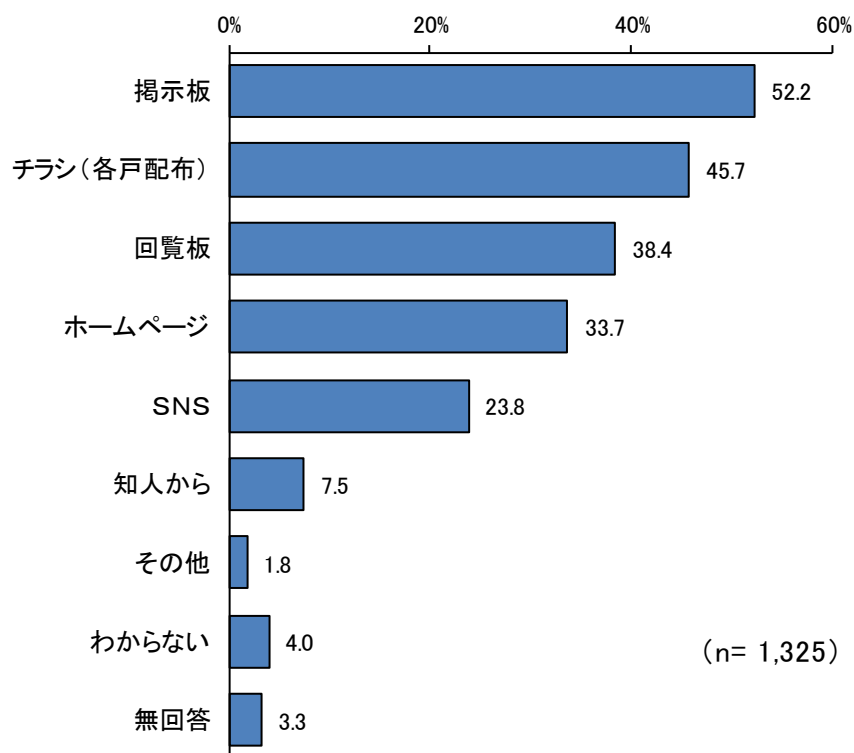
【問 31\_年代別】





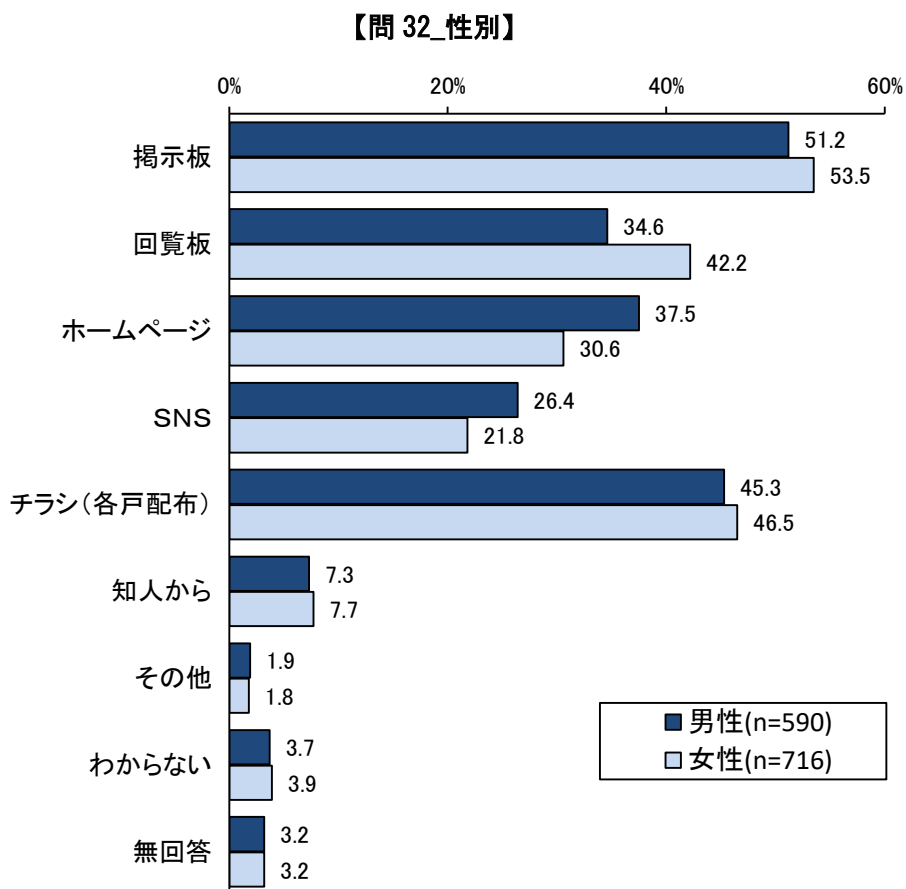
「問 32 地域活動の情報を何から入手できると良いか」（複数回答）－ 1

地域活動の情報を何から入手できると良いか尋ねたところ、「掲示板」が5割を超え最も高く、次いで「チラシ（各戸配布）」が4割半ばとなっている。以下、「回覧板」「ホームページ」が3割台、「SNS」が2割強で続いている。



「問 32 地域活動の情報を何から入手できると良いか」（複数回答）－ 2

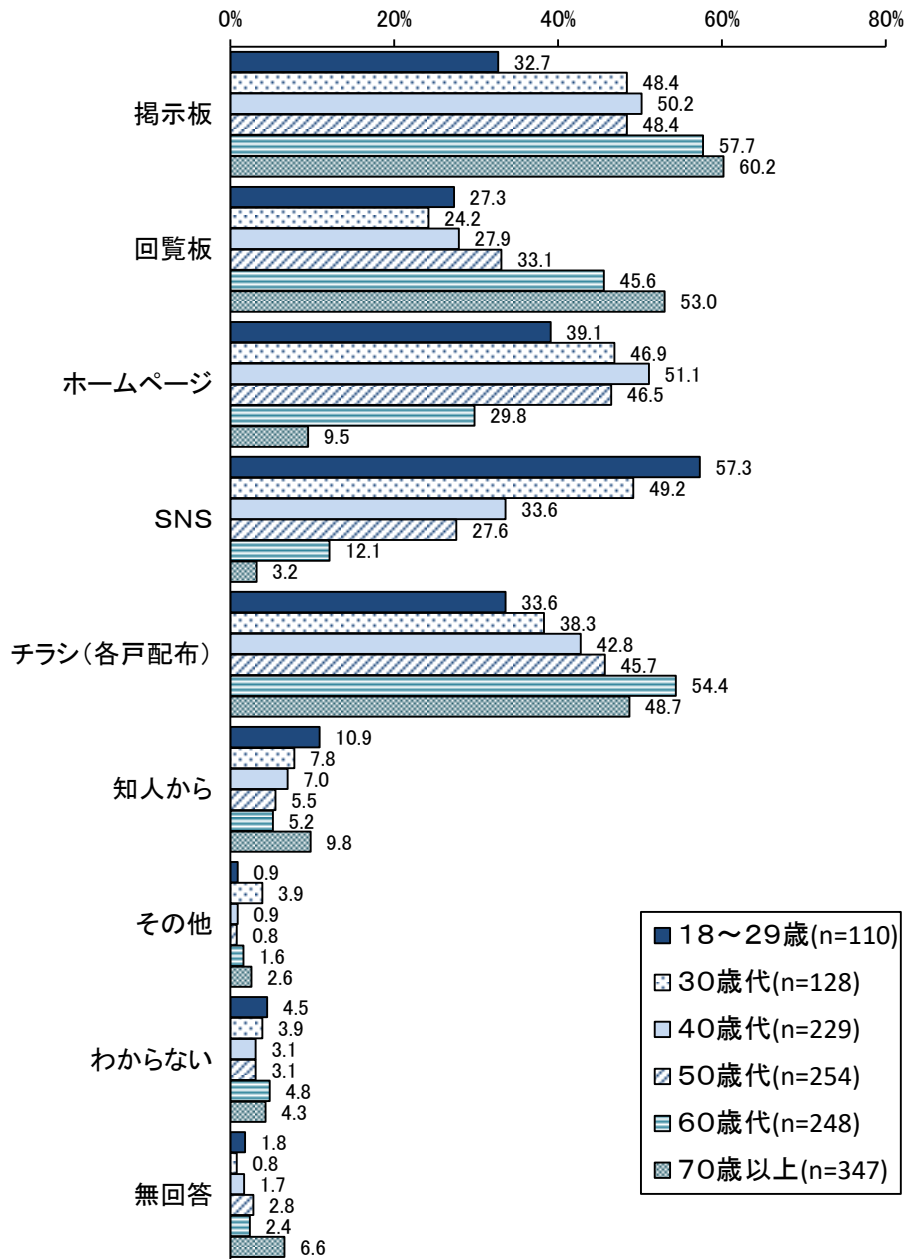
性別にみると、「回覧板」は女性で高く、「ホームページ」「SNS」は男性で高くなっている。そのほかの項目は大きな差がみられない。



「問 32 地域活動の情報を何から入手できると良いか」（複数回答）－ 3

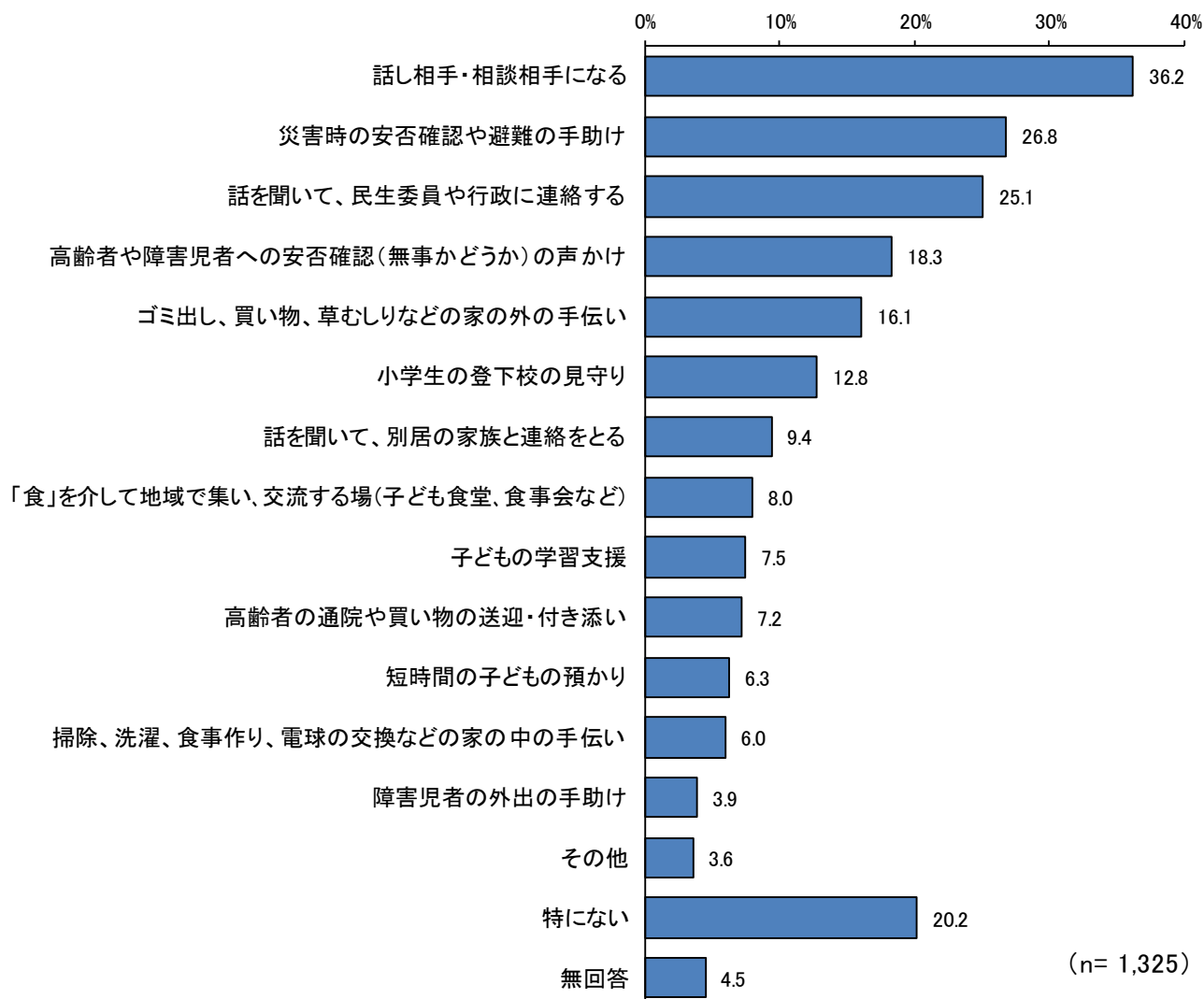
年代別にみると、「掲示板」「回覧板」「チラシ（各戸配布）」はおおむね高齢層の方が割合が高く、若年層では低い。中でも、「掲示板」で18～29歳が約3割と**特に低く**なっているのが目立つ。一方、「SNS」は若い年代ほど割合が高く、18～29歳では6割近くにのぼっている。

【問 32\_年代別】



「問 33 隣近所の困っている方にどのような手助けができるか」（複数回答）－ 1

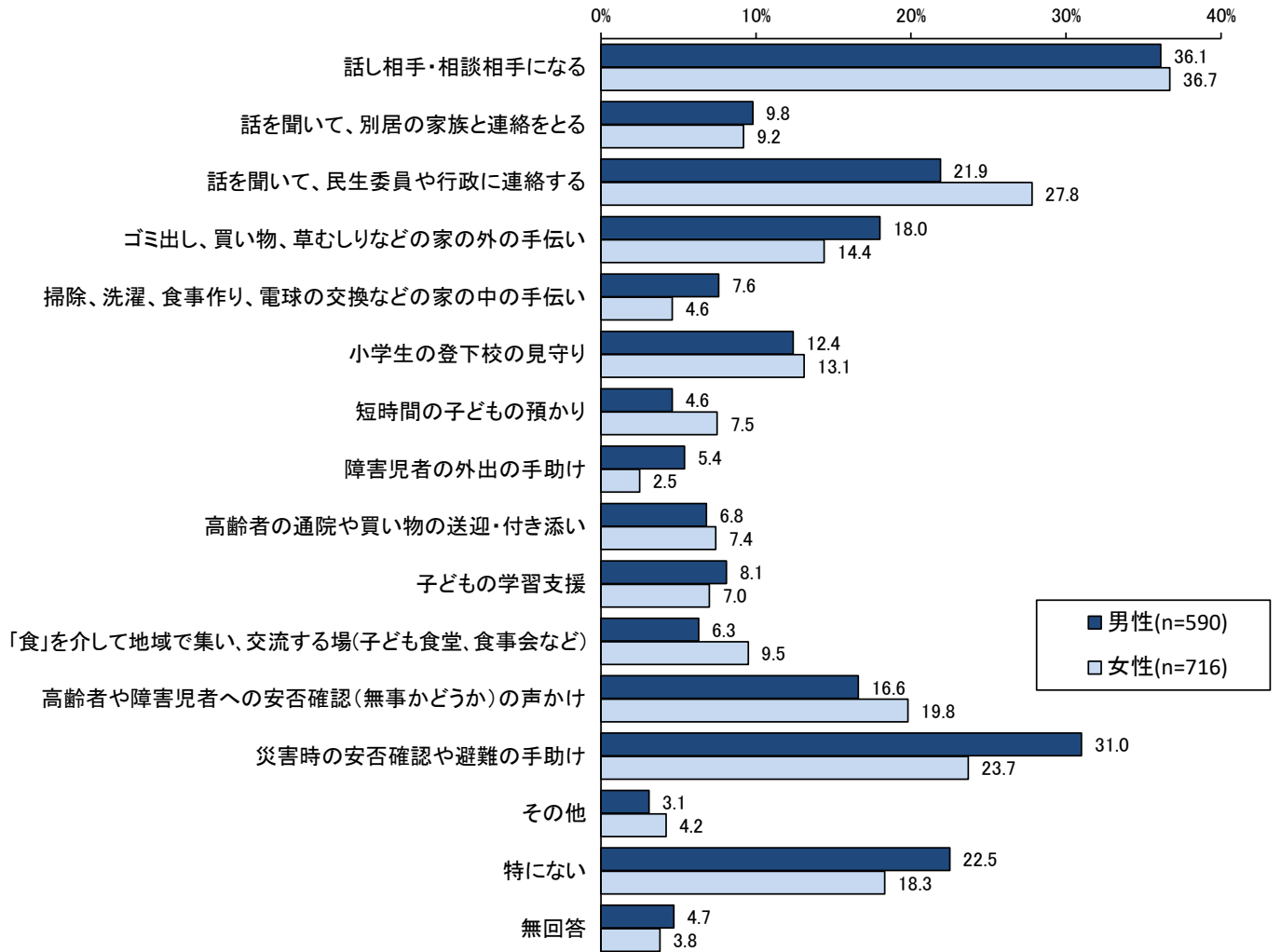
隣近所の困っている方にどのような手助けができるかを尋ねたところ、「話し相手・相談相手になる」が3割半ばで最も高く、次いで「災害時の安否確認や避難の手助け」「話を聞いて、民生委員や行政に連絡する」が2割半ばとなっている。なお、「特にない」という人は約2割となっている。



「問 33 隣近所の困っている方にどのような手助けができるか」（複数回答）－ 2

性別にみると、「話を聞いて、民生委員や行政に連絡する」は女性で高く、「災害時の安否確認や避難の手助け」は男性で高くなっており、この2項目で比較的男女の差が大きくなっている。なお、「特にない」は男性の方が高くなっている。

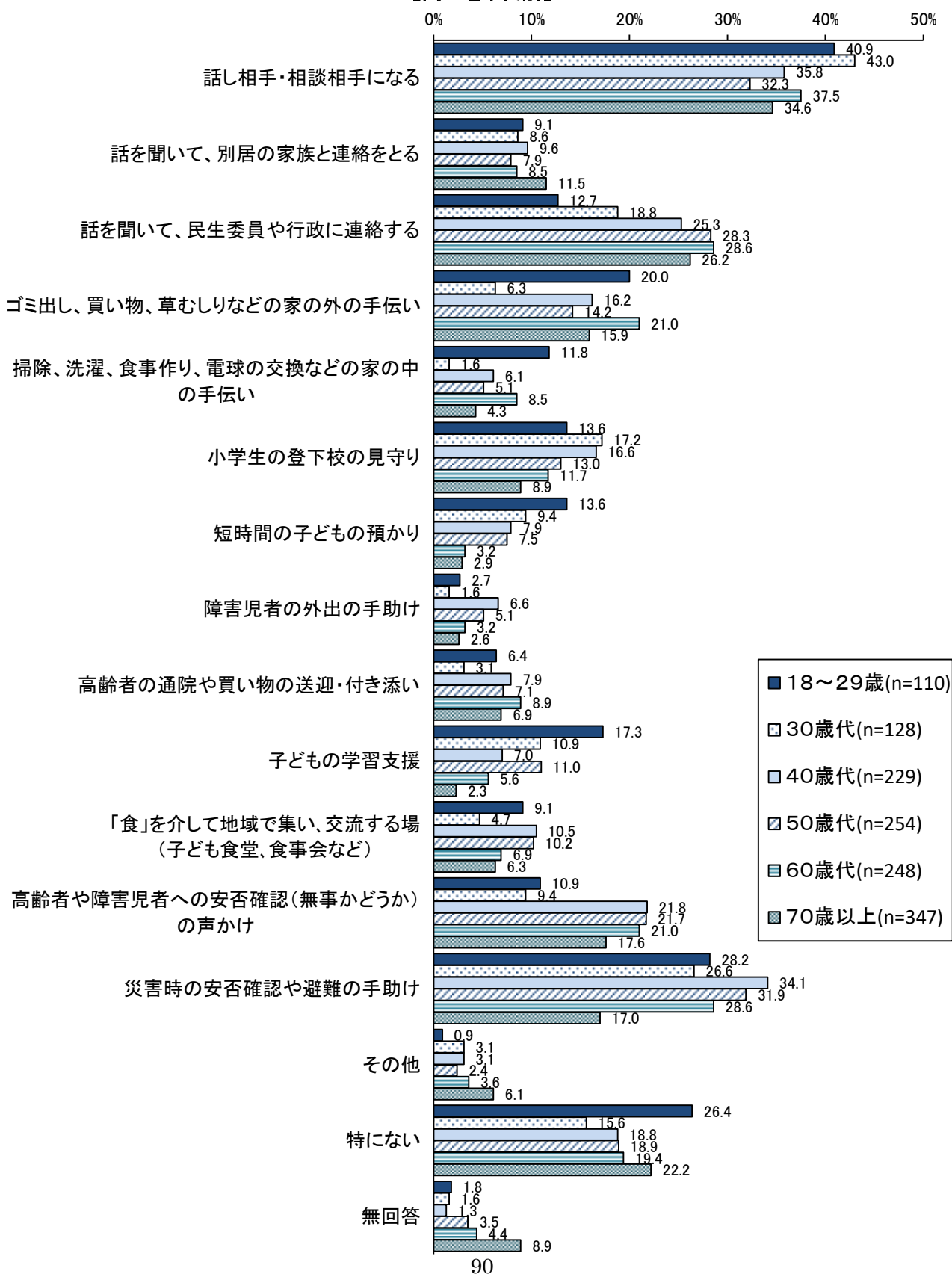
【問 33\_性別】



「問 33 隣近所の困っている方にどのような手助けができるか」（複数回答）－ 3

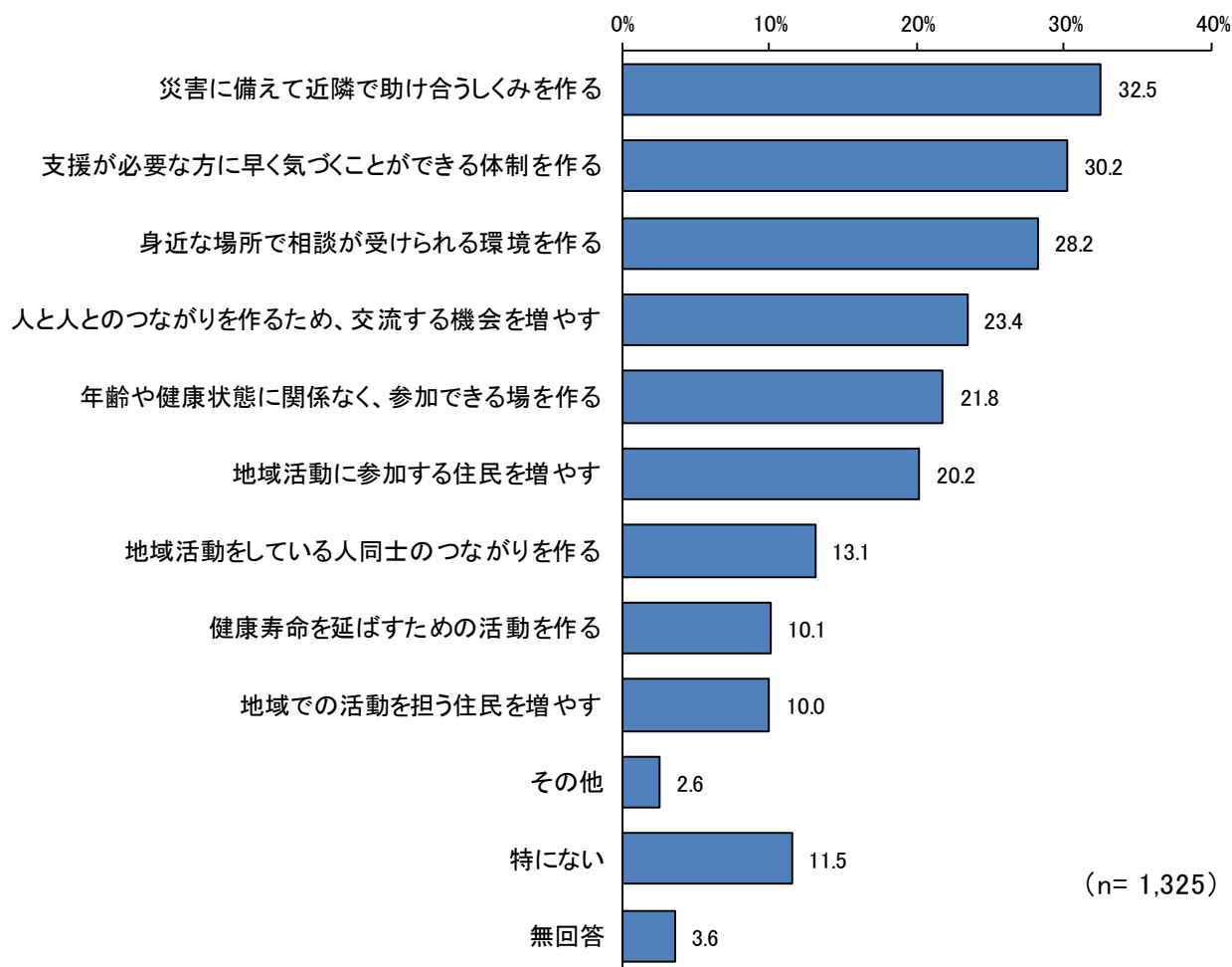
年代別にみると、「話を聞いて、民生委員や行政に連絡する」は若年層で低く、50歳代・60歳代で3割近くと高くなっている。一方、18～29歳が他年代より割合の高い項目も多くみられ、「子どもの学習支援」「短時間の子どもの預かり」「掃除、洗濯、食事作り、電球の交換などの家の中の手伝い」は最も高く、「話し相手・相談相手になる」は約4割で30歳代に次いで高くなっている。

【問 33\_年代別】



「問 34 地域が住みやすくなるために特に必要だと考える取組」（3つまで回答）－ 1

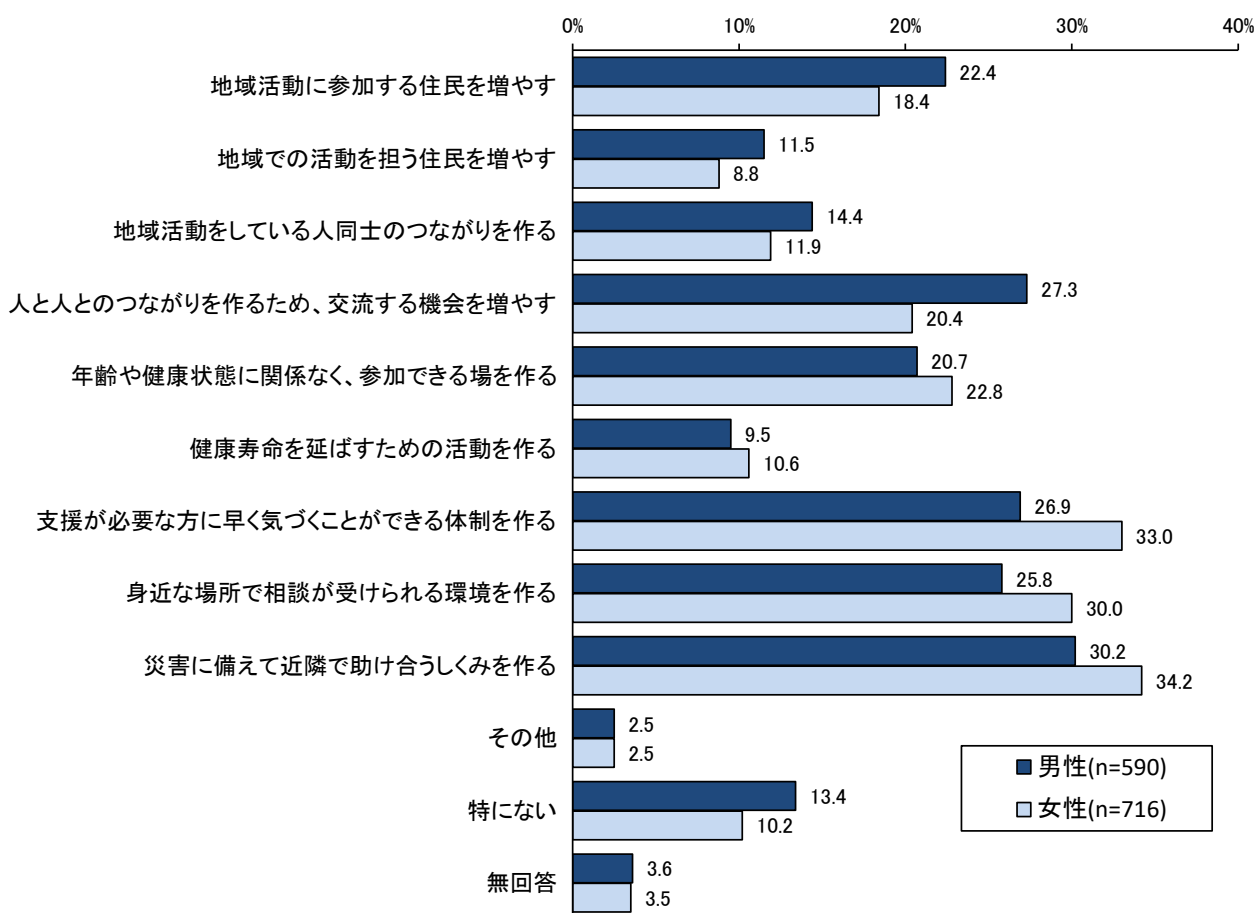
地域が住みやすくなるために特に必要だと考える取組については、「災害に備えて近隣で助け合うしくみを作る」が3割強で最も高く、次いで「支援が必要な方に早く気づくことができる体制を作る」「身近な場所で相談が受けられる環境を作る」が3割前後となっている。以下、「人と人とのつながりを作るため、交流する機会を増やす」「年齢や健康状態に関係なく、参加できる場を作る」「地域活動に参加する住民を増やす」がそれぞれ2割強で続いている。



「問 34 地域が住みやすくなるために特に必要だと考える取組」（3つまで回答）－ 2

性別にみると、「災害に備えて近隣で助け合うしくみを作る」「支援が必要な方に早く気づくことができる体制を作る」「身近な場所で相談が受けられる環境を作る」の上位3項目は、女性の方が高くなっている。男性の方が高い項目は、「人と人とのつながりを作るため、交流する機会を増やす」「地域活動に参加する住民を増やす」などとなっている。

【問 34\_性別】

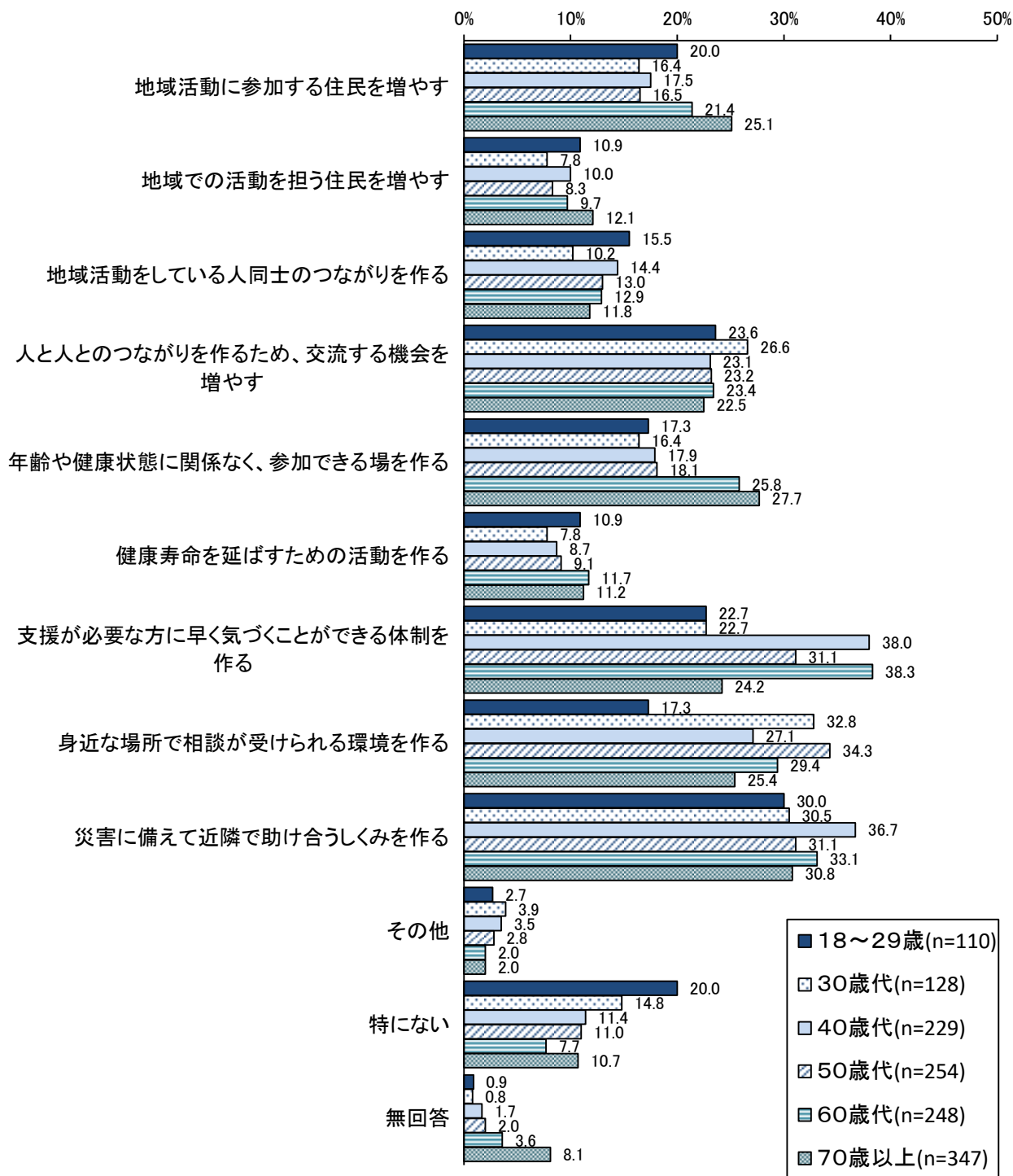




「問 34 地域が住みやすくなるために特に必要だと考える取組」（3つまで回答） - 3

年代別にみると、「災害に備えて近隣で助け合うしくみを作る」は40歳代で最も高くなっている。「人と人とのつながりを作るため、交流する機会を増やす」は30歳代で最も高く、「年齢や健康状態に関係なく、参加できる場を作る」は60歳代・70歳以上の高齢層で高くなっている。

【問 34\_年代別】

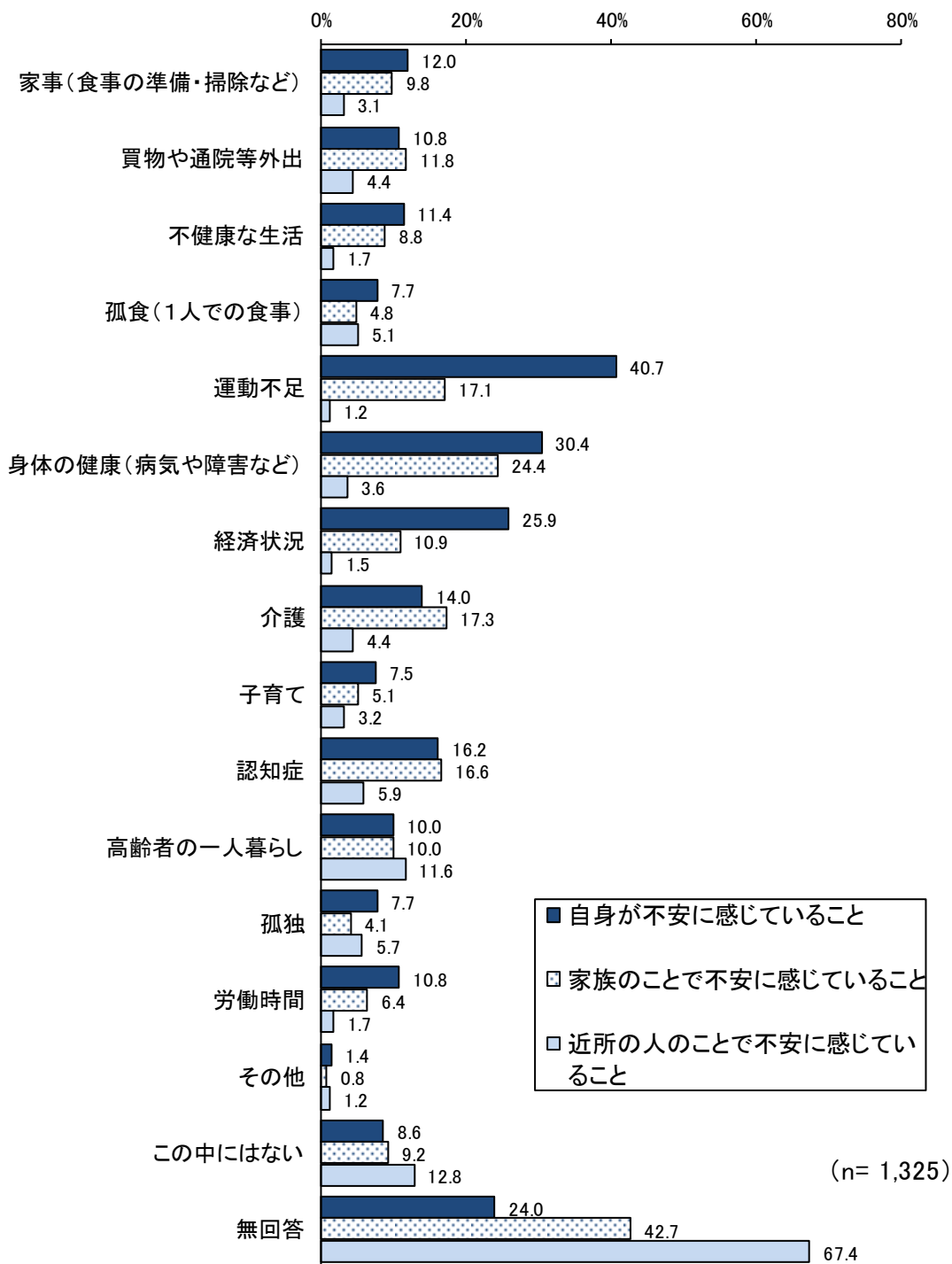


「問 35 不安に感じていること」(複数回答) - 1

自身が不安に感じていることについては、「運動不足」が最も高く、次いで「身体の健康(病気や障害など)」「経済状況」の順となっている。

家族のことで不安に感じていることについては、「身体の健康(病気や障害など)」が最も高く、次いで「介護」「運動不足」「認知症」と続いている。

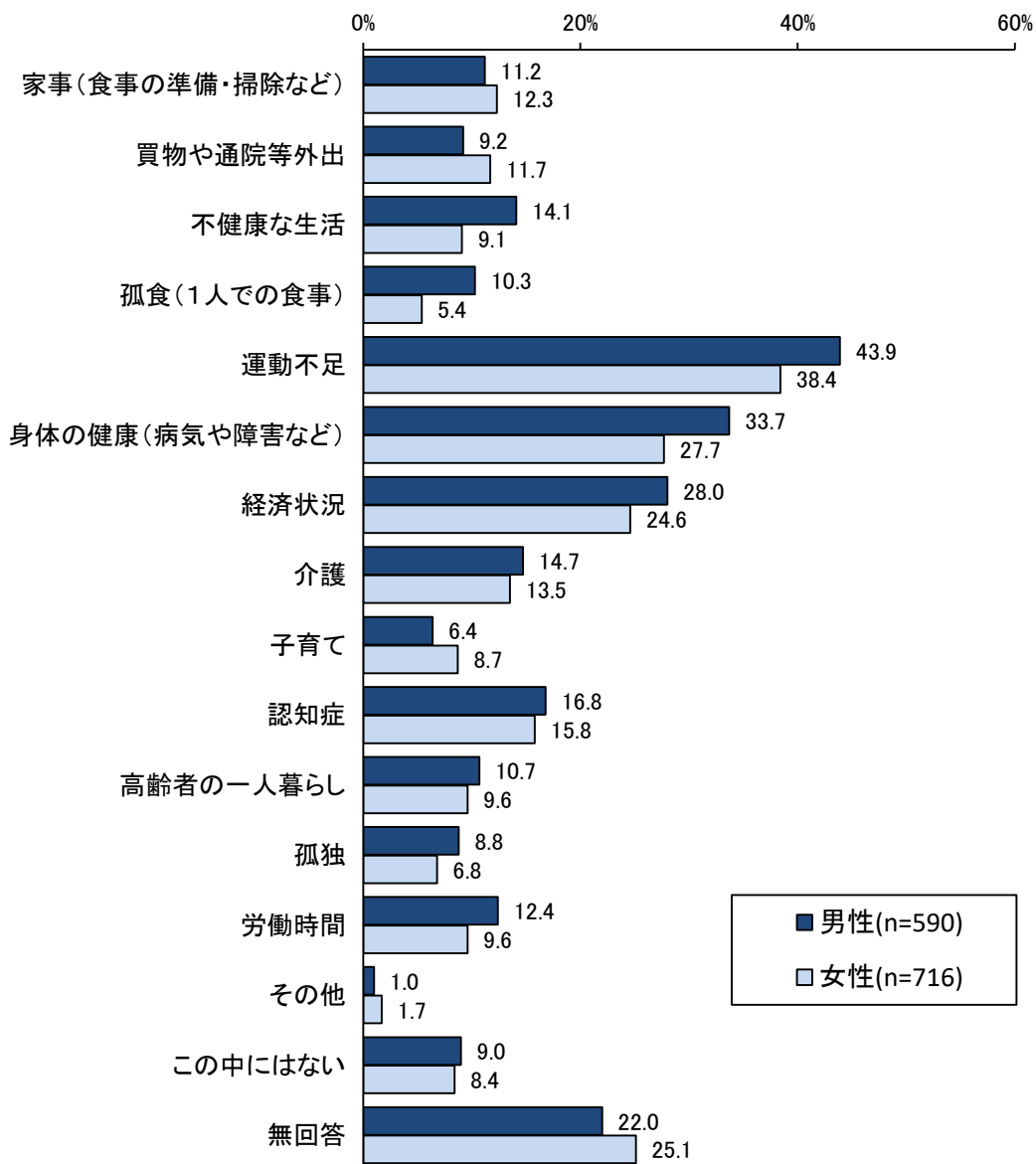
近所の人々のことで不安に感じていることについては、「この中にはない」が最も高く、次いで「高齢者の一人暮らし」「認知症」などとなっている。



「問 35 不安に感じていること」(複数回答) - 2

自身が不安に感じていることを性別にみると、「運動不足」「身体の健康(病気や障害など)」「経済状況」「不健康な生活」など、男性の方が割合の高い項目が多くなっている。一方、「買物や通院等外出」「子育て」は女性の方がやや高くなっている。

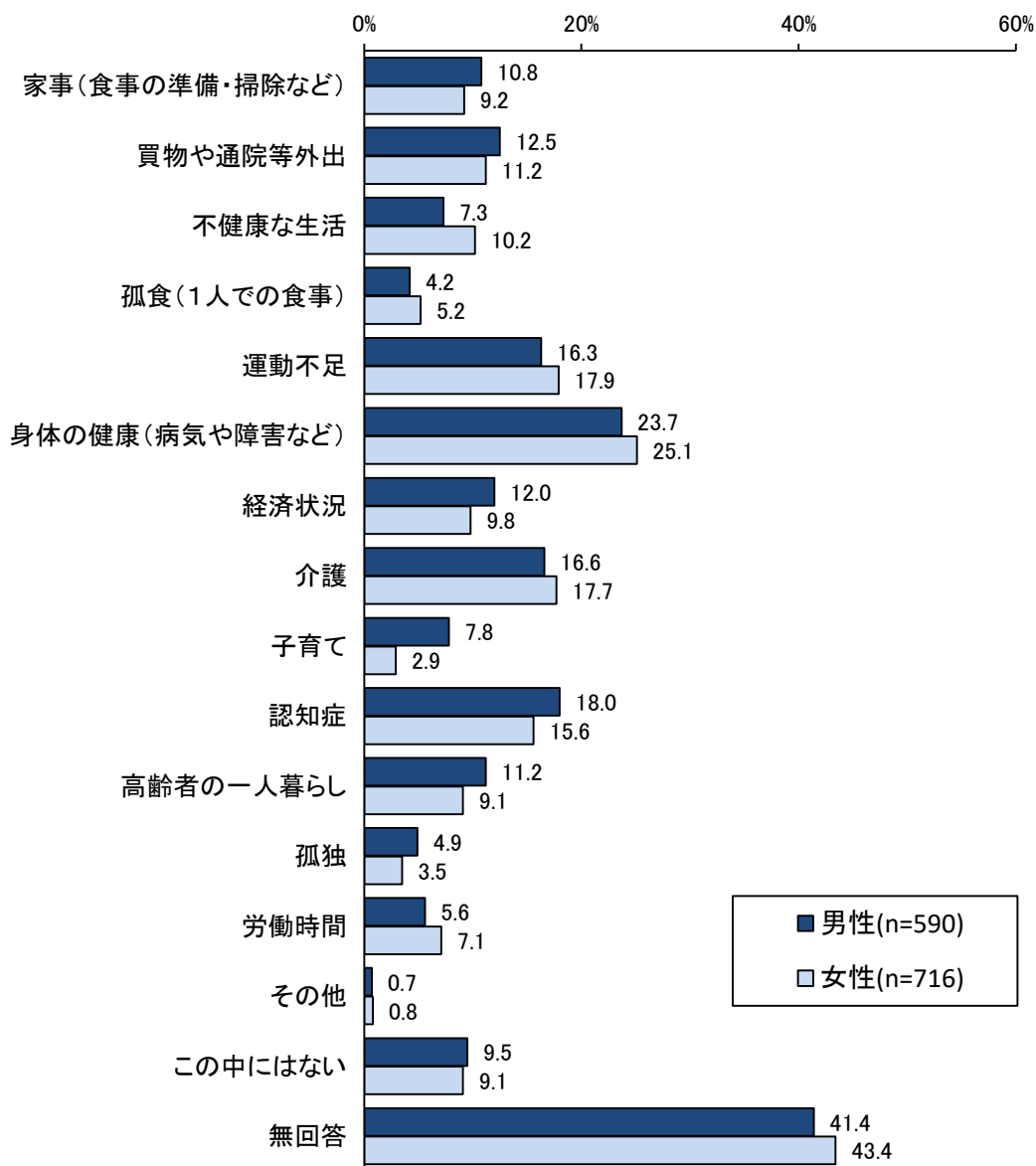
【問 35A 自身が不安に感じていること\_性別】



「問 35 不安に感じていること」(複数回答) - 3

家族のことで不安に感じていることを性別にみると、「認知症」「経済状況」「高齢者の一人暮らし」「子育て」で男性の方が高く、「不健康な生活」では女性の方が高くなっている。

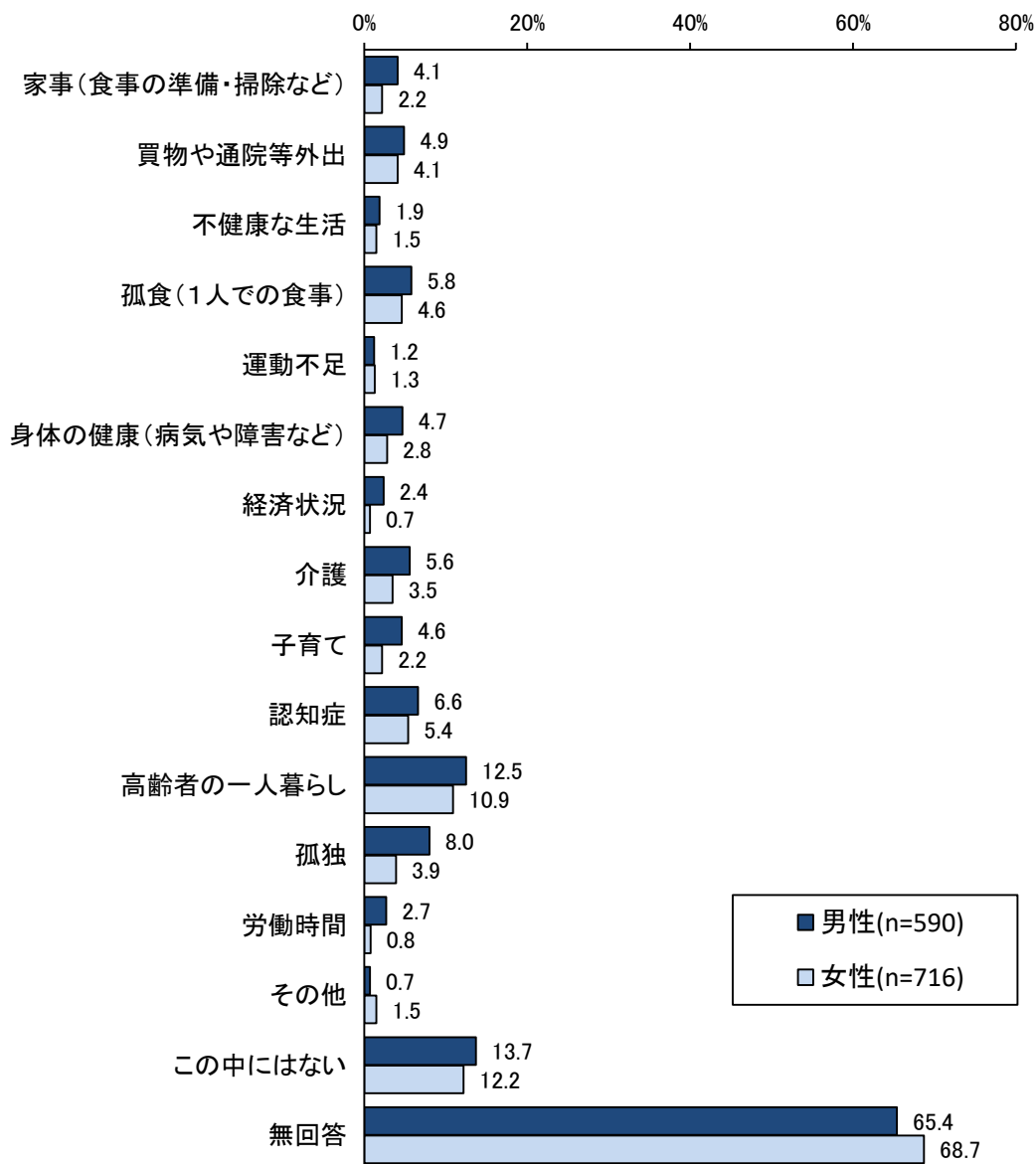
【問 35B 家族のことで不安に感じていること\_性別】



「問 35 不安に感じていること」(複数回答) - 4

近所の人のごことで不安に感じていることを性別にみると、「孤独」で男性の方が割合が高くなっている。そのほか、「介護」「身体の健康(病気や障害など)」など男性の方が若干高くなっているものが多い。

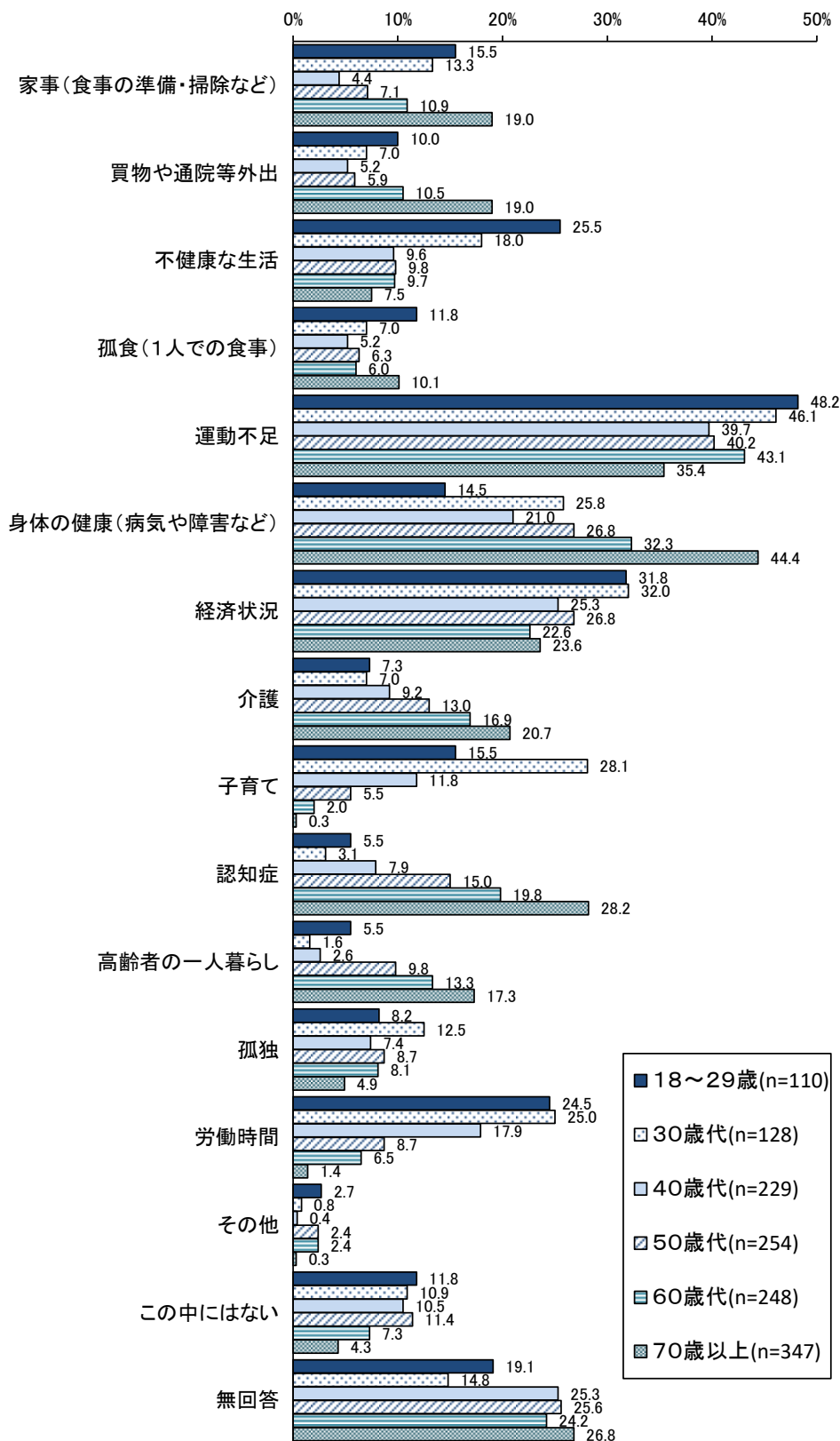
【問 35C 近所の人のごことで不安に感じていること\_性別】



「問 35 不安に感じていること」(複数回答) - 5

自身が不安に感じていることを年代別にみると、「運動不足」は18～29歳で最も高く、次いで30歳代、60歳代の順となっている。「身体の健康(病気や障害など)」は70歳以上、「子育て」は30歳代が最も高い。また、「不健康な生活」は18～29歳、「労働時間」は18～29歳・30歳代が他年代に比べ高くなっている。

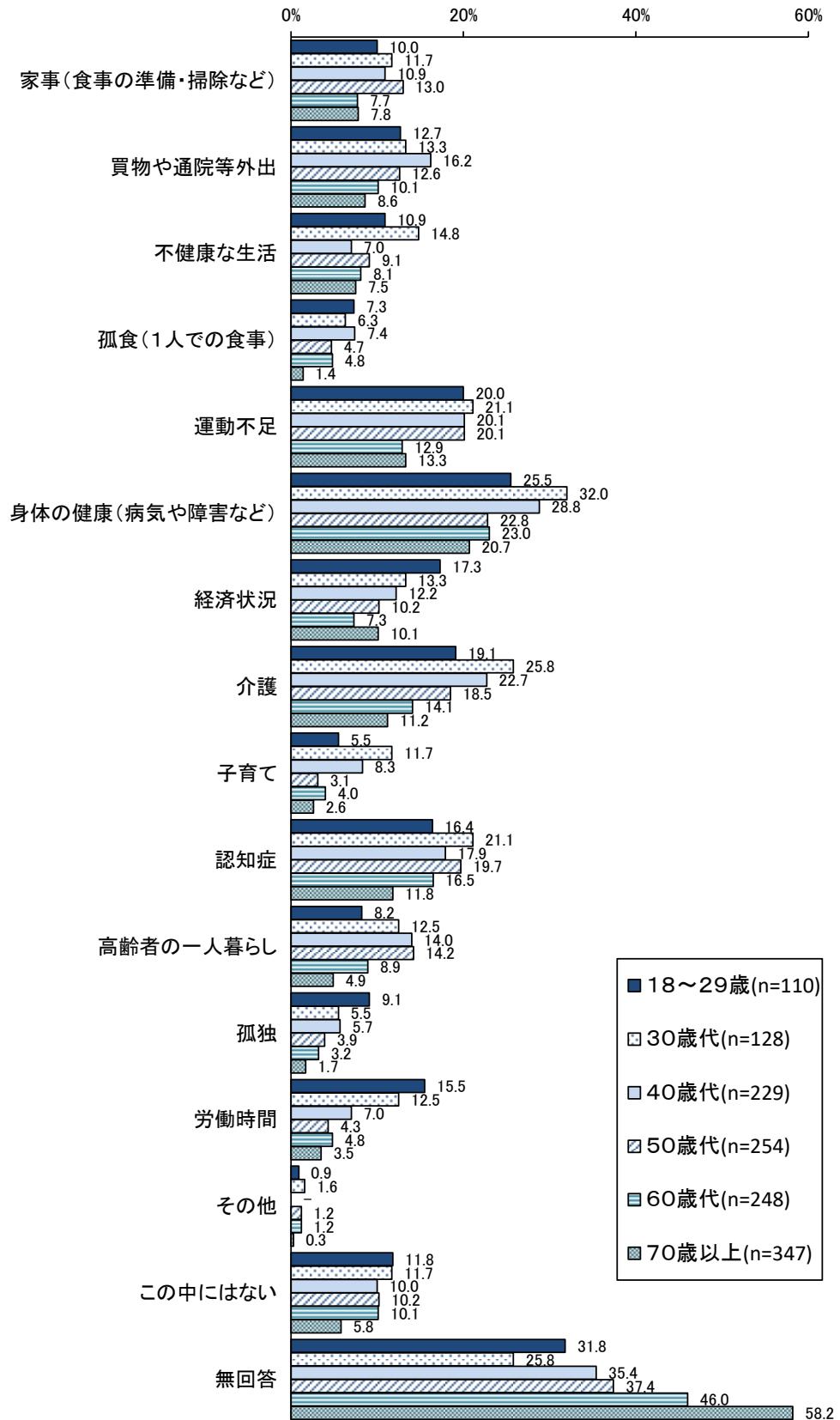
【問 35A 自身が不安に感じていること\_年代別】



「問 35 不安に感じていること」(複数回答) - 6

家族のことで不安に感じていることを年代別にみると、「身体の健康(病気や障害など)」「介護」「認知症」「運動不足」「不健康な生活」「子育て」の6項目で30歳代が最も高くなっている。「労働時間」「孤独」は18~29歳が最も高くなっている。

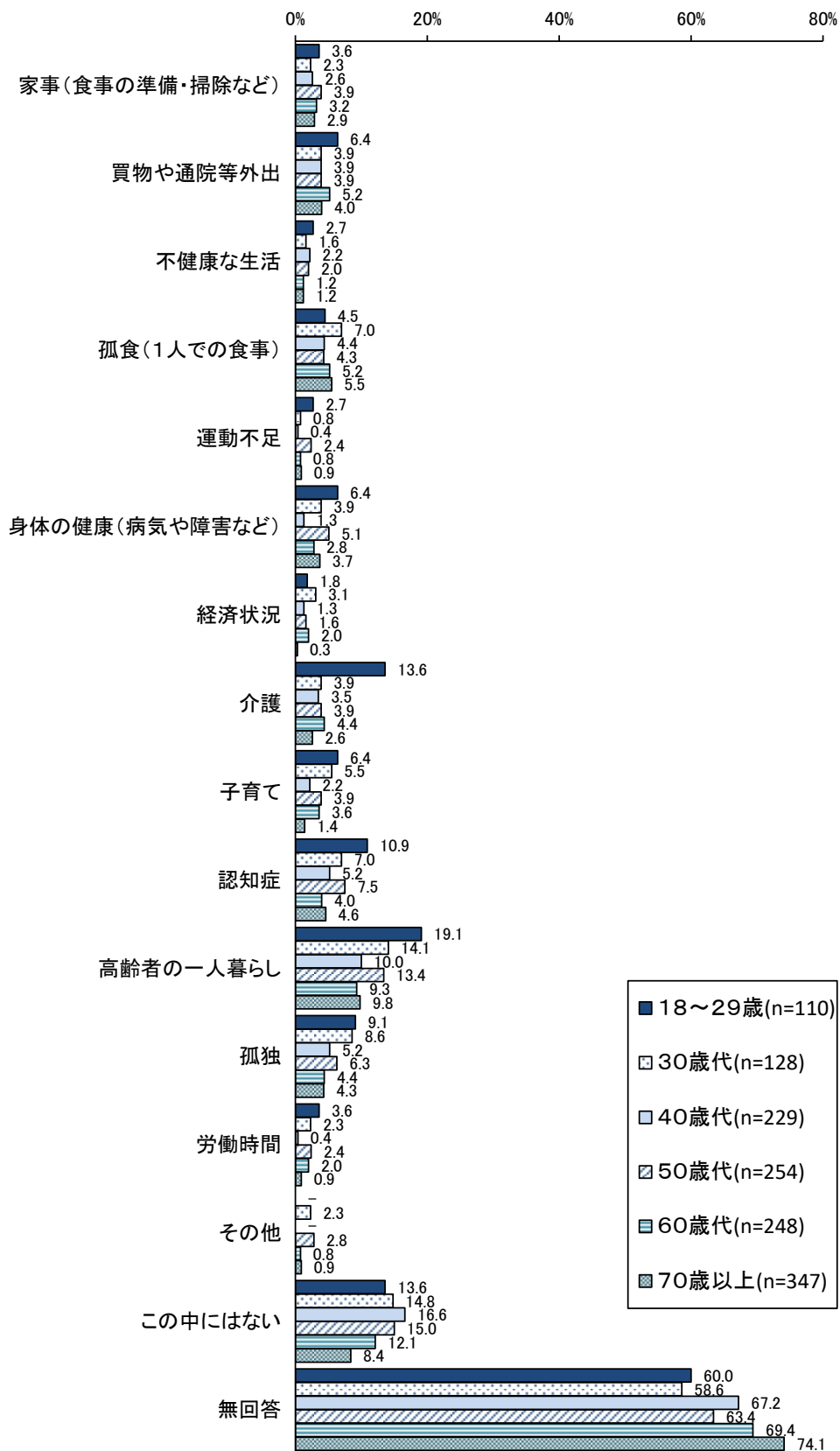
【問 35B 家族のことで不安に感じていること\_年代別】



「問 35 不安に感じていること」(複数回答) - 7

近所の人のごことで不安に感じていることを年代別にみると、「高齢者の一人暮らし」「介護」「認知症」など18~29歳が最も割合が高い項目が多くなっている。

【問 35C 近所の人のごことで不安に感じていること\_年代別】





「問 35 不安に感じていること」(複数回答) - 8

近所の人のごことで不安に感じていることについて、困っている方への手助け方法別にみると、「高齢者の一人暮らし」は『「食」を介して地域で集い、交流する場(子ども食堂、食事会など)』をできるという人、及び『掃除、洗濯、食事作り、電球の交換などの家の中の手伝い』をできるという人で2割を超え高くなっている。「認知症」は『子どもの学習支援』をできるという人が最も高く、「孤独」は『障害児者の外出の手助け』をできるという人が最も高くなっている。

【問 35 「不健康な生活」\_困っている方への手助け方法別】

	n=	除家事(食事の準備・掃除など)	買物や通院等外出	不健康な生活	孤食(1人での食事)	運動不足	害身体の健康(病気や障害など)	経済状況	介護	子育て	認知症	高齢者の一人暮らし	孤独	労働時間	その他	この中にはない	無回答
全体	1,325	3.1	4.4	1.7	5.1	1.2	3.6	1.5	4.4	3.2	5.9	11.6	5.7	1.7	1.2	12.8	67.4
話し相手・相談相手になる	480	5.4	7.5	2.7	7.7	2.1	5.8	2.5	6.7	4.4	7.1	15.0	6.9	1.7	1.3	10.8	63.5
話を聞いて、別居の家族と連絡をとる	125	9.6	12.8	4.8	11.2	3.2	8.8	4.0	7.2	5.6	12.8	19.2	8.8	2.4	1.6	12.8	53.6
話を聞いて、民生委員や行政に連絡する	333	4.5	5.7	2.4	7.5	2.1	4.8	1.8	5.4	3.6	7.5	16.8	6.6	2.4	0.9	9.0	63.1
ゴミ出し、買い物、草むしりなどの家の外の手伝い	213	6.6	10.8	4.2	7.5	2.8	7.5	4.2	8.9	8.0	11.7	19.7	9.4	4.2	0.9	8.0	61.5
掃除、洗濯、食事作り、電球の交換などの家の中の手伝い	79	7.6	13.9	6.3	11.4	6.3	11.4	7.6	12.7	10.1	12.7	21.5	12.7	3.8	1.3	7.6	58.2
小学生の登下校の見守り	170	1.8	5.3	2.4	5.3	3.5	3.5	2.4	8.8	5.3	8.8	12.4	7.1	2.9	0.6	11.2	67.6
短時間の子どもの預かり	83	1.2	3.6	4.8	7.2	2.4	6.0	3.6	7.2	4.8	6.0	10.8	7.2	3.6	1.2	10.8	66.3
障害児者の外出の手助け	52	5.8	3.8	3.8	5.8	-	7.7	5.8	9.6	9.6	11.5	19.2	15.4	5.8	1.9	7.7	63.5
高齢者の通院や買い物の送迎・付き添い	95	7.4	9.5	5.3	10.5	3.2	8.4	5.3	7.4	5.3	9.5	15.8	11.6	3.2	1.1	9.5	62.1
子どもの学習支援	100	4.0	8.0	6.0	9.0	2.0	10.0	4.0	10.0	7.0	15.0	19.0	12.0	3.0	1.0	12.0	58.0
「食」を介して地域で集い、交流する場(子ども食堂、食事会など)	106	5.7	9.4	6.6	11.3	2.8	3.8	4.7	4.7	6.6	11.3	21.7	11.3	3.8	1.9	6.6	59.4
高齢者や障害児者への安否確認(無事かどうか)の声かけ	243	4.9	7.8	2.5	10.3	1.6	4.9	2.5	6.6	4.9	10.3	18.5	10.7	3.3	1.2	7.8	60.9
災害時の安否確認や避難の手助け	355	4.2	6.5	3.1	7.3	1.7	4.5	2.5	6.5	3.9	10.1	19.2	10.1	2.3	1.7	11.0	59.2

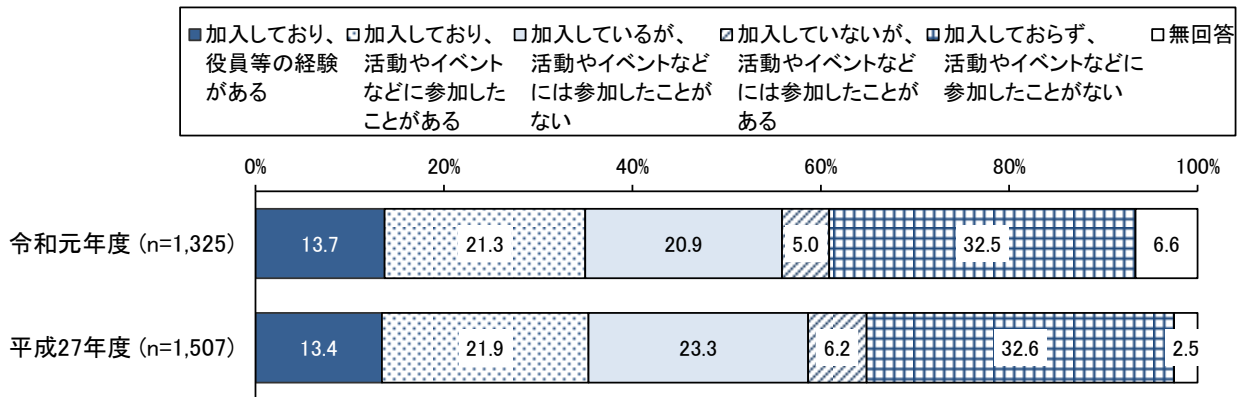
## 5. 「自治会町内会」「ごみ・資源回収」について

### 「問 36 自治会町内会の加入状況、活動・イベント参加経験」－ 1

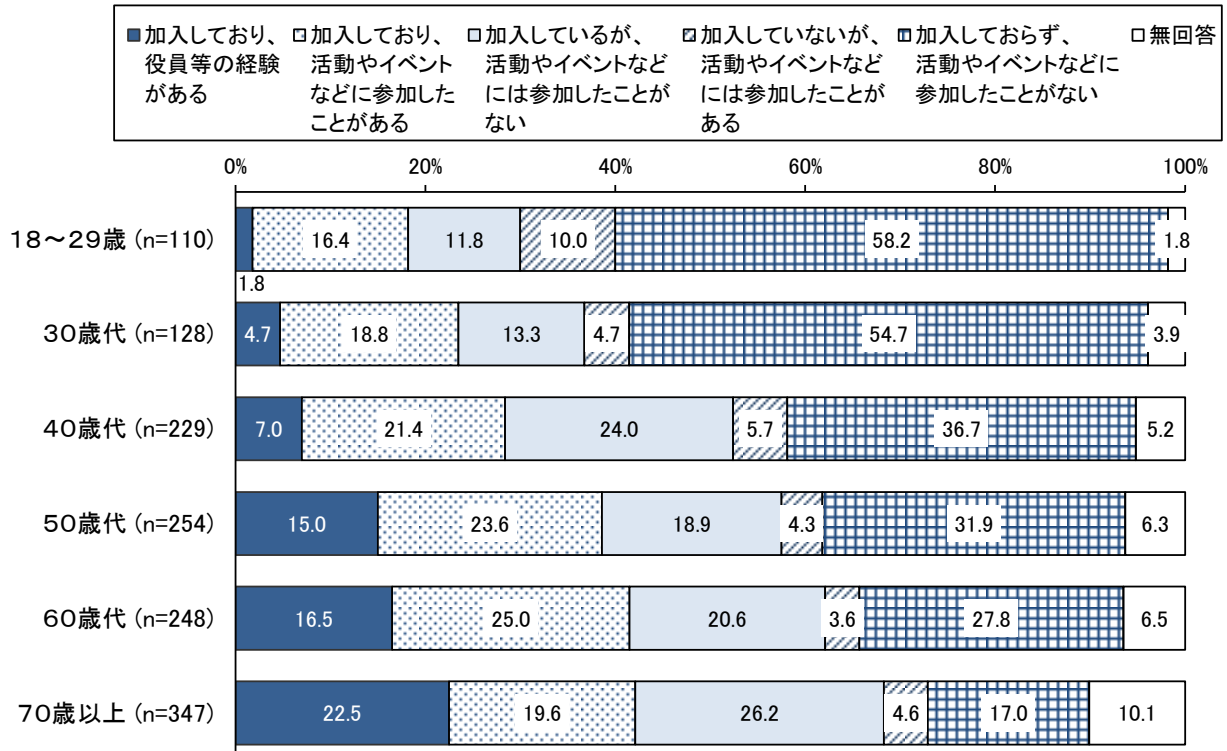
自治会町内会への加入状況や、自治会町内会の活動、地域イベントなどへの参加経験については、「加入しておらず、活動やイベントなどに参加したことがない」が3割強で最も高く、平成27年度と比べ大きな変動はみられない。

年代別にみると、18～29歳では「加入しておらず、活動やイベントなどに参加したことがない」が6割近くと特に高く30歳代も半数を超えているが、年代が上がるにつれ「加入しておらず、活動やイベントなどに参加したことがない」の割合は低くなる傾向となっている。

【問 36\_経年比較】



【問 36\_年代別】

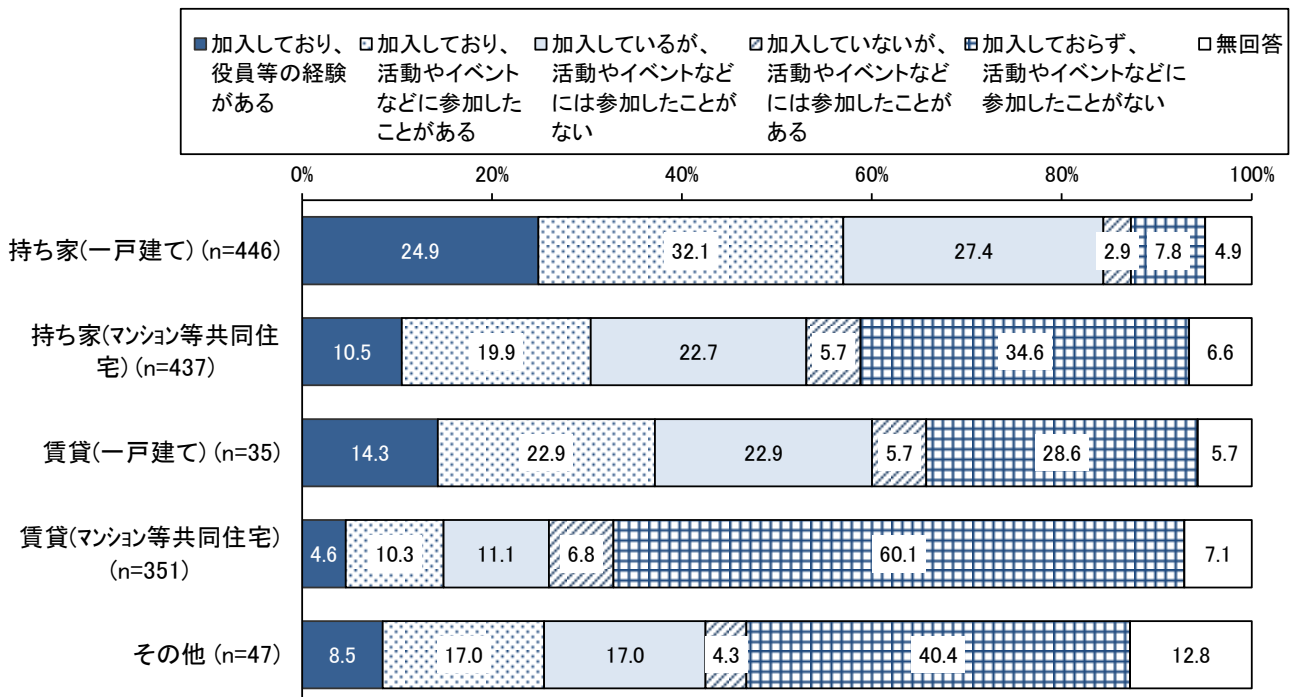


「問 36 自治会町内会の加入状況、活動・イベント参加経験」－ 2

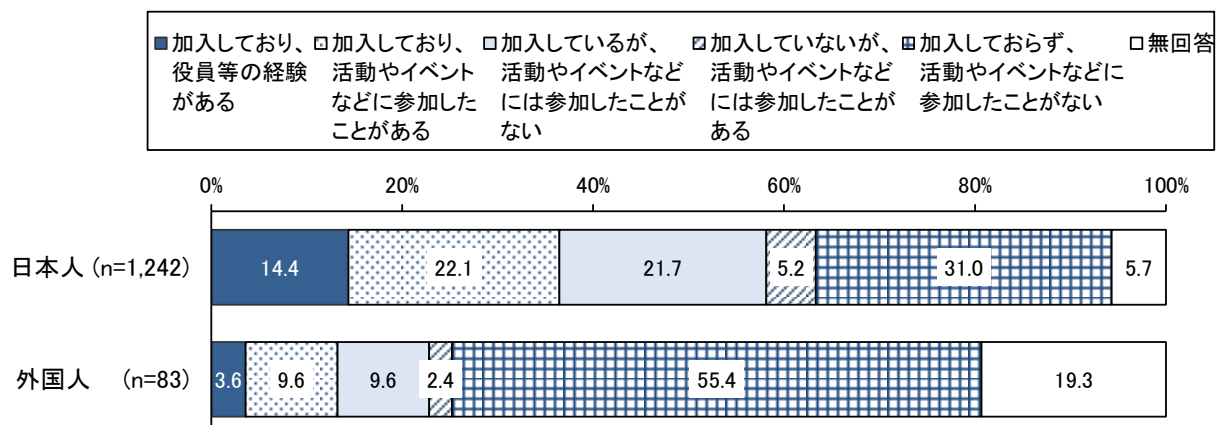
居住形態別にみると、持ち家（一戸建て）居住者で「加入しており、役員等の経験がある」「加入しており、活動やイベントなどに参加したことがある」の割合がそれぞれ他の属性に比べて高くなっており、持ち家（一戸建て）に住む人の自治会町内会加入率が高いことがわかる。一方、賃貸（マンション等共同住宅）居住者では前述の2項目の割合が最も低く、「加入しておらず、活動やイベントなどに参加したことがない」が約6割と特に高くなっている。

日本人／外国人別では、外国人の「加入しておらず、活動やイベントなどに参加したことがない」が半数を超えている。

【問 36\_居住形態別】

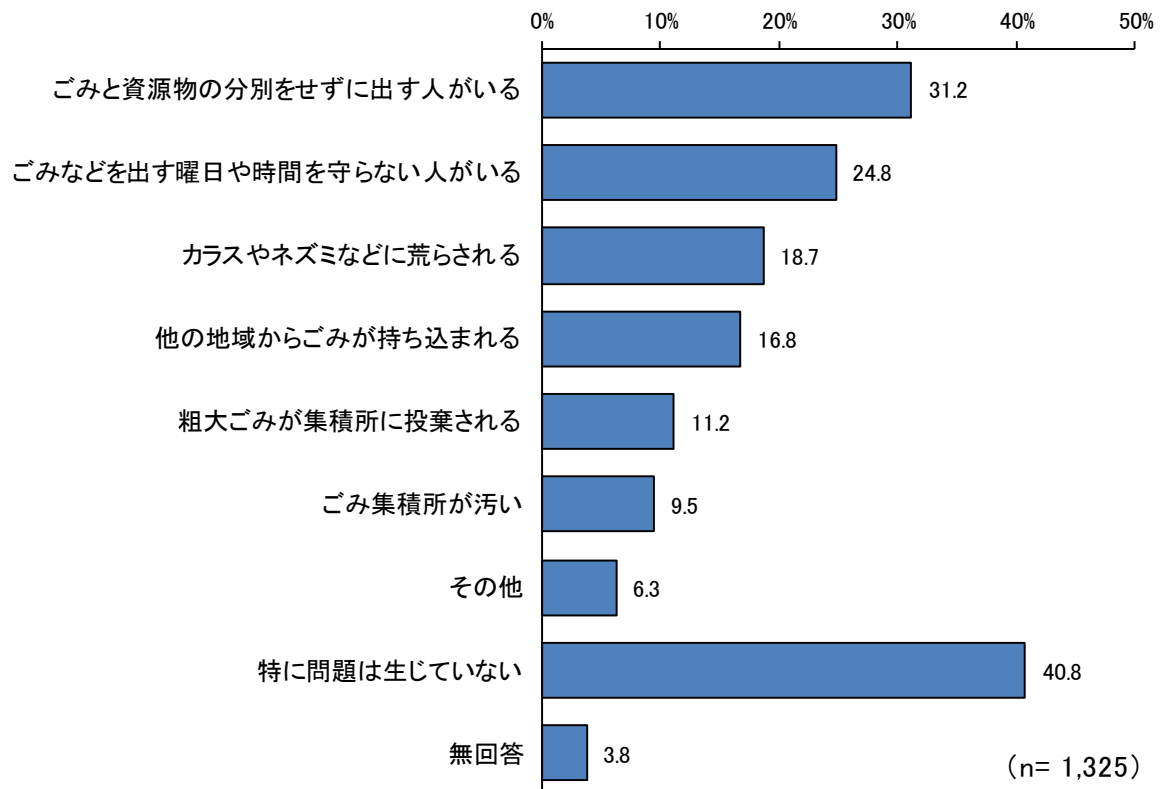


【問 36\_日本人／外国人別】



「問 38 ごみ集積所について困った問題」(複数回答) - 1

利用しているごみ集積所について困った問題は何か尋ねたところ、「特に問題は生じていない」が約4割で最も高くなっている。問題として最も多くあげられているものは、「ごみと資源物の分別をせずに出す人がある」が3割強、「ごみなどを出す曜日や時間を守らない人がある」が2割半ばなどとなっている。



「問 38 ごみ集積所について困った問題」（複数回答）－ 2

地区別にみると、「特に問題は生じていない」は、G地区が最も高く、E地区が最も低くなっている。「ごみと資源物の分別をせずに出す人がいる」は、I地区が最も高く、次いでA地区、B地区の順となっている。「ごみなどを出す曜日や時間を守らない人がいる」は、J地区が最も高く、次いでF地区、H地区となっている。

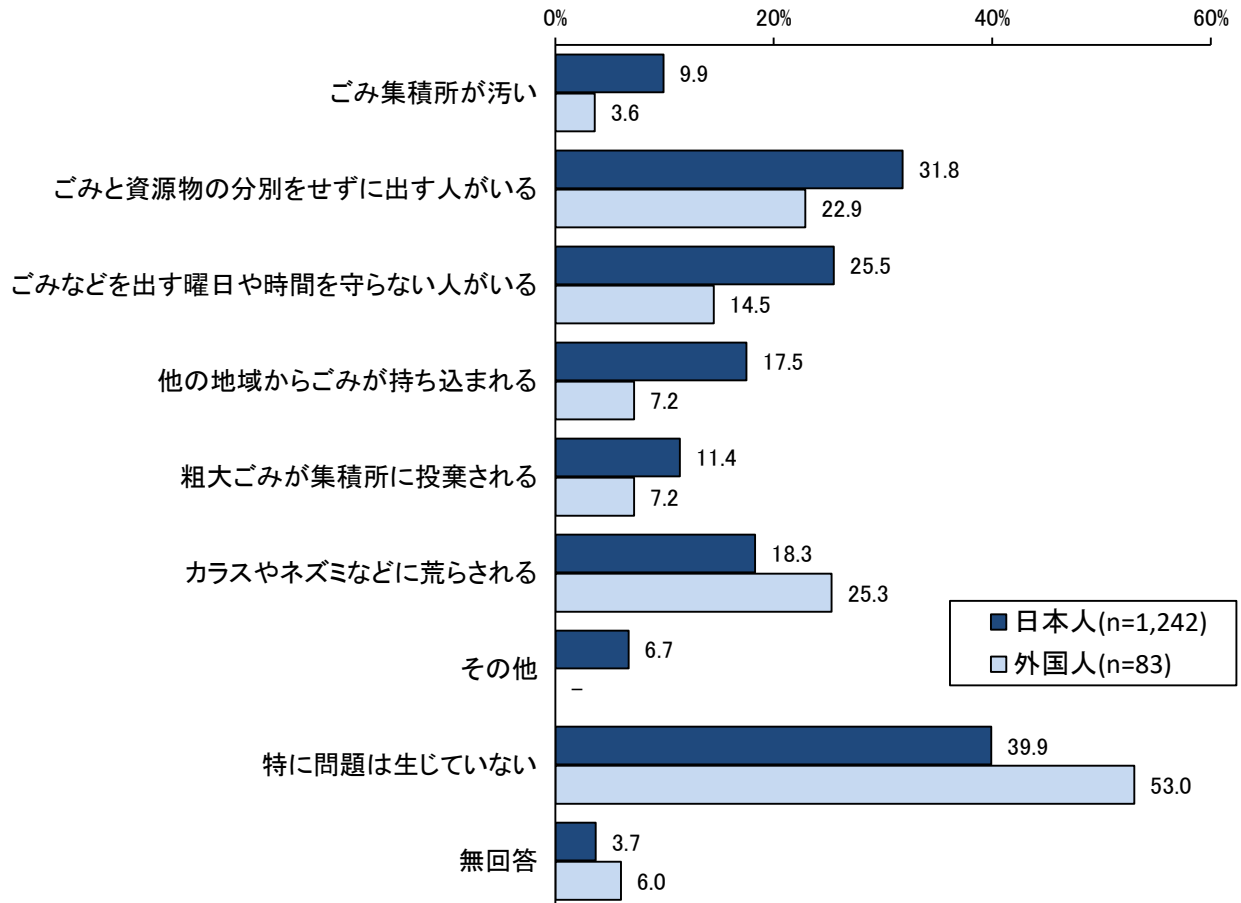
【問 38\_地区別】

											(%)
	n=	ごみ集積所が汚い	ごみと資源物の分別をせずに出す人がいる	ごみなどを出さない人がいる曜日や時間	他の地域からごみを持ち込まれる	粗大ごみが集積所に投棄される	ラスやネズミなどに荒らされる	その他	特に問題は生じていない	無回答	
全体	1,325	9.5	31.2	24.8	16.8	11.2	18.7	6.3	★40.8	3.8	
A地区（第1北部地区）	78	16.7	37.2	21.8	19.2	12.8	20.5	9.0	★41.0	-	
B地区（第1地区中部のうち、長者町を除く）	106	13.2	36.8	25.5	13.2	11.3	22.6	6.6	★40.6	0.9	
C地区（関内地区）	44	2.3	22.7	18.2	2.3	6.8	4.5	6.8	★45.5	15.9	
D地区（埋地地区のうち、寿町・松影町・三吉町を除く）	84	6.0	33.3	23.8	11.9	19.0	17.9	4.8	★41.7	2.4	
E地区（寿地区のうち、扇町・長者町を除く）	27	11.1	29.6	25.9	14.8	25.9	★33.3	3.7	25.9	14.8	
F地区（石川打越地区）	39	23.1	★35.9	★35.9	30.8	5.1	15.4	5.1	33.3	-	
G地区（第2地区）	167	6.6	29.3	13.8	7.8	7.8	15.0	4.2	★51.5	4.8	
H地区（第3地区のうち、滝之上を除く）	218	14.7	30.3	★32.1	28.0	14.7	22.0	8.7	★32.1	5.5	
I地区（第4地区南部のうち、本牧荒井を除く）	109	5.5	★39.4	29.4	18.3	9.2	22.9	4.6	32.1	4.6	
J地区（第4地区北部のうち、山手町を除く）	53	17.0	35.8	★37.7	28.3	13.2	22.6	11.3	30.2	1.9	
K地区（本牧・根岸地区のうち、本牧原を除く）	194	5.2	32.0	24.2	13.9	5.2	14.9	6.2	★45.9	2.1	
L地区（第6地区のうち、山手町を除く）	115	6.1	24.3	23.5	13.0	5.2	20.9	6.1	★44.3	2.6	
M地区（新本牧地区）	81	4.9	19.8	16.0	14.8	19.8	13.6	3.7	★48.1	4.9	

「問 38 ごみ集積所について困った問題」（複数回答）－ 3

日本人／外国人別にみると、「特に問題は生じていない」は外国人の方が高く 5 割を超えている。あげられている問題としては、日本人の方が高いものが多くなっているが、「カラスやネズミなどに荒らされる」は外国人の方が高い。

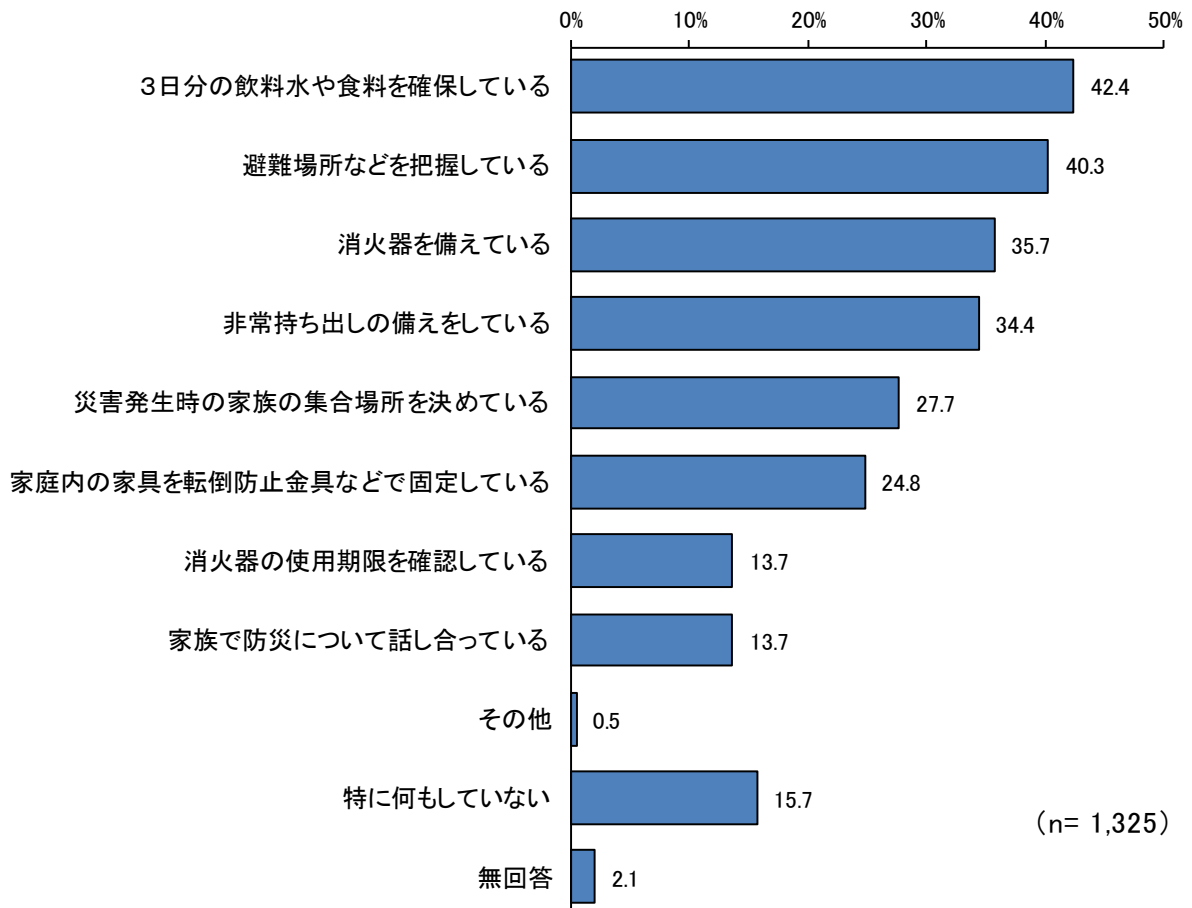
【問 38\_日本人／外国人別】



## 6. 「防災」について

### 「問 39 災害の被害を最小限に抑えるためにしていること」（複数回答）－ 1

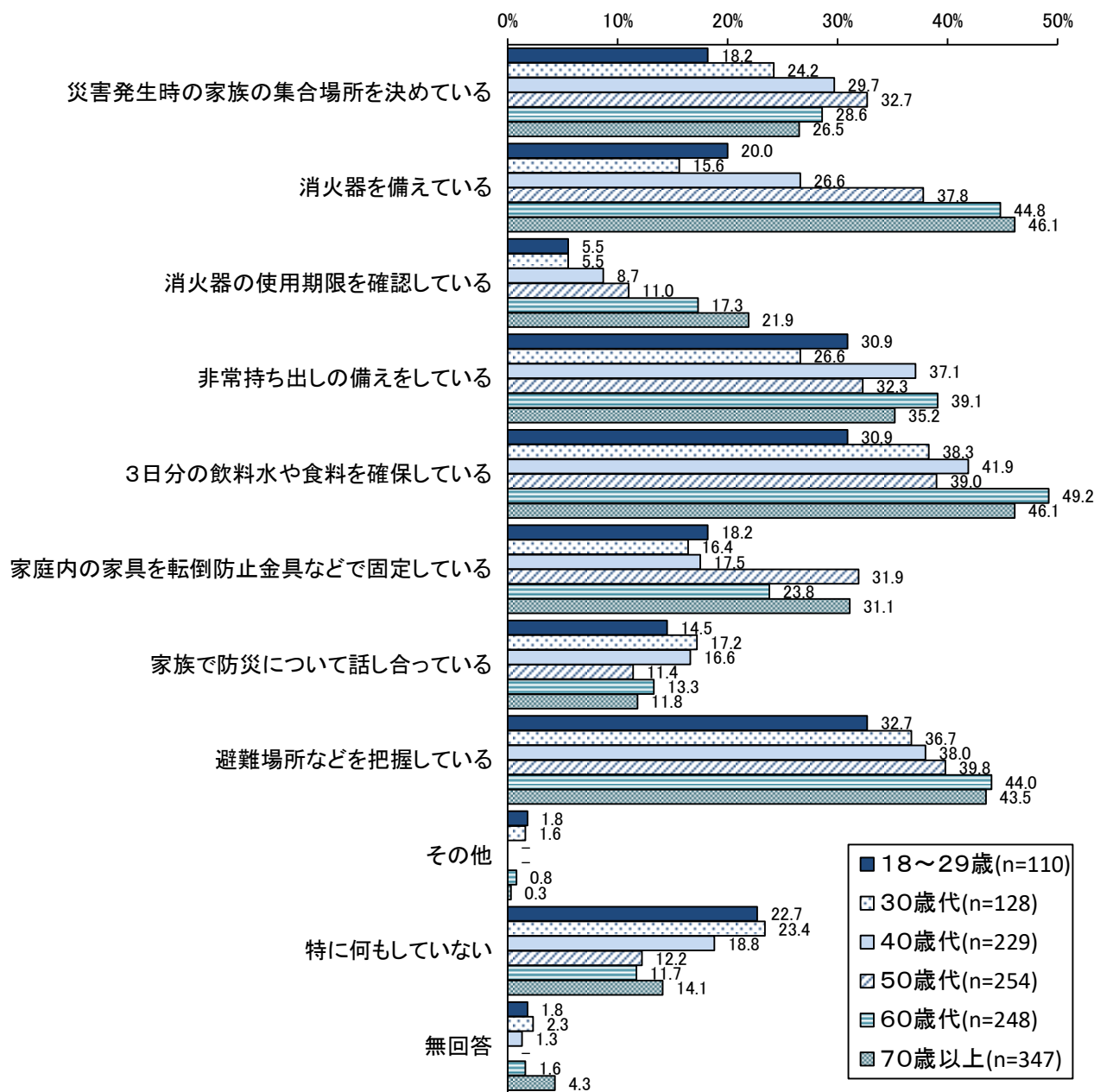
災害の被害を最小限に抑えるためにどのようなことをしているか尋ねたところ、「3日分の飲料水や食料を確保している」が4割強で最も高く、次いで「避難場所などを把握している」が約4割となっている。以下、「消火器を備えている」「非常持ち出しの備えをしている」が3割半ば、「災害発生時の家族の集合場所を決めている」「家庭内の家具を転倒防止金具などで固定している」が2割台などとなっている。なお、「特に何もしていない」は1割半ばとなっている。



「問 39 災害の被害を最小限に抑えるためにしていること」(複数回答) - 2

年代別にみると、「3日分の飲料水や食料を確保している」「避難場所などを把握している」など、**おおむね**年代が上がるにつれ割合も高くなっているものが多い。若年層の方が災害への備えがなされていない傾向がうかがえ、「特に何もしていない」は18~29歳・30歳代で2割を超え高くなっている。

【問 39\_年代別】





「問 39 災害の被害を最小限に抑えるためにしていること」(複数回答) - 3

地区別にみると、「3日分の飲料水や食料を確保している」はL地区、M地区、H地区、C地区で5割近くと高くなっている。「避難場所などを把握している」は、I地区が唯一5割を超え最も高く、次いでH地区、M地区、L地区が4割台となっている。この項目は、地区により差が大きく、最も割合の低いE地区では約2割となっている。

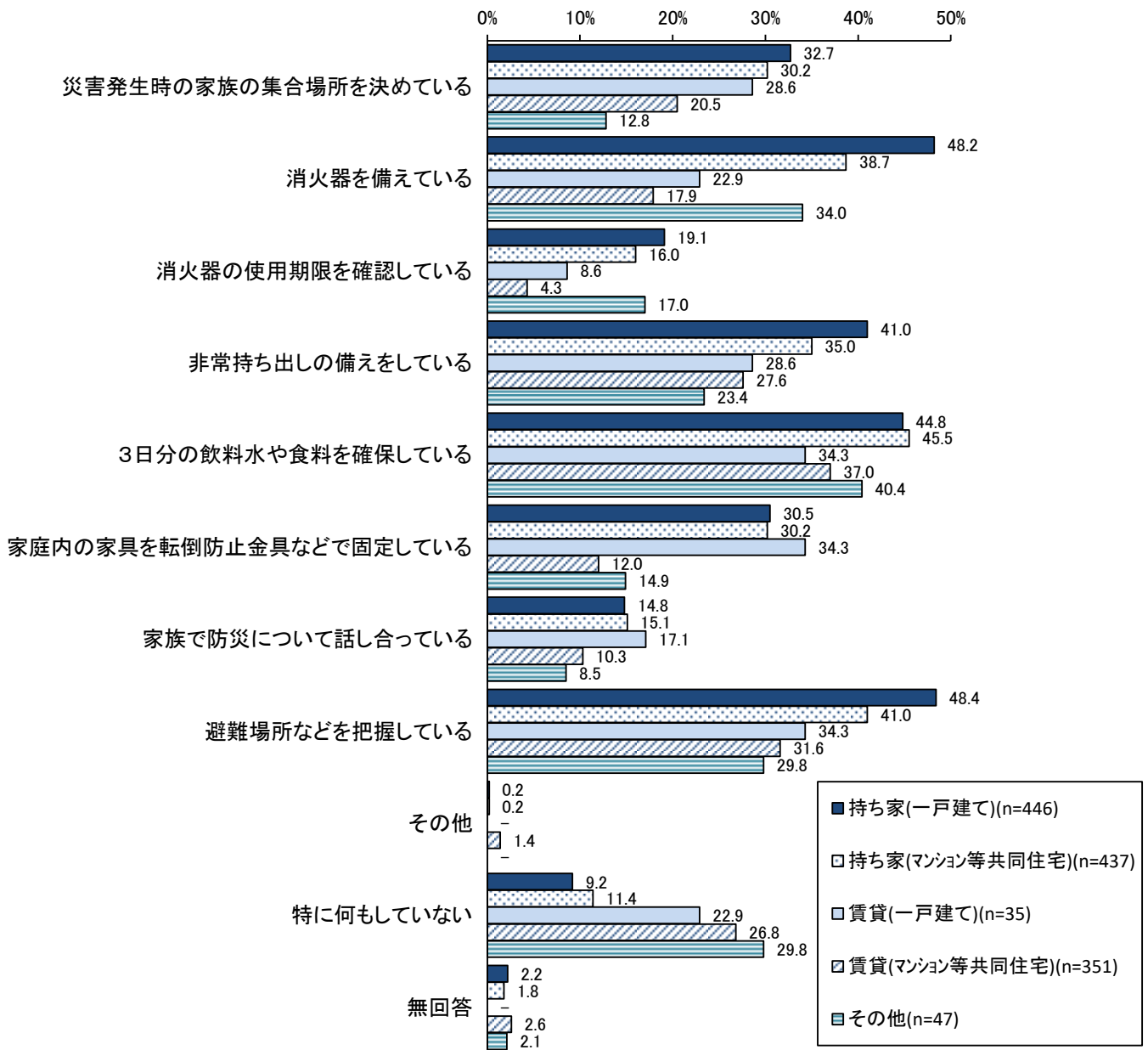
【問 39\_地区別】

		場災	消	し消	て非	確 3	金家	合家	い避	そ	特	無
	n=	所害	火器	て火	い常	保日	具庭	っ族	る難	他	に何	回
		を発	を備	器の	持ち	し分	など	っで	る場		もし	答
		決生	えて	の使	出し	の飲	の家	い防	所な		てい	
		め時	いる	用期	しの	料水	具を	につ	などを		ない	
		ている	る	限を	の備	や食	転て	いて	把握			
		家族		を確	えをし	料を	倒い	話し	して			
		の集		認			防					
		合					止					
全体	1,325	27.7	35.7	13.7	34.4	★42.4	24.8	13.7	40.3	0.5	15.7	2.1
A地区 (第1北部地区)	78	23.1	★34.6	9.0	33.3	★34.6	16.7	6.4	★34.6	3.8	17.9	2.6
B地区 (第1地区中部のうち、 長者町を除く)	106	19.8	27.4	8.5	26.4	★37.7	19.8	5.7	31.1	0.9	24.5	-
C地区 (関内地区)	44	20.5	31.8	15.9	27.3	★47.7	29.5	11.4	31.8	2.3	25.0	2.3
D地区 (埋地地区のうち、寿 町・松影町・三吉町を除く)	84	26.2	32.1	10.7	31.0	★40.5	17.9	9.5	31.0	1.2	25.0	2.4
E地区 (寿地区のうち、扇町・ 長者町を除く)	27	14.8	22.2	3.7	25.9	★33.3	7.4	11.1	22.2	-	★33.3	7.4
F地区 (石川打越地区)	39	25.6	35.9	10.3	★38.5	★38.5	30.8	17.9	★38.5	-	7.7	-
G地区 (第2地区)	167	28.1	40.1	15.0	34.1	★41.3	22.8	14.4	38.3	-	15.6	2.4
H地区 (第3地区のうち、滝之 上を除く)	218	26.6	45.0	14.2	35.3	★48.2	24.3	17.4	47.7	0.5	13.8	2.8
I地区 (第4地区南部のうち、 本牧荒井を除く)	109	27.5	37.6	12.8	43.1	39.4	28.4	12.8	★56.0	-	7.3	4.6
J地区 (第4地区北部のうち、 山手町を除く)	53	30.2	26.4	13.2	43.4	★45.3	35.8	18.9	32.1	-	11.3	3.8
K地区 (本牧・根岸地区のう ち、本牧原を除く)	194	33.5	★40.2	18.6	34.0	38.1	30.4	14.9	38.7	-	15.5	0.5
L地区 (第6地区のうち、山手 町を除く)	115	36.5	36.5	17.4	38.3	★49.6	27.8	15.7	44.3	-	11.3	0.9
M地区 (新本牧地区)	81	29.6	16.0	13.6	29.6	★49.4	24.7	13.6	46.9	-	12.3	2.5

「問 39 災害の被害を最小限に抑えるためにしていること」(複数回答) - 4

居住形態別にみると、「避難場所などを把握している」「消火器を備えている」「非常持ち出しの備えをしている」など、持ち家(一戸建て)居住者が最も高い項目が多くなっている。

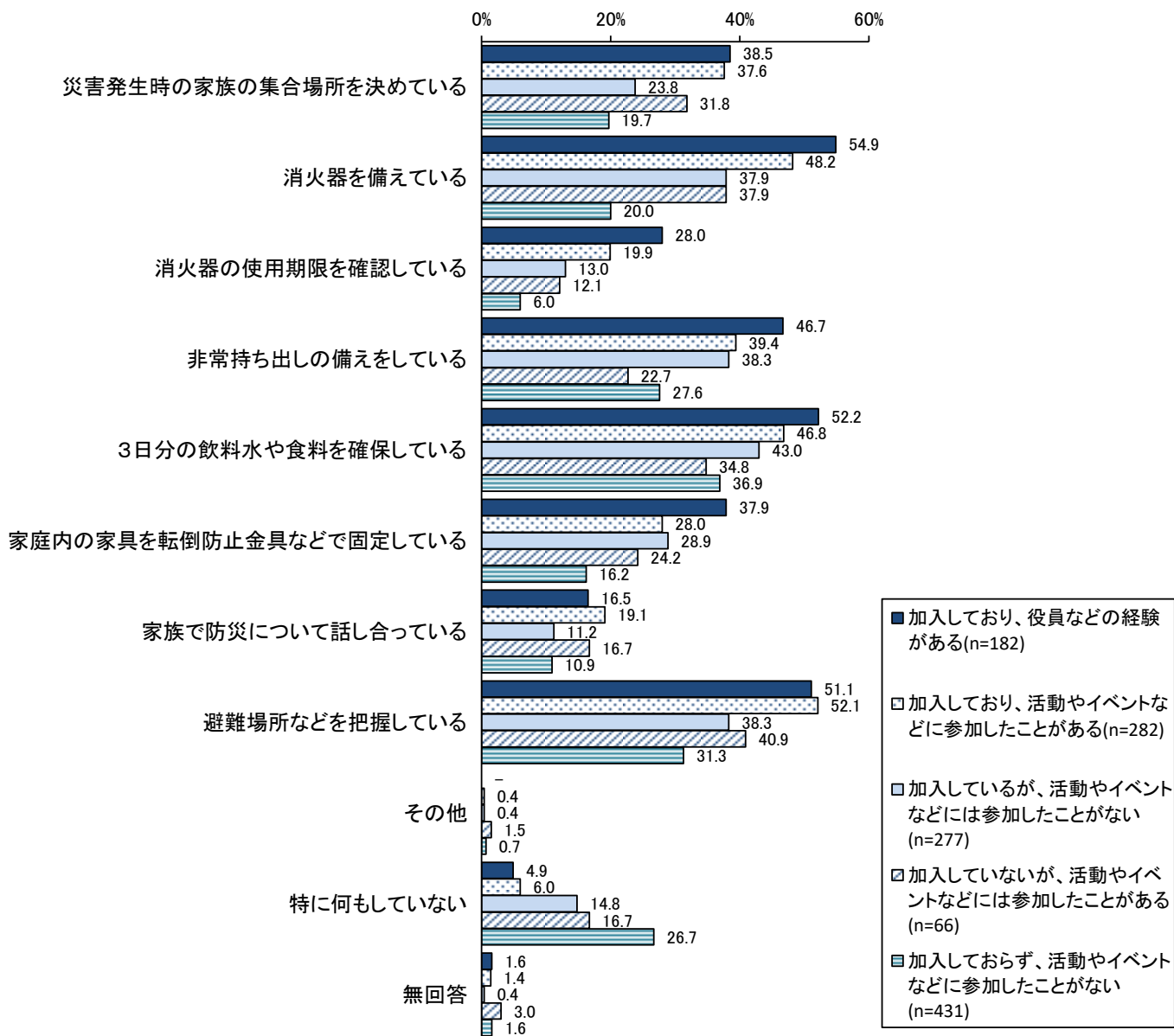
【問 39\_居住形態別】



「問 39 災害の被害を最小限に抑えるためにしていること」(複数回答) - 5

自治会町内会加入・活動等参加状況別にみると、加入者や活動・イベント参加の経験がある人の方が、おおむね備えをしている割合の高い傾向がみえる。『加入しておらず、活動やイベントなどに参加したことがない』という人では、「特に何もしていない」が2割半ばと高くなっている。

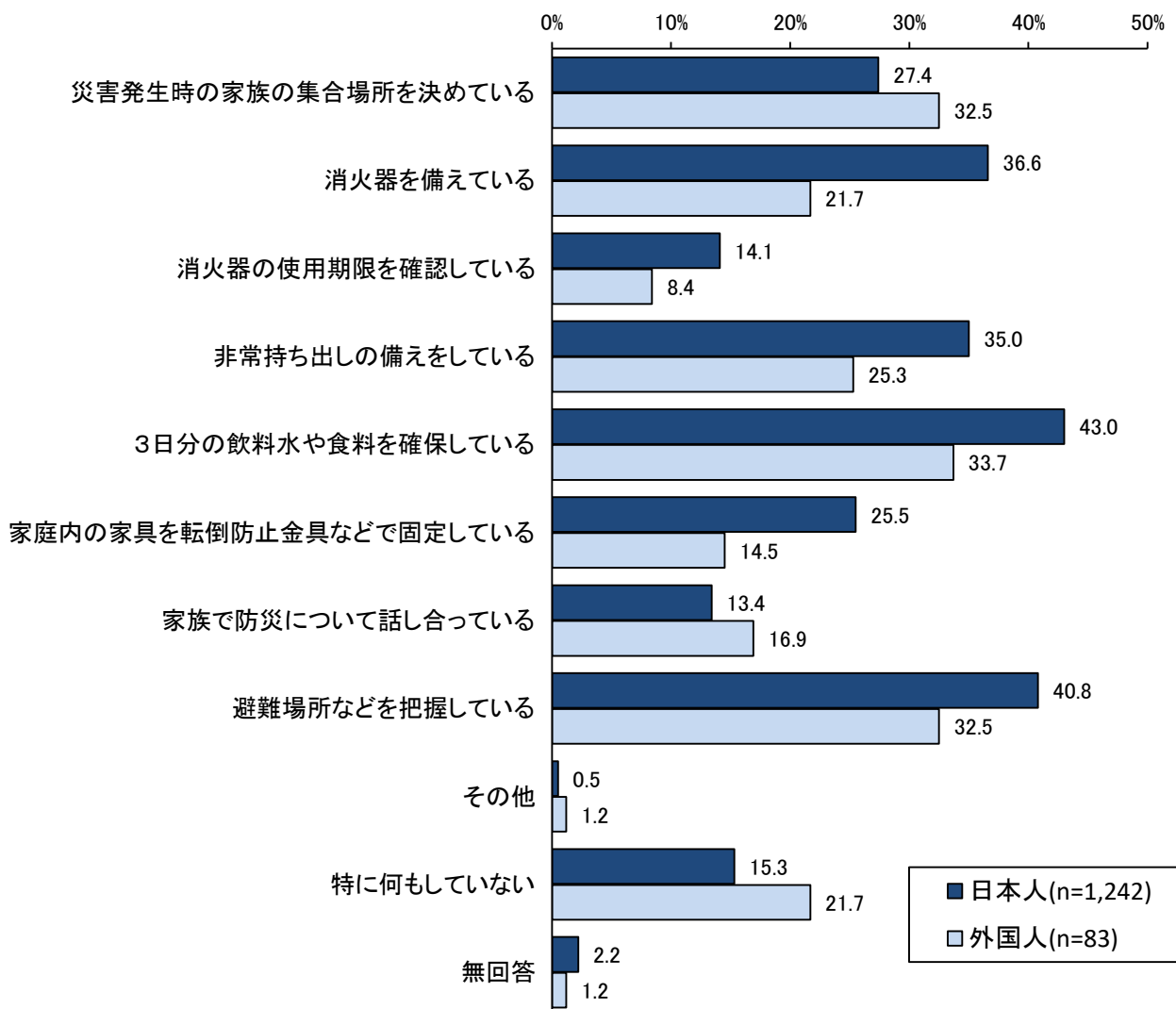
【問 39\_自治会町内会加入・活動等参加状況別】



「問 39 災害の被害を最小限に抑えるためにしていること」(複数回答) - 6

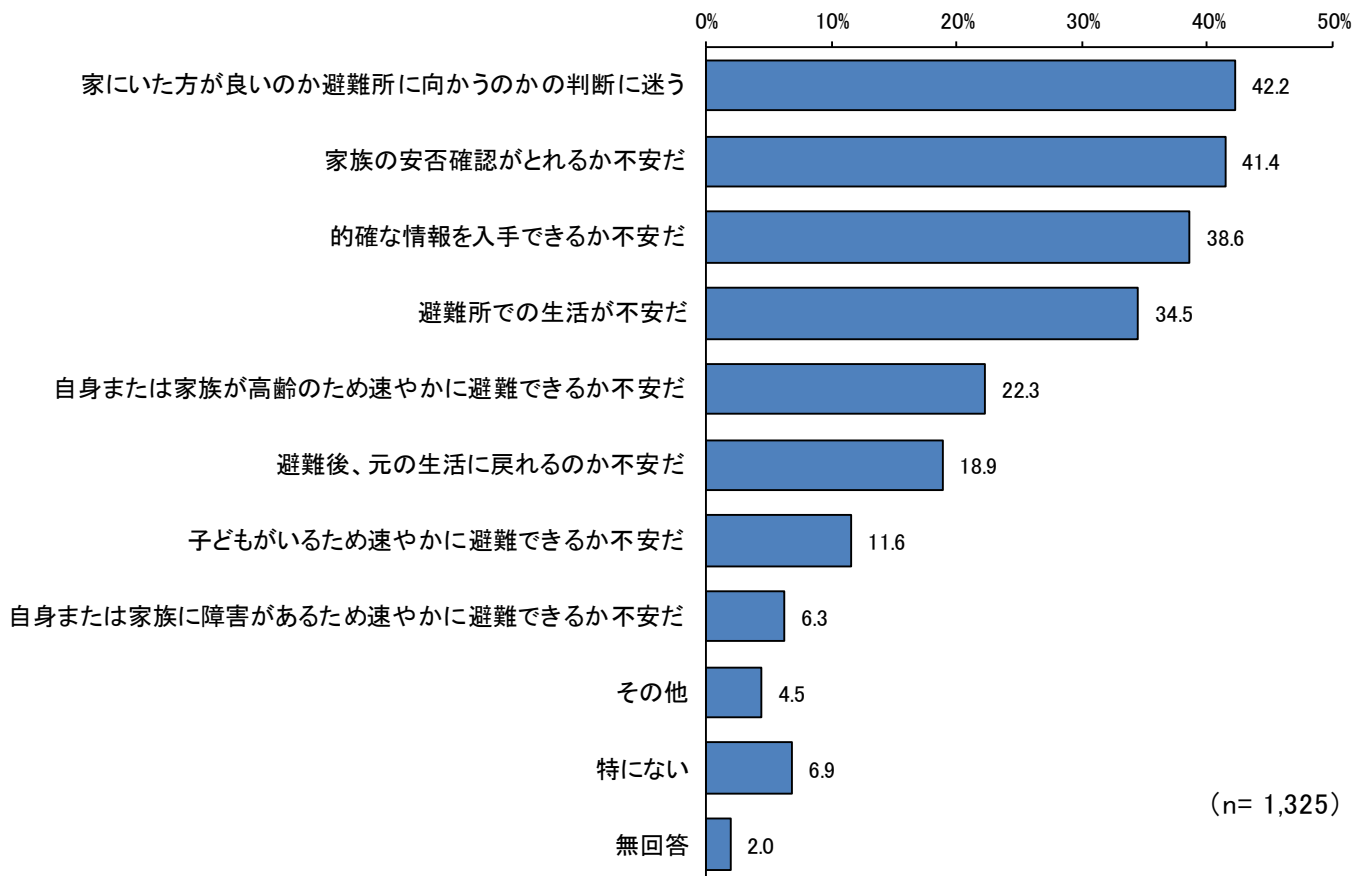
日本人/外国人別にみると、「3日分の飲料水や食料を確保している」「避難場所などを把握している」「消火器を備えている」「非常持ち出しの備えをしている」など多くの項目で日本人より外国人の方が低くなっている。一方、「災害発生時の家族の集合場所を決めている」「家族で防災について話し合っている」は外国人の方が高くなっている。

【問 39\_日本人/外国人別】



「問 40 災害発生に対して不安に感じていること」（3つまで回答）－ 1

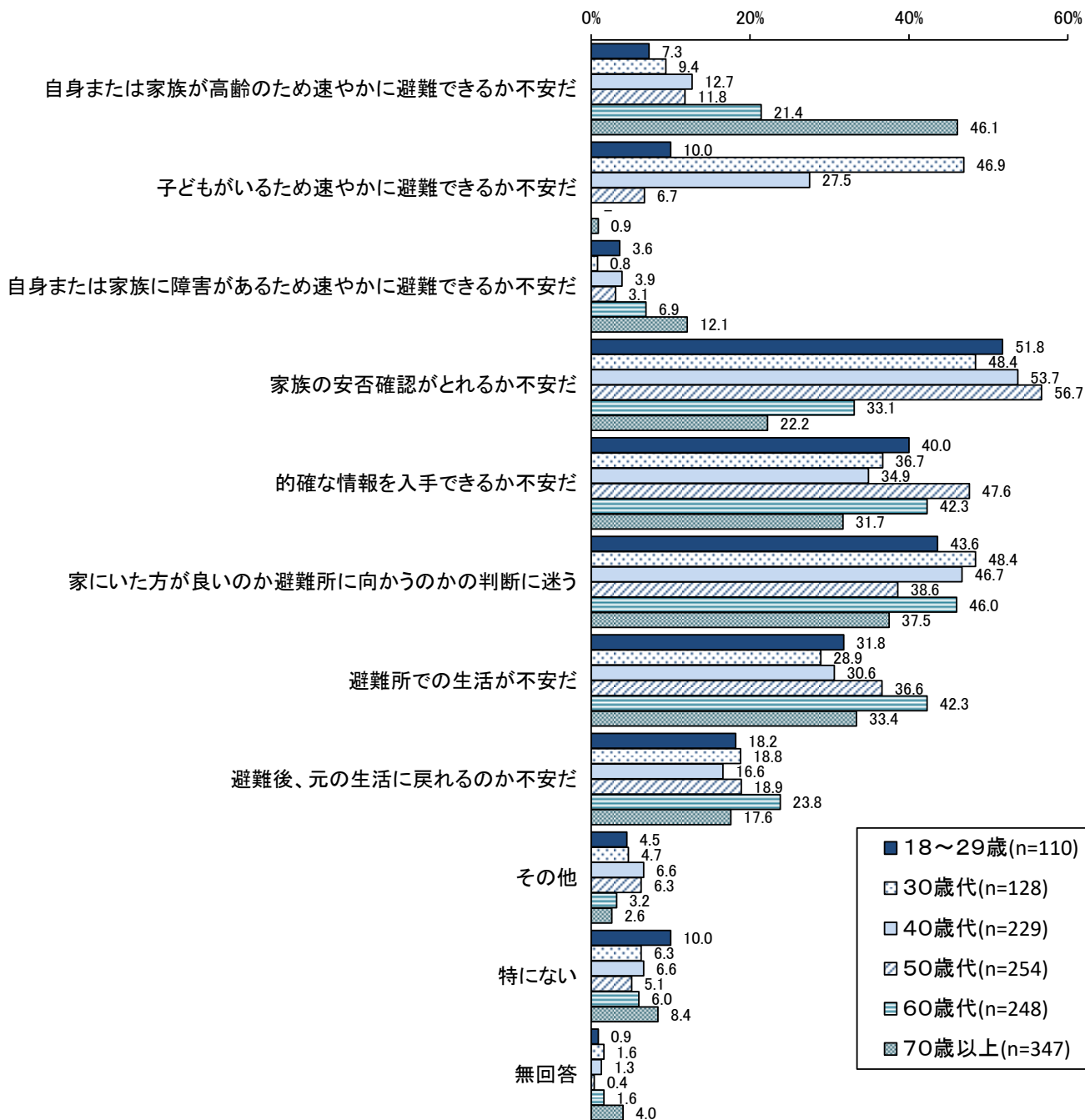
災害発生に対して不安に感じていることについては、「家にいた方が良いのか避難所に向かうのかの判断に迷う」「家族の安否確認がとれるか不安だ」が4割強で高く、次いで「的確な情報を入手できるか不安だ」「避難所での生活が不安だ」が3割台となっている。



「問 40 災害発生に対して不安に感じていること」（3つまで回答）－ 2

年代別にみると、「自身または家族が高齢のため速やかに避難できるか不安だ」は70歳以上が、「子どもがいるため速やかに避難できるか不安だ」は30歳代がそれぞれ突出して高くなっている。

【問 40\_年代別】



「問 40 災害発生に対して不安に感じていること」（3つまで回答）－ 3

同居家族別にみると、「家族の安否確認がとれるか不安だ」は、子供のいる人、祖父母・父母と同居している人で5割以上と高くなっている。「子どもがいるため速やかに避難できるか不安だ」は、15歳未満の子供のいる人で6割半ばと特に高くなっている。

【問 40\_同居家族別】

(%)

	n=	かた不安だ	自身速やか避難でき年齢の	子どもが避難できるか不安だ	きるか不安だ	あまた速やか避難でき	自身または家族に障害が	か家族の安否確認がとれる	か不安だ	的確な情報を入手できる	に迷う	家難にいた方が判断	避難所での生活が不安だ	避難後、元の生活に戻れる	その他	特にない	無回答
全体	1,325	22.3	11.6	6.3	41.4	38.6	★42.2	34.5	18.9	4.5	6.9	2.0					
祖父（義祖父）	9	33.3	22.2	22.2	★55.6	33.3	33.3	11.1	-	11.1	-	-					
祖母（義祖母）	18	38.9	16.7	11.1	★50.0	33.3	33.3	22.2	5.6	5.6	5.6	-					
父（義父）	107	20.6	7.5	5.6	★56.1	36.4	40.2	31.8	17.8	4.7	6.5	3.7					
母（義母）	162	30.2	7.4	5.6	★51.9	34.0	38.9	30.9	17.3	6.2	4.9	3.7					
配偶者	822	20.7	17.4	5.8	★47.6	37.2	43.1	36.0	18.7	4.5	4.4	1.2					
兄弟姉妹	81	27.2	2.5	11.1	★40.7	38.3	35.8	35.8	22.2	3.7	3.7	3.7					
子（15歳未満）	207	8.2	★65.7	1.9	59.4	32.9	48.3	25.6	11.1	3.4	2.9	-					
子（15歳以上）	328	28.4	6.4	6.7	★50.3	39.3	41.5	34.8	21.3	3.4	5.2	1.8					
孫（15歳未満）	17	★47.1	29.4	5.9	29.4	35.3	35.3	35.3	5.9	5.9	5.9	5.9					
孫（15歳以上）	25	★64.0	-	16.0	36.0	28.0	28.0	36.0	8.0	4.0	-	4.0					
いない（一人暮らし）	255	22.0	-	4.3	18.0	★45.9	42.0	29.0	19.2	2.7	15.3	3.1					
その他	36	19.4	5.6	8.3	★44.4	38.9	33.3	★44.4	25.0	11.1	11.1	5.6					

<注釈>

- ・★は、全体および属性毎で最も高い割合の項目を示しています。
- ・網掛け箇所は、項目別の上位3属性を示しています。

「問 40 災害発生に対して不安に感じていること」（3つまで回答）－ 4

地区別にみると、「家にいた方が良いのか避難所に向かうのかの判断に迷う」はJ地区で、「家族の安否確認がとれるか不安だ」はG地区でそれぞれ5割を超え最も高くなっている。「自身または家族が高齢のため速やかに避難できるか不安だ」は、E地区で3割台後半と最も高くなっている。

【問 40\_地区別】

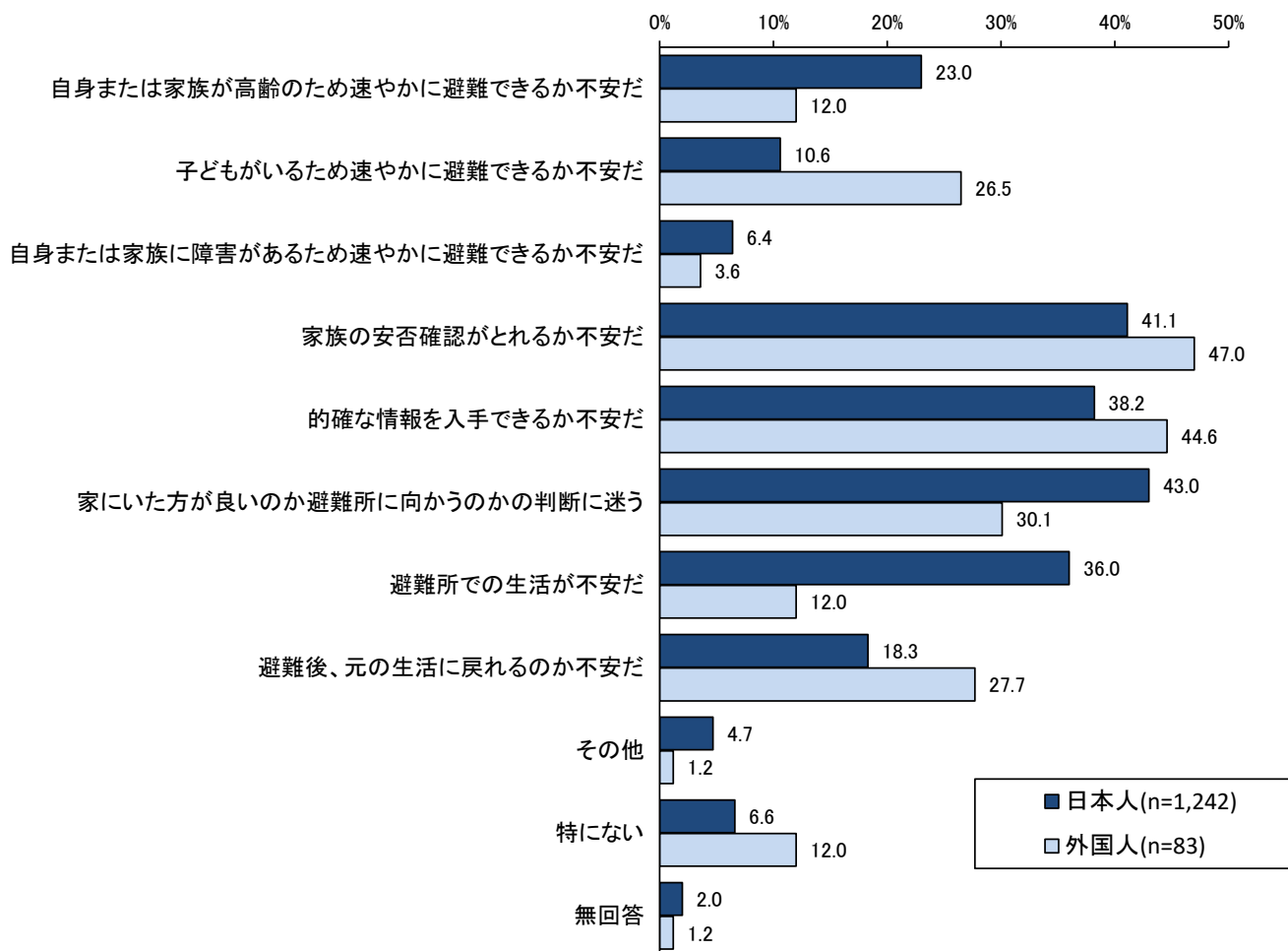
		きの た か 不 安 だ	自 身 ま た は 家 族 が 高 齢	だ に 避 難 し か め な い	か ど も い る た め に 速 や い	子 ど も い る た め に 速 や い	難 が あ る た め に 速 や い	が 自 身 ま た は 家 族 に 障 害	る 家 族 の 安 否 確 認 が と れ	る 的 に 確 な な 情 報 を 入 手 で き	判 断 に 迷 う	避 難 所 に 向 か う の か	家 族 の 生 活 が 不 安	だ 避 難 所 で の 生 活 が 不 安	れ 避 難 後 か 元 の 生 活 に 戻	そ の 他	特 に な い	無 回 答	
	n=																		(%)
全体	1,325	22.3	11.6	6.3	41.4	38.6	★42.2	34.5	18.9	4.5	6.9	2.0							
A地区（第1北部地区）	78	23.1	15.4	11.5	38.5	37.2	★46.2	41.0	11.5	3.8	6.4	-							
B地区（第1地区中部のうち、 長者町を除く）	106	22.6	9.4	5.7	31.1	42.5	★43.4	28.3	26.4	2.8	6.6	0.9							
C地区（関内地区）	44	18.2	9.1	4.5	27.3	★38.6	★38.6	36.4	18.2	13.6	11.4	2.3							
D地区（埋地地区のうち、寿 町・松影町・三吉町を除く）	84	20.2	7.1	6.0	33.3	31.0	★38.1	32.1	17.9	6.0	16.7	2.4							
E地区（寿地区のうち、扇町・ 長者町を除く）	27	37.0	3.7	-	14.8	44.4	29.6	★48.1	25.9	-	7.4	7.4							
F地区（石川打越地区）	39	28.2	10.3	5.1	35.9	33.3	28.2	★46.2	17.9	7.7	2.6	2.6							
G地区（第2地区）	167	18.6	15.0	5.4	★53.3	38.3	43.7	24.6	16.2	3.6	7.2	3.6							
H地区（第3地区のうち、滝之 上を除く）	218	20.6	9.6	6.4	42.2	44.0	★45.9	35.8	19.3	6.0	5.0	2.3							
I地区（第4地区南部のうち、 本牧荒井を除く）	109	24.8	11.9	3.7	37.6	★40.4	★40.4	35.8	17.4	4.6	4.6	2.8							
J地区（第4地区北部のうち、 山手町を除く）	53	17.0	11.3	13.2	37.7	43.4	★54.7	30.2	22.6	-	7.5	1.9							
K地区（本牧・根岸地区のう ち、本牧原を除く）	194	27.3	11.9	6.7	★48.5	35.6	42.3	35.1	20.1	3.6	6.2	0.5							
L地区（第6地区のうち、山手 町を除く）	115	16.5	14.8	5.2	★46.1	33.0	36.5	45.2	22.6	3.5	5.2	0.9							
M地区（新本牧地区）	81	23.5	14.8	4.9	44.4	37.0	★45.7	29.6	13.6	3.7	7.4	2.5							



「問 40 災害発生に対して不安に感じていること」（3つまで回答）－ 5

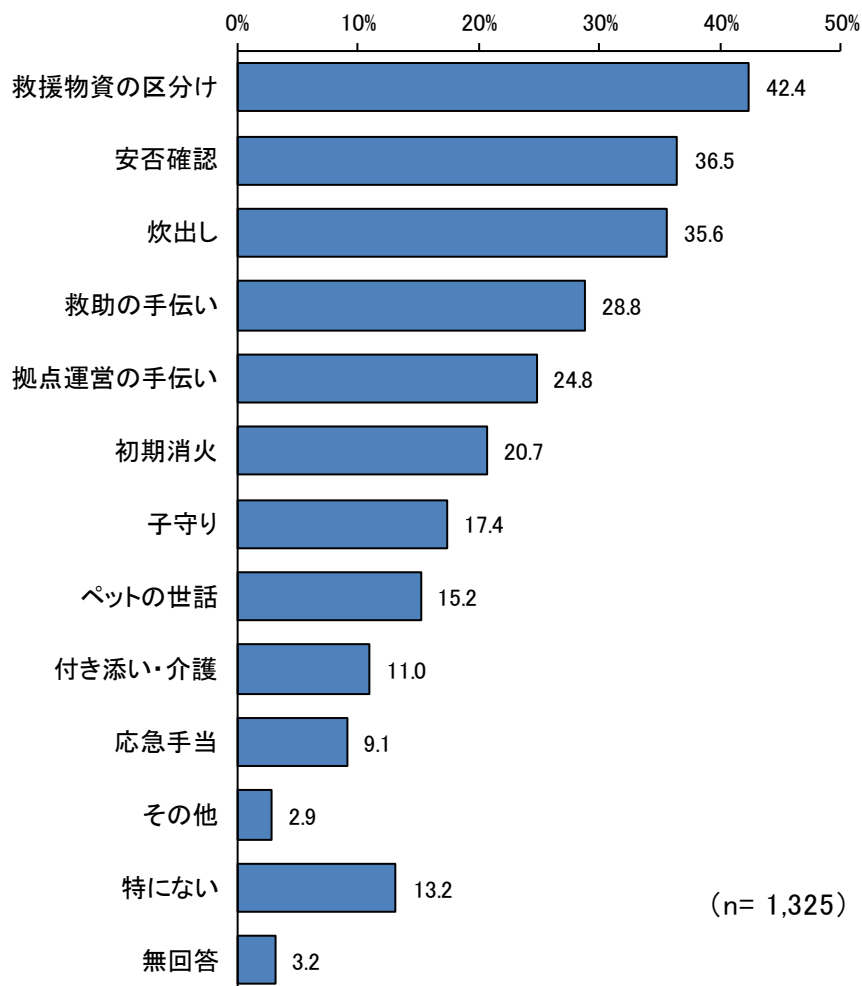
日本人／外国人別にみると、「子どもがいるため速やかに避難できるか不安だ」「避難後、元の生活に戻れるのか不安だ」は、外国人が日本人より特に高くなっている。また、「家族の安否確認がとれるか不安だ」「的確な情報を入手できるか不安だ」も外国人の方が高くなっている。

【問 40\_日本人／外国人別】



「問 41 災害時に地域のためにできること」(複数回答) - 1

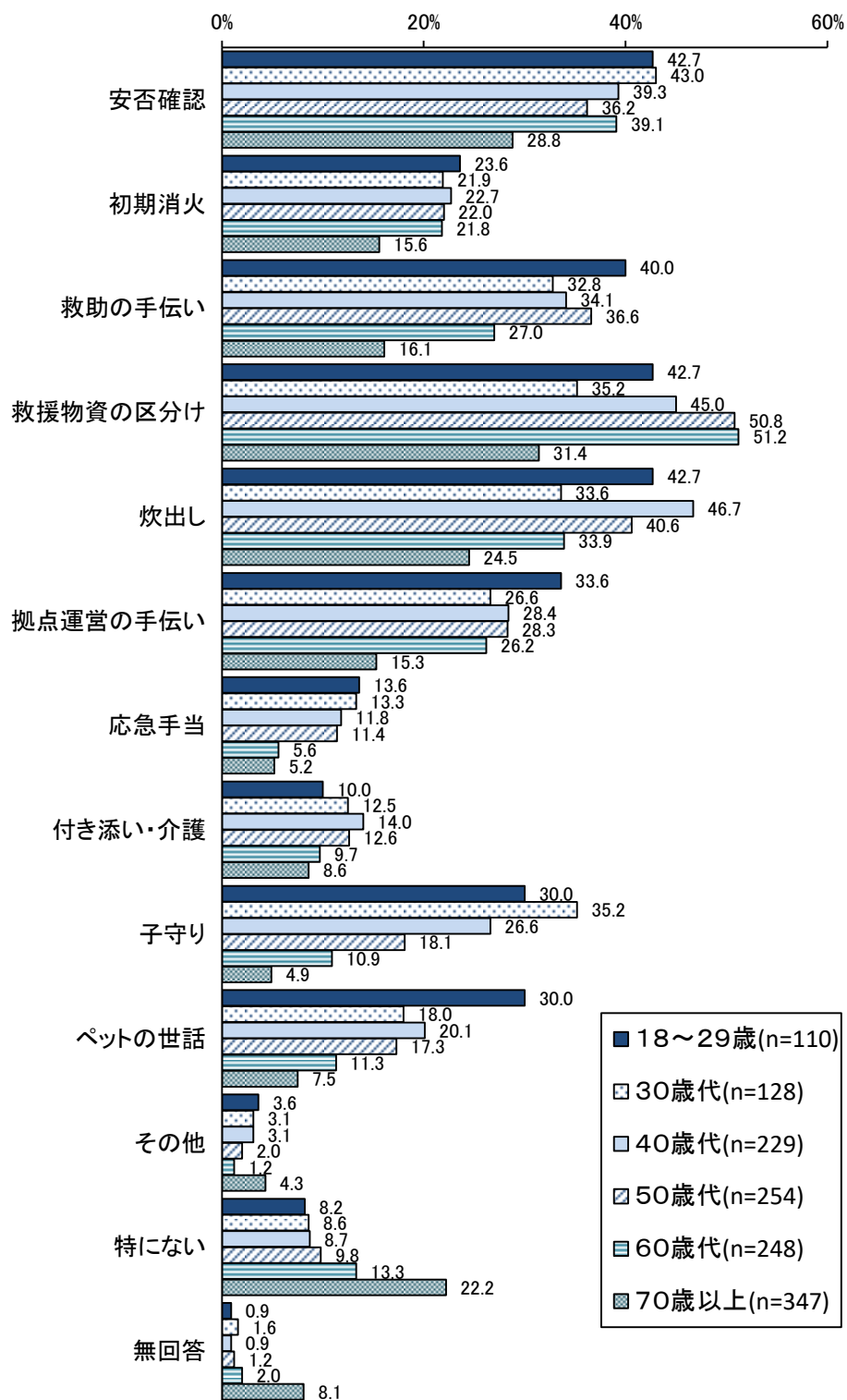
災害時に地域のためにできることについては、「救援物資の区分け」が4割を超え最も高くなっている。次いで、「安否確認」「炊出し」が3割台、「救助の手伝い」「拠点運営の手伝い」「初期消火」が2割台などとなっている。



「問 41 災害時に地域のためにできること」（複数回答）－ 2

年代別にみると、「救援物資の区分け」は50歳代・60歳代で約5割と高く、「安否確認」は18～29歳・30歳代で4割を超え高くなっている。また、「救助の手伝い」「拠点運営の手伝い」「ペットの世話」など18～29歳の割合が高いものが比較的多くみられる。

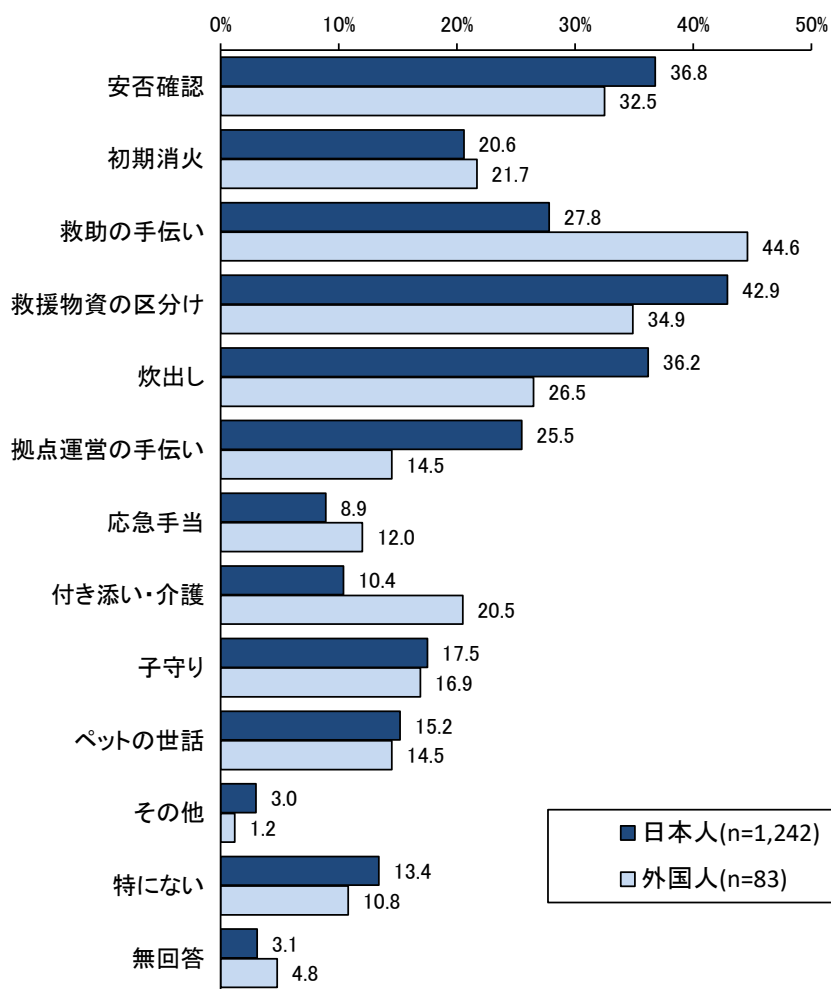
【問 41\_年代別】



「問 41 災害時に地域のためにできること」（複数回答）－ 3

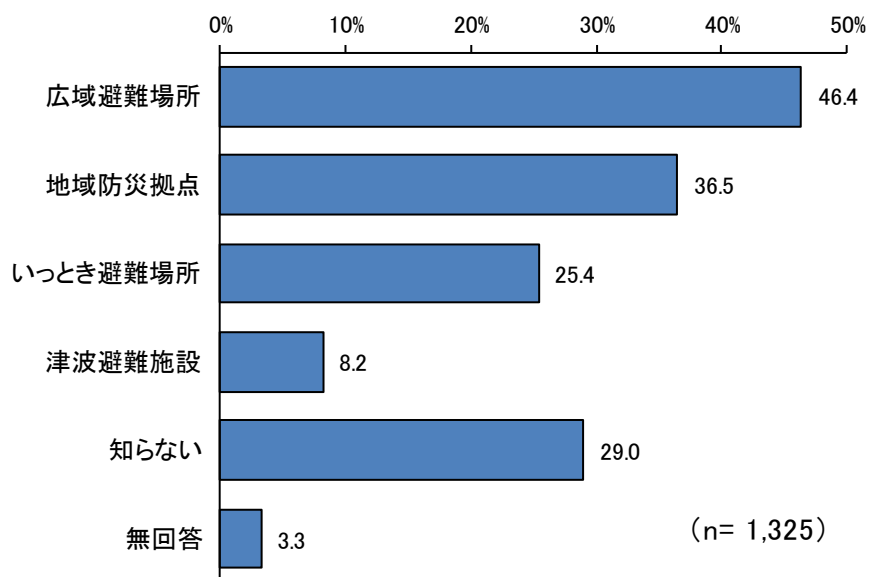
日本人／外国人別にみると、「救助の手伝い」「付き添い・介護」で外国人の割合が日本人に比べ特に高くなっているのが目立つ。

【問 41\_日本人／外国人別】



「問 42 知っている避難場所・避難所」（複数回答）－ 1

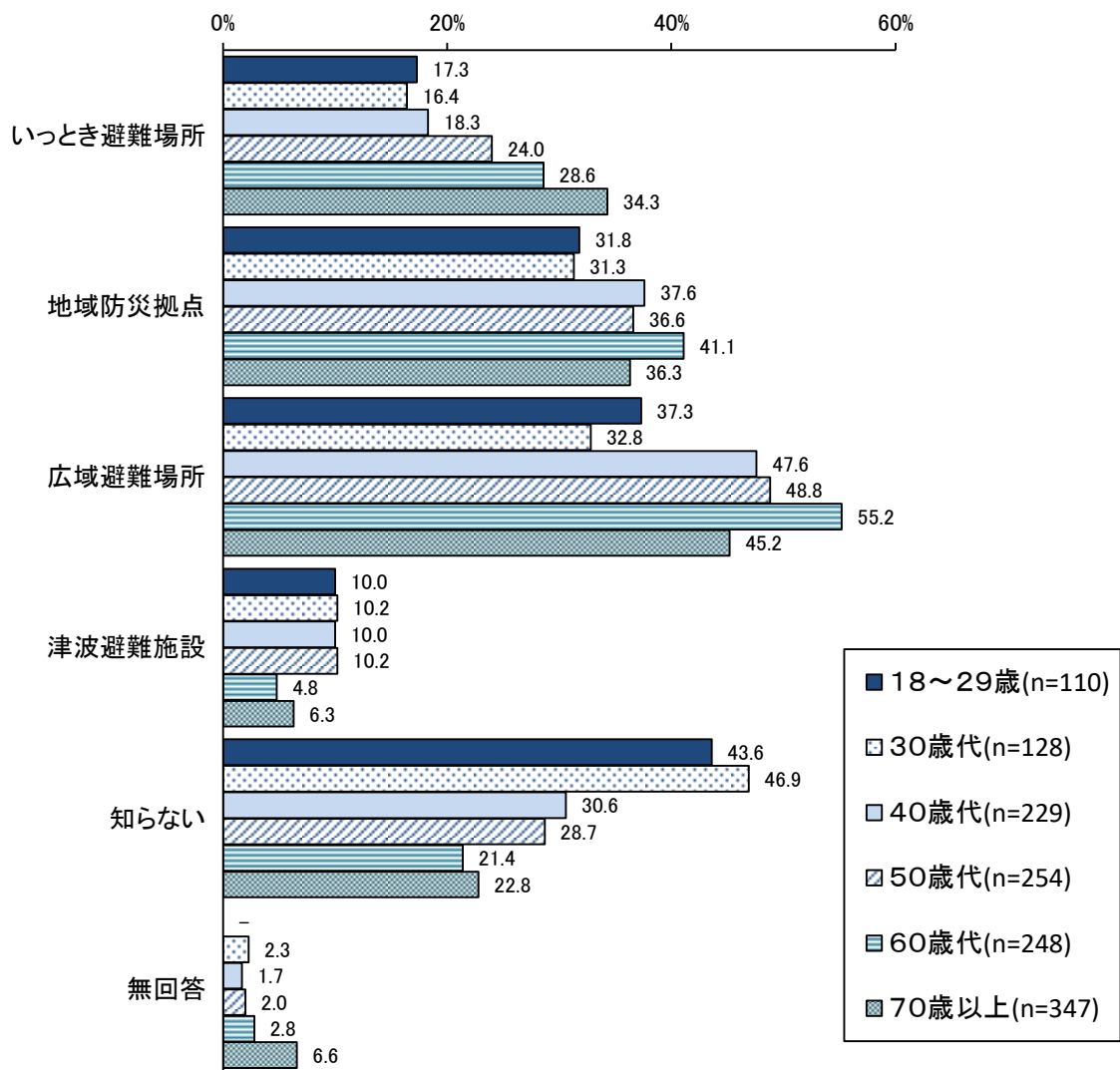
知っている避難場所・避難所については、「広域避難場所」が4割半ばで最も高くなっている。「地域防災拠点」は3割半ば、「いつとき避難場所」は2割半ば、「津波避難施設」は1割弱の人が知っている。また、3割弱の人は避難場所・避難所について「知らない」と回答している。



「問 42 知っている避難場所・避難所」(複数回答) - 2

年代別にみると、「広域避難場所」は60歳代、「いつとき避難場所」は70歳以上が最も高く、それぞれ若年層の割合は低くなっている。「知らない」は30歳代が4割台後半、18~29歳で4割台前半と高くなっている。

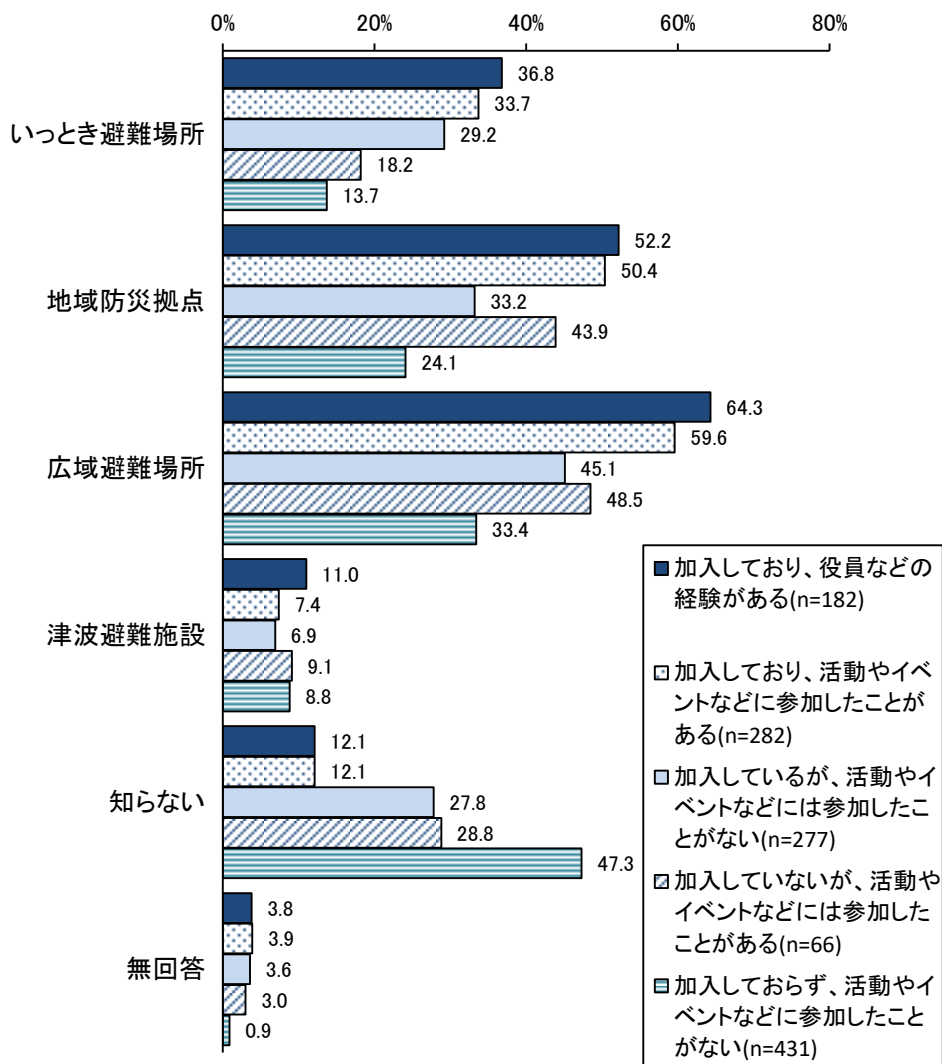
【問 42\_年代別】



「問 42 知っている避難場所・避難所」（複数回答）－ 3

自治会町内会加入・活動等参加状況別にみると、「知らない」は『加入しておらず、活動やイベントなどに参加したことがない』という人では5割近くと特に高くなっている。

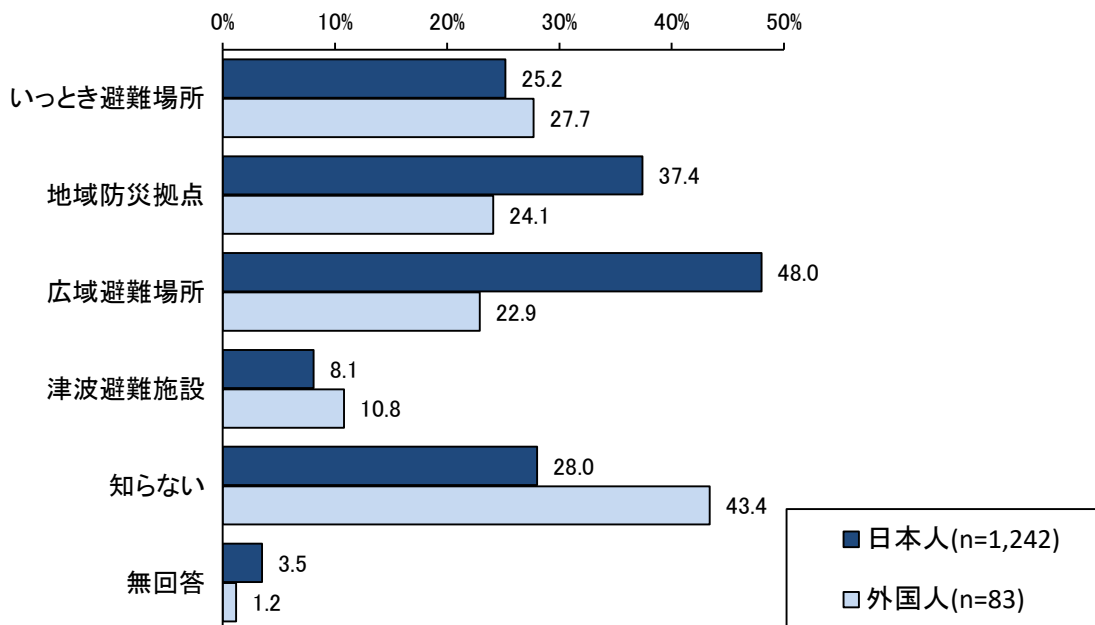
【問 42\_自治会町内会加入・活動等参加状況別】



「問 42 知っている避難場所・避難所」（複数回答）－ 4

日本人／外国人別にみると、外国人では「知らない」が4割を超え高くなっており、「広域避難場所」「地域防災拠点」を知っている割合は日本人に比べ低くなっている。一方、「いつとき避難場所」「津波避難施設」は日本人よりもやや高くなっている。

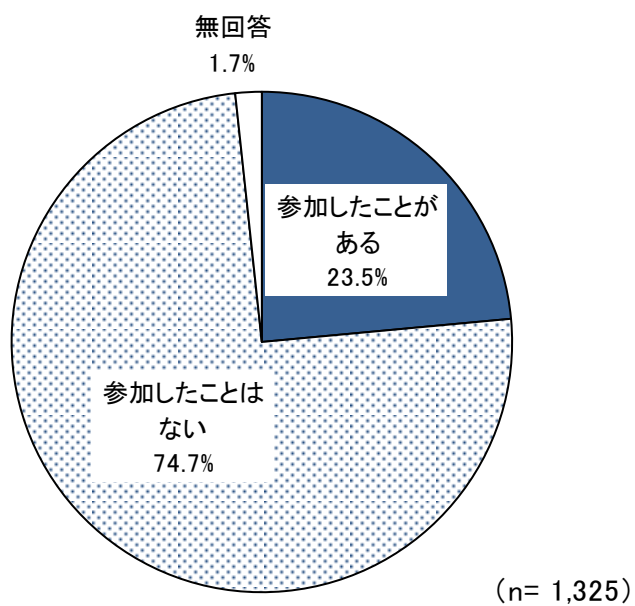
【問 42\_日本人／外国人別】





「問 43 防災訓練、防災減災説明会等の参加経験」－ 1

防災訓練、防災減災説明会等の参加経験については、「参加したことがある」が2割強、「参加したことはない」が7割半ばとなっている。

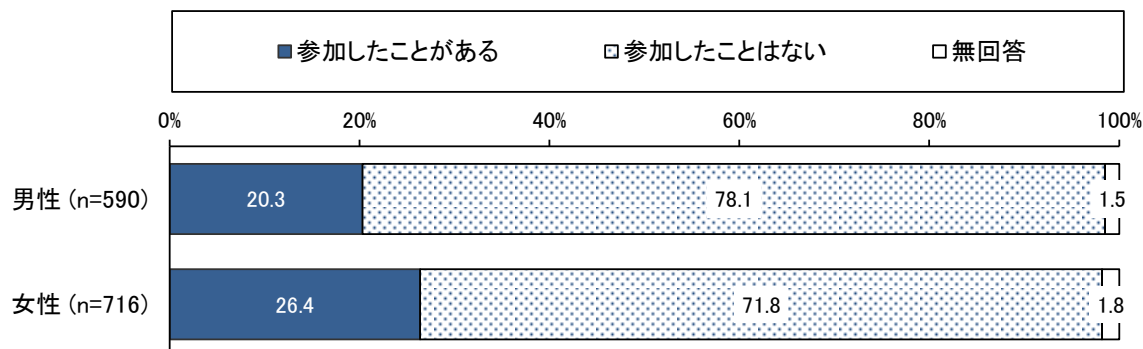


「問 43 防災訓練、防災減災説明会等の参加経験」－ 2

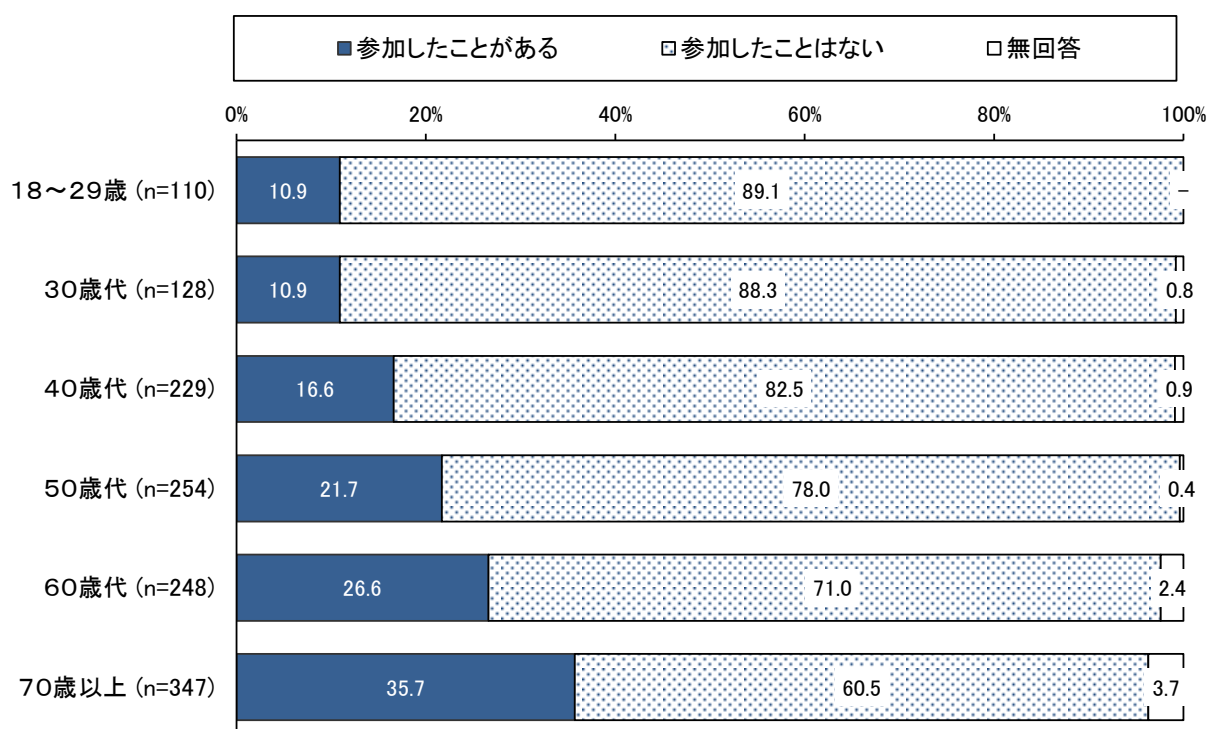
性別にみると、女性の方が参加経験者の割合が高くなっている。

年代別にみると、年代が上がるにつれ参加経験者の割合が高く、70歳以上では3割半ばとなっている。18～29歳・30歳代では、参加経験者は約1割にとどまっている。

【問 43\_性別】



【問 43\_年代別】



「問 43 防災訓練、防災減災説明会等の参加経験」－ 3

地区別にみると、参加経験者の割合が最も高い地区は、M地区で4割近く、次いでK地区が3割台前半となっている。一方、参加経験者の割合が低い地区は、B地区、E地区、C地区で約1割にとどまっている。

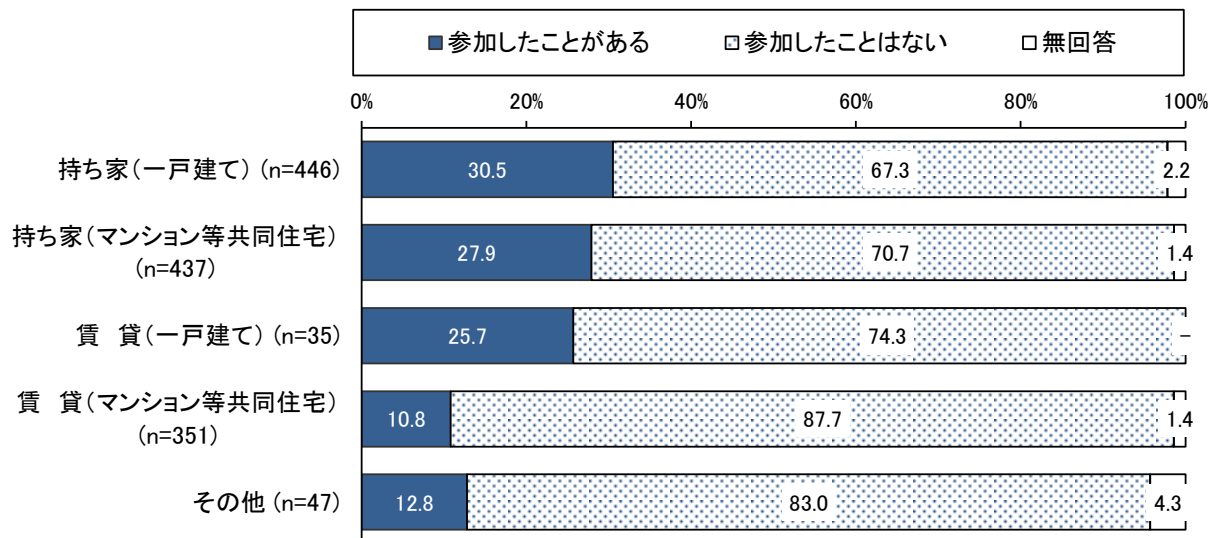
【問 43\_地区別】

		参加したことがある	参加したことはない	無回答
	n=			(%)
全体	1,325	23.5	★74.7	1.7
A地区（第1北部地区）	78	21.8	★78.2	-
B地区（第1地区中部のうち、長者町を除く）	106	10.4	★88.7	0.9
C地区（関内地区）	44	11.4	★86.4	2.3
D地区（埋地地区のうち、寿町・松影町・三吉町を除く）	84	16.7	★79.8	3.6
E地区（寿地区のうち、扇町・長者町を除く）	27	11.1	★81.5	7.4
F地区（石川打越地区）	39	23.1	★74.4	2.6
G地区（第2地区）	167	24.0	★75.4	0.6
H地区（第3地区のうち、滝之上を除く）	218	19.7	★78.9	1.4
I地区（第4地区南部のうち、本牧荒井を除く）	109	26.6	★67.0	6.4
J地区（第4地区北部のうち、山手町を除く）	53	22.6	★77.4	-
K地区（本牧・根岸地区のうち、本牧原を除く）	194	33.5	★66.0	0.5
L地区（第6地区のうち、山手町を除く）	115	27.0	★71.3	1.7
M地区（新本牧地区）	81	38.3	★60.5	1.2

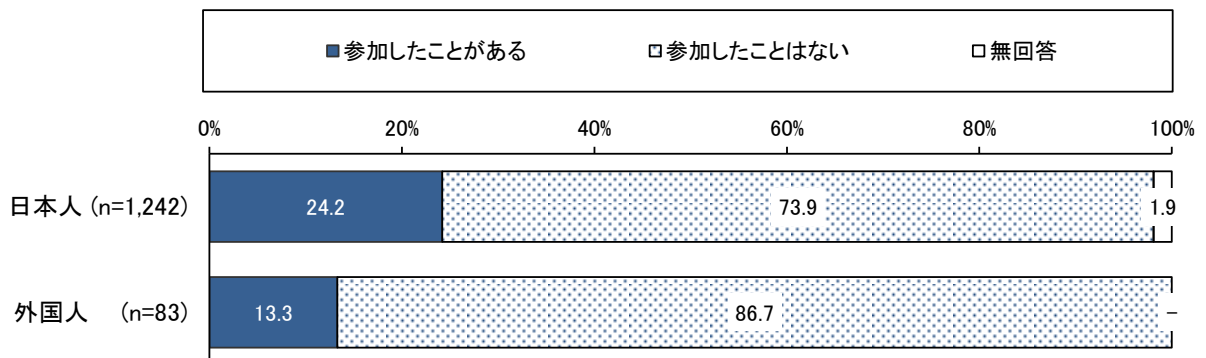
「問 43 防災訓練、防災減災説明会等の参加経験」－ 4

居住形態別にみると、参加経験は持ち家（一戸建て）居住者で約3割と最も高くなっている。賃貸（マンション等共同住宅）居住者では、参加経験は約1割にとどまっている。日本人／外国人別にみると、外国人の参加経験者の割合は日本人に比べ低く、1割台前半となっている。

【問 43\_居住形態別】

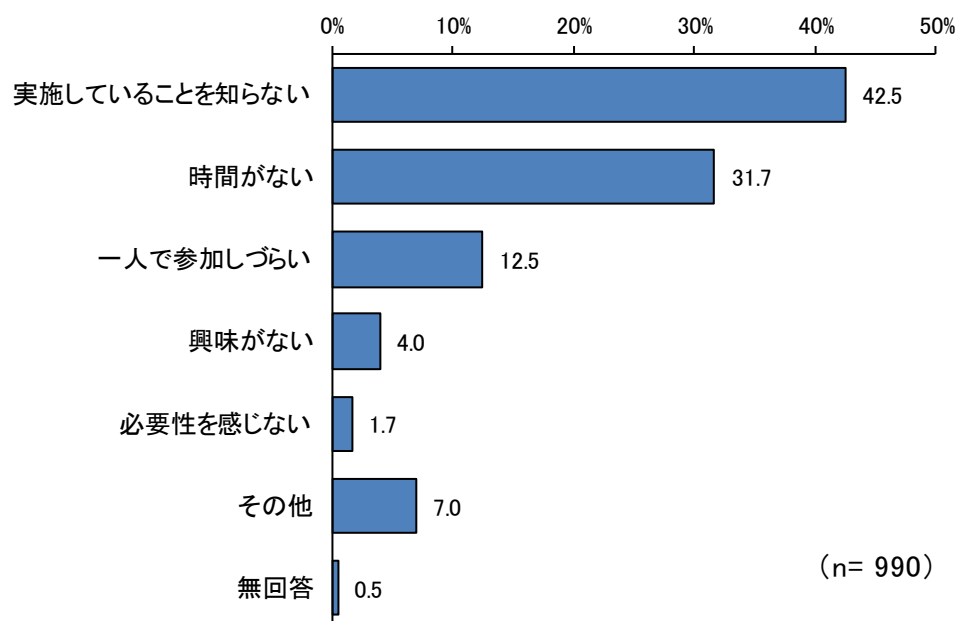


【問 43\_日本人／外国人別】



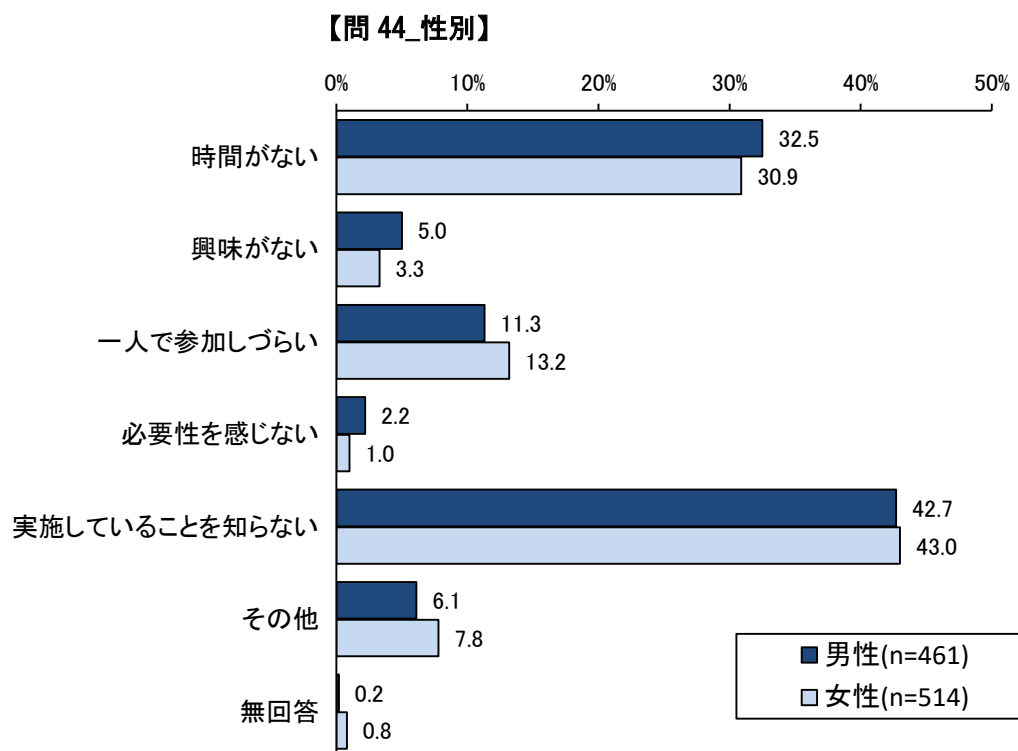
#### 「問 44 防災訓練等に参加していない理由」－ 1

防災訓練等に参加していない理由については、「実施していることを知らない」が4割強で最も高くなっている。次いで、「時間がない」が3割強、「一人で参加しづらい」が1割強などとなっている。「その他」の内容としては、“高齢のため”“歩行困難のため”などの回答がみられた。



「問 44 防災訓練等に参加していない理由」－ 2

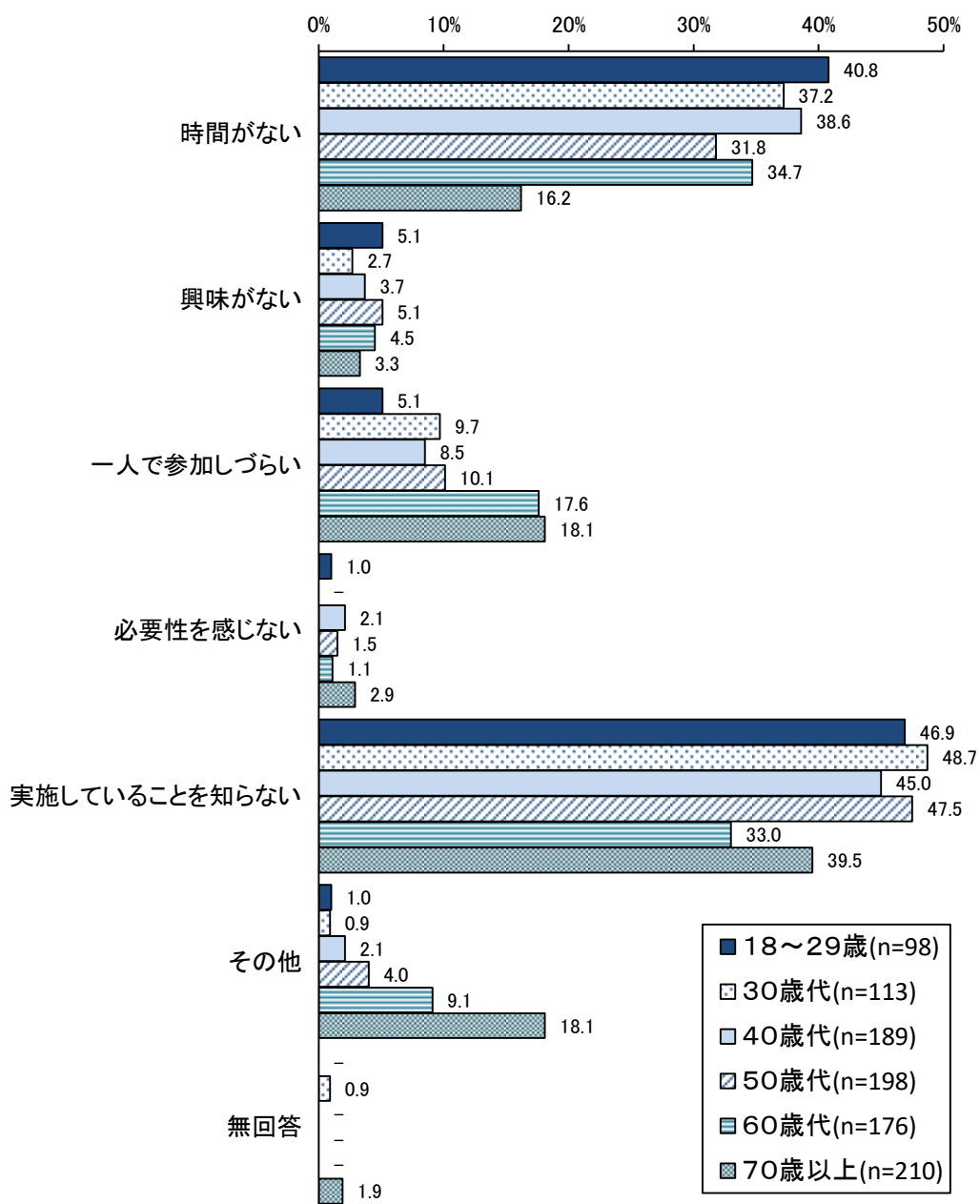
性別では、男女間で大きな差がみられるものはなかった。



「問 44 防災訓練等に参加していない理由」－ 3

年代別にみると、「実施していることを知らない」が50歳代以下と60歳代以上で差が大きく、50歳代以下では4割台後半と高くなっている。「一人で参加しづらい」は、60歳代・70歳以上で2割近くと高くなっている。

【問 44\_年代別】



「問 44 防災訓練等に参加していない理由」－ 4

地区別にみると、「実施していることを知らない」はC地区、A地区で5割を超え高くなっている。一方、I地区、F地区では3割台前半と比較的低くなっている。

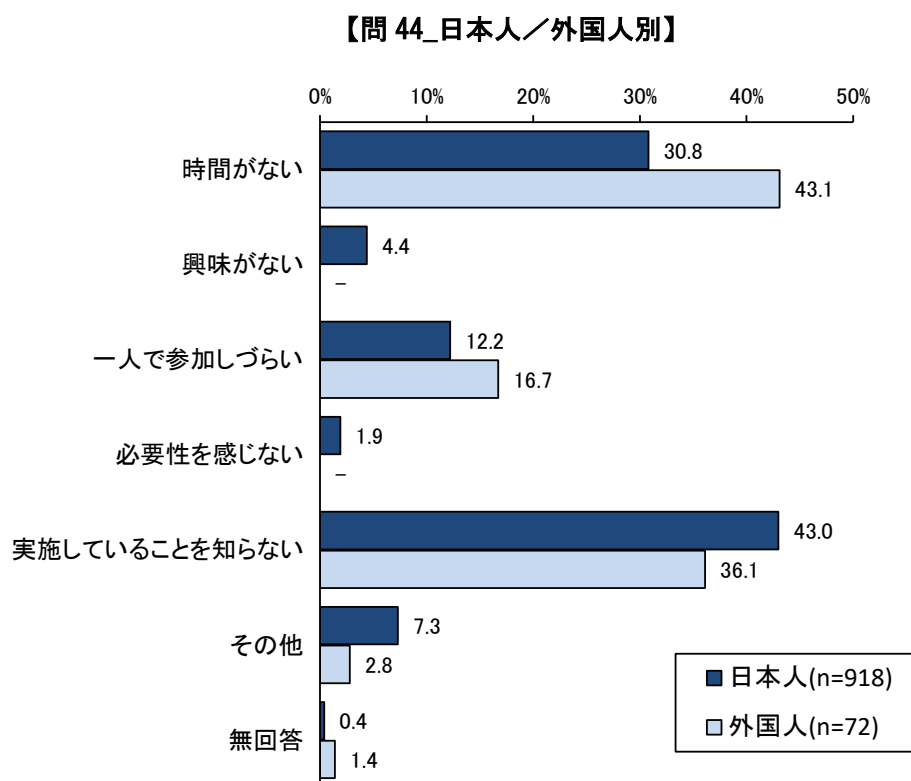
【問 44\_地区別】

									(%)
	n=	時間がない	興味がない	一人で参加しづらい	必要性を感じない	知らない	実施していることを知	その他	無回答
全体	990	31.7	4.0	12.5	1.7	★42.5	7.0	0.5	
A地区（第1北部地区）	61	29.5	1.6	4.9	-	★54.1	9.8	-	
B地区（第1地区中部のうち、長者町を除く）	94	29.8	4.3	11.7	-	★44.7	8.5	1.1	
C地区（関内地区）	38	23.7	-	13.2	-	★57.9	5.3	-	
D地区（埋地地区のうち、寿町・松影町・三吉町を除く）	67	22.4	4.5	9.0	1.5	★49.3	13.4	-	
E地区（寿地区のうち、扇町・長者町を除く）	22	18.2	13.6	13.6	9.1	★40.9	-	4.5	
F地区（石川打越地区）	29	★41.4	3.4	17.2	-	34.5	3.4	-	
G地区（第2地区）	126	30.2	5.6	7.1	3.2	★47.6	6.3	-	
H地区（第3地区のうち、滝之上を除く）	172	36.6	4.1	12.8	1.2	★39.0	5.2	1.2	
I地区（第4地区南部のうち、本牧荒井を除く）	73	★37.0	5.5	17.8	4.1	31.5	4.1	-	
J地区（第4地区北部のうち、山手町を除く）	41	31.7	-	17.1	-	★43.9	4.9	2.4	
K地区（本牧・根岸地区のうち、本牧原を除く）	128	35.2	5.5	14.8	1.6	★36.7	6.3	-	
L地区（第6地区のうち、山手町を除く）	82	32.9	3.7	9.8	-	★41.5	12.2	-	
M地区（新本牧地区）	49	26.5	-	20.4	2.0	★44.9	6.1	-	



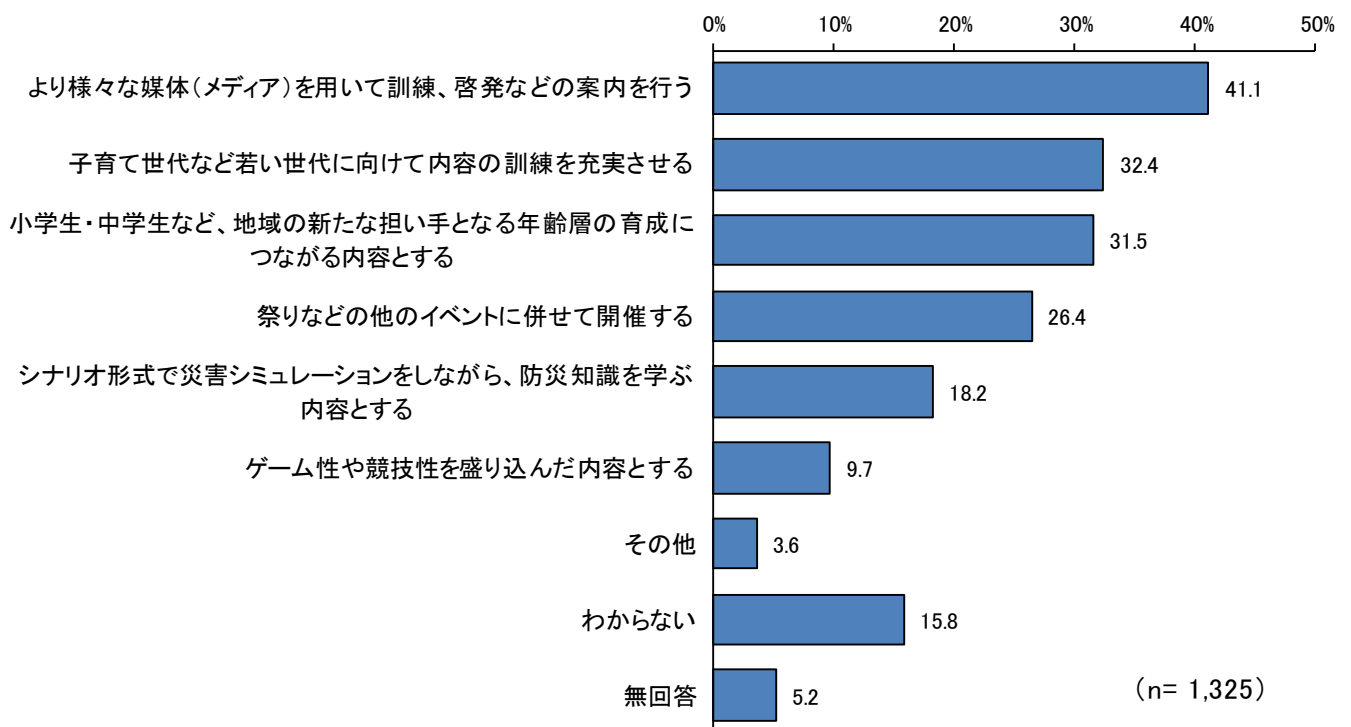
## 「問 44 防災訓練等に参加していない理由」－ 5

日本人／外国人別にみると、「実施していることを知らない」は日本人より外国人の方が低くなっている。一方、「時間がない」は外国人の方が高い。



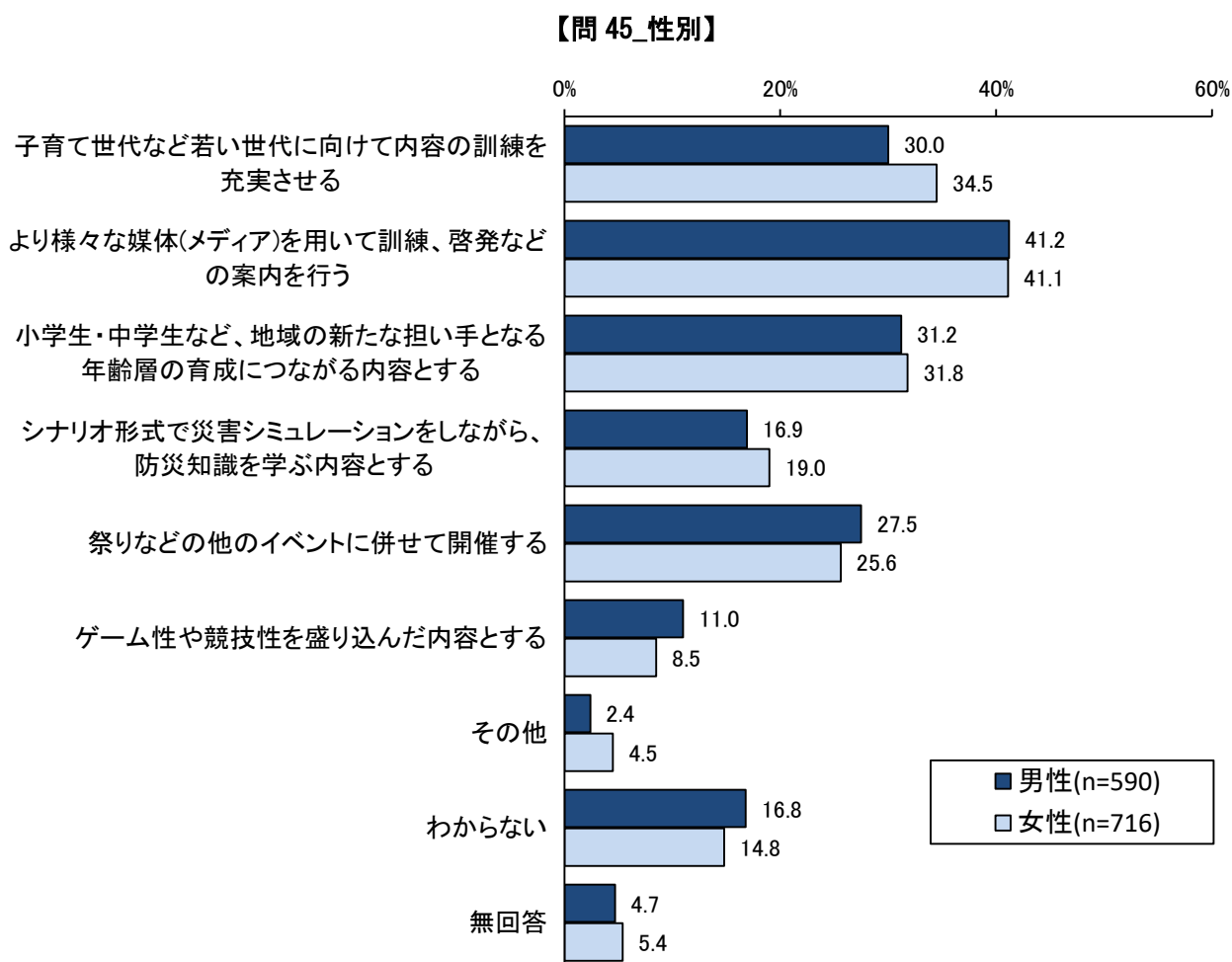
「問 45 参加者を増やすためにどのような工夫が必要だと思うか」（複数回答）－ 1

訓練・啓発等の参加者を増やすためにどのような工夫が必要だと思うか尋ねたところ、「より様々な媒体（メディア）を用いて訓練、啓発などの案内を行う」が4割を超え最も高くなっている。次いで、「子育て世代など若い世代に向けて内容の訓練を充実させる」「小学生・中学生など、地域の新たな担い手となる年齢層の育成につながる内容とする」が3割強、「祭りなどの他のイベントに併せて開催する」が2割半ばとなっている。



「問 45 参加者を増やすためにどのような工夫が必要だと思うか」（複数回答）－ 2

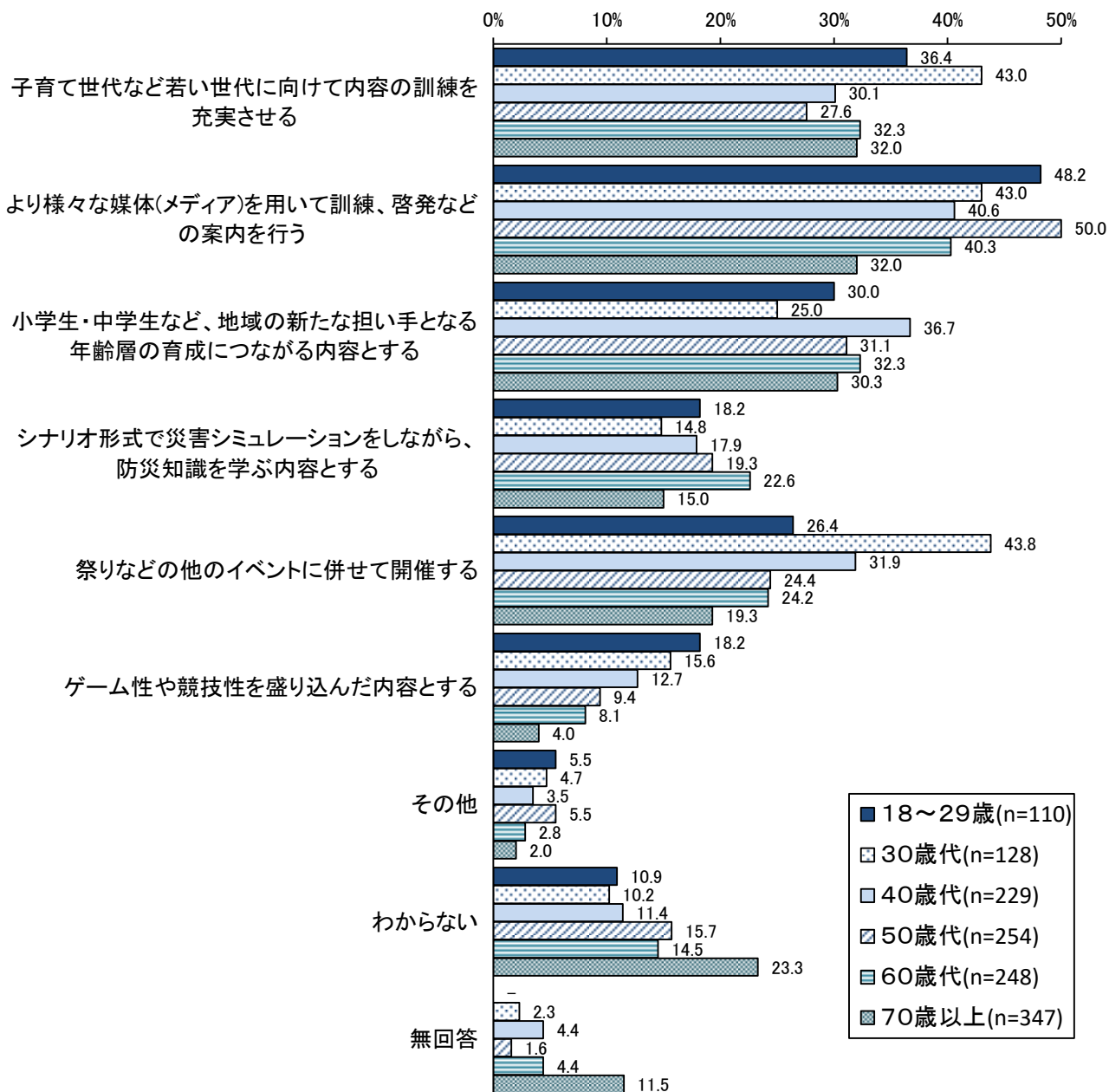
性別にみると、「子育て世代など若い世代に向けて内容の訓練を充実させる」は女性で割合が高くなっている。



「問 45 参加者を増やすためにどのような工夫が必要だと思うか」（複数回答）－ 3

年代別にみると、「より様々な媒体（メディア）を用いて訓練、啓発などの案内を行う」は50歳代・18～29歳で高くなっている。「子育て世代など若い世代に向けて内容の訓練を充実させる」「祭りなどの他のイベントに併せて開催する」は、30歳代が4割を超えそれぞれ最も高くなっている。

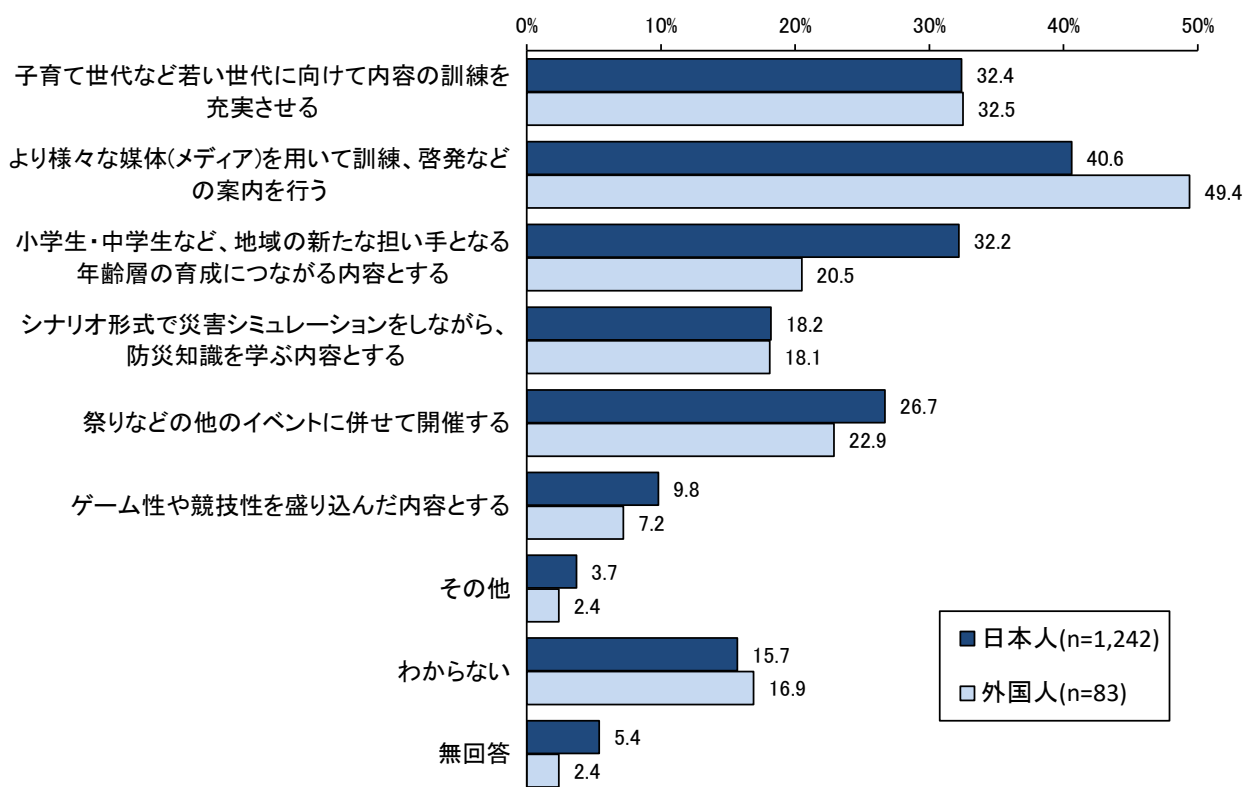
【問 45\_年代別】



「問 45 参加者を増やすためにどのような工夫が必要だと思うか」（複数回答）－ 4

日本人／外国人別にみると、「より様々な媒体（メディア）を用いて訓練、啓発などの案内を行う」は外国人の方が高く5割近くとなっている。一方、「小学生・中学生など、地域の新たな担い手となる年齢層の育成につながる内容とする」は日本人の3割強に対し外国人は約2割と低くなっている。

【問 45\_日本人／外国人別】

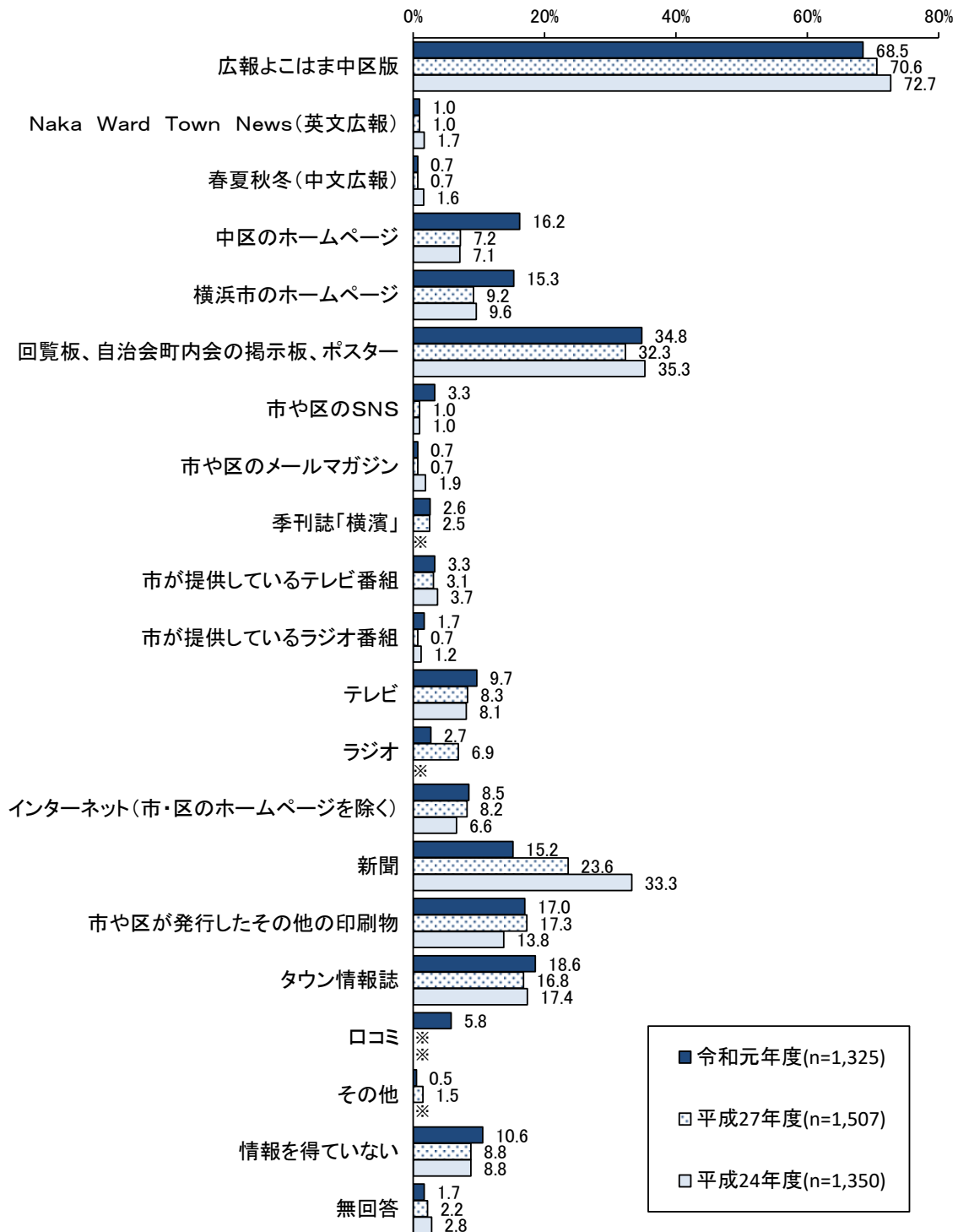


## 7. 「行政情報」について

### 「問 46 市・区の行政・地域情報の入手方法」(複数回答) - 1

行政情報・地域情報の入手方法については、「広報よこはま中区版」が7割近くで最も高く、次いで「回覧板、自治会町内会の掲示板、ポスター」「タウン情報誌」の順となっている。平成27年度に比べると、「中区のホームページ」「横浜市のホームページ」の割合が上がっている一方、「新聞」「広報よこはま中区版」は減少傾向である。

【問 46\_経年比較】

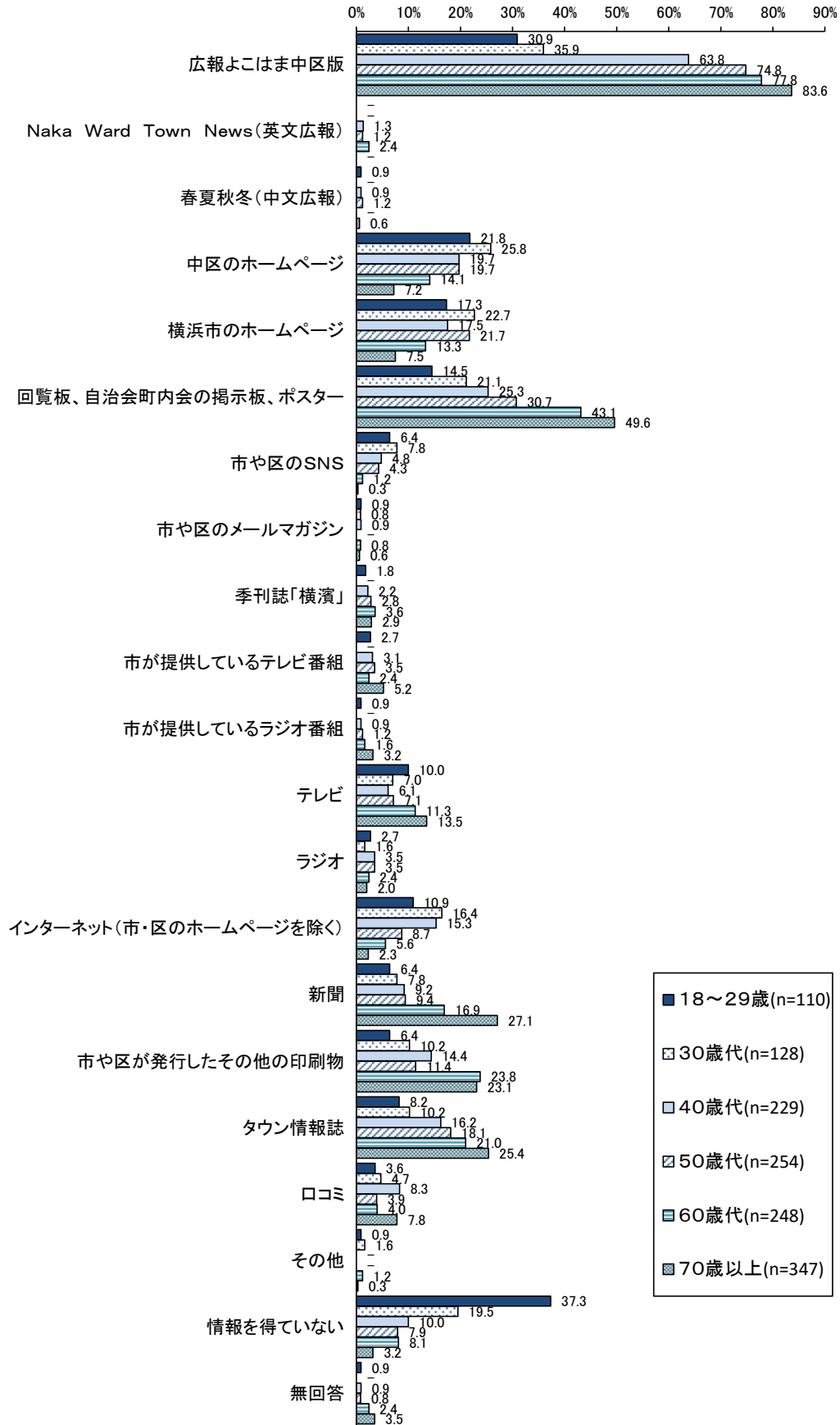


(※) 平成24年度/27年度調査時に含まれていなかった選択肢項目

「問 46 市・区の行政・地域情報の入手方法」（複数回答）－ 2

年代別にみると、年代が上がるにつれ「広報よこはま中区版」や「回覧板、自治会町内会の掲示板、ポスター」「タウン情報誌」などの割合が**おおむね**高くなっている。18～29歳では、4割近くが情報を得ていない。

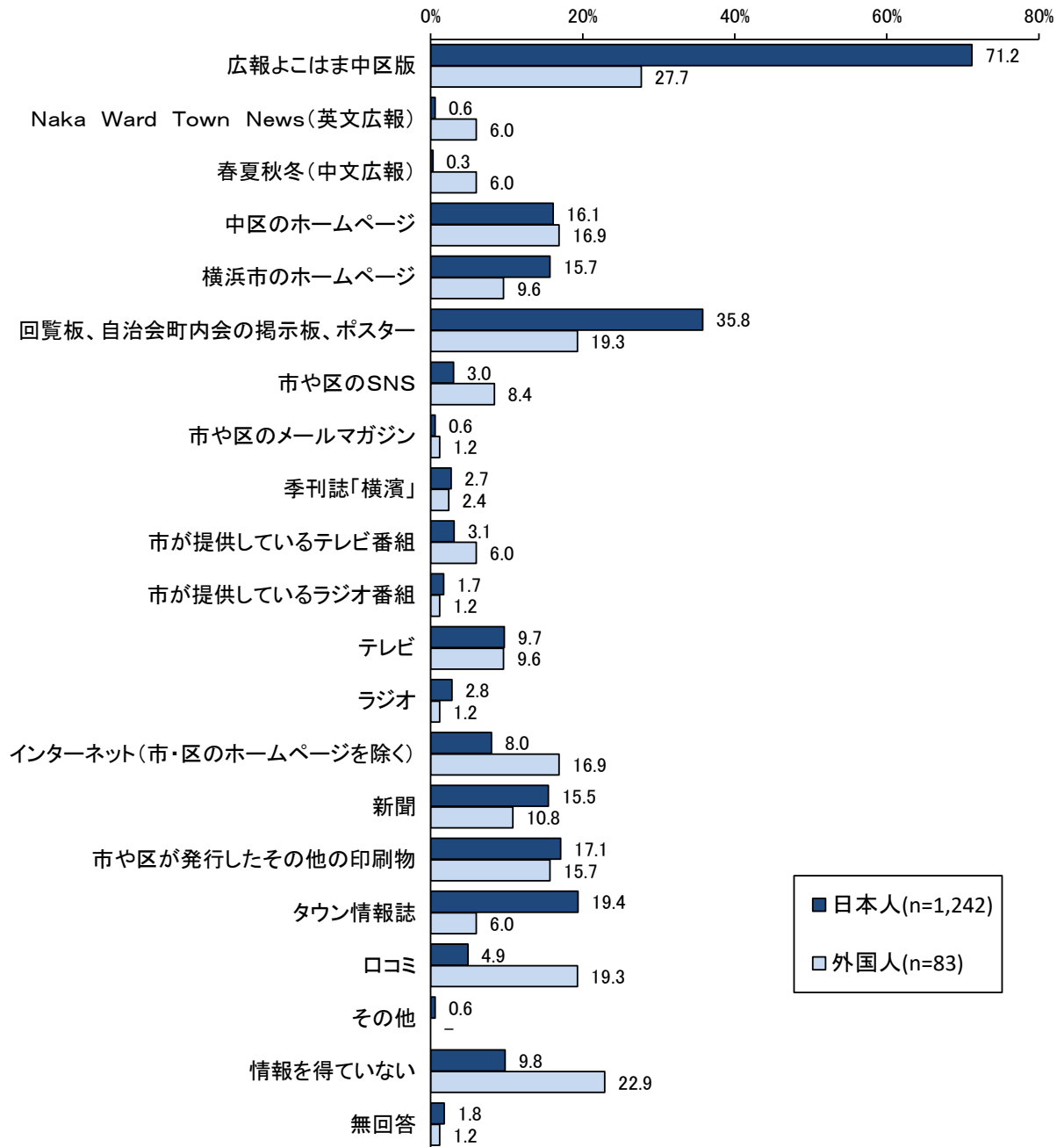
【問 46\_年代別】



「問 46 市・区の行政・地域情報の入手方法」(複数回答) - 3

日本人/外国人別にみると、外国人は日本人に比べ「ロコミ」「インターネット(市・区のホームページを除く)」「市や区のSNS」「市が提供しているテレビ番組」などが高くなっている。また、「情報を得ていない」の割合が2割を超え日本人より高くなっている。

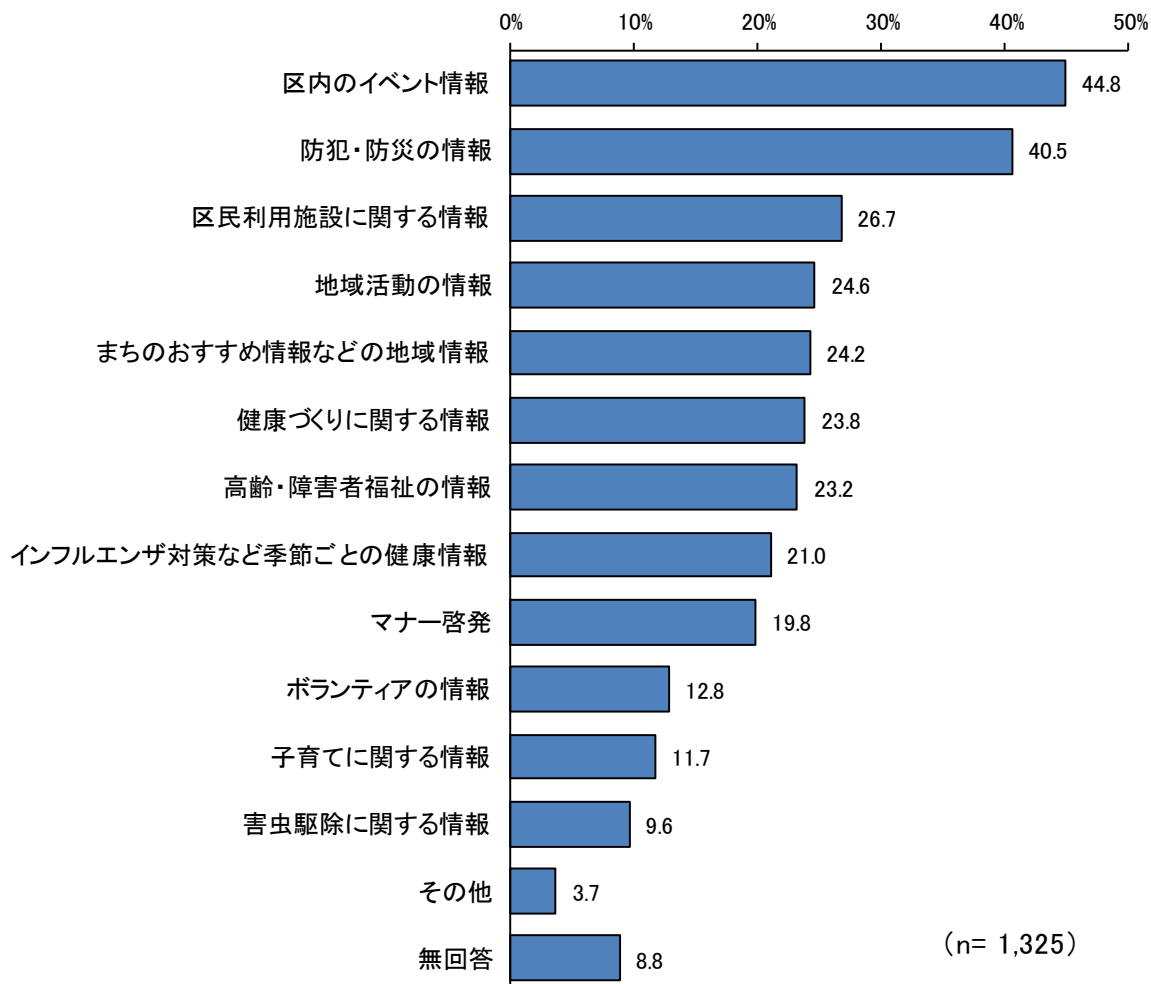
【問 46\_日本人/外国人別】





「問 47 広報誌やホームページで充実して欲しい内容」(複数回答) - 1

中区の広報やホームページで充実してほしい内容について尋ねたところ、「区内のイベント情報」が最も高く、次いで「防犯・防災の情報」「区民利用施設に関する情報」の順となっている。

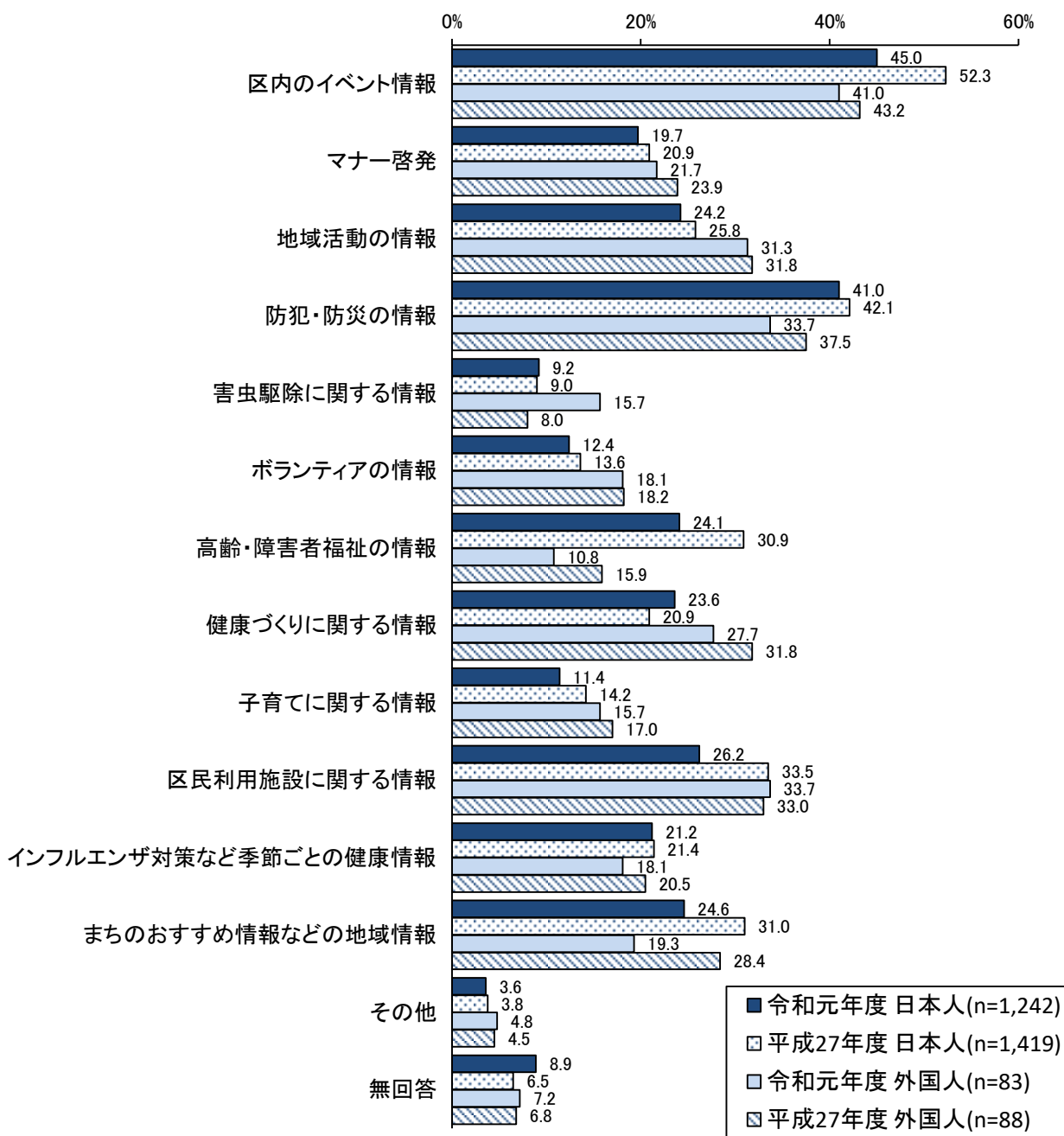


「問 47 広報誌やホームページで充実して欲しい内容」(複数回答) - 2

日本人/外国人別にみると、日本人の調査結果では、全体の結果と同様に「区内のイベント情報」「防犯・防災の情報」「区民利用施設に関する情報」の順となっている。平成 27 年度に比べ割合の下がっている項目が多く、なかでも「区内のイベント情報」「高齢・障害者福祉の情報」「区民利用施設に関する情報」「まちのおすすめ情報などの地域情報」の減少が目立つ。一方、「健康づくりに関する情報」は前回調査よりやや増加している。

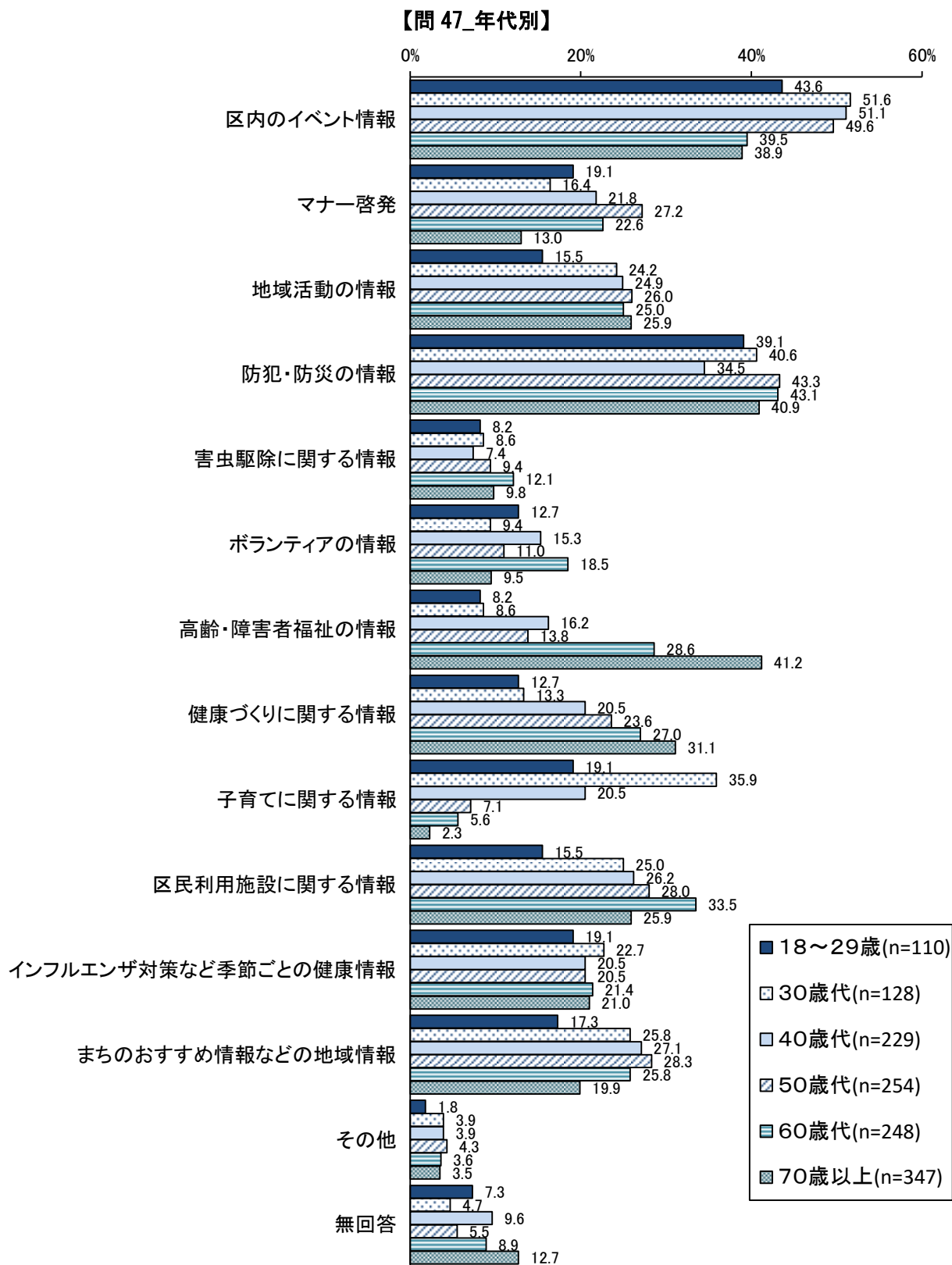
外国人の調査結果でも、日本人と同じく「区内のイベント情報」「防犯・防災の情報」「区民利用施設に関する情報」が上位となった。平成 27 年度に比べると、「まちのおすすめ情報などの地域情報」「健康づくりに関する情報」などが減少している一方、「害虫駆除に関する情報」は増加している。

【問 47\_日本人/外国人別経年比較】



「問 47 広報誌やホームページで充実して欲しい内容」(複数回答) - 3

年代別にみると、「高齢・障害者福祉の情報」「健康づくりに関する情報」はやはり高齢層で割合が高くなっている。また、「区内のイベント情報」「地域活動の情報」「区民利用施設に関する情報」「まちのおすすめ情報などの地域情報」など、18～29歳が30歳代に比べ低くなっているのが目立つ。一方、「防犯・防災の情報」は18～29歳も他年代と同等程度の割合を示しており、防犯・防災への関心の高さがうかがえる。



## 8. 自由意見

### 「問 48 自由意見」

自由意見は、「交通・道路」に関する内容が最も多く寄せられた。そのほか、「マナー・ルール」「ごみ・リサイクル」「福祉」についての意見も多くみられた。

大分類		件数	小分類	件数
A	交通・道路	119	総合交通対策	4
			鉄道	34
			バス	19
			道路	29
			駐車・駐輪	12
			交通安全対策	16
			その他	5
B	マナー・ルール			46
C	ごみ・リサイクル	44	ごみ収集	8
			まちの美化	36
D	都市整備・開発と住宅	19	建築指導	1
			都市景観	12
			米軍施設	2
			その他	4
E	福祉	39	高齢者福祉	13
			障害者福祉	4
			生活保護・援護対策	11
			バリアフリーの推進	7
			福祉相談体制	2
			その他	2
F	公害・環境保全・緑	29	騒音振動	6
			環境保全対策	2
			緑地保全・緑化推進	15
			野生動物対策	4
			その他	2
G	子育て	26	子育て支援	13
			保育園	3
			幼稚園	1
			放課後児童育成	2
			子育て助成・給付	3
			その他	4
H	保健・衛生・医療			4
I	市民交流・地域イベント			18
J	市民利用施設	27	公園	10
			スポーツ施設	6
			公会堂・地区センター	1
			コミュニティハウス	2
			文化施設	3
			市・区庁舎	1
			その他の市民利用施設	1
			その他	3

「問 48 自由意見」(続き)

大分類		件数	小分類	件数
K	防犯・防災・消防	31	防犯	17
			防災・消防	11
			その他	3
L	都市経営・運営	11	計画・調査	1
			行政改革・組織	1
			IT推進	2
			その他	7
M	経済・産業	12	産業振興	9
			労働・雇用	1
			消費生活	1
			その他	1
N	戸籍・税金・保険年金	11	税金	10
			その他	1
O	職員(教職員を除く)	10	市民対応	9
			その他	1
P	広報・広聴・市民相談・情報公開	23	広報・広聴・市民相談	22
			情報公開	1
Q	港湾・河川	3	港湾	2
			その他	1
R	市民活動	26	市民活動・生涯学習	9
			自治会・町内会	16
			その他	1
S	教育	14	教育内容	2
			通学	2
			教職員	1
			その他	9
T	観光・シティセールス	26	観光	7
			シティセールス	1
			IR誘致	16
			その他	2
U	人権・男女共同参画			1
V	多文化共生			25
W	区・市への感謝など			27
X	その他			50

\* 記入があった調査票の件数は 458 件。テーマ分類は横浜市の「市民の声」の大分類に「マナー・ルール」「市民交流・地域イベント」「多文化共生」「区・市への感謝など」を追加して各意見を振り分けています。複数の分類にまたがる意見が記載されている場合は、それぞれのテーマ分類ごとにカウントしています。

## 横浜市中区区民意識調査報告書

令和元年12月発行

発行：横浜市中区区政推進課・福祉保健課

〒231-0021 横浜市中区日本大通35番地

電話 (045) 224-8127

FAX (045) 224-8214